昭和24年3月19日　第3種郵便物認可　昭和37年12月20日印刷　昭和37年12月25日発行　第43輯12号（毎月1回25日発行）

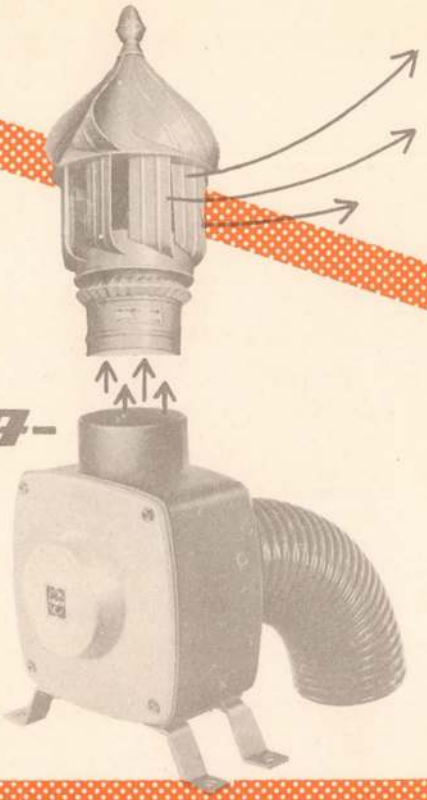
建築と社会 12

1962

社会福祉施設



日本建築協会



いやなニオイが
サッと消える！

コーナーベンター

ナショナル

松下電器

トイレや暗室にぜひお取付け下さい。悪臭が消え通気もよくなるので、いつも涼しくさわやかです

トイレ・暗室専用換気扇
（コーナーベンター）
12センチC2正価 六、八〇〇円

換D1718イ昭

鉄路を護る保線手と建物を護る防水工事

何れも目立たぬ蔭の存在ですが絶えず何千万の人命を、又総ゆる建物の寿命を黙々と護つて、大切な役割を果して居ります。

TRADE MARK



DOG

メンブレン式防水

の補強材料は35年の経歴と信用を誇る

ドッグ印で!!

製品種目

ドッグ印 アスファルト ルーフイング
アスファルト フエルト
石綿ルーフイング
石綿フエルト
砂付ルーフイング
メルタイト ルーフイング
キンマレアタイト
ヘッシヤン ファブリック
コットン ファブリック
白麻ファブリック
ゲオンタイト

株式会社
工英社

本社・工場 大阪市西成区橋通9丁目24番地
電話 ㊀代表 8861 ㊀ 7381

日東紡の建築材料……

ファイロン
米国との技術提携による本格的FRP採光材料

ニットータイル
美しい色調で伸縮性のない塩化ビニール床タイル

ミネラトーン
絶対不燃で、独特の美しいパターンの天井吸音板

スプレーテックス
凡ゆる材質にも施行可能な吹付方式のロックウール新製品

ロックウール
保温・保冷・吸音にすばらしい性能の断熱・吸音材

コンスッパンド
全ゆるタイプのジョイントに完全防水接ぎ目封緘材

カーポート
ファイロン使用の簡易組立自動車々庫

日東紡績株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋５－１　興銀ビル　ＴＥＬ（202）1301
東　京　　名　古　屋　　福　岡

すまいをカラー設計する美しい床材

- 程よい弾力性
- 美しい色彩
- 工事が簡単
- 価格が手頃

ビニラートタイル VINYLART

各種製品　リノリューム・リノタイル・Nタイル・スポンジシート

TOYO LINOLEUM MFG CO.,LTD.

美しい床材をつくって40年

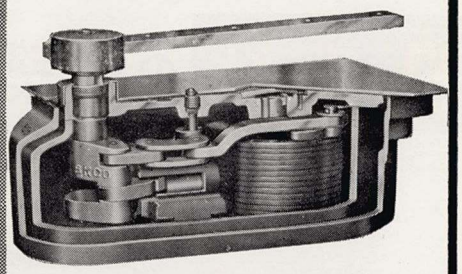
東洋リノリューム株式会社

大　阪・大阪市南区順慶町通り４丁目（三和ビル）TEL 271－5051（代）
東　京・東京都中央区銀座４丁目（三和ビル）TEL 561－1701. 2564

S.K
敷島金物

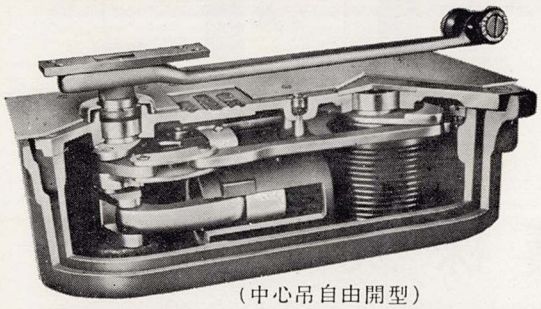
近代人の感覚にマッチする

ユートピア印

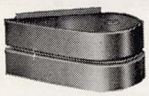


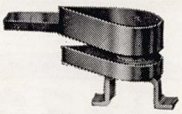
（片開持出吊り型）

フロアーヒンヂ　ピポットヒンヂ



（中心吊自由開型）





上枠・上扉　　下枠・下扉

（ピポット・ヒンヂ持出し吊り型）

（カタログ御入用の節は御申込下さい）

製造元

敷島金物株式会社

大阪府布施市横沼町1の46　電話布施　(721) 7713～4

東京都千代田区神田三崎町2の26　電話東京 (332)5310 (301)0403

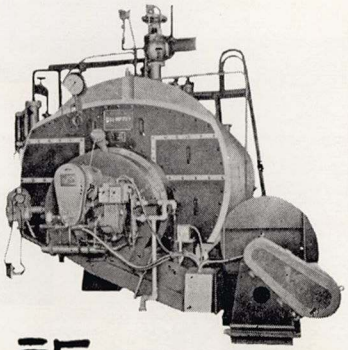
あなたの会社の合理化は

平川～MPボイラで

製品のコストダウン　直ちにOK！

あなたの工場での蒸気単価はいくらですか？

MPボイラでは560円/TONを保証致します。



MPボイラ
500型
スーパー

株式会社 平川鐵工所

本社・工場	大阪市大淀区大仁西2の1	TEL (458) 3631～5
東京営業所	東京都中央区八重洲6の7	TEL (272) 2721(代)
九州出張所	小倉市富野545	TEL (52) 4862
滋賀工場	滋賀県野洲郡野洲町三上	TEL 野洲局40 9

あなたの忠実な…

ドアーボーイ！

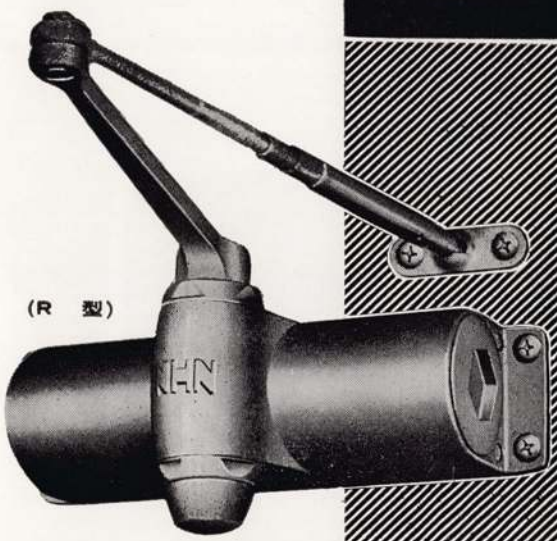
＊紫綬褒章に輝く＊

日・米・英・独，各国特許

ニッカナ ドアーチエック

日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社



(R 型)

型状優美
故障絶無

NHN

アルミパールタイル
ヤハズラス

新

木毛セメント板
カラーベストス

ボード 建 スロール

材

ビニール加工板
メラミン加工板

ビニ床タイル
プリント合板

ロッカ ちモト

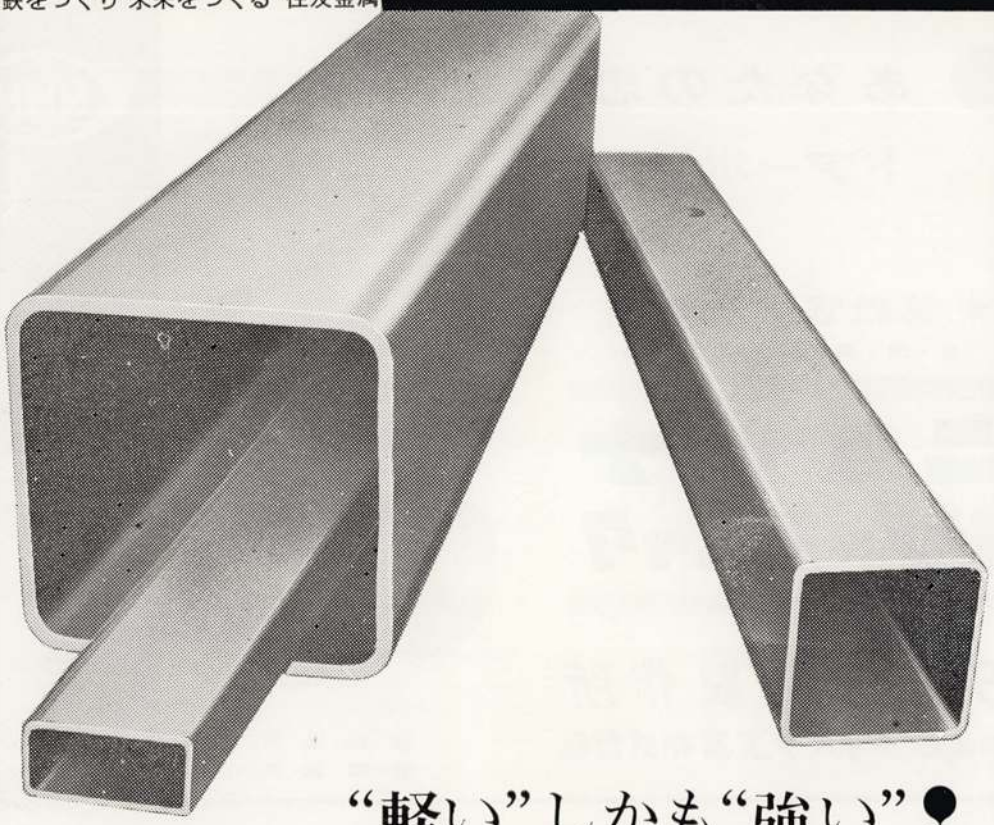
生きる近代建築に
魂ある文化材

30メーカー代理店

モデルハウスと展示
すまいの用枚店
西区立花通2電(531)2843

大阪・四ツ橋
株式会社 山本建材社
TFL (541) 1861～5・2131・2233・7060・7161

"鉄をつくり 未来をつくる"住友金属



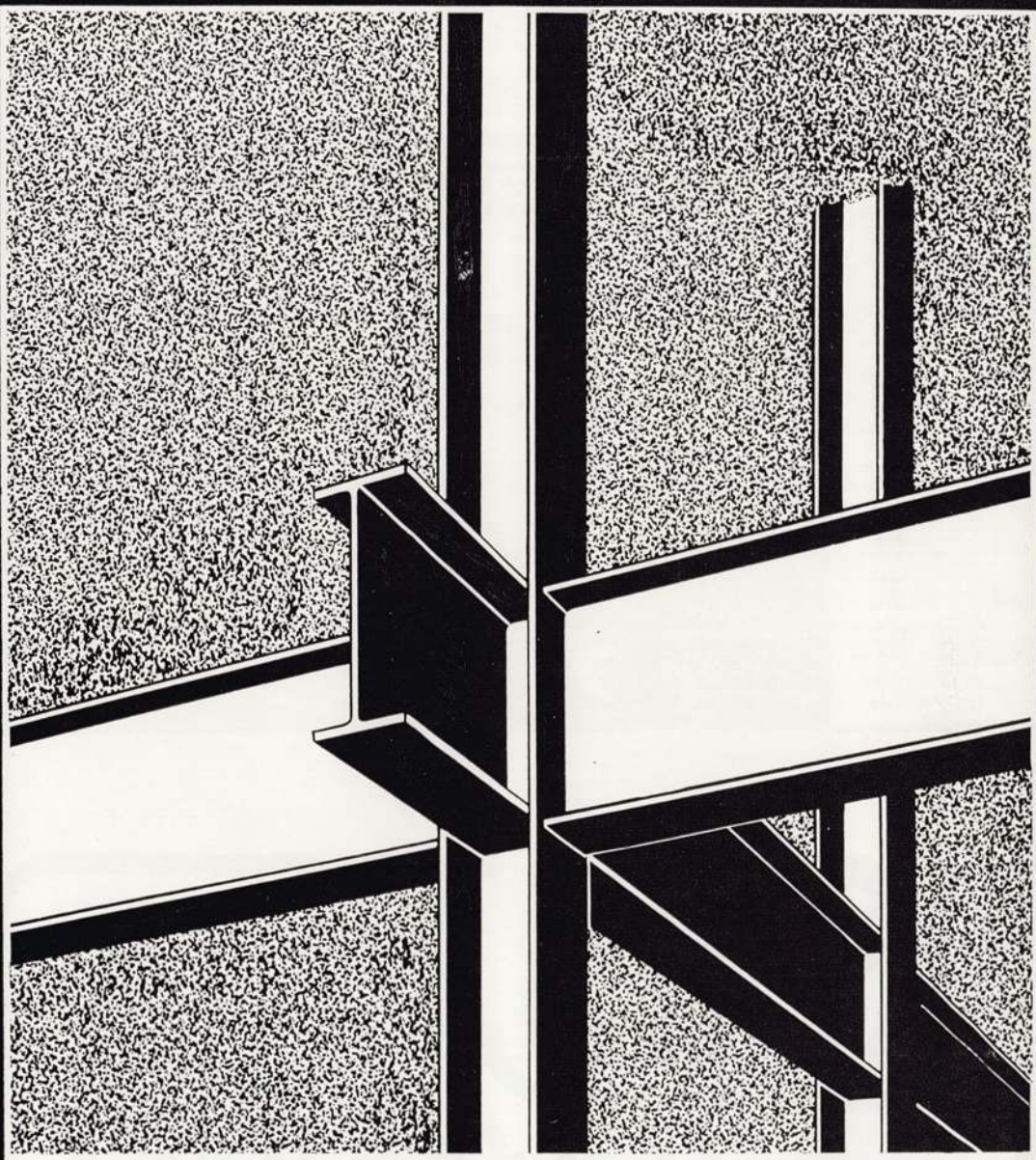
"軽い"しかも"強い"!
さすが住友製と好評

産業活動の大動脈——鋼管。
その鋼管と四つに組んで半世紀！
"鋼管なら住友"と欧米を初め世界各国で折り紙つき！　その住友が総力を結集してつくりあげた角形鋼管。
"強い"鉄鋼は"重い"という常識を破って"軽く"しかも驚異的な"強さ"！
ビルや学校など不燃建築物の柱材および部材などにスバラシイ人気です。

住友の角形鋼管

住友金属工業

本　社／大阪市東区北浜５の１５（新住友ビル）
支　社／東京都千代田区丸の内１の８（新住友ビル）
営業所／福 岡・広 島・名 古 屋・仙 台・札 幌



これが H形鋼の魅力です

●八幡のH形鋼は、能率的なH形の断面を生かして、信頼性の高い構造物を経済的に建設いたします。

●構造用H形鋼、基礎杭用H形鋼の2種類があり、用途に最適の製品をご使用いただけます。

八幡製鐵

あなたの働きを楽しく　暮らしを豊かに　夢を育てる……鉄



あなたに
能率の良い空間を!!

準不燃材料　サンドウィッチパネル(F.B+木毛板)

ネオユニオンボード

吸音板 アコニオン

木毛板 ポーライト

断熱板 カルトン

旭化工板製造株式会社

本社営業所　大阪市北区茶屋町三八
TEL 大阪(311)代表 六五五五～七

東京営業所　東京都千代田区神田須田町一丁目五番地(東洋ビル)
TEL 東京(251)二二四八(直通) 六六九一～二

工場　尼崎・鈴鹿

NS-85

スピンドルの
ハーフメイドサッシ

●WHを自由に変えられるハーフメイドサツシ
●無理のない合理的な設計
●設計から取付まで一貫したサービス
●安直　廉価

●オーダーメイド：アルミ、スチール、ステンレスサッシドア各式

日本スピンドル製造株式会社　金属成型事業部

大阪営業所	大阪市東区備後町(綿業会館内)	電大阪(231)8088・7958
茨木第一工場	大阪府茨木市太田新田60	電茨木(07262)4741(代)
茨木第二工場	大阪府茨木市太田上野	電茨木(07262)5065・5066
本社	兵庫県尼崎市潮江(国鉄尼崎駅北)	電大阪(401)5551(代)
東京事務所	東京都千代田区(丸ビル403号)	電東京(201)0875・3605



驚異的低価格

性能も乗心地もトップレベル
中高層建築に最も理想的な

規格型乗客用昇降機

パブリベータ

定　員	6人用・8人用
運転条件	交流可変速度45 m／min
操作方式	セレクチブ、コレクチブ （運転手なし乗合全自動式）
位置表示	フラッシュライト式
扉	乗場、カゴ共1枚片引自動扉 （セフティーエッヂ付）
乗場寸法	760㎜×2050㎜

規格化と量産
然も総てに画期的な

特許
クマリフト ジュニアー

J－30
食堂・喫茶店向
三相・単相　100V／200V ½HP
積載量　25kg　毎分速度　20m
カゴ鋼製　有効500×500×600㎜
押釦式全自動運転・各階上下引分扉付
出入口　三方向自由
全機構が壁付のため通路工事簡易

特許
クマリフト マスター



M－50
食堂・旅館向
三相交流　200 V ½HP
積載量　50kg　毎分速度　30m
カゴ鋼製　有効 600×600×750㎜
押釦式全自動運転・各階上下引分扉付　出入口三方向自由

M－100
料理店・ホテル・学校給食・商店・工場向
三相交流　200V 1HP
積載量　100kg　毎分速度30m
カゴ鋼製　有効750×750×900㎜
押釦式全自動運転・各階上下引分扉付　出入口三方向自由

M－200
三相交流　200V　2HP
積載量　200kg　毎分速度　30m
カゴ鋼製　900×900×1050㎜
押釦式全自動運転・各階扉付

M－300
三相交流　200V　3HP
積載量　300kg　毎分速度　30m
カゴ鋼製　1,000×1,000×1,200㎜
押釦式全自動運転・各階扉付

クマガイ　日本エレベータ協会々員

クマガイ工業株式会社

大阪市西区京町堀二丁目三十番地
電話　441—4748・0209・7788　381—0822・2686・4527

東京支店	東京都北区岸町1—9	TEL 東京（911）4253・（919）3062
名古屋支店	名古屋市中区東陽町7—2	TEL 名古屋（24）0372
京都営業所	京都市中京区二条通西洞院西入	TEL 京都（23）9532

アスファルト防水は年限保證する
日本アスファルト防水工業会の仕様による
経験と技術の工業会員へ

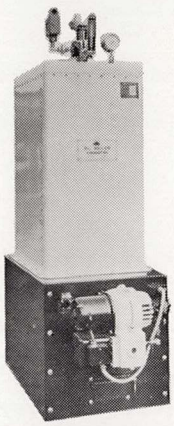
日本アスファルト防水工業会員名簿　（イロハ順）

地区別	会社名	住所	電話
北海道地区	日本スレートKK	札幌市北三条東4—1	②3458・4426
東北地区	大和工業KK 仙台出張所	仙台市二日町1—2	③7790・②0335
関東地区	井上瀝青工業KK	東京都中央区銀座東2—13	(541)1974-5
	伊藤建材KK	東京都台東区浅草田島町77	(871)5311(841)5729
	北条瀝青工業KK	東京都中央区湊町3—7	(551)2676・4382
	YK金岡興業	東京都新宿区柏木5—1172	(361)5947・(371)1337
	高山工業KK	東京都千代田区神田小川町1—8	(251)0161-3・1301-2
	瀝青建材KK	東京都中央区銀座東3—11	(541)6945・7834
	桑原建材KK	東京都文京区新諏訪町6	(921)0448・0647
	大和工業KK	東京都荒川区南千住6—42	(891)1144-6・7155-7
	マサル瀝青工業KK	東京都台東区新坂本町61	(841)8501・(871)2851
	藤井工業KK	東京都文京区林町94	(941)0271・2582
	KK三柏商会	東京都千代田区神田同朋町3	(251)8867・7517
	KK金港商店	横浜市西区高島町1—1	㊹7846・8476-7
東海地区	中央建材工業KK	名古屋市中区南久屋町3—12	㉔0496・2066・8700
	日本建材興業KK	名古屋市西区南押切町5—12	㊺6860・2574・0415
近畿地区	日新工材KK	大阪市西区新町北通1—17	㊾3785-6・2721
	マルエス工業KK	大阪市福島区上福島南1—152	㊺2360・2030
	KK新光商店	大阪市南区塩町通2—13	㉖7195-7・4467
	高山工業KK 大阪営業所	大阪市北区老松町2—19	㊾5976-8
	清水興業KK	大阪市北区鶴野町34	㊼0251-3
中国地区	豊永建材KK	広島市南竹屋町103	④3567
	東中國防水工業YK	岡山市磨屋町22	③2211・6302
四国地区	大三工業KK	高松市内磨屋町7	②8697
	KK山本商会	松山市萱町2—95	②2717・8422
九州地区	日新興業KK	延岡市本小路74	4305
	大同工業KK	宮崎市橘通6—82	8155-6
	KK工材社	門司市大里東通10丁目	㊳1468-9
	安藤工事KK	福岡市大浜1丁目新町95	②6968・③5765
	KK北原建材商会	鹿児島市上之園町62	④0001-2

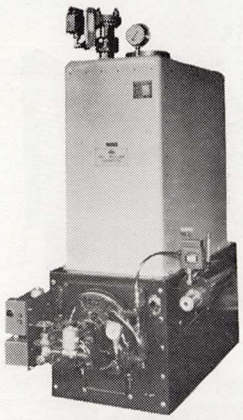
日本アスファルト防水工業会関西事務所

大阪市西区新町北通1-18　日新工業KK大阪営業所　㊾ 5281-3

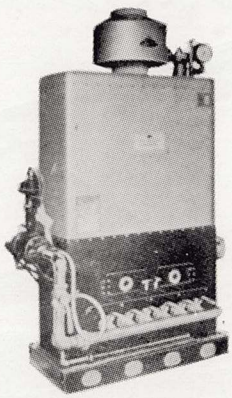
笠松式水管瓦斯重油温水ボイラ



軽油全自動ボイラ



重油全自動ボイラ



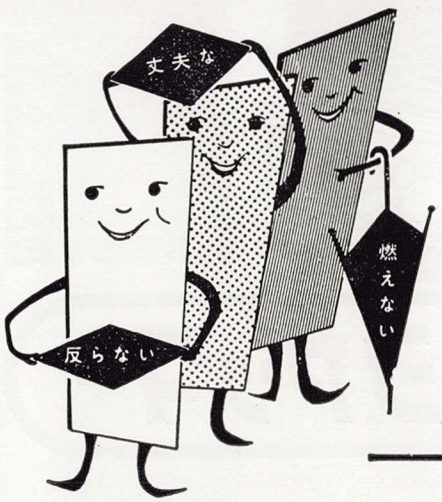
瓦斯ボイラ
NO.K200型

本邦最初
（84Sモリブデン
ステンレス製）
最高性能・経済的・安全な
（暖房・給湯）

営業品目
オイルバーナー
瓦斯熱風暖房機
軽油ボイラ（銅水管製）
重油全自動ボイラ
（水管モリブデンステンレス製）
都市プロパン瓦斯ボイラ
（銅水管製）
（型録贈呈）

JAPAN KASAMATSU OSAKA

笠松工業株式会社
取締役社長　笠松正治
本社工場　大阪市生野区大友町1—18　電話(716) 8183



最大の規模 最高の品質!!

三菱

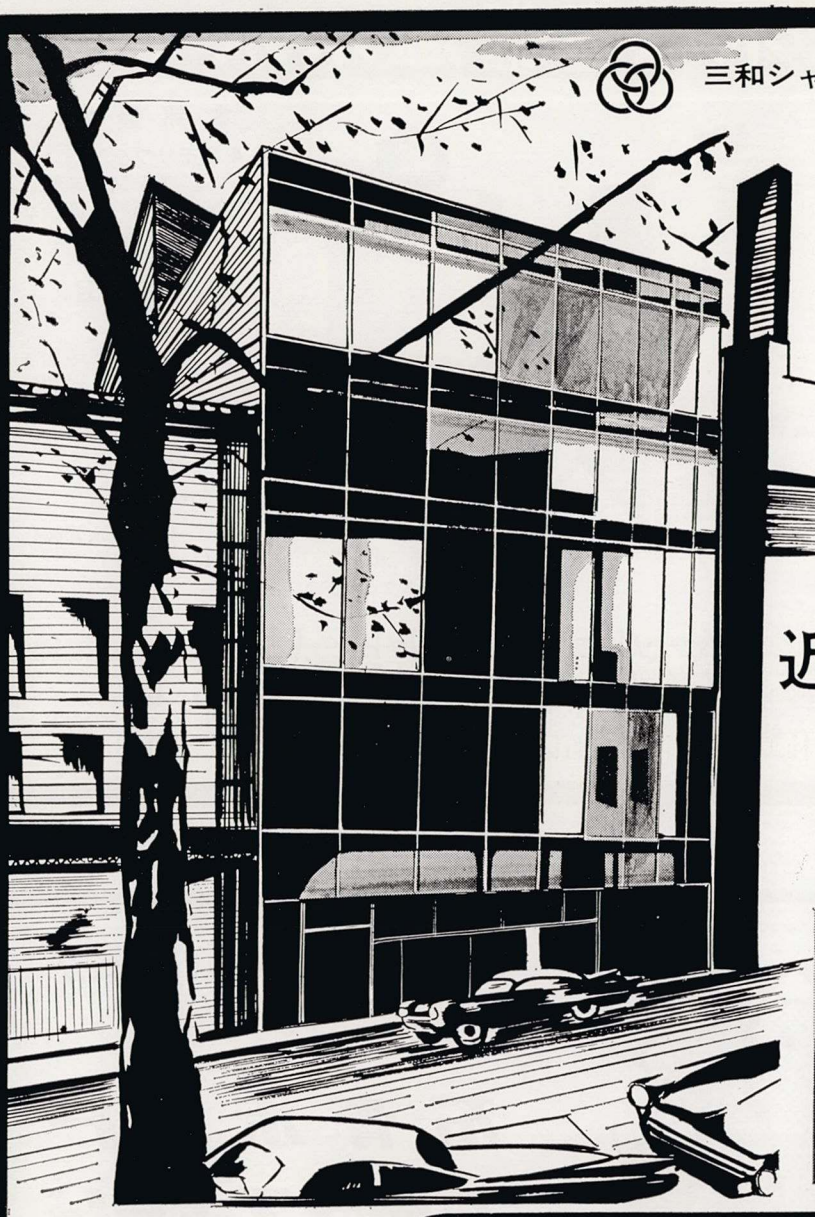
石膏ボード
石膏ラスボード
石膏吸音ボード

デラックスボード
ニュースノートーン
カラードボード
エスロンボード

SSS サンエス石膏株式会社
製造元 日東石膏株式会社
日本耐火ボード株式会社

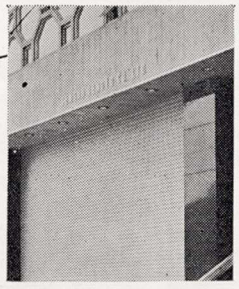
総代理店 三菱商事株式会社
東京都千代田区丸ノ内2—20 TEL (211)代表0211

三和シャッター株式会社



建物をまもり美をつくる

近代建築の必需品



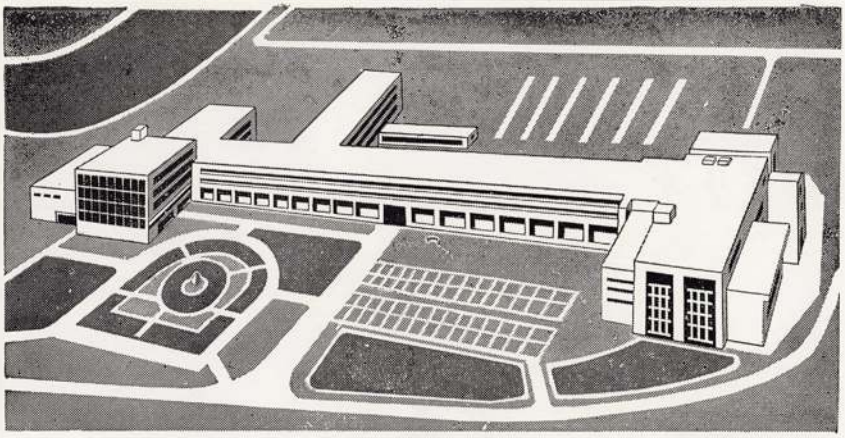
建設大臣登録
(ト)4082

甲種・乙種防火シャッター
電動式・手動式・スプリング式
其他のシャッター全般

三和シャッター

本店 尼崎市久々知字コエ23 電 代表 (401) 5341

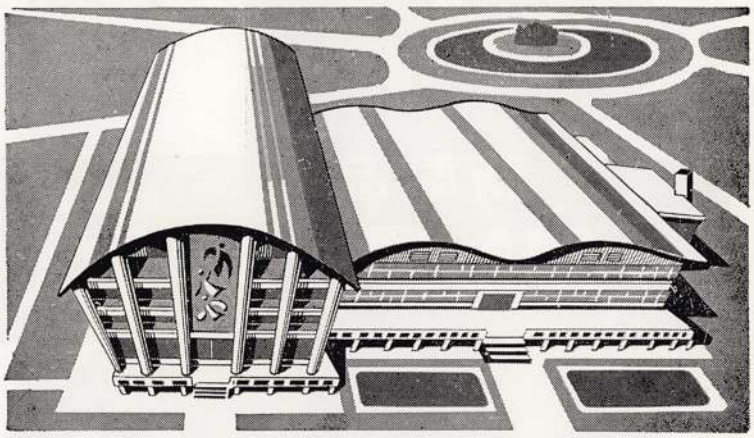
札幌支店	札幌市琴似町琴似5、2 2 電 (4) 4161～3	大阪支店	尼崎市久々知字コエ23 電代表 (401) 5341
旭川営業所	電 5097	大阪南営業所	電 (671) 5412
東北支店	仙台市土樋 1 1 2 電 (3) 3296・9618	大阪北営業所	電 (351) 2300
青森営業所	電 (2) 7102	神戸営業所	電 (22) 0189
盛岡営業所	電 (2) 7407	京都営業所	電 (22) 0900
秋田営業所	電 2783	金沢営業所	電 (6) 5481
郡山営業所	電 1766	彦根営業所	電 2053
新潟営業所	電 (4) 1443	高松営業所	電 (3) 4290
平駐在所	電 3303	高知営業所	電 (2) 1576
東京支店	東京都板橋区新河岸町38 電代表 (933) 7156	徳島出張所	電 (2) 0659
広島営業所	電 (4) 3756		
新宿営業所	電 (341) 2478・9678	神田営業所	電 ㉑6278 ㉑3841～9
岡山営業所	電 (3) 9049		
品川営業所	電 (441) 1300	横浜営業所	電 (2) 7278
九州支店	福岡市渡辺通5丁目92 電 (75) 5181・6901		
高崎営業所	電 2166	宇都宮営業所	電 7722
小倉営業所	電 (5) 3201	熊本営業所	電 (2) 0893
甲府営業所	電 2442・6292	水戸営業所	電 8635
宮崎営業所	電 2314	鹿児島営業所	電 (2) 6762
名古屋支店	名古屋市東区主税町3－6 電 (94) 2846		
静岡営業所	電 (3)2846(2)6931	長野営業所	電 (2) 5292



軽量.緩勾配屋根に
軽快な近代建築材

日泝スーパーアルソイド
日泝ゴールデンルーフイング

伸縮目地材　エキスパンタイト
　　セロタイト
コーギング材　シールセメント



日泝化学工業株式会社

本　　社　東京都中央区八重洲1—3
　　TEL (271) 7000・5463～5
営業所及東京工場　東京都荒川区尾久町6—101
　　TEL (807) 代表 0161～5

大阪営業所及大阪工場
　大阪市東淀川区堀上通り3—39
　TEL (391) 0924～5・2045・2079

'62
新形洗面器のトリオ



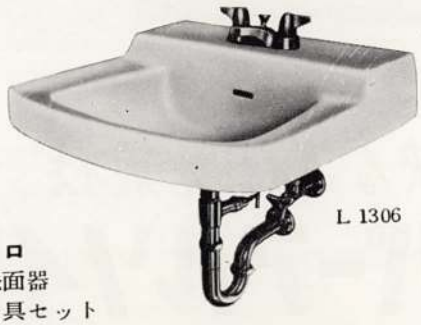
L 1305
意匠登録
第214821号

ジュピター
タナ、ソデ付洗面器
陶器、金具セット
1級　¥ 15,400
並級　¥ 13,900



L 1223
意匠登録
第214819号

ヴィナス
前丸洗面器
陶器、金具セット
1級　¥ 15,000
並級　¥ 13,560



L 1306

アポロ
タナ付洗面器
陶器、金具セット
1級　¥ 14,200
並級　¥ 12,700

Toyotoki
東洋陶器株式会社
本社／小倉　工場／小倉、茅ヶ崎、滋賀
大阪営業所／大阪市東区高麗橋 Tel (231)4518～9
1424

強さを！
プラス・

新製品
ロンタイルH

床が一段と強く　美しくなりました　技術の川ロゴムが完成した〈ロンタイルH〉!
○傷がつきにくい……
○すぐれた耐摩耗性……
○規準12色のソフトな色彩
○施工が簡単です……
川ロゴムの〈ロンタイルH〉は　安心して使える一番新しい床材です!!
寸法＝30.3×30.3糎×2糎：色＝12色

川ロゴム工業株式会社

本社：東京都蒲田区本田四ツ木町54
電話：東京（697）代表 6141
東京営業所：東京都千代田区神田松永町13
電話：東京（291）代表4941〈川ロビル〉
大阪営業所：大阪市南区北炭屋町33
電話：大阪（271）4358→4359

建築と社会

第 43 集

1962年総目録

社団法人　日本建築協会

建築と社会　第43集　1962年　1月号—12月号　総目録

特集号 ★

号

都市計画特集…… 1
建物管理特集…… 2
名古屋特集…… 3
構造特集…… 4
水と設備特集…… 5
建築工費特集…… 6
第9回青年建築家特集…… 7
阪神高速道路と近畿の開発特集…… 8
工場建築特集…… 9
公害問題特集……10
宅地開発特集……11
社会福祉施設特集……12

作品作風 ★

ビルディング・事務所

新阪急ビルデイング…… 3
　工事監理：阪急不動産KK
　設計施工：竹中工務店
トヨダ自動車工業KK本館…… 3
　工事監理：トヨタ自動車一般建築士事務所
　設計施工：KK竹中工務店
兵庫県信用金庫会館…… 4
　設　計：KK竹中工務店
　施　工：KK竹中工務店
ヤンマー本社ビル…… 4
　設　計：日設建計工務KK
　施　工：KK 大林組
京阪神不動産KK瓦町ビル…… 6
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：鹿島建設KK
大阪グリーンビル…… 7
　設計監理：KK竹中工務店設計部
　施　工：KK竹中工務店
日本生命本館…… 7
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：KK 大林組
新住友ビル…… 8
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：KK 大林組
淡路町ビル…… 9
　監　理：吉村哲郎建築設計事務所
　設計施工：大成建設 KK 大阪支店
住友生命保険相互会社本館…… 9
　設　計：日建設計工務KK
　施　工：KK 竹中工務店
大阪屋証券ビル……11
　設計監理：野村建設工業KK
　施　工：野村建設工業KK
平和ビル……12
　設　計：清水建設KK
　施　工：清水建設KK
大阪機工KK健康保険会館……12
　設　計：鹿島建設KK
　施　工：鹿島建設KK

官公庁建築

鳴門市民会館…… 4
　設　計：京大増田研究室
　施　工：鹿島建設 KK

呉市役所・呉市民会館…… 7
　設　計：坂倉準三建築研究所
　工事監理：呉市建設部・坂倉準三建築研究所
　施　工：KK 増岡組
豊中市庁舎…… 7
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：KK 銭高組
広島県立体育館…… 8
　設　計：KK横山建築構造設計事務所
　　広島県土木建築部営繕課
　監　理：広島県土木建築部営繕課
　施　工：KK藤田組広島支店

銀行

東海銀行本店…… 3
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：KK 大林組
大阪市信用金庫本店……12
　設計監理：KK田中・小西建築事務所
　施　工：KK竹中工務店

学校

名古屋工業大学講堂…… 3
　設計監理：中建築設計事務所
　施　工：KK 間組

民衆駅

天王寺民衆駅……10
　設計管理：日本国有鉄道東京建築工事局
　　日本国有鉄道大阪工事局
　　日本国有鉄道大阪電気工事局
　　日本国有鉄道天王寺鉄道管理局
　　KK安井建築設計事務所
　　KK天王寺ステーションビル
　施　工：KK 奥村組

社会福祉施設

堺市立八田荘老人ホーム……12
　設計監理：堺市建築部営繕課
　施　工：西田工務店
神戸市立軽費老人ホーム福寿荘……12
　設計監理：神戸市建築局営繕第1課
　施　工：港建設工業KK
芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘……12
　　三上法道
神戸市立救農院……12
　設計監理：神戸市建築局営繕第1課
　施　工：KK岡工務店
兵庫県立精華園・赤穂学園……12
　設　計：兵庫県建築課
　施　工：小西工務店
石井記念愛染園愛染橋保育所……12
　設　計：KK倉敷建築研究所
　施　工：KK藤木工務店
大阪市立早川福祉会館……12
　監　理：大阪市建築局営繕課
　設計施工：清水建設KK
新高県労働者福祉センター……12
　設計監理：有限会社刈谷建築研究所
　施　工：佐藤工業KK

工場

東京芝浦電気KK大阪工場…… 2
　基本計画：東京芝浦電気KK生産部
　　製造部建築課
　設計施工：清水建設KK
近畿コカコーラボトリングKK本社工場…… 4
　設　計：KK田中・小西建築事務所
　施　工：KK 戸田組
宝酒造KK京都麦酒工場…… 5
　本社事務所 設　計：三沢博章
　　施　工：清水建設KK
　工　場　設計施工：清水建設KK
　ビヤホール　設計施工：清水建設KK

病院

神戸海星病院…… 2
　設計監理：双星社　竹腰建築事務所
　施　工：KK竹中工務店

スケッチブック

工高生デザインコンクール入選作10点
　課題：都市の公園に建つ野外音楽堂…… 1
近畿大学工高卒業設計コンクール入選作… 7
第5回写真コンクール入選作……12

都市計画 ★

第1部　都市計画についてのイメージ
　　—人物論を通じて—

堀　新次氏…… 1
藤田　邦昭氏…… 1
細谷　祐泉氏…… 1
小川　正氏・浦辺鎮太郎氏…… 1
鈴木　岸也氏…… 1

第2部　あたらしい都市づくりの組織を！

あたらしい都市づくりの組織を！…… 1
その1．地方自治体の開発組織……
　……三村　浩史… 1
その2．市民組織……水谷　頴介… 1
その3．都市再開発……藤田　邦昭… 1

第3部　進展する関西の開発計画

千里丘陵住宅地区開発……寺内　信… 1
大阪既製服縫製近代化協同組合枚方工場団地の計画……水谷　頴介… 1
大阪駅前市街改造事業について……
　……長尾　正広… 1
高津台地区再開発計画……橋本　忠保… 1
彦根銀座街再開発計画…都市開発研究会… 4

都市計画資料

戦後におけるモスクワの都市計画と建築…
　……抄訳　早川　和男… 1
混沌の都市（1）セルフ著……… 1
　……抄訳　鵜川　利和… 1

建物管理 ★

ビル管理

保全管理（メーンテナンス）…小林　清周… 2
管理費の算定基準について…藤森春太郎… 2
ビル管理会社のあり方……藤森春太郎… 2
ビルの管理のポイント
　1.自家用ビルの管理のポイント……
　　……古井　謙治… 1
　2.貸ビル経営管理の経験…大西喜代実… 2
ビル管理アンケートを集計して
　大阪市内における主要ビルの設備ならびに管

号

理の一覧表…… 2

住宅団地管理

公団団地の管理について（大団地管理の問題点）……関　正三郎… 2
地方公共団体の住宅団地管理……
……上村　俊弘… 2
「株式会社団地サービス」の設立とその事業内容……林　良香… 2
住宅団地等の水道施設の水道技術管理者…
……石関　秀穂… 2

名古屋 ★

とら群像……森川音三郎… 3
伊勢湾台風と建築のその後…原　清… 3

特集・名古屋リポート—計画者の視角から—

1.都市計画への註文がき　とくに名古屋の現在と将来のために……はつとりちゆき… 3
2.名古屋の土地利用計画……奥田　千歳… 3
3.名古屋の公共施設—水道事業—……
……松尾　博雄… 3
4.地域計画と工場誘致……
……御船　哲… 3
5.ニュータウン開発をめぐつて……
……若林　時郎… 3
6.新しい計画の方法論を模索する……
……長峯　晴夫… 3

トピックス

1.名古屋の駐車場……水野　誠… 3
2.ACR & JAM……広瀬　一良… 3

名古屋　座談会：街造りの現状と将来

—地下街・駅西・バスターミナル—

出席者　一円　俊郎・水野　金市・城戸　久・谷　重幸・宮本　良三・溝口　闇・三輪　恒・石原　厳・山根正次郎・片山　節義・川口喜代枝・浜田　瑞穂・宮地　二郎・相徳　定幸

構造 ★

斬らしい構法の可能性

H型鋼を使用した構法……
……伴　潔・山田　稔… 4
新らしい鋼管構造……鷲尾　健三… 4
最近のPC建築構造……鈴木　計夫… 4

座談会

「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準」をめぐる諸問題…… 4

出席者　伴　潔・若林　実・山田　稔・宮川　逸郎・佐々木　保・長田　正雄・村田千之助・北村　俊男・久保田哲雄・木田　幸夫・倉石　秀夫・小堀義夫

構造ずいひつ—外遊漫筆

1.私の見たソ連……寺沢　一夫… 4
2.外遊して各国の建築構造を見るの記…
……金多　潔… 4
3.欧米見聞記……奥島　正一… 4
4.構造屋の神経……馬場　善雄… 4

号

水と設備 ★

水資源の保全について……合田　健… 5
大阪市の上水道の現状と将来……
……松下　伸一… 5
大阪市の下水道の現状と将来……
……井内　万治… 5
千里丘陵住宅地区上下水道計画……
……辻本　巌… 5
小規模団地の下水処理について……
……大内　栄一… 5
最近の給水設備について……富吉志乃武… 5
最近の排水設備の問題点……小川　誠耳… 5
浄化槽の種々な型式とその機能……
……本多　淳裕… 5

トピックス

1.工業用水道——大阪市の概況…… 5
2.中層アパートの排水通気系統の実験…
……種田　稔… 5
3.給湯（給水）管の業品処理……
……青野　正明… 5
4.AIフィルター…… 5
5.し尿浄化そうとその容量算定基準のJIS化…… 5

建築工費 ★

建築工費の分析と積算……益田　重華… 6
仮設（施工設備費）と現場経費について…
……橋本　良介… 6
建設業と見積り……政岡　基次… 6

官公庁建築予算

官庁建物予算単価の実態……藤沢　達夫… 5
大阪府の建築単価（予算）ならびに一般官庁予算の現状と問題について…
……高津　啓二… 6
官公庁建築予算—施工者側から—……
……山本　末男… 6
住宅公団団地の屋外附帯工事費について…
……今井潤之助… 6

座談会

積算・見積裏話…… 6

出席者：大手業者積算見積関係者8名・司会1名（とく名）

第9回青年建築家 ★

青年建築家　作品

満野　久…須磨女子学園…… 7
高田　十治…東海銀行本店・CBC会館他…… 7
山田　英夫…熊本東宝会館…… 7
倉田　茂二…梅若能楽学院…… 7
高原　稔也…福助足袋KK大阪支店・農民館の家…… 7
伊丹　孝…三菱アセテート富山工場事務所他…… 7
神出津嶺雄…大阪府議会会館…… 7
山本　正和…三菱府科学教育センター…… 7

号

山形　勝久…大阪大学講堂及本部…… 7
松下清一郎…神戸大学工学部…… 7
小島　将志…BELGIAN CONGO CULTURAL CENTER 計画…… 7
檜山　吉平…野々上小・中学校設計計画… 7
若野　暢三…宝酒造KK京都工場ビヤホール他…… 7
高武　主計…KK高島屋工作所福岡工場他…… 7
徳岡　昌克…大和銀行茨木寮他…… 7
泉沢　哲史…大日本化成玖波団地クラブハウス他…… 7
紙野　桂人…大島邸・米田邸・種谷邸…… 7
木原　仁男…阪南市街地施設付住宅II…… 7
西田　隆雄…仁川団地・東豊中団地…… 7
若林　時郎…高蔵寺ニュータウン計画…… 7

阪神高速道路と近畿の開発 ★

阪神高速道路を中心とした大阪の道路網計画……毎度　好款… 8

阪神高速道路と業務地域との結びつき

（1）案：スーパーブロック方式による都心再開発の要点……秀島　乾… 8
（2）案：市街地と高速道路……
……竹中工務店設計部… 8
（3）案：大阪市内ハイウエイと業務地域の改造計画……共同設計株式会社… 8
（4）案：商業地計画……RIA建築綜合研究所大阪分室…… 8
（5）案：阪神高速道路の建設に伴なう大阪業務センターの改造について……
……籔内　幸雄・湯川　利和… 8

随想

阪神高速道路に思う……中沢誠一郎… 9
〝住民のための計画〟……粂川　義男… 9

近畿（兵庫）の開発例

明石海峡のかけ橋……仲野　真夢… 9
神戸市背山総合開発計画……諸岡　博康… 9
兵庫県綜合開発マップ—加古川河水統制を中心として—…松宮　勝・大久保昌一…… 9

工場建築 ★

工場建築の諸問題……東畑　謙三… 9
工場建築計画における建築家の参画問題…
……浦辺鎮太郎… 9
工場工期の問題点……篠田　敏二… 9
工場建築の構造……高橋　度夫… 9

工場実例

1. 神戸製鋼所茨木工場…… 9
2. 住友機械大府工場…… 9
3. 久保田鉄工枚方機械工場…… 9
4. 中川電機藤沢工場…… 9
5. 住友電気工業横浜製作所通信ケーブル工場…… 9
6. 松下電器産業調房器事業部ガス器具工場…… 9
7. 倉敷レイヨン中条工場…… 9
8. ダイハツ工業池田第二工場…… 9
9. ハリス小田原工場…… 9
10. 日糧飲料本社工場…… 9
11. 大阪市清掃局住吉工場…… 9

建築と社会　第43集　1962年　1月号—12月号　総目録

号

公害問題 ★

公害の法的規制と大阪における公害問題の現状……和田　孟子…10
建築工事における公害と防止について……
……中出　定夫・北山二十三…10
公害問題随想
最近の公害問題をめぐつて…東田　敏夫…10
公害問題随感……川名吉エ門…10
建築基準法と公害防止……山本　康雄…10
設計上考慮すべき公害防止の問題点
騒音の公害防止と建築計画…前川　純一…10
測定の立場からみた振動公害……
……鳥海　勲…10
ガス、ふんじん、煤煙防止の問題点……
……田中良太郎…10
巷の声（公害陳情）……10
書　評
私的企業と社会的費用（カツプ著）
—現代資本主義における公害問題—
……湯川　利和…10
団地の害虫……石関　秀穂…10

宅地開発 ★

農地問題と宅地問題
農地問題と都市的土地利用計画……
……播磨　重男…11
住宅開発と近郊農業……鶴嶋　雪嶺…11
農地一宅地問題：英国の場合（食料対住居）
セルフ著……抄訳　湯川　利和…11
用地取得方式と宅地評価問題
＜用地取得方式＞まえがき…泉　資一郎…11
1．土地区画整理方式……瀬能　治郎…11
2．任意買収方式（私鉄の場合）……
……木梨　正夫…11
3．収用買収方式……原田　明治…11
4．還元方式……泉　資一郎…11
＜宅地評価問題＞
宅地評価とその制度化について……
……木村　覚…11
英国の都市開発における土地補償のうつり変り…… by Charles M. Haar ……
……抄訳　廻　節男…11
＜ゴネドク問題＞
ゴネドクをどう考えるか……住田　昌二…11
宅地開発と地方行財政
宅地開発と地方財政—枚方市の場合—…
……藤井　幸夫…11
宅地開発と地方行政—労働者の立場から—
……秋山　桓士…11
法規解説
1．宅地造成等規制法……立成　良三…11
2．新産業都市建設促進法……
……大阪府知事室…11
3．全国総合開発計画……
……大阪府知事室…11
4．近畿圏整備法立法化への動き……
……大阪府知事室…11

社会福祉施設 ★

老人福祉における「施設」の意義……
……岡村　重夫…12

号

老人のすまいと老人ホーム
老人のすまいへの展望……栗原嘉一郎…12
老人ホームの現況とその問題点……
……荒木兵一郎…12
「有料老人ホーム現状調査」……
……山口　敬二・鈴木　良介…12
地域福祉施設のあり方
団地保育所……湯川　聡子…12
大阪市におけるスラム・クリアランス…
……柴田　善守…12
労働者福祉施設について……田代　正尚…12

近代建築調査委員会報告 ★

25．龍谷大学本部の諸建築…近藤　豊… 1
26．富士銀行大阪支店と製鉄化学株式会社
……林野　全孝… 2
27．神戸地方裁判所……坂本勝比古… 3
28．コンドル博士関係の図面……（その1）
……近藤　豊… 4
29．コンドル博士関係の図面……（その2）
……近藤　豊… 5
30．旧武藤山治氏邸……坂本勝比古… 6
31．聖ヨハネ教会……近藤　豊… 7
32．大阪帝国座……林野　全孝… 8
33．尾山神社神門……近藤　豊… 9
34．旧神戸市役所庁舎……坂本勝比古…10
35．京都市の明治初期小学校
—講堂を中心に—……近藤　豊…11
36．毛馬閘門と洗堰……12

建築の眼 ★

担当：岩本　尚三・神出津嶺雄・田賀　勉・田村　真二……1, 2
担当：赤崎　尚信・南　一美・宮川　吉夫・山中　孔……3, 4
担当：東　孝光・嶋村　隆次・信川　好弘・福山　明……5, 6
担当：足立　英雄・中道　正照・山下　暢雄・吉岡　巌……7, 8
担当：猪沢　徳忠・田村　克好・針崎　権蔵・藪内　幸雄……9,10
担当：大海　一雄・小河一真佐・高木　登・宮坂　一也……11,12

創立45年記念事業報告 ★

事業報告……12
創立45年記念講演会講演記録……12
建築随想……竹腰　健造…12
経営雑感……松下幸之助…12
創立45年記念事業住宅講演会記録……12

書評 ★

「ふるさとのすまい」
リユツクに入れて地方を歩こう……
……神代雄一郎… 1
私的企業と社会的費用（カツプ著）……
……湯川　利和…10

座談会 ★

名古屋の街造りの現状と将来…… 3

号

鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準をめぐる諸問題…… 4
積算・見積裏話…… 6

その他 ★

年頭のことば……東畑　謙三… 1
昭和36年中に竣工した新建築（PR）…… 1
＜世界計画者としての建築家＞……
R・バツクミンスター・フラー…… 2
建築物用地下水のくみ上げ規制について…
……宮本　光敏… 6
理場実務指導要領…… 7
昭和37年度第1回・第2回工場見学記…… 7
ニユース：国立（京都）国際会館競技設計をめぐつて…… 9
公開質問：千里丘陵住宅地区開発計画における住宅棟の配置について…… 7

会報 ★

会報（1961年11月分）…… 1
〃　（1961年12月分）…… 2
〃　（1962年1月分）…… 3
〃　（〃　2月分）…… 4
〃　（〃　3月分）…… 5
〃　（〃　4月分）…… 6
〃　（〃　5月分）…… 7
〃　（〃　6月分）…… 8
〃　（〃　7月分）…… 9
〃　（〃　8月分）……10
〃　（〃　9月分）……11
〃　（〃　10月分）……12

会告 ★

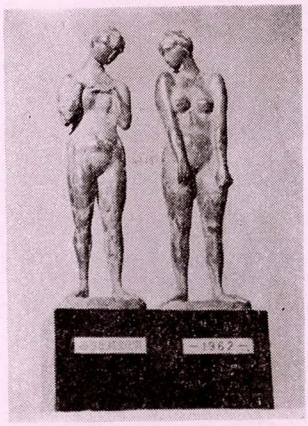
創立45年記念事業資金受領報告……
……3, 4, 5, 6, 7, 8
通常総会開催通知…… 2
昭和37年度留任・退任・監事・評議員氏名… 2
昭和37年度監事ならびに本部所属評議員当選通知…… 3
創立45年記念式典ならびに行事挙行…… 3
昭和37年度役員選任…… 4
昭和37年度収支予算…… 4
細則一部改定の件…… 4
理事会務分掌…… 5
要望書提出…… 5
住宅工学科新設に関する要望書
平城宮跡保存に関する要望書
会館建設資金借入金の償還当選通知…… 5
昭和37年度常設委員会委員氏名…… 5
会員の受賞……6, 8, 12
昭和37年度支部選出評議員当選通知…… 6
通常総会開催通知…… 6
通常総会決議報告…… 7
昭和37年度事業報告書…… 7
昭和36年度決算報告…… 7
理事の補欠選任…… 7
運営審議会の設置と会勢審議会の廃止…… 8
第6回現場実務講習会要項…… 8
第5回建築写真コンクール募集規定…… 8
第7回現場実務講習会開催…… 9
日本学術会議第6期会員候補者の推せん……10
「ふるさとのすまい」毎日出版文化賞受賞…12

会員の受章

日本学術会議会員当選

日本学術会議第6期会員選挙にあたつて，本会がすいせんしました武藤清，西山卯三両氏はともに当選されましたので，ここに誌してお慶び申しあげます。

日本建築協会



記念出版

「ふるさとのすまい」受賞

本会創立45年記念出版「ふるさとのすまい」日本民家集は，さきに日本図書館協会の選定図書に推せんされましたが，このたび11月3日の文化の日に毎日新聞社より1962年度「毎日出版文化賞」を受けました。ここに報告申し上げます。

会員の受章

下記会員諸君は文化並に建設関係功労者としてそれぞ顕彰されました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

文化功労者	内藤　多仲君	（名誉正会員）
黄綬褒章	柄谷吉太郎君	（柄谷工務店社長）
同	川崎　盛治君	（小坂井組社長）
同	坂本　広吉君	（浅沼組専務取締役）
藍綬褒章	東畑　謙三君	（東畑建築事務所長 本会副会長）

建築6団体合同
新年交礼会開催通知

恒例による建築団体合同の新年交礼会を下記により開催いたします。関係者多数一堂に会して年頭の寿詞を交換し，相互廻礼に代えるよう多数会員お誘い合せの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

1．と　き　昭和38年1月4日（金）午後1時――2時　随時
1．ところ　国際見本市会館（東区内本町橋詰め）
1．会　費　￥500
1．申　込　会費を添えて便宜の共催団体へお申込み下さい。
1．締切り　12月20日　名簿作成上締切り日厳守
1．共　催　大阪府建築士会　大阪建設業協会
日本建材協会　日本建築学会近畿支部
日本建築家協会関西支部　本会

第5回建築写真コンクール入選者発表

『主題：屋根・壁・インテリア』

標記コンクールには，会員26名，81点の作品の応募がありました。11月6日，北村隆夫氏，木村喬夫氏，清水民雄氏，恒成一訓氏弥屋毅一氏，薬袋公明氏各審査員の出席を得て，本会4階集会室にて慎重審査の結果，下記10作品の入選を決定いたしました。ここに氏名を発表いたします。

追て入選作品は本誌11頁→14頁に掲載いたしました。

1等入選　（賞状，賞金 10,000円，副賞）　中筋　修氏「倉敷1」
2等入選　（賞状，賞金 5,000円，副賞）　寺田　志朗氏「ドーム」
3等入選　（賞状，賞金 3,000円，副賞）　湯浅　武夫氏「船場の屋根」
入選　（賞状，副賞）　武藤　藹吉氏「当麻寺」
入選　（賞状，副賞）　金本　賢治氏「当麻寺」
入選　（賞状，副賞）　三川　栄吉氏「東京タワー」
入選　（賞状，副賞）　寺田　晴彦氏「唐招提寺」
入選　（賞状，副賞）　井戸　昭七氏「ガラスの壁」
入選　（賞状，副賞）　中筋　修氏「倉敷3」

千里丘陵ニュータウン見学会

千里丘陵ニュータウン見学会

日　時　12月8日（土）集合午後1時20分→解散5時
集合所　大阪駅西口バス駐車場・京阪観光バス・目標本会旗
申　込　電話に限る。定員 100名に達した時は先着受付順で締切ります。

千里丘陵ニュータウン工事概要

敷地面積	3,500,000坪	竣功戸数 住宅	1,010戸
住宅戸数	30,000戸	小学校	1校
小学校	11校	近隣センター	1ケ所
中学校	12校	工事中 住宅	2,490戸
近隣センター	24ケ所	小学校	2校
地区センター	3ケ所	中学校	1校
起工	昭和36年7月10日	近隣センター	3ケ所
完工	昭和42年3月31日	造成完了面積	282,800坪
総事業費	約 1,000億円	造成中面積	489,900坪
		開発事業主体	大阪府

アデュー1962年　忘年懇親会

アデュー1962年
忘年懇親会

本年もあとわずかで，過ぎ去ろうとしているあわただしいこのごろ，会員皆様のご健斗慶賀に存じます。本年の忘年懇親会は，パーティー型式に新しい企画を折込んで一層懇親の実をあげていただくよう下記により開催いたします。何卒お早くお申込み下されば幸に存じます。

記

1. 日　時　12月14日（金）開会午後6時→閉会8時
1. 会　場　太　閤　園（大阪市都島区東野田2—1
　　電話（351）8201 番）
1. 会　費　700円（別に補助があります）
1. 申　込　10日までに会費を添えてお申込み下さい。
　　なお定員 400名に達したときは締切ります。
1. 余　興　一流芸人による新しい内容と型式
1. お土産　出席者全員に贈呈（会員有志の寄贈品）
1. 抽せん　当せん者に進呈（会員有志の寄贈品）

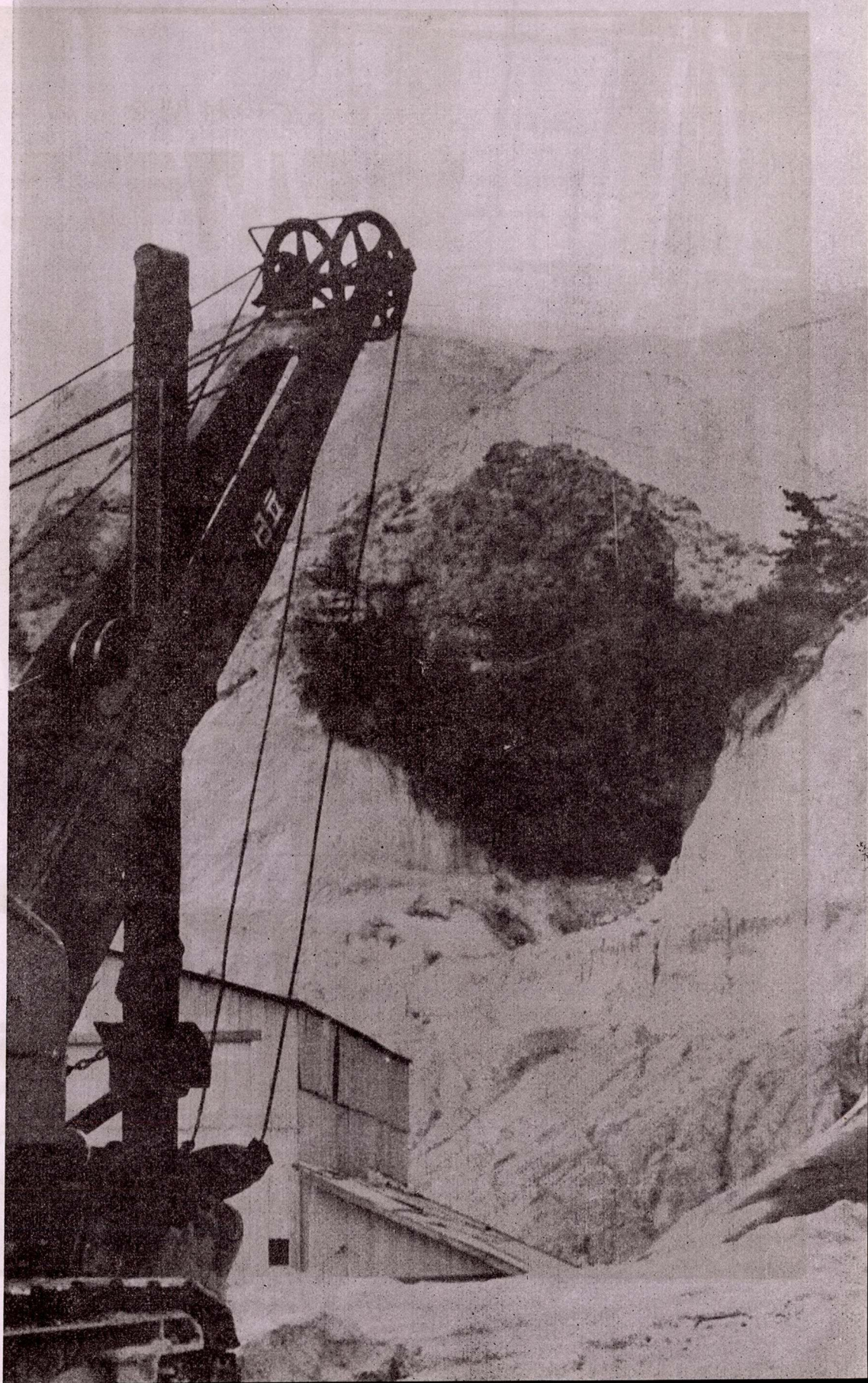
お願い・準備の都合上10日以降及び会場での受付けはいたしません
・申込者で12日までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担をお願いいたします。
・出席者名簿作成のため，申込の際，氏名，勤務先をお知らせ下さい。

「会員の頁」へどしどしお便りを

正月号より「会員の頁」欄を設けることにしておりますので，テーマは何でもよいですから，どしどしお便りを下さい。会誌にのせていきます。本誌10月号会員の頁用のはがきを挿入してありますので，それをご利用下さっても結構ですし，別のはがきで書いて下さっても結構です。　（編集委員会）

寄贈スライド

『軽量コンクリートの施工法』
製作　日本建築学会
寄贈会社名
日本ライトグラベル
関西販売株式会社




すべての柱型をしめる
特許 コラムクランプ
柱型枠締付金具
特許の誇るこの特長
・高度の精密度
・充分な安全性
・操作の簡易
・工費の節減
富国交易株式会社
東京都千代田区内幸町２－２　富国ビル５０２号室
電話　東京（５９１）６８５４・６８５９・７９７７

南海電鉄沿線に建つ新住宅設計コンクール募集規定

主催　南海電気鉄道株式会社　後援　日本建築協会
協賛　日本建築学会近畿支部、近畿建築士会協議会
日本建材協会、大阪建設業協会

1. 募集趣旨

戦後17年を経た現在、一般所得水準の上昇により、衣食の不足の解消とともに、住宅の整備を行なう人々が増加して参りました。これまで多くの住宅に関する競技設計が行なわれたり、又、種々の傑作が実際に建てられたりしました。

しかし、戦後の社会的背景も反映してか、これまでの建築家の住宅に対する熱意は主として小住宅に注がれてきました。小住宅の型は一応完成に近い所まできたといつても過言ではありません。しかし、一方では、これからますます需要が増すと予測される中住宅に対しては一部の建築家の努力を除けば、比較的なおざりにされていたのではないでしょうか、そこで今回若さのあるデザインソースを持つ人々の為に広く公開して新住宅への新しい意欲を盛上げたいと思い、ここに下記の要領で住宅の設計図案を公募する次第であります。

2. 設計課題

南海電鉄沿線に建つ新住宅

3. 設計要件

a. 敷地および建築面積

・建築延面積：130m² 約40坪（1割の増減可）

・敷地面積：応募者は登録制にして、登録の際に登録番号と建設予定地番号を到着順によつて決定の上通知した敷地とする

・建築位置　別図参照のこと。　☆

b. 敷地の環境

すみきつた空気とひらけゆく田園にかこまれた、ここ中もず住宅地は堺市の東部中もず地区開発の中心地で、大阪市の中心難波へ電車でわずか20分という至近距離にあります。附近には当社の建売住宅を初め、住宅公団の白亜の高層住宅約900戸が建ちならび、さらに2,600戸が建設中であります。隣接のゴルフ場では朝夕のわずかな時間にも新鮮な空気につつまれてお楽しみになることが出来ます。又住宅地内の幹線道路は、府道河内長野線に続き、堺市の中心から大阪へと快適な自動車での通勤もできます。

・この附近の地勢は概ね平坦地である。

・隣接のゴルフ練習場（ショートコース9ホール、打放し100打席あり）

・大阪は夏季においては西風が多く、冬季は積雪を考慮しない。

c. 所要室および設備

・家族4人以上の居住設備と和室1室以上予定すること浴室並びに水洗便所を設けること。浄化槽は別に考えず

d. 構造および階数

・耐震ラーメン構造2階建

e. その他

・建設価格、坪当り15万円程度（敷地内水道、ガス、衛生、電気工事共、但し浄化槽工事費は含まない）

・都市計画区域内及建築基準法に準ずること

4. 所要図面および書類

a. 配置図　縮尺　1/200（庭園計画等可）

b. 平面図　縮尺　1/50（室名記入）

c. 立面図　〃　1/100（但し2面以上）

d. 断面図　〃　1/100

e. 矩計図　〃　1/50

f. 透視図　（着色及び模型写真等、仕上は自由とする。）

g. 設計要点　レポート用紙に 300字以内で簡明に記入する。

・図面の大きさは1/4版（タテ40cm、ヨコ52cm）となし作図表現は自由なるも原則として陽画または青写真とする。

5. 審査員（順不同敬称略）

五百蔵　芳　明	大阪府企業局宅地開発部企画課長
荒　堀　宇三郎	日本住宅公団大阪支所建築部設計課長
西　沢　文　隆	坂倉建築研究所大阪事務所々長
足　立　　孝	大阪大学工学部教授工博
岡　橋　作太郎	日建設計工務（株）常務取締役
岩　本　博　行	竹中工務店設計部長
竹　内　さ　く	神戸山手女子短大教授
川　島　宙　次	（株）大林組住宅設計部
小　林　　清	（株）新住宅社々長
増　田　友　也	京都大学工学部教授工博
彦　谷　邦　一	彦谷建築事務所々長

佐野正一	安井建築事務所々長
海上静一	日本建築協会住宅委員会委員長
津村重一	〃　〃　副委員長
上西勲	南海電鉄（株）常務取締役
山本初	〃　住宅開発部長

6. 入選の数並びに賞

入選　8点　賞状及び賞金　各　15万円
選外佳作　5点　各　2万円
（賞金の総額は130万円を下らないこと）

入選図案の著作権は主催者に属する。

7. 締切期日　昭和38年2月末日附の消印のあるものを以て締切る。

8. 入選者発表　審査の結果は、本人に通知するほか、「建築と社会」4月号に発表する。
入選作品は展示公開の予定。

9. 応募手続

a. 応募資格並びに応募点数は制限しない。但し、次の登録を行なうこと。なお審査員と同一職場人も応募出来る。

b. 登録　昭和37年12月1日から1月末日午後5時までに日本建築協会に登録する。登録した者は、登録番号と建設予定敷地番号を到着順によつて決定の上通知する

c. 受付開始日と最終日
昭和38年1月1日――同年2月末日午後5時

d. 提出方法
応募設計図案は、直接持参するか書留または配達証明により郵送すること。

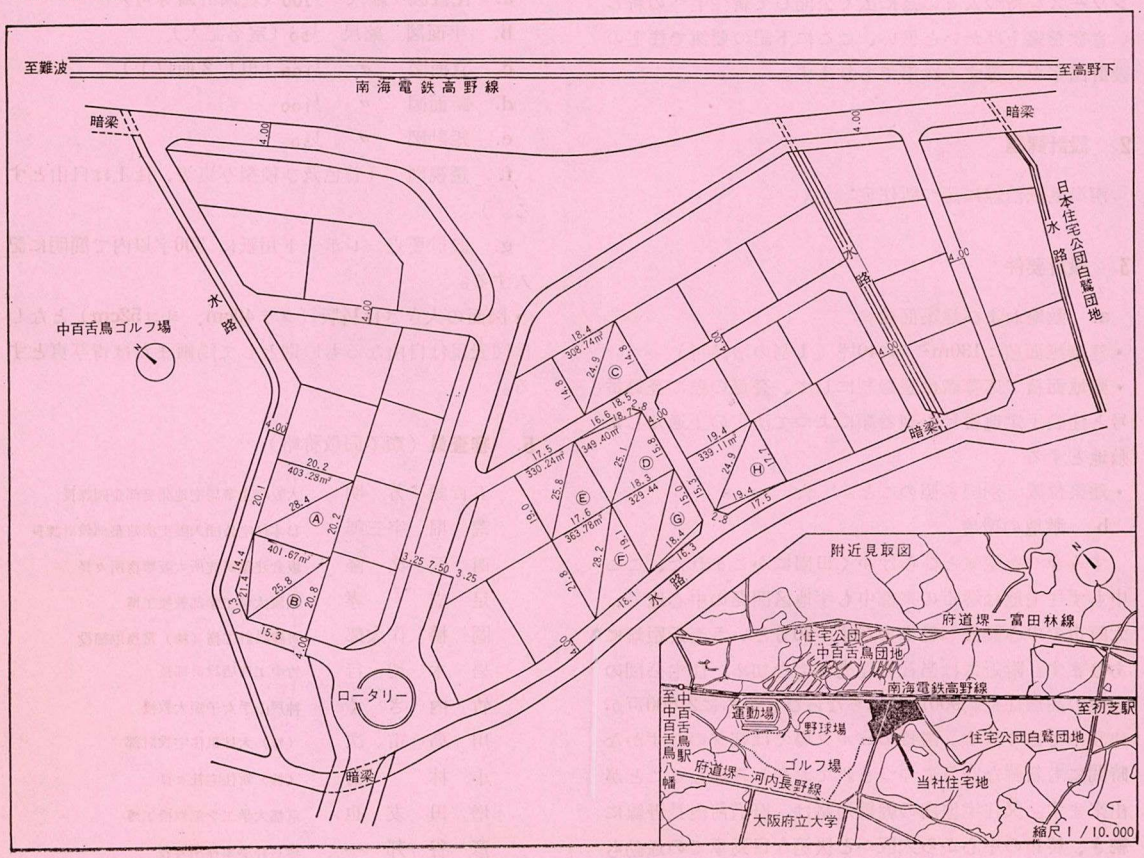
e. 応募設計図案には、署名、捺印することはせず別に暗号を記入する。更に登録の際に交付する用紙に、応募者（共同設計の場合は全員名）の署名、捺印と住所を記入して封筒に入れ厳封の上、応募設計図案の裏面にはがすことのできる方法ではりつける。

f. 応募設計図案を受領したときは、受領書を渡す。

g. 応募設計図案の提出先
日本建築協会住宅委員会　大阪市東区北浜3の37

h. 問合せ先　南海電鉄住宅開発部
TEL（大阪）631―1151
日本建築協会事務局
TEL（大阪）231―9648

☆ 別図



あらゆる建築用の接着剤

Bond ボンド

木工用	ボンドCH$_2$	ハードボード用	ボンドCV$_{2000}$
テックスボード用	ボンドK	化粧板用	ボンドG$_5$
セメントモルタル補強用	ボンドCZ	ビニタイルサラン用	ボンドG$_{100}$ その他
コンクリート石材用	ボンドE	木材構造用	ボンドKR 170種

製造元 株式会社 小西儀助商店ボンド工場

接着に関するご相談及び各種カタログはボンドK-S係迄

大阪市東区道修町2丁目6番地 電話 (231) 2047, 2057 (代)
東京都中央区日本橋本町3丁目1番地 電話 (241) 7161 (代) 5524～5
東京都中央区日本橋本町1丁目7番地 電話 (241) 2191 (代) 0495, 2541, 4727
名古屋市西区西菊井町8丁目3番地 電話 (57) 8131 (代)
札幌市北四条東1丁目 電話 (4) 0976, (5) 8614

三星の床材

ソフトンタイル

株式会社 木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話 (441) 5408・5486

株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5
電話 (341) 0207～8・4836～7

友工業株式会社大阪支店
大阪市西区南堀江大通1の19 電話 (541)・6161～4

合名会社 利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20 (道頓堀電停前)
電話 (211) 0571～4
京都営業所 京都市中京区河原町夷川下ル 電話 ㉑ 3299

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話 (632) 0121～4

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話 ⑤ 2697・2140

タテバヤシ商店
京都市下京区大宮通四条下
電話 ㉔ 4468・㊶ 0871～2

岡田建材株式会社
名古屋市西区桜木町3－8 電話 ㊲ 7461～3

株式会社 名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話 ㉔ 1329・2106・2817

日東物産株式会社
本社・名古屋市中区東瓦町39 電話 ㉔ 6176～9
岐阜出張所・岐阜市竹屋町27 電話 ③ 2201・2360

青盛建材株式会社
本社・広島市鉄砲町108 電話 ② 2281～6
岡山・岡山市東田町3 電話 ㉔ 7911・8169
福岡・福岡市万行寺前町14 電話 ② 5566～8
③ 1225～6

関西三星タイル会員



●美しい色とムードのあふれる**アクリドアー**はフレーム・ヒンヂ・ハンドルも組み合せたセット品となり一層お使い易くなりました

●御予算に応じて普及品と標準品が……

●お部屋の雰囲気にマッチした美しい色も多数取揃えてあります

●新しい建築には新しいセンスのドアーをお選び下さい

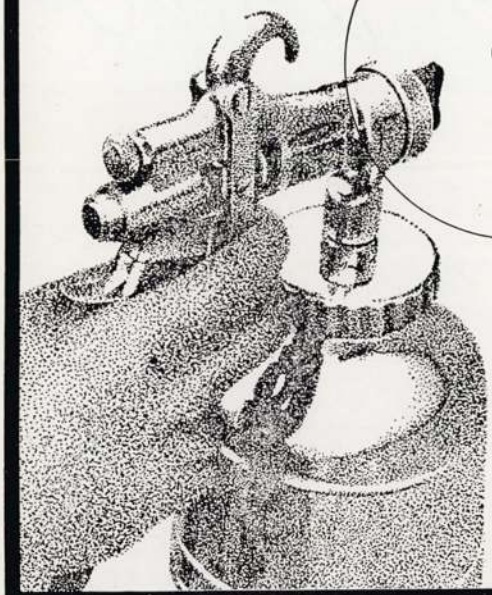
新建築の名演出家（ディレクター）

三菱レイヨンの

アクリドアー

アクリライトをつくって25年

三菱レイヨン株式会社



Soft

新発売

New Type

室内や廊下をソフトな感覚で包む新タイプのゾラコートソフトを新設計にご採用下さいソフトタッチの落着いた環境をつくりだします

ゾラコートソフト

関西ペイント株式会社

大阪市東区伏見町5・東京都中央区宝町3

● 色見本付型録ご希望の方は当社宣伝課Z係まで

建築と社会

12

社会福祉施設特集

1962年・第43集・12月号・目次

作品作風

平和ビルディング……設計監理：清水建設株式会社…1
施工：清水建設株式会社

大阪機工KK健康保険会館……設計：鹿島建設株式会社…6
施工：鹿島建設株式会社

大阪市信用金庫本店……設計監理：KK田中小西建築事務所…8
施工：KK竹中工務店

建築の眼……10

担当50音順：大海　一雄・小河一真佐・高木　登・宮坂　一也

第5回建築写真コンクール入選作……11

本文

老人福祉における「施設」の意義……岡村　重夫…15

老人のすまいと老人ホーム……18

老人のすまいへの展望……栗原嘉一郎…19

老人ホームの現況とその問題点……荒木兵一郎…28

有料老人ホーム現状調査……山口　敬二・鈴木　良介…35

地域福祉施設のあり方（コミュニティ・オルガニゼーション）

団地保育所——ひとつの地域福祉施設として——……湯川　聰子…44

大阪市におけるスラム・クリアランス……柴田　善守…50

労働者福祉施設について……田代　正尚…53

社会福祉施設実例8点……57

堺市立八田荘老人ホーム……設計監理：堺市建築部営繕課…58
施工：西田工務店

神戸市立軽費老人ホーム福寿荘……設計監理：神戸市建築局営繕第1課…61
施工：港建設工業株式会社

芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘園…三上法道…64

神戸市立救護院……設計監理：神戸市建築局営繕第1課…66
施工：KK岡工務店

兵庫県立精華園・赤穂学園……設計監理：兵庫県建築課…69
施工：小西工務店

石井記念愛染園愛染橋保育所…設計：KK倉敷建築研究所…72
施工：KK藤木工務店

大阪市立早川福祉会館……監理：大阪市建築局営繕課…74
設計施工：清水建設KK大阪支店

新潟県労働者福祉センター……設計監理：有限会社刈谷建築研究所…76
施工：佐藤工業KK

近代建築調査委員会報告36

毛馬閘門と洗堰……林野　全孝…79

書評：ふるさとのすまい

リュックに入れて地方を歩こう……神代雄一郎…42

本会創立45年記念事業報告

1. 創立45年記念事業報告……82
2. 創立45年記念講演記録……95
(1) 建築随想……竹腰　健造…96
(2) 経営雑感……松下幸之助 103
3. 創立45年記念事業住宅講演会記録……109

会報（10月分）……114

建物クリーニングと管理の店

住宅美素工事の創始者

ビルディングの洗浄工事
木造建築洗浄・美素仕上工事

株式会社 美素工業所
（登録商標）
大阪市東区瓦町二丁目（三和ビル）
電話 (231)5888.4938 (771)8050 (261)0617

ビルディング清掃・一般管理
美素建物管理株式会社
大阪市東区本町二丁目五
電話 (261) 4070・4079・0617

12

© 建築と社会
第43集
1962

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会
SMデザイングループ

定価 1部180円・送料共
昭和37年12月20日印刷
昭和37年12月25日発行
編集人 松井昭光
発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話大阪㊫ 9648・9649・9640番
振替口座大阪39975番
発行人 沖田誠一
印刷所 株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話㊫ 2091～3番
印刷者 綱野栄



1. **正面外観**　外壁：有田製二丁掛特殊磁器タイル貼，一部カラコンモザイクタイル貼　窓：アルミサッシ，グレーペン，一部サーモペン

平和ビルデイング

設計施工：清　水　建　設　株　式　会　社

設　計　者　の　こ　と　ば

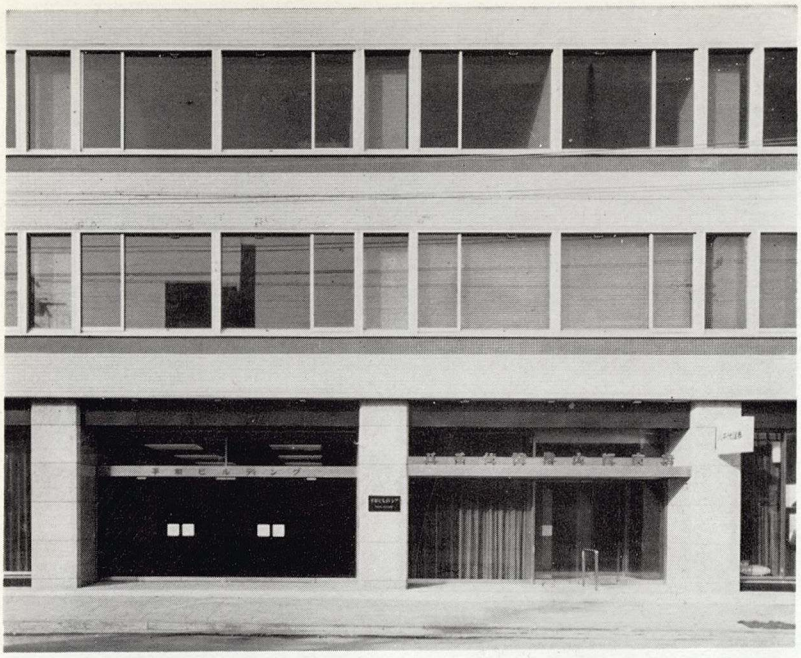
〝現代の貸ビルに要求されるものは何か〟を素直に見直して，これとコマーシャルベースとのかね合いを徹底的に合理的に追求し，必要部分は十分 Deluxe にしたことが何よりの特長。例えば

1. コアシステムを採用して，標準階貸室比は，84.4%とした。
2. 地下室に2フロアのガレージを持つことからスパンを6.230m×7.020mとした。
3. 土地の高度利用のために施工法を研究してもらって北側にある市下水敷部分を除けば，建蔽率は100%に近い。
4. 近代的な居住性とファサードのために，アルミサッシにグレーペーンを嵌込んだ連窓とし，下層階には，サーモペーンを使用して騒音を防ぎ，外壁には硬質磁器の有田タイル（特殊型）を使用。
5. 快適な居住性のために空調設備に，ゾーニング方式を採用，ビルの内廻り，外廻りの条件の平均化を行なう。
6. 客用エレベータは，150m/min 3台として群管理を行ないラッシュ，閑散時の合理的運行を行なう。
7. 色彩計画は，内外を通じてNトーンに徹底してある。特に1FLの玄関ホールは，白と黒とステンレスのみで構成し，ユニークな空間を造り出した。
8. 構造的な立地条件に恵まれ現GLは，OP＋6mで水の心配なく，GL－11mにして洪積層が出て地耐力は非常によかった。

平和ビルデイング

設計施工：清 水 建 設 株 式 会 社

建 設 地	大阪市東区平野町２丁目10番地	
敷地面積	1,457.80m²	440.98坪
建築面積	1,402.75m²	424.33坪
延 面 積	16,663.51m²	5,040.70坪
構　　造	鉄骨鉄筋コンクリート造	
	地下３階　地上９階　塔屋３階	
着　　工	昭和３６年２月１１日	
竣　　工	昭和３７年１０月３１日	



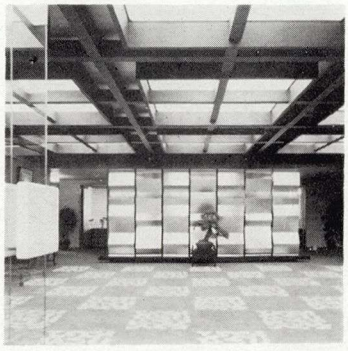
2



3



4



6



5

2. **ビル玄関廻り**
   柱型：稲田石　正面ノミ切り仕上
   見込本磨仕上

3. **第一信託銀行営業室（１階）**
   天井：ＡＣアルミモールディング貼
   壁：縞シオ練貼，クリヤラッカー
   床：ゴムタイル貼，一部じゅうたん
   カウンター：外国産大理石貼

4. **八千代証券営業室（１階）**
   天井：ロックスター
   壁：ウォールナット練貼
   床：ソフトンタイル貼
   カウンター：外国産大理石貼

5. **一 階 ロ ビ ー**
   床：大理石ハメ込現場研出テラゾー
   壁：外国産大理石
   天井：アルミダンパーパネル貼
   カウンター：ローズウッド練貼クリヤラッカー

平和ビルデイング

設計施工：清 水 建 設 株 式 会 社

面積内容	地 3 階	1,329.78m²
	地 2 階	1,048.27m²
	地 1 階	1,329.78m²
	1 階	1,323.41m²
	2 階	1,402.75m²
	3 階	1,402.75m²
	4 階	1,402.75m²
	5 階	1,402.75m²
	6 階	1,389.95m²
	7 階	1,374.94m²
	8 階	1,374.94m²
	9 階	1,374.94m²
	塔屋1階	157.40m²
	〃 2階	174.55m²
	〃 3階	174.55m²
	延 面 積	16,663.51m²



8
9



7

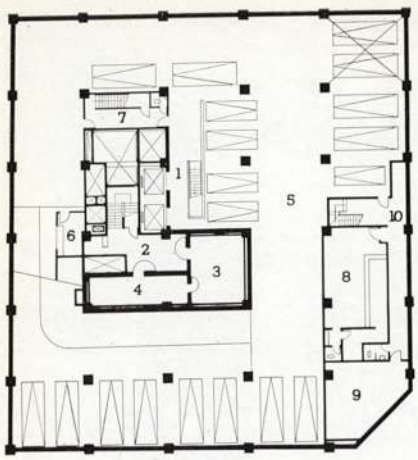


6. 第一楼（9階）ロビー

7. 第一楼（9階）和　室
天井：ベニヤ板下地ジュラクサテン吹付
造作：杉生地

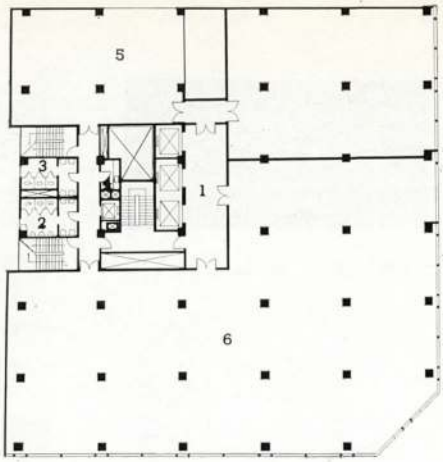
8. 第一楼（9階）ロビー
床：じゅうたん敷
壁：ウオールナット柾貼クリヤラッカー
天井：格子天井ウォールナット柾貼
スクリーン：銀箔仕上

9. 第一楼（9階）特別室
天井：裂地貼
壁：ローズウッド柾貼りリヤラッカー
床：ダイキンタイル貼



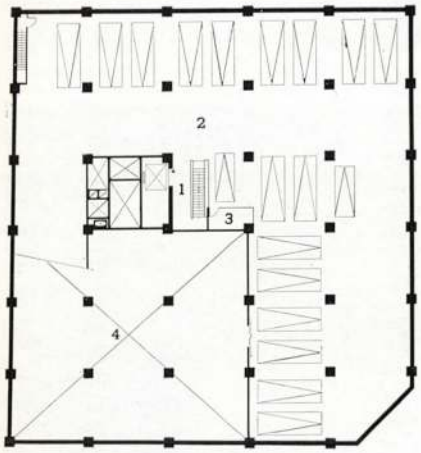
地 1 階

1 エレベーターホール
2 銀行前室
3 銀行書庫
4 銀行保護庫
5 ガレーヂ
6 ガレーヂ事務室
7 運転手控室
8 茶房
9 理髪室
10 フロリスト



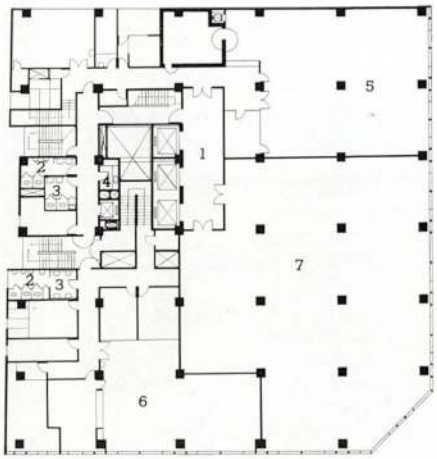
3 階

1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 湯沸室
5 KK藤井商店
6 日本臓器製薬KK



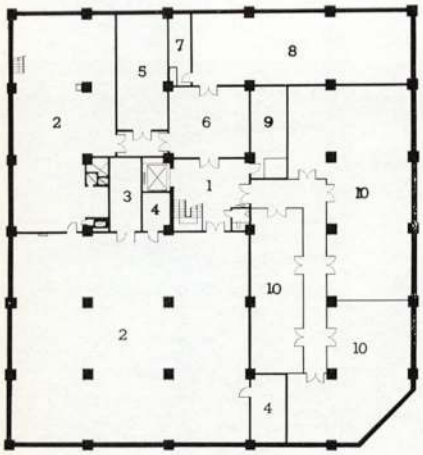
地 2 階

1 エレベーターホール
2 ガレーヂ
3 運転手室控
4 機械室上部吹抜



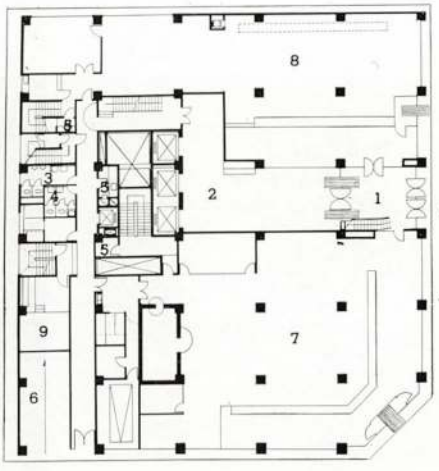
2 階

1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 湯沸室
5 八千代証券KK
6 朝日銀行
7 貸室



地 3 階

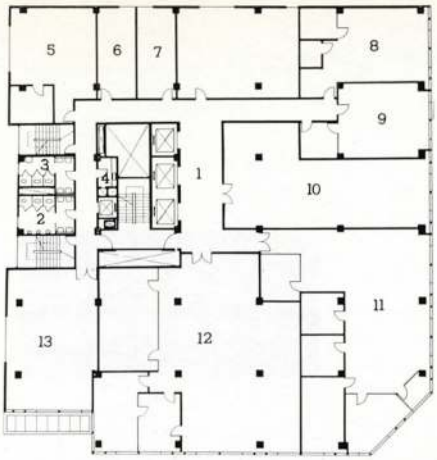
1 エレベーターホール
2 機械室
3 倉庫
4 タンク室
5 自家発電機室
6 制御室
7 蓄電池室
8 電気室
9 清掃人詰所
10 貸倉庫



1 階

1 玄関ホール
2 エレベーターホール
3 男子便所
4 女子便所
5 湯沸室
6 ガレーヂ出入口
7 朝日銀行
8 八千代証券KK
9 喫茶室

平和ビルディング平面図



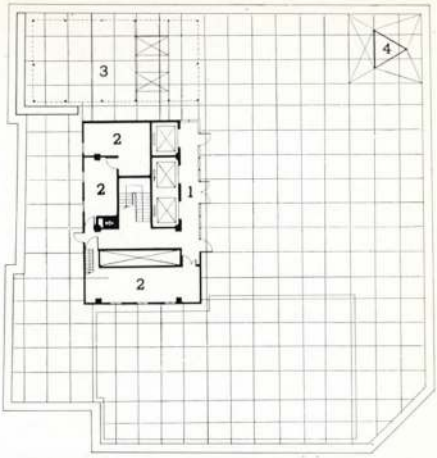
7 階

1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 湯沸室
5 小太郎漢方製薬KK
6 久世法律事務所
7 倉田法律事務所
8 三枝特許事務所
9 有孚公司
10 共同印刷KK
11 東京船舶KK
12 野村不動産KK
13 KK伊藤喜商店

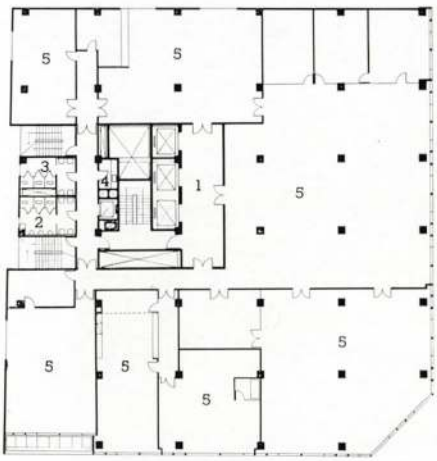


塔屋3階

1 エレベーター機械室
2 電気室
3 タンク室
4 クーリングタワー

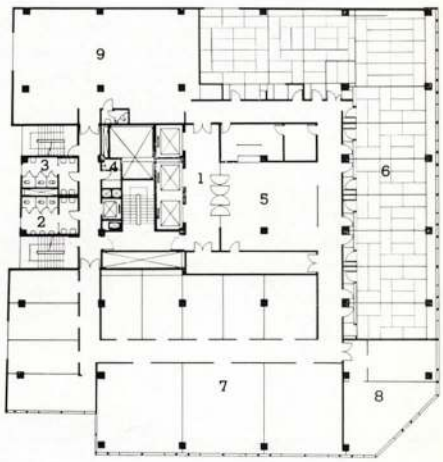


塔屋1階　1 エレベーターホール　2 機械室
3 インドアーゴルフ場　4 広告塔



6 階

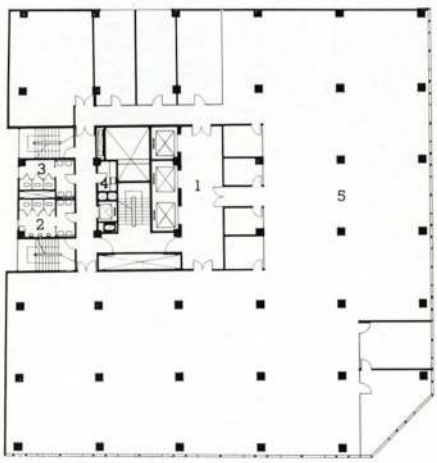
1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 湯沸室
5 武田薬品工業KK



9 階

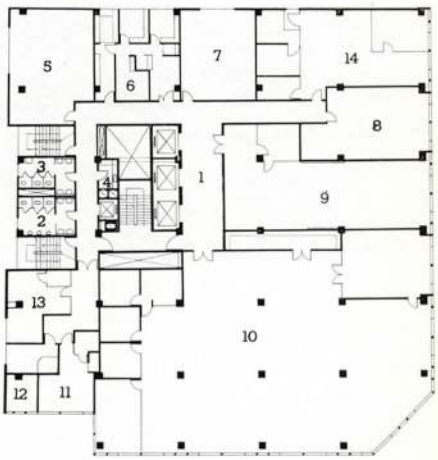
1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 シャワー室
5 第一楼ロビー
6 第一楼和室
7 第一楼洋室
8 第一楼特別室
9 第一楼厨房

5階は4階とほぼ同様のプラン



4 階

1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 湯沸室
5 武田薬品工業KK



8 階

1 エレベーターホール
2 男子便所
3 女子便所
4 湯沸室
5 石崎KK
6 川村歯科
7 貸会議室
8 シー・エフ・シャープ汽船KK
9 田島順三製作所
10 朝日火災海上保険KK
11 松王内科
12 三浦皮膚科
13 浜田眼科
14 ビル事務室

平和ビルディング平面図

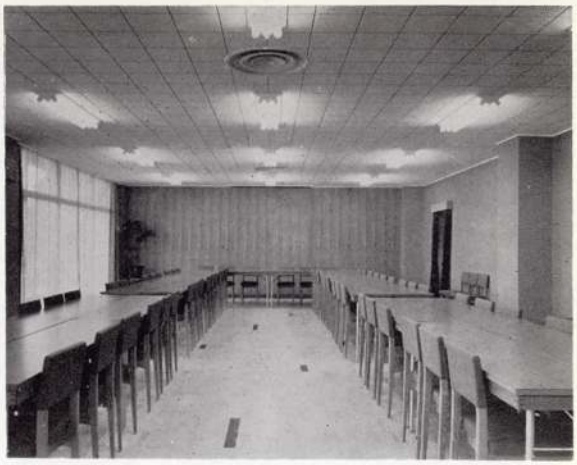
大阪機工ＫＫ
健康保険会館



設計施工：鹿島建設ＫＫ大阪支店

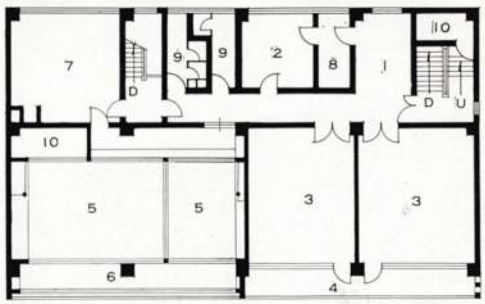


玄関ホール



会議室

所在地	伊丹市北村字桑ノ本24番地	
工期	着工	昭和37年3月5日
	竣工	昭和37年9月30日
構造	鉄筋コンクリート 3階建	
敷地面積		2,574.150m²
建物面積	1階床面積	335.260m²
	2階 〃	363.560m²
	3階 〃	369.050m²
	合計床面積	1,067.870m²
外装	リシン仕上，一部大仏タイル貼	
建具	玄関廻りおよび風除室 ステンレススチールサッシュ 外部廻り アルミニュームサッシュ	
設備	全館冷暖房装置	

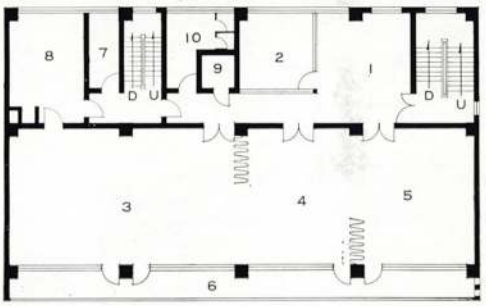


3階平面図

1. ロビー 2. 応接室 3. 娯楽室 4. ベランダ 5. 和 室 6. 広 縁
7. 割烹室 8. 空調室 9. 便 所 10. 物 入

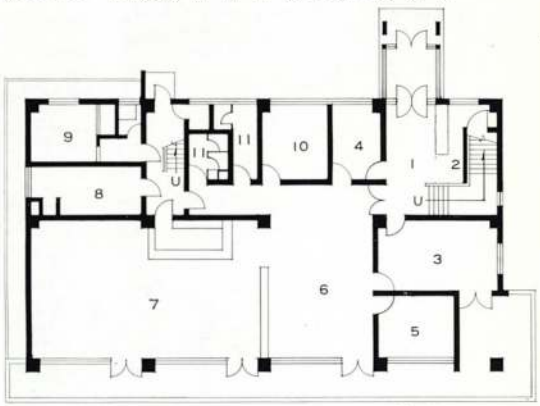
玄関脇





2階平面図

1. ロビー 2. 応接室 3. 会議室1号 4. 会議室2号 5. 会議室3号
6. ベランダ 7. 湯沸場 8. 倉 庫 9. 空調室 10. 便 所



1階平面図

1. ホール 2. 受 付 3. 保険室 4. 役員室 5. 応接室 6. 撞球室
7. サロン 8. 厨 房 9. 管理人室 10. 電気室 11. 便 所

大阪市信用金庫本店



外　観

設計監理：KK田中小西建築事務所
施　工：KK竹中工務店

建物位置　大阪市東区北浜2丁目23番地
敷地面積　608m²
構　造　SRC造　地下2階，地上5階
塔屋2階
軒　高　地盤上　17.90m
最高部高　地盤上　26.50m
建築面積　502m²
延面積　3,602m²
着　工　昭和36年　8月15日
定　礎　昭和37年　6月　8日
竣　工　昭和37年10月13日
基礎および地下室工事に際し，無音，無振動の竹中式深礎工法による。

〔設備概要〕

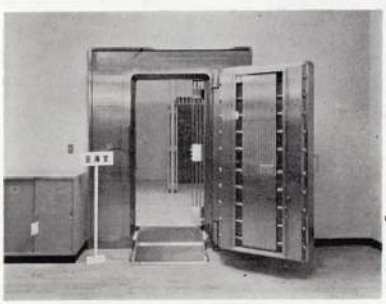
電気：地下2階に6,600Vの高圧電をし，動力用220V，照明用105Vに降圧配電する非常用蓄電池設備を設置す
通信：5階交換室に40回線2－CA交換機3台を設備
放送：5階交換室にB.G.M.演奏機を設置し，各階へ音楽を流すほか放送にも使用する
エレベーター：客用1台，自動車用1台
気送：1階，2階に営業室間に気送管設備
その他：電気時計，インジケーター，火災報知器などを設備
空気調和：中央ダクト方式．5階のみパッケージドエアーコンディショナーによる
給排水：水源ー市水道による　受水槽ー25屯，高置水槽ー8屯



営業室



役員室



金庫室

設計者のことば

信用金庫の建築は親しみやすく近寄りやすい温味のある建物であり，しかも金融機関としての安心感のあるものであらねばならない。

外部仕上は，小口平タイル貼（白色地に黒の斑点色）とグレーペーンガラス，グレー色ガラスブロックを使用し，横線を基調とした窓も室内の自然採光と最も有利な連窓とし，上部にガラスブロックを嵌込み，より働きよい室内環境をあみ出すように配慮した。

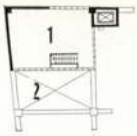
2 階

1. 事務室
2. 応接室
3. 予備室
4. 光庭
5. 湯沸室
6. 宿直室
7. 廊下
8. 便所
9. 洗面所
10. 自動車リフト
11. バルコニー
12. 階段室



塔屋2階

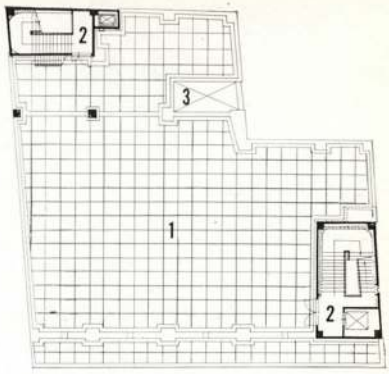
1. 水槽室
2. 吹抜





塔屋2階

1. 機械室
2. 階段室



屋階　1. 屋上　2. 階段室　3. 吹抜

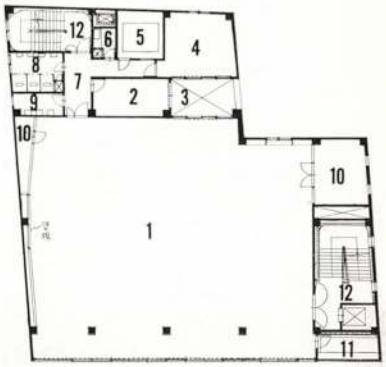
1 階

1. 客溜
2. 営業室
3. 応接室
4. 金庫室
5. 小使室
6. 湯沸室
7. 廊下
8. 便所
9. 洗面所
10. カーポート
11. 階段室



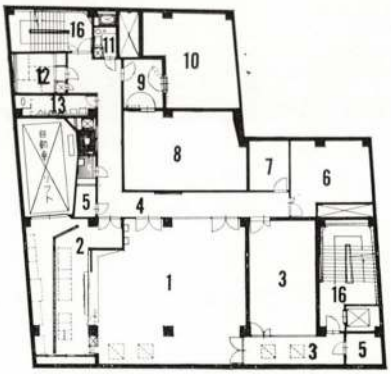
5 階

1. 大会議場兼集会室
2. 図書室
3. 吹抜
4. 電話交換室
5. パッケージ室
6. 湯沸室
7. 廊下
8. 便所
9. 洗面所
10. 物置
11. バルコニー
12. 階段室



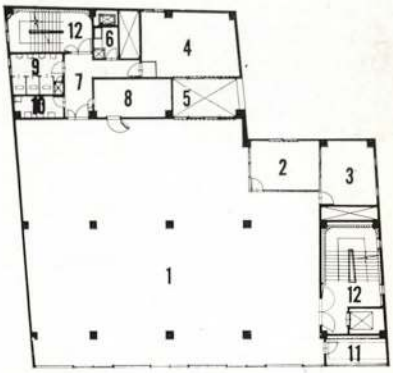
地下1階

1. 食堂
2. 厨房
3. 倉庫
4. 廊下
5. 物置
6. 女子更衣室
7. 男子更衣室
8. 備品室
9. 前室
10. 保護預り室
11. 湯沸室
12. 更衣室
13. 便所
14. 浴室
15. 脱衣室
16. 階段室



4 階

1. 事務室
2. 応接室
3. コピー室
4. 電気計算室
5. 吹抜
6. 湯沸室
7. 廊下
8. 経理部書室
9. 便所
10. 洗面所
11. バルコニー
12. 階段室



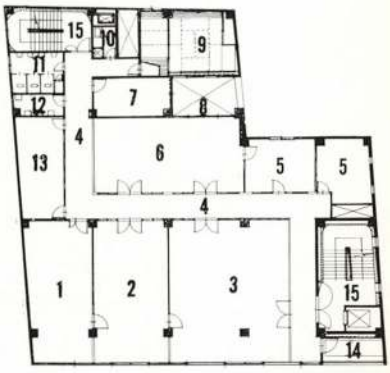
地下2階

1. 車庫
2. 運転手控室
3. 器具室
4. 蓄電池室
5. 電気室
6. 物置
7. 機械室
8. ポンプ室（下部集水ピット）
9. ポンプ室（下部受水槽）
10. 階段室
11. 塵埃焼却室



3 階

1. 理事長室
2. 専務室
3. 総務部
4. 廊下
5. 応接室
6. 役員会議室
7. 予備室
8. 吹抜
9. 和室
10. 湯沸室
11. 便所
12. 洗面所
13. 役員室
14. バルコニー
15. 階段室



建築家と医者の話

建築家の社会的な地位というものは世間一般に考えられているほど高いものではないことは，これに関係のある人なら誰でも感じていると思う。そこで試みに建築家を医者と比較してみると 案外 参考になる 面が 少なくない。以下気付いた点を建築の世界にあてはめて考えてみた。

1）権限の強化：医師の免許のないものが開業できないのと同様に建築士の地位を高め，権限を強化してモグリ建築を絶滅する。

2）専門別の明確化：一般に建築家はオールマイティーだと思われがちだが，技術の発達につれて専門化が進むのは当然で，たとえば内科の医者に外科の手術を頼むような結果になりかねない。専門別を明確にする。

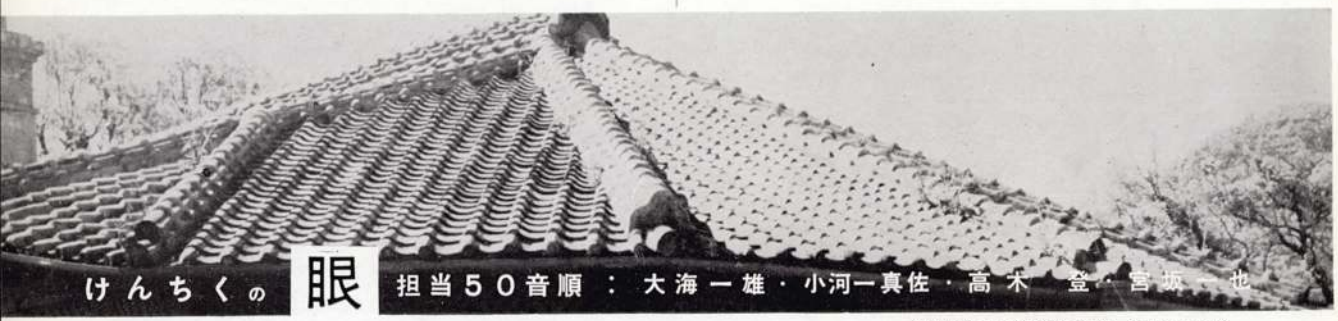
3）保険制度：健康保険に倣った保険制度をきめて建物の修理保全を行なうとともに，予防医学的見地から定期的な建物の検診を行ない災害を未然に防ぐ。

これぐらいのことは皆がその気になればすぐにでもできるのではないだろうか。 (TN)

設 計 の 妙 味

今年もはや師走，残りわずかとなりました。顧みるに経済状勢の不況から融資の緊縮，設備投資の削減など建築業界もこの荒波に捲込まれた一年でした。あらゆる業界が金詰りでどうにもならないどたん場に追込まれた昨今である。建物の設計に当って限られた予算の枠内で施主のいろいろな要求を満足させ如何に建物に反映させるかというむずかしさを特に感じた一年でもあった。建築は設計者の夢では実現しない，建物の設計に当って施主のいろいろな無理な要求や条件にたいしてこれに打ち勝つべく最大の抵抗を試みなければならない。予算，立地条件，関係法規，施工技術，デザイン，設計期間……などこれらすべての障害の打ち勝ち方がすなわち設計の良し悪しのポイントであると思う。施主の無理な要求にたいして自分の常識や経験から回避的な返事をしないであらゆる障害に抵抗してこれを打破し少しでも施主を満足させる建物に近づけるべく最大の努力をすべきと思う。この努力こそ設計の妙味といえるのではないだろうか。

(OKM)



(次号は新しい執筆者に担当してもらいます)

建 物 見 学

最近，新らたに設計を始めるに当って，同種の建物を調査する機会がありました。

すでに問題点を持っての見学調査ですから，見るだけで設計者の苦労がよくわかります。

また，直接使用している人たちから話しを聞くのも，思わぬ点を指摘されたりして，大変参考になります。

しかし中には，使用者から，ひどい苦情を聞かされて困ってしまうこともあります。もっとも設計者も，予算や設計の期間などで苦しかったのだろうと，身につまされて同情はしますが，やはり良い感じではありません。

そんなとき，自分の設計した建物はどうなっているのだろうかと，ふと思います。精根を傾け，愛情を分けた建物ですから，いつまでも，使用者から見離されるようなことにならないようにと思います。 (OKO)

経済建設と文化遺産

最近，車庫建設問題にからんで平城京趾の保存か破壊かが問題にされています。また，大阪城の南側に，ナニワ宮趾があり，そこへ合同庁舎を建設する計画もあると聞く。さらに，最近における奈良公園の環境悪化はひどく，当事者をして嘆かわしめているが，たまたま奈良県庁舎の増築問題にともなって，その位置の設定や環境悪化の問題が論議されている。

たしかに経済建設に付随して，当然そういった文化遺産の更改・破壊はさけがたい。だからといって，第一級のものと推される民族の文化遺産（埋蔵物を含めて）ならびにその環境の保全については，十分な保存対策が講ぜられないままに，経済建設が進んでよいということにはならない。むしろ積極的に緑地公園にするか，土地を国が買いあげるかなどの地域的な配慮のもとに保存対策が考えられてよいものと思う。 (MK 代)

特別広告掲載業者目次

（順不同）

昭和37年12月号

▶平和ビルディング関係

清水建設ＫＫ……作品頁

日本板硝子ＫＫ……Ⅰ

ＫＫ小俣製作所……Ⅱ

ＫＫ石渡康三郎塗装店……Ⅱ

大阪金属工業ＫＫ……Ⅲ

東洋リノリュームＫＫ……Ⅲ

高砂熱学工業ＫＫ……Ⅳ

ＫＫ矢橋大理石商店……Ⅳ

大阪装飾ＫＫ……Ⅳ

玄関
事務所
間仕切に.

GOAL

近代建築には
ゴール
ユニロック



部品はプレス製品で
堅牢.永遠の耐久力

新製品
ゴールのホープ
ユニ-P
簡単な取付
手頃な価格

扉錠の専門メーカー
株式會社 谷山製作所

本社工場 大阪市東淀川区 三津屋北通4—44
電話 代表大阪 (302) 1771～5
東京営業所 東京都港区芝浜松町4丁目5
電話 東京 (431)8708. (581)6709

平　和　ビ　ル



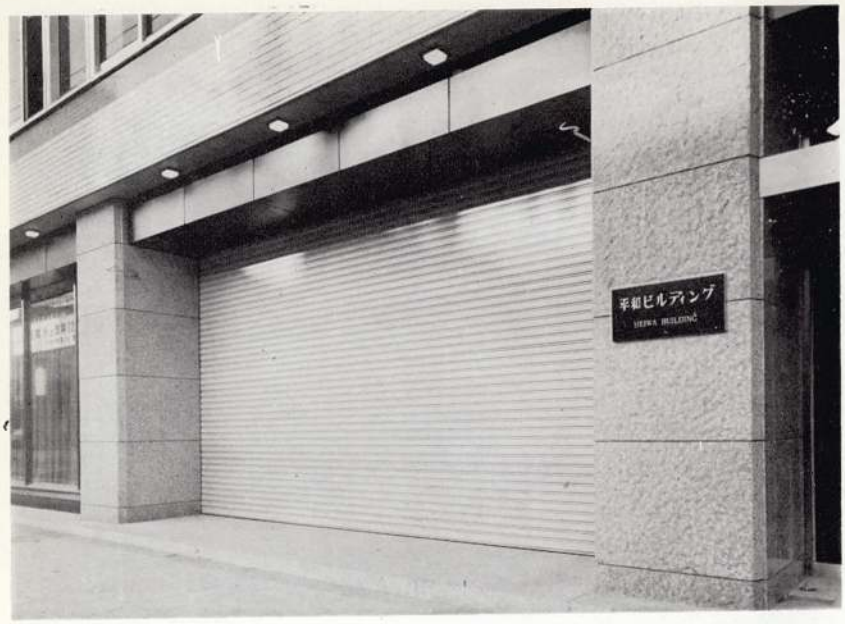
熱線吸収ガラスグレーペーンおよびグレーペーンサーモペーン複層ガラス使用

日　本　板　硝　子　株　式　会　社

熱線吸収ガラスグレーペーンタフライトドアー使用



平和ビルディング



シャッター工事全般

株式会社　小　俣　製　作　所

天井：艶消ペイント叩き仕上げ
壁面：ゾラコート吹付仕上げ
　　ビニデラックス塗仕上げ
スクリーン木鉄部：フタリット塗仕上げ

株式会社　石　渡　康　三　郎　塗　装　店





各階床タイル
ダイキンタイル使用

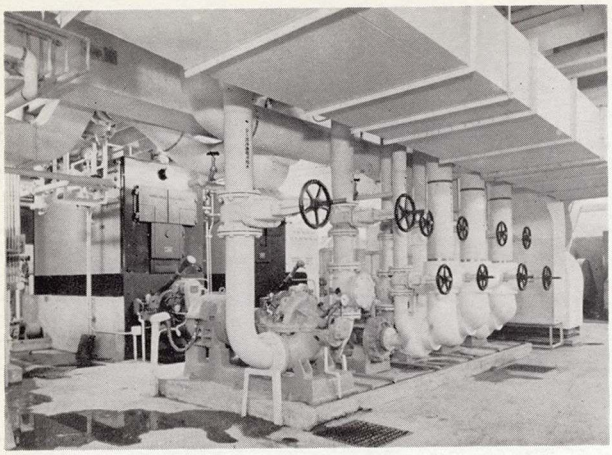
大阪金属工業株式会社

施工：吉比化成株式会社

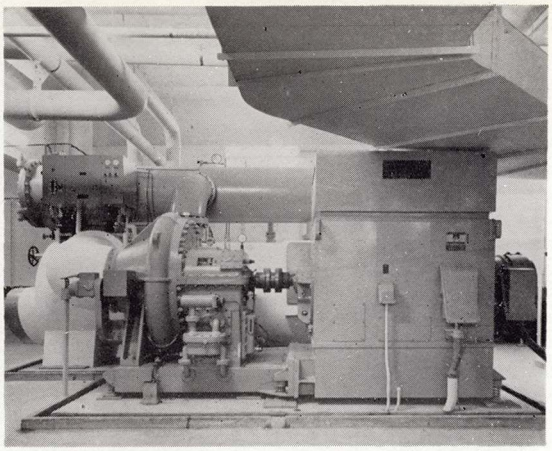
4，5，6階事務室床Nタイル仕上げ

東洋リノリユーム株式会社





地2階設置，冷暖房用ポンプならびにセクショナルボイラー



地2階設置，貸室ならびに銀行，証券会社系統用 350 冷噸
新三菱重工製ターボ冷凍機

空気調和設備ならびに換気設備工事

高　砂　熱　学　工　業　株　式　会　社

平和ビルディング

ステンレス建具工事　　株式会社　田島順三製作所　大阪支店

（新設・平和ビル8階　TEL203-2806）

大理石工事

株式会社　矢　橋　大　理　石　商　店

床貼工事

大　阪　装　飾　株　式　会　社

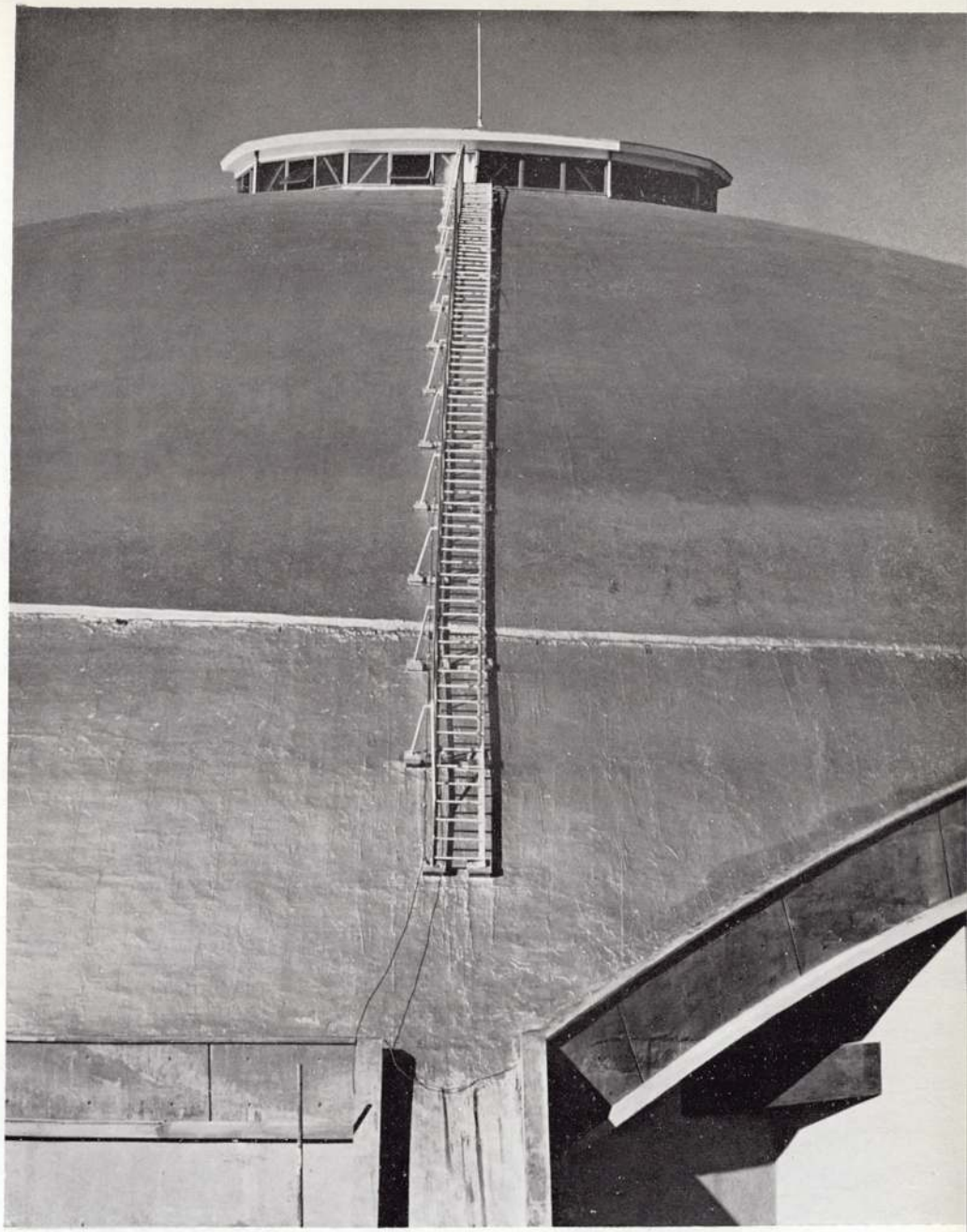




第五回建築写真コンクール

主題

屋根
壁
インテリア



2等入選　ドーム　寺田志朗

勤務先　製鉄化学工業
場所　姫路市手柄山姫路市体育館
日時　昭和37年9月16日9時
データー　パールII　ヘキサー F3.5
ネオパンF　F11　1/100



入選
壁と屋根
宇田晴彦

勤務先　湯浅建築事務所
場所　奈良唐招提寺
日時　昭和37年10月21日16時頃
データー　キヤノンネオパンSS　F16　1/60



審 査 員（50音順）

北村　隆夫氏	竹中工務店
木村　喬夫氏	大阪建築事務所
佐久間　宏氏	大成建設大阪支店
清水　民雄氏	清水建設大阪支店
鈴木　洋也氏	東畑建築事務所
多比良敏雄氏	タイラホート
恒成　一訓氏	つねなりすたじお
弥屋　毅一氏	京阪神急行電鉄
薬袋　公明氏	日建設計工務

3等入選

船場の屋根

湯浅武夫

勤務先　湯浅建築事務所
場　所　大阪市今橋付近
日　時　昭和37年10月13日13時
データー　フジカ35　ネオパンSS　F11　1/125

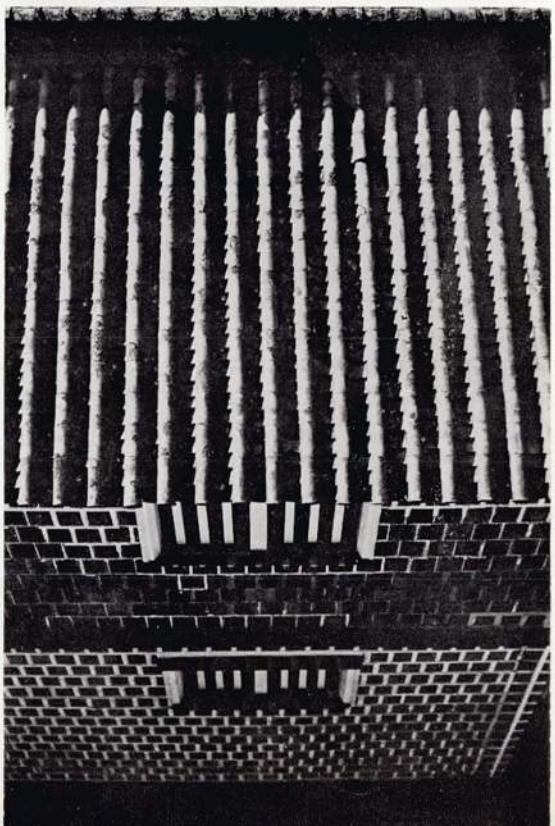
1等入選作品は本誌38年1月号表紙に使用

1等入選

倉敷1

中筋　修

勤務先　竹中工務店神戸営業所
場　所　倉敷民芸館
日　時　昭和37年4月上旬15時頃
データー　ライカⅢC　キヤノン35㎜　F 2.8　フジミニコピー　F 8　1/60



総　評

全体としての作品のレベルは，前回に比べてぐんと向上していた。選ばれた作品は，何よりもまず第一にテーマのとらえ方がうまいといえようが，アングルを建物の真正面にとったものが多いのは建築家の真正直な性格がよく現われているように思えて興味深かった。しかしその内にも中筋修氏の作品には異なったアングルから幻想的な表現をした点注目に価いする。

屋根をテーマとしたものが圧倒的に多く，また新しい建物が少なかったのは，瓦屋根が撮りよいことの故か，また規定を見て真先に思い浮かぶことの故であろうか，その点インテリアの作品が少し欲しかったと思う。ともあれ，いままでに見ない応募点数と，入選者が1名を除き，すべて初入選ということと，遠隔の会員の応募者が多数あったということなどは今回のコンクールについての特筆されるべきことで，所期の成果をあげることができたと思われる。次回にはより一層会員各位のご協力を得て，特色ある事業とするため，担当グループでは企画の研究を進めていきたいと考えている。

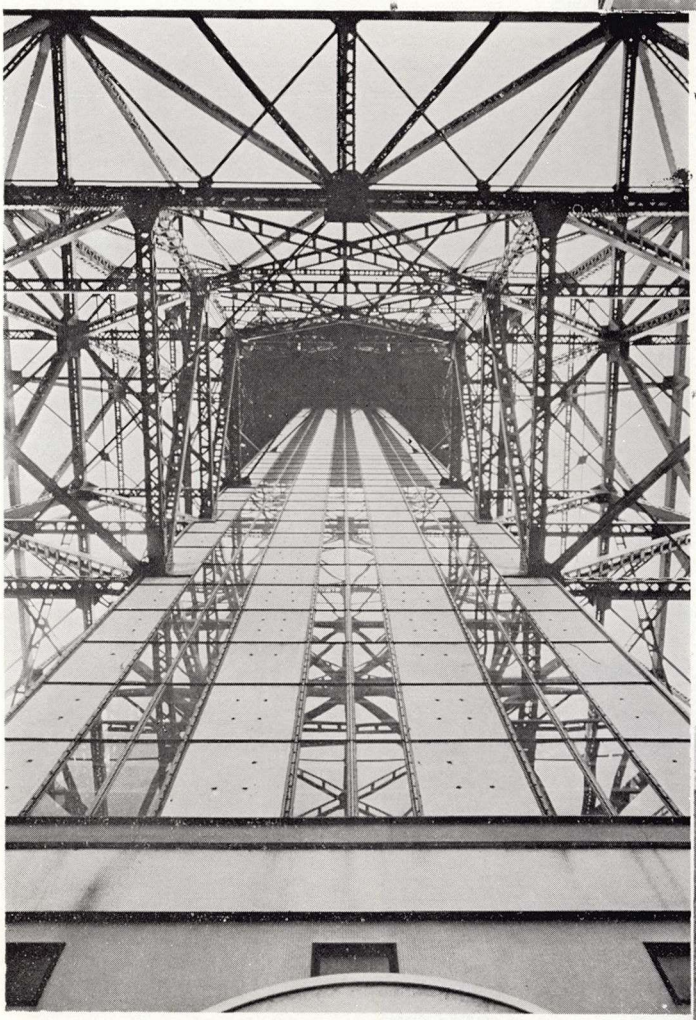
入選

ガラスの壁

井戸昭七

勤務先　大林組
場　所　大阪御堂筋日本板硝子本社ビル南面
日　時　昭和37年9月25日
データー　ミノルタレフロッコール75㎜ ネオパンSS Y2 F22 1/5





入選

東京タワー

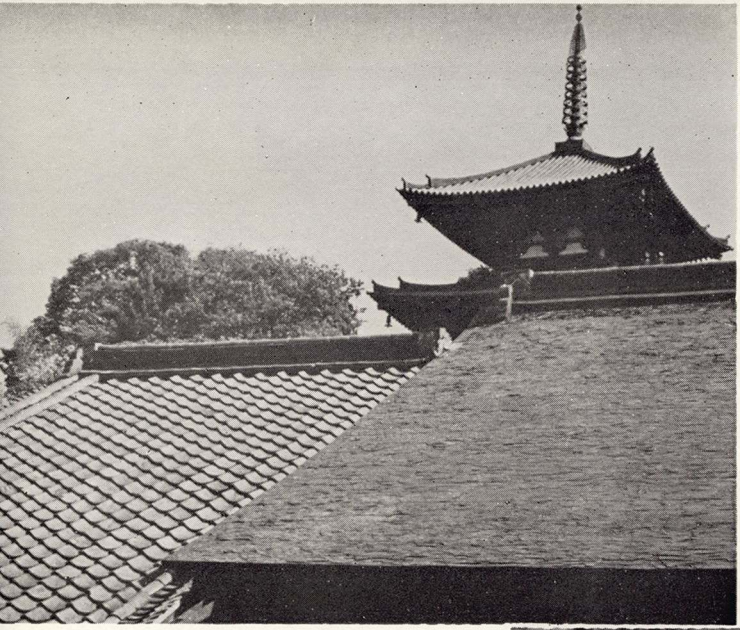
三川栄吉

勤務先　兵庫県建築課
場　所　東京タワー・エレベータ側壁
日　時　昭和37年3月15日10時頃
データー　キヤノン F2.8 Y1 F8 1/125

勤務先　大成建設大阪支店
場　所　大阪府羽曳野市
日　時　昭和37年10月21日
データー　キヤノンフレックスRM スーパーキヤノマチックR50㎜ F1.8 ネオパンSS UV F8 1/125

入選　吉村邸　高田　威





入　選

屋　根（アグファカラー）

武藤藹吉

勤務先　銭高組
場　所　当麻寺
日　時　昭和36年5月
データー　キヤノン　キヤノン F1.8　50㎜　F8　1/100

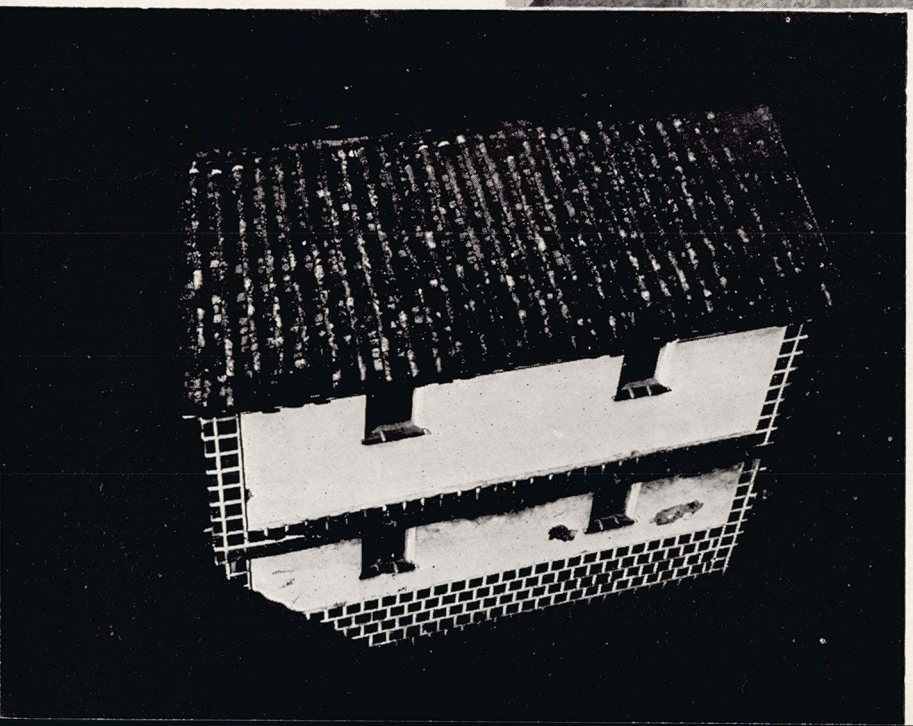


入　選

当麻寺の壁

金本賢治

勤務先　大阪建築事務所
場　所　奈良当麻寺
日　時　昭和36年9月
データー　ニコンF　ネオパンSS　F5.6　1/60



入　選

倉　敷　3

中筋　修

勤務先　竹中工務店神戸営業所
場　所　倉敷の民家の倉
日　時　昭和37年4月上旬15時頃
データー　ライカⅢC　キヤノン35㎜　F2.8　フジミニコピー　F8　1/60

特　集
社会福祉施設

老人福祉における「施設」の意義

大阪市立大学教授・家政学部社会福祉学
岡　村　重　夫

ここで「老人福祉」というのは，老人に対する社会的サービスのことである。従って本稿では，このような社会的サービスの設計および実施において，いわゆる「老人福祉施設」をいかに考え，またそれをいかに位置づけるか，という点について二，三の原則的なことを考察してみたい。

1．老人福祉の意味と施設

「老人福祉」の意味内容を，一部の生活困窮老人に対する救済事業，すなわち「養老事業」とするならば，「施設」とは主として養老施設を意味するであろう。そこでは，老人が貧困のために生活してゆけないという事実が決定的に重要な条件であり，そして福祉サービスの内容は，家族的扶養に代るものである。つまり，もし老人が家族によって扶養せられるならば，その社会的サービスは不必要なものである。従ってそこでは「老令」という条件は附随的なものであり，簡単に歴年令で規定せられるだけである。老令によって起った生活困難というよりも，むしろ家族による扶養もうけえないことによって起った貧困という事実が重要な条件となるからである。このような「養老事業的状況」のもとでは，たとえ名目的には，「老人福祉法」（厚生省では昭和38年度予算要求のなかに老人福祉法案要綱を入れていると伝えられる）とよばれてみても，その「老人」の意味は単に60才とか，65才とかいうだけであり，福祉サービスの内容や施設の種類も，最低限度の日常生活を目安とする「養老事業」と大差のないものであろう。

しかし今日われわれが，あらためて養老事業と区別せられた「老人福祉」を問題にするようになったのは，前記の「養老事業の原則」では，現代の老人の社会的要求に対応しえないからであった。つまり「老令」という身体的，心理的，社会的条件にともなう生活上の困難に対する社会的サービスの全体を「養老事業」と区別する意味で「老人福祉サービス」とよぶのである。従ってそこでは，福祉サービスの内容も，きわめて広汎多岐にわたるはずである。すなわち，身体的老令に対応する社会的サービスはもちろんのこと，心理的老令および社会的老令の予防と治療を目的とする社会的サービスや，これら三つの老令相互間のアンバランスからくる生活困難を防止するようなサービスをも含まなくてはならない。一言にしていえば，すべての老人が社会人として適応的な生活をつづけるような態度と能力をもつように援助する。各種の社会的サービスを整備しなくてはならない。このような老人福祉サービスでは，養老事業のように，老人が家族的扶養に依存することを前提条件とするものではない。むしろその反対に老人が独立自由な社会人として生活できるように援助することを，そのねらいとするものである。

しかしこのことは，老人の家族関係を無視したり，また生活のプライヴァシィや職業的労働を否定する，という意味ではない。かえってその反対に，老人たちがその経済的な依存状態ないし無力さのために，心にもない親子同居をやむなくするのではなく，親子の同居か別居かを自由に選択しうるような条件をすべての老人に保障しようとするものである。というのは，かかる自由な判断によって選択せられた親子の同居こそ，真実に「親子の愛情」の名に値するからであり，また経済的な打算に左右されない家族関係のなかにこそ，真実の情緒的結合をみることができるからである。また生活の窮乏に脅かされて，否応なしにかりたてられる職業的労働よりも，最低生活費を保障せられたうえで，選択せられた職業的労働の方に，かえって真実の「働くものの喜びと誇り」が

ある，と考えられる。また老人は年とともに，家族を失い，古い友人を失ってゆく。老人福祉サービスは，このような老人の孤独をなくするものでなければならない。といわれるけれども，しかしその際注意すべきことは，老人の孤独が彼にとってどのような意味をもつか，を見きわめなくてはならない。もしその孤独が彼に enjoy されるならば，それは老人のプライヴァシィとして，彼自身に残されるべきものである。それとは反対に「孤独」が彼を心理的に苦しめるならば，それは loneliness（さびしさ）であって，まさに老人福祉サービス問題として，とりあげられねばならない。

このようにして老人福祉サービスの種類としては，老人の所得，職業，医療，家族関係，住宅，教育，文化娯楽，社交にわたるけれども，同時にそのサービスの内容には明確な限界と目的を設定しなければならない。すなわち，本来的に個人の自由な選択にまかせるべきものと，社会的責任において提供せられるべき福祉サービスの範囲をいかに決定するかは，老人福祉の基本的原則にかかわる問題である。老人福祉サービスの地域計画においていかなる老人福祉施設を設けるか，という一見卑近な問題においても，実はその基底には，老人福祉の意味をいかに理解するか，という問題に対する回答を用意しなくてはならないであろう。こんにち，われわれが眼前にみるような「養老事業」の施設を，ただ無批判的に増設したり，改善するだけでは，決して真実の「老人福祉施設」に接近しえないことを強調しておかねばならない。

2．老人福祉サービスの優先順位

こんにちの養老事業においては，いかなる施設ないしサービスを優先的にとりあげて，これを実施すべきかを決定する際の原則は，いわゆる「緊急性」（urgency）のそれにほかならない。さしあたり家族的扶養をうけえない老人に対する生活保護法の適用であり，最低生活費の現金給付か，養老施設への収容による現品給付が，この養老事業の根幹をなしている。老令福祉年金は，なるほど70才以上の老人の約60％に給付せられるけれども，その金額は文字通りの小使銭であって，生活保障としての意味をもたない。つまり名目や宣伝は別として，実質的に老人の生活保障サービスとして，こんにち優先性をあたえられているものは「さしあたり放置できない困窮老人」に対する生活保護事業である。

ところが，養老事業とは原理的に対立する「老人福祉サービス」では，サービスの優先性を決定する原則は，緊急性のそれではなくて，サービスの予防的効果と普遍性，および市民参加の程度である。ここでこのことを詳細に説明する余地はないから，これを老人福祉サービスに関連せしめて結論的にいうならば，まず全老人に対する所得保障，医療保障および住宅保障を優先させるべきである。すなわち，まず老人の自宅における最低生活を保障するような基本的サービスを優先させ，そのうえにさまざまの特殊条件をもつ老人に対するサービスを追加する。というのが，今日の老人福祉事業の順序である。老人福祉施設の合理性は，このような基本的サービスを優先させることによって，はじめて確保されるものである。その意味では，全老人に対する所得保障と住宅保障こそが，特殊少数の老人に対する福祉施設よりも優先させねばならない。もちろんそれは特殊条件をもつ老人のための収容施設は決して不要だという意味ではない。ただわれわれの強調したい点は基礎工事の行なわれない建物は，応急バラックでしかないということである。

この点において，われわれが批判しなければならないのは，最近各方面からぞくぞくと発表せられる「老人福祉法案」の内容である。いま問題を「老人福祉施設」に限って比較してみれば次のとおりである。

厚生省案	自民党案（紅露案）	民社党案
無料老人ホーム	同　左	同　左
軽費老人ホーム	——	軽費老人ホーム
看護老人ホーム	老人医療施設	特殊老人ホーム 老人病院
老人保養所	同　左	同　左
養護受託者	同　左	——
老人福祉センター	同　左	同　左
——	——	老人授産所 内職斡旋所

みられるように，これらの案に共通する点は，所得保障に併行してあたえられるべき住宅費の保障や老人住宅政策をまったく欠いていることである。（1）子どもと同居したい老人，（2）独立して日常生活を営みうる健康にしてかつ自分自身の住宅を望む老人，（3）ホーム・ヘルプその他多少のサービスを必要とはしても，決して集団的な収容施設を必要としない老人，すなわち老人住宅に適する老人，（4）アパートのなかの老人部屋を好む老人，すなわち若いひとびとの多い団地を好む老人等々，老人の住宅政策において配慮すべき多様な要求がある。それにもかかわらず，上にあげた諸案では老人を一括収容する施設のみが主張せられている。元来，老人の集団的収容施設は老人が単独生活では日常の用を足

しえないとき，または集団居住を希望するか，あるいは治療上これを必要とするときにのみ，その効果を発揮するものである。従って優先させるべきサービスは，老人の健康を維持させ，また所得を保障して，できるだけながく地域社会に居住しうるように援助する予防的な方策と施設であって，この配慮を欠いた前述の諸案は，いわゆる「養老事業」の拡大再生産にほかならない。

こんごの老人福祉サービスにおいて優先させるべきものは，むしろ健康老人のための所得と住宅の保障対策であり，それに関連する施設である。たとえば，家賃や家屋改造費の援助，老人住宅，アパート，団地の老人部屋の建設とそれに附随する老人食堂，温食配給施設，老人クラブ，老人相談所，老人医療施設とリハビリテーション・センター，教育施設，職業訓練と職業斡旋施設等であろう。そしてこのような前提条件の上にたって，前述の諸案を再検討すべきであろう。

3．老人福祉施設設計の基礎データの整備

以上において，われわれは老人福祉施設として，なにを優先させるべきかについて考慮してきたが，さらにすすんでこれらの施設の量と質を決定するためには，こんにちのわが国の老人のニードを正確にとらえておかねばならない。ところで，こんにちまで各種の老人調査は全国的ないしは地方的な規模においてある程度は励行せられてきたけれども，それらの報告によって，実際に老人福祉施設の具体的な計画がすすめられるであろうか。なるほど最低生活にもこと欠く老人がどれ位にいるか，病弱ないしは日常の起居動作のみ不自由な老人が何名いるか，有業老人と無業老人の比率等々，一応の実態を推測する程度のデータは各方面の調査報告によってあたえられている。けれども，このような各項目の単純集計結果によって必要な老人福祉施設の量と質を計画しうるかについてわれわれは疑わしく思うのである。以下その理由を説明したい。

元来，老人福祉施設の種類や量を決定するためには，老人の経済的条件，身体的条件，家族的条件を中心として，そのほかに副次的に職業的，文化的諸要求を考慮しなくてはならないが，特に注意すべき点は，これらの諸条件が老人の生活において決して単独にあらわれているのではなくて，複合して生起するという事態である。たとえば，同じ貧困な老人でも，健康であり，またよい家族関係をもっているものもあれば，貧困，病弱，孤独という三条件をあわせもっている老人もある。老人に対する社会的サービスとしては，前者に対しては所得保障による生活の安定がなによりも必要であるが，それらの老人のうちの一部の人は所得保障のほかに，さらに職業施設や老人住宅を必要とするかも知れない。後者に対しては無料の看護ホームを必要とする場合もあるし，また老人によって自宅において所得保障と訪問看護サービスを望むかも知れない。従って，老人の経済的条件，身体的条件，心理的条件，家族的条件における欠陥が，いかに重なりあっているか，または，そのうち一種類の欠陥だけをもつ単純なケースが何%をしめるかを明らかにしなければ，真に老人の要求に対応した福祉施設の量やサービスの程度をすら計算することはできないであろう。かってわれわれが大阪市の老人を対象にして，その「不幸感」を調査したときに，貧困，病弱，孤独の三重障害またはそのうちの二重障害をもつものは，実に不幸感をもつ老人の55%をしめている事実を見い出した。同様の事情によって，単純な所得保障のみを必要とする老人，追加的所得保障と住宅費の補助だけで要求をみたしうる老人，所得保障のほかにホーム・ヘルプを必要とする老人，所得保障とホーム・ヘルプとリハビリテーション・サービスとを必要とする老人等々，障害の重複状況を発見することによって，実態に対応する福祉サービスの種類や，そこであたえられる福祉サービスの内容，程度を決定することができるであろう。けだし，たとえば，貧困と病気とを別箇の現象とみるのは，それぞれ社会保障制度と医療制度の立場であろうが，この両者が個人の生活のなかで，いかにからみあい悪循環するかをとらえるのが，福祉サービス固有の視点だからである。そして各種の生活上の困難が重複することによって起る「悪循環の悲惨」を避けるためには，まずもって問題重複の実態を明らかにするようなデータをもたなくてはならない。このような基礎的データをもたないで，たとえば，軽費老人ホームを計画してみても，それは単なる見本であって，実際に必要とする量も不明であるし，それに附設すべきサービス，たとえば，ホーム・ヘルプの必要量についても計算することができないであろう。つまり一口に老人住宅といっても，それに附設せられるサービスによって，各種の特徴をもたせるべきであろう。してみれば，こんにち各方面で語られる老人福祉サービス論は，その掛声の大きさに比較して，具体的な計算の基礎を欠いているのではなかろうか。われわれは老人福祉における救貧事業的残滓を克服する原則的な努力と併行して，なお多くの基礎的データを用意するという初歩的な作業を，こんごともつづけてゆかなければならない。

(1962.10.18)



オランダ・ハーグにおける老人センター

老人のすまいと老人ホーム

- 老人のすまいへの展望
- 老人ホームの現況とその問題
- 有料老人ホーム現状調査

老人のすまいへの展望

大阪市立大学工学部講師

栗原嘉一郎

1. 問題のありか

最近になってわが国でもようやく老人問題が注目を浴び始めてきた。これはいうまでもなく平均寿命が伸び，老人人口の比率が急速に高まってきたことが根本の原因である。すなわち，日本人の平均寿命は 1935年で 男子46.9才，女子49.6才であったものが1961年には男子66.0才，女子70.8才に達しており，この間におよそ20才も伸びたことになる。

この結果，61年現在で60才以上の人口は 855万人となり，全人口の 9.0%を占めるに至っている。この比率自身は，今のところ表1にみられるように欧米の文明諸国に比べれば，まだ低い値ではあるけれども，増加の速度はそれら文明諸国に類例をみないものであることが指摘され，1975年には60才以上の人口は全体の 11.3%，2000年には 19.2%になることが明らかにされている。

日　本 (1961)	9.0%
イギリス (1959)	16.8
デンマーク (1958)	14.7
スウエーデン (〃)	15.4
スイス (1959)	15.1
フランス (〃)	16.6
アメリカ (〃)	12.7
ソヴィエト (〃)	9.4

表1　各国における老令人口の割合（60才以上）

こうした背景のもとに起ってきているいわゆる老人問題は，家族制度の変革ともからみあって，複雑で困難な問題を社会のいろいろな局面にひき起しつつある。すなわち，年金制度を始めとする社会保障の体制の問題，老人の就業の問題，停年制の再検討の問題，家族制度と関連した家族内の人間関係の問題，扶養の問題，住宅の問題，健康ないし疾病対策の問題，精神面の問題等々である。そのどれ一つをとってみても単純なものはなく，しかもそれらの局面は互に関係しあっている。

ところでここではその中から老人のすまいの問題を中心にとり出し，背景的な諸条件との関連において，考え方の基本的な方向を探ってみたいと思うのである。

2. 世帯構成の変化

老人のすまいというとき，先ず決定的な要因となるものは家族との関連において世帯がどのように構成されるかということである。

60年の国勢調査は，1920年の初めての国勢調査以来ずっと続いてきた一世帯当りの平均人数4.9～5.0人という値が初めて4.56人と落ちたことを明らかにした。これは家族制度の変革の意識に支えられながら，国土の工業化にともなう労働人口の移動を契機としつつ，世帯の単位が核家族（夫婦のみ，またはそれに未婚の子供が加わった家族）化の傾向をたどっているためであると解釈されている。これはいいかえれば2世代・3世代にわたるいわゆる拡大家族の減少を意味するわけで，老人のすまいを考えようというときに基本的に重要な意味をもつものである。こうした傾向はわが国だけのことではなく，アメリカでも工業化の進展とともに，世帯人数の平均は1790年：5.7人，1900年：4.6人，1950年：3.4人とどんどん低下している。

ところで核家族化の傾向は都市においてより進んでいることを注意しなければならない。先の国勢調査によって世帯人員をみても，全国平均 4.56人に対して市部は4.36人，さらに全国人口集中地区では4.15人と低い値を示している。小山隆氏らの東京都における調査によっても，拡大家族の割合は，山村42%，近郊農村67%に対して，区部や近郊住宅地ではともに21%と低い値を示すことが明らかにされている。

この事実は，老人問題はどちらかといえば都市において深刻になることを意味している。つまり農・漁村の場合は旧家族制度崩壊のテンポが遅く，また人手不足から老人の労働力を必要とすることもあって年寄りの座は一応安定しているのに対し，都市では老令失業者だけでなく，主婦業・母親業からも離れた不安定な年寄りがあふれているというわけである。都市により大きな問題が横たわっているという事実は，老人のすまいを考えようという場合に基本的に重要な前提条件となるものである。

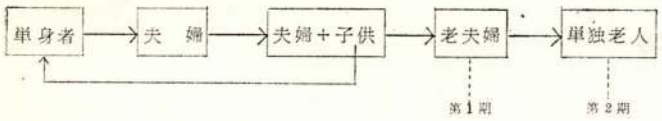


図1　ファミリー・サイクル（核家族）

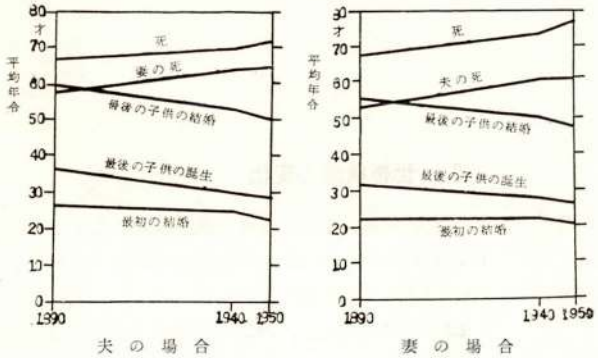


図2　家族のライフ・サイクルの段階：アメリカ

3．ファミリー・サイクル

わが国の世帯が核家族化の傾向をみせていると述べたが，それに関連してここで人間のファミリー・サイクルを考えてみよう。図1はこれをもっとも単純に示したものである。子供が成人して結婚するときには必ず家を出るとすれば，家には老夫婦が残り，図のような循環となるだろう。わが国の場合はこう単純に表わせる場合はむしろ少なかったわけだが，欧米の場合は一応このように表わせることとなる。

アメリカの家族についてこの間の関係を図示したきわめて興味深い図があるので図2に紹介しよう。死亡年令が高まる一方で結婚年令・出産年令が低くなってきているため，子供たちが結婚し終ってからの“老後生活”の期間がどんどん長くなってきていること，婦人の場合は寡婦で過す期間の長いことなどがよく示されている。

わが国の場合は結婚年令は近年むしろ高めになってきているが，先にも示したように寿命が伸びているし，夫と妻との間には寿命の差に加えて3才前後の年令差もあるので，やはりアメリカの場合と似たようなことがいえるであろう。

さて老後のすまいであるが，その場合の“老後”というものを，基本的にいって，図2に示されている「最後の子供の結婚」以後というふうに考えるのが一番よいのではなかろうか。60才とか65才とかの年令区分も，老人問題を考えるときにはそれなりの意味をもってはいる。しかし，すまいの形態を考える場合には，それが人間の生活に対してもっている本質的な意味からいって，そうした年令区分がどれだけの意味をもっているかはきわめて疑問である。それよりも，こうしたファミリー・サイクルにおけるいくつかのポイントを基準点に据え，そこをこそ出発点としてすまいに対するイメージを質的にもまた量的にも展開させていくべきではなかろうか。

このように老後生活をとらえるとき，その中で迎える配偶者の死というポイントも，すまいのイメージにはねかえってくるつぎに重要なポイントとなるにちがいない。そうした意味で図1においても，老夫婦の期間を第1期，配偶者に死別して単独老人となる期間を第2期として分けて名づけておいた。こういうことは個人の次元で考えればきわめて当り前のことなのであるが，社会全体で考える段になるといつのまにやら消えうせて，老人ホームの入園資格までが満××才以上というようないい方になってしまうのはまことに妙なことといわねばなるまい。

それはともかくとして，老人のすまいをこのように考えてくると，その本質は，人間の一生のうちの一つの時期におけるすまい方の形態をどのようにとらえるかという，住居論の中でも一番根本のイメージの問題へと帰着するのである。この意味で老人のすまいの問題はまったくもって万人の問題であり，いわゆる社会福祉施設というような感覚では到底処理しきれない問題である。

4．老人ホームというもの

老人問題対策の一環として老人ホームの充実が叫ばれている。そこでまずこの施設の概況をみてみよう。現在わが国の老人ホームは，養老院（無料老人ホーム），有料老人ホーム，軽費老人ホーム，年金受給者ホームなどがある。

養老院は生活保護法によるものであり，62年現在全国に640ヵ所，およそ4万人が入所しているが，さらに入所を必要とする者4万人がいるという。この施設に入っている老人は生活保護法適用者である上に，そのほとんどが身寄りのないところから，今のところこれはどうしても保護収容施設としての性格を帯びてしまっている。

有料老人ホームはこれに対して数万円の保証金と月々数千円の費用を払って入所する有料のホームであり，経済力はありながらも家庭的に恵まれないか，あるいは恵まれていても積極的にホームの生活を希望する老人が入

所している。この中にはなかなかデラックスなものもあり，養老院とはちがった意義も認められるのであるが，ここ4，5年の間に主として法人経費によって伸びている途上のこととて未だ全国でわずか30余ヵ所，1,000人程度の収容人員に過ぎない。この施設の難点は，なんといっても費用が高くてなかなか入りにくいことである。

軽費老人ホームは，地方公共団体または社会福祉法人が国の補助をうけつつ低廉な費用で比較的低所得階層の入所を可能とする目的で，61年から設立された施設である。この施設のねらいは有料・無料の間の空白を埋める当をえたものであり，これから伸びるものと思われる。しかし何分未だ発足したばかりのところであり，61年に9ヵ所，62年に10ヵ所程度の建設という。

年金受給者ホームは一種の有料老人ホームともいえるが，利用が特定の年金受給者に限られる点で若干性格を異にする。現在のところでは郵政省の簡易保険・郵便年金の受給者のための老人ホームが4ヵ所と，昨年から設置の始まった厚生年金保険の老令年金の受給者のための老人ホームがやはり4ヵ所あるだけであるが，ともに増設の予定という。

こんなところがわが国の老人ホームの概況であるが，これらの施設に入っている者の数は全部あわせても60才以上の人口のやっと 0.5%程度に過ぎず，少くとも現状においてはこれら老人ホームの果している役割はまことに小さいといわざるをえない。

では将来はどうか。これらホームはその多くが根を下したばかりのところであり，すでに述べたように今後かなりの建設が見込まれている。老人ホームに対する入所希望も少くない。有料老人ホームに対する入所希望はどの位かといえば，59年の尼ケ崎市調査では60才以上の老人の6.6%が「入りたい」と答え，3.4%が「入ってもよい」と答えている。また，最近甲府市が行なった月7,000円以下の有料ホームに対する入所希望調査によれば，同市の60才以上の老人の7.8%が「入りたい」と答え，11.2%が「入りたいが事情が許さない」と答えている。これら以外の答えの中には「分らない」と答えたものもかなりいることや，これらの調査が老人ホームに対する認識の欠けている今日行なわれたものであることを考え合わせるならば，ここに示された入所希望の数値はかなり高いものとして受止めざるをえない。

需要はある。生活保護の立場から養老院への入所が必要な4万人は別としても，有料・軽費などの一般老人ホームもこれから大いに伸びてゆくであろう。また伸びなければならないであろう。

さて，それにもかかわらず，こうした老人ホームの建設が老人のすまいの解決策として本命なのかということになると，それはまたすこぶる疑わしくなってくる。

5. 老人ホームの性格

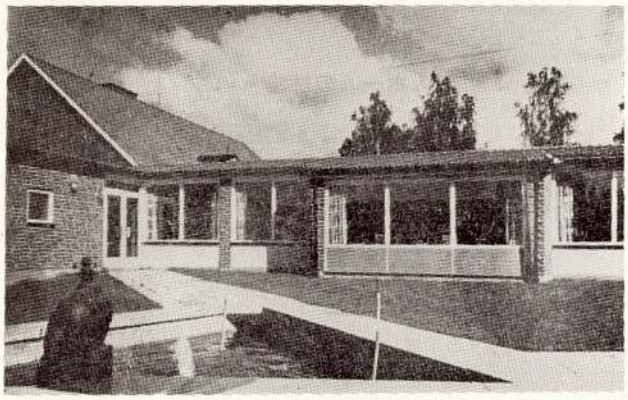
老人ホームといえば，社会保障の進んでいる北欧諸国やイギリスのことがすぐ引合に出される。われわれは新聞などの紹介記事から，かの地では非常に多くの人々が老人ホームで余生を送っているように思いがちである。しかし1957年の統計によれば，65才以上の老人のうち施設に入っている者の割合はスウェーデン・デンマークでさえ5%に達していないという。またイギリスの場合はもっと低く，1～2%程度と見積られている。残りのほとんどの老人達は自分自身または親属の世帯の中にいるのである。これはどういうことか。

「すでになされた多くの研究・調査から，そして又常に老人を対象に仕事をしている人々の一致した意見から，老人は一般に可能な限り自分自身の家庭にとどまりたがるものであると推論するのが妥当である。」と Shenfield は述べている。老人ホームというものが，一定の場所に老人ばかりを集めて共同生活を送らせる施設である以上，たとえできるだけそうならないように計画するとしても，家族や地域社会に対してある程度隔離的な性質を帯びることは避けられない。そしてそれを老人は喜ばないのである。これはまことに当然のことというべきであろう。

Shenfield はさらに，「老人がホームへの入所を希望するようになる三つの要素は，適当な住居がないこと，保護が必要なこと，および孤独の淋しさであるが，大多数の老人達は自分の身のまわりの世話をする能力をもち続けるものであり，若干の援助さえあれば，手近な買物の便のある適当な住宅施設を与えることがよりよい解決である。」「家族にとって老人ホームはいまなお最後のやむをえない手段と考えられ，従って，現在のところ親属のない人たちがこうした道を選ぶことになりがちである。」と述べ，「ホームに対するこうした考え方はあるいは変るかも知れないが，少くとも予見できる将来においては，収容ホームは，相当程度の保護を要する真に虚弱で無力な老人の用にのみ供されるべきだろう。」と結んでいる。

また，藤原英夫氏の語るところによれば，最近老人ホームのもっとも充実しているといわれる北欧諸国において，そうした施設に老人がじっとしていることは老人自身のためによくないのだという反省が高まり，老人に家庭とホームとを自由に往き来させているが，それでもなお“老人を家庭に帰せ”という運動が起きているという。

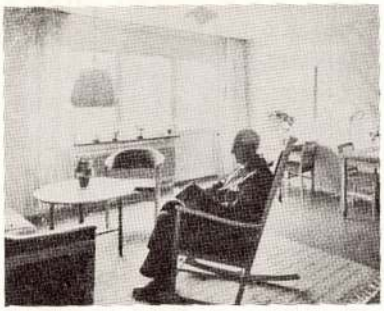
先進諸国のこうした論説や動きは，家族に対する新しいモラルや子供との別居を前提とする新しい老後のすまい方を求めるあまり，性急に老人ホームという方式を観



①



②



③



④

① 平屋・中庭形式による44人のホーム
② 高層アパート形式による144人のホーム
③ リビングルーム
④ 居 室 内 部

スエーデンの老人ホーム

迎しこれに過分の期待をかけようとする考え方がなくもないわが国の現在に対して，いろいろと考えさせるものをもっているとはいえないだろうか。

もちろんわが国の場合には，西欧とは比較にならぬ劣悪な住宅事情を始めとして，異った条件がいろいろとある。それに，すでに述べたように現に身寄りのない孤独な老人や，身寄りはあっても家庭が恵まれずに積極的に離れて生活したい老人もたくさんいる。そうした老人のためによい老人ホームをどしどし建設していくことはまことに必要なことにちがいない。老人ホームに入った方がよいと思われる老人がどの位いるかは明らかにされていないが，かりに65才以上の人口の2％と考えても11万人，3％と考えれば17万人となるわけで，とにかく大いに建設しなければならないことはたしかなことである。

にもかかわらず，老人ホームというものは老人のすまいの解決策として本命になるような種類のものでは本来なく，むしろはっきりと限界をもつものであるらしいことが理解されてくるのである。

6. 家族と住むということ

老人のすまいを老人ホームという形でなくということになると，これは再び家族との関連で考えなければならなくなる。

わが国における家族主義の変革が親子単位の生活から夫婦単位の生活へと人々を押し進めている過程にあって，老人が子供夫婦と同居することは次第に困難になってきていることは多くの人々の指摘するところであり，それは始めにも少しくふれたところである。

ところで表2は厚生省の高令者調査（1960）によってわが国の老人の居住形態を一覧したものである。

	全国	地域別内訳		
		大都市	その他の都市	郡部
単身または老夫婦のみ	12.0%*	18.2%	13.3%	8.9%
子供夫婦と同居	65.7	51.1	63.7	71.7
その他の子と同居	15.9	24.9	16.5	12.8
その他と同居	6.4	5.8	6.5	6.5
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

* このうち夫または妻と死別しているものは男で21%，女で59%。

表2 わが国の老人の居住形態

これをみると全体としてはまだまだ同居が圧倒的に多いことがわかる。そして同時に都市と農山村とではかなりのちがいがあり，大都市になるとある程度別居が進んできていることもわかる。

これは現実であるけれども，一方意識の方はどうか。59年の総理府統計局の世論調査によれば，「子供が結婚したら別居と同居とどちらがよいと思うか」の問いに対する答えは，「同居がよい」59%，「別居がよい」31%，「分らない」10%となっている。さらに「子供が結婚したら実際にあなたはどうするか」という質問に対しては「同居したい」82%，「別居したい」18%であったという。この調査は若い層をも含んだものであるにもかかわらず，意識面でもこれだけの高い同居希望があるのである。もっともこれは全国の平均的な意識であって，小山隆氏らの東京都での別調査によれば，一般論としての意識を「同居がよい」「別居がよい」「事情による」に分けたとき，山村ではそれぞれ72%，18%，9 %であったものが都会地ではそれが19%，59%，21%といちじるしいちがいをみせたという。ともかくもこうなると，老人のすまいの問題はやはり家族との関係をどう設定するかという問題が最大の鍵であり出発点であることがいやでもはっきりするのである。

同居の場合一番問題になるのはいうまでもなく寝室ないし個室の問題である。60年の厚生省による高令者調査によれば，老人だけで使える寝室をもっているのは，配偶者のあるもので78.4%，配偶者のない者では46.5%に過ぎない。別の尼ケ崎調査，八幡調査によればこの値は48.3%，29.5%とさらに低い値を示している。しかもこれらの値は単独または夫婦のみの世帯を含んでの値であるから，同居世帯だけについてみれば，さらに低率となることは間違いないところである。こういう状態での同居生活が何をもたらすかはここでいうまでもないことであろう。

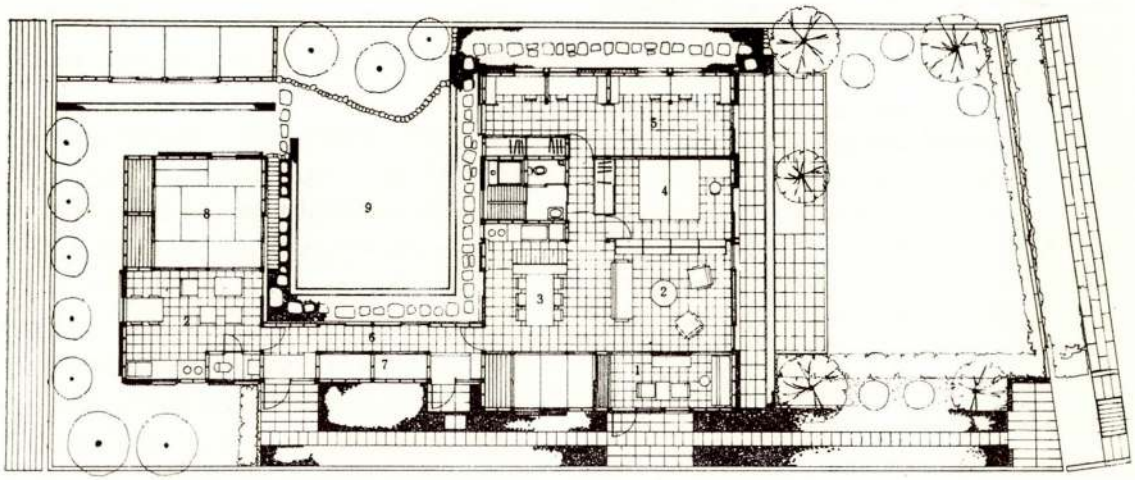
老人が専用室をもつということは，文字通り同居の最小限度の条件であろうし，多少とも余裕があれば同一家屋の中で世帯を分けられるようにするのが，長く平和に暮すためによいのだとはよくいわれるところである。増沢洵氏の設計したU氏邸（図3）はそういう意図がはっきり示された好例といえるだろう。

こうしたあるレベルが確保されるならば，同居の問題は必ずしも否定的ないしは消極的にばかり考えるべきではないであろう。特に図1において示した老人第2期，すなわち配偶者を失ってからの単独老人に対する居住形態としては，健康の問題とも考え合わせて相当のリアリティーをもつ筈のものではなかろうか。

なお，こうした同居の場合，これまでの伝統的な家族制度の下での常識であった息子夫婦との同居という型はゆらぎ，むしろ娘夫婦との同居が次第に伸びると思われるふしがあるとは，東京の下町を調査したすぐれた社会学者 R. P. Dore の指摘であるが，これは単に Dore だけでなく，二，三の社会学者の指摘するところであるようだ。これは伝統的な嫁と姑の問題が解消することを意味し，一見すまいの問題とは無関係にみえながら，実は同居の意味論を通じて老後のすまいの型へとつながってゆく一つの糸口になる可能性をもつ問題だと思う。

それはともかくとして，同居の問題は，老後のすまいの中で若干の位置を示めるであろうことは十分に考えられるところであり，それに見合うすまいのイメージも，相応の位置を与えられるべきものと私は思う。そうとすれば，たとえば公営公団住宅のプランニングなどにおいても，もうそろそろこうした問題に対応する型が真剣に追求され始めてもよい頃ではなかろうか。

ところで，同居別居に関する外国の状況はどうか。イギリスについて，先のわが国の資料と比較できるものが



1. 玄関　2. 居間　3. 食堂　4. 寝室　5. 子供室　6. 渡り廊下　7. 物入　8. 老人寝室

図3　U氏邸：左半分が老人のブロック。寝室・居間・食堂・キチン・洗面・便所・玄関まで一通り揃っている。

あるので紹介しよう。

	全国 *1	ロンドン*2
単身で居住	13 %	25 %
老夫婦のみで居住	29	29
既婚の子供と同居	40	26*3
未婚の子供と同居		12
その他と同居	18	8
計	100 %	100 %

*1 1951年の Census による。
*2 Bethnal Green 地区に対する Townsend の調査（1954～55年）による。
*3 寡婦および男やもめの子供を含む。

表3 イギリスの老人の居住形態

単身または老夫婦のみで居住するものが多く，既婚の子供との同居は少い点で，わが国とはいちじるしいちがいがみられる。わが国の場合，将来において老人の居住形態がこうした数値に近ずくかどうかは疑問であるけれども，都市において次第に別居が進んでいると考えられる今日，こうした値はいろいろの角度から検討してみる必要があるであろう。

ところでここにきわめて重要な問題がある。それは，別居というとどうもそれがすぐに家族間の別離を意味しひいては老人の孤独につながる問題としてうけとられがちなことである。果して本来そういう形で問題は直結するのであろうか。

7. 近くに住むということ

「老人住宅の計画における主要問題の一つは，たとえ別居が望まれる場合でも家族は互に近くにいる必要があることを考慮に入れるべきことである。家族というものは，住宅の入手が可能であれば地域で寄りがちなものである。Sheldon 博士はウルバハンプトンで，別個の住宅に一人でいる老人が，実際には緊密な家族の保護と援助の網の目の中で生活しているのを認めた。近くに住むということを“できたての食事がさめないで運べる距離”と定義して，Sheldon は彼の標本の30%が近くに住む親属をもっていることを認めた。事例のうち4%は親属が現に隣りに住み，6%は3軒以内のところに住み，4%は同一町内に，そして7%が歩いて5分以内のところに住んでいた。そして，このうちの21%もの例においては老人とその親属とが世帯を実際上溶けあわせていて，そのため別々の家に住んではいても，それらは一個の世帯として機能していた。」

これは先の Shenfield の著書の一部であるが，家族という有機体の中での老人の住まいがまことに見事にえがかれていると思う。

同じくイギリスにおいて，Townsend がロンドンの Bethnal Green 地区で200余人の老人について行なったすぐれた調査は，この問題についてもさらによいデータを提供している。表4は子供をもつ老人について子供とどのくらい近くに住んでいるかを示したものであり，表5はそれらの子供との往き来が実際どのくらいあるかを示したものである。

	すべての子供について	一番近くに住んでいる子供について	
		未婚，既婚の子供の計	既婚の子供だけ
同居	19%	52%	24%
歩いて5分以内のところ	31	25	38
1マイル以内のところ		8	12
東ロンドン地区内	29	8	16
ロンドン内	10	3	6
英国内または外国	11	4	5
	100%	100%	100%

表4 子供の住んでいるところとの距離

	老人が子供に会う頻度	子供が老人に会う頻度
毎日	78%	36%
毎日ではないが週1回以上	19	38
毎週ではないが月1回以上	4	17
毎月ではないが年1回以上		7
あわない		3
	100%	100%

表5 子供との往き来の頻度

これをみると親子は実によく近くに住み，そして実によく往き来していることがわかるのである。往き来の回数が老人側から数えた場合の方がずっと多くなっているのは，老人が何人かの子供をもつためであろうが，ともかくこれだけの往き来があれば，もはや別居を家族との別離やそれにともなう孤独と直結させて考える必要もなくなってこようというものである。ちなみに Townsend の同じ調査によれば，同地区の老人達の，既婚の子供との同居に対する意見は，賛成10%，反対86%，わからない4%となっている。

こうして別居を支持し，そして実際に別居をしながら子供達のすぐ近くに住むことによって，家族としての密接なつながりを保つ生活を展開しているわけである。

Sheldon のいう“できたての食事がさめないで運べる距離”は，ふつう“スープのさめない距離”という言葉で欧州ではいいならわされているらしいが，こうした関係は，実はわが国でも古来のいわゆる隠居制度の中に法制上の裏づけをもってはっきり示されていたという。つまり老人がある年令に達したときに，財産の相応部分を子供夫婦に譲って自分達は主屋の隣りの，別棟・別かまどによる隠居所に移るというわけであり，いまなお徳島県の祖谷山村や滋賀県甲賀地方に残っているという。

スープのさめない距離に別れて住むということは，生

活のちえともいうべきまことに含蓄の深い言葉であるにちがいなく，恐らくは老人のすまいを考えるときのもっとも重要なポイントになるもののように思われる。

ところで仮に近くに別れて住むのが理想だと認めるとしても，その実現が容易かということになるとこれはまた別問題である。そこにはいろいろの困難がある。

近頃古くからの住宅地には増築が多い。それも100坪，200坪，300坪の敷地の中，庭先に別棟で子供達若夫婦の新居が建つのである。時として新しい離れの方に親が入って古い方を若夫婦が使うこともあるだろう。こうした敷地内の離れの増築は，都市における地価の異常な昂騰による敷地難がもたらした，いわば仕方なしの解決というのが直接の動機であるにちがいない。しかしこれは結果として，まさにスープのさめない距離を実現したものであり，まことに結構なことと思われるのである。

しかしながら，たとえ持家階層であっても，50坪，30坪という狭小敷地ではその余地はとてもなく，まして借家階層・給与住宅階層ではこんなことは考えもおよばない。それにもう一つの問題がある。産業の進展とそれに対応する住宅政策がもたらす人口の移動である。庭先に別棟を建てた人々にしたところで，息子達はいつ転勤していくかもわからない。

「最近20年間の住宅の発展は，若年者とその家族を都市の外辺へと移動させ，老人をその家族からある程度離れたところに残しておくような傾向にあった。ニュータウンの発展もまた家族を分断する傾向がある。」とは先の Shenfield の言である。わが国の場合もまさに然りではないか。

8. 団地の中に老人用住宅を

近年大都市の郊外に続々と計画されているいわゆる団地は，次第に計画の規模を大型化してきている。現下最大のおよそ2万人の香里団地ぐらいまではなんとか“団地”という呼び名で間に合っても，開発中の千里丘陵の住宅地・人口15万人や，計画中の高蔵寺の住宅地開発・人口8～10万人となると，もとよりニュータウンである。そしてその団地やニュータウンが家族を分断させる働きをするというのだから問題は大きい。まして賃貸の不燃アパートを中核とする団地造りは，住宅地開発のチャンピオンでもあり，人々の中にすまいに対する新しい概念をはぐくみつつあることをも考えればなおさらである。

西山卯三氏は住宅の将来像についての論文の中で，職業・職場の移動のはげしい都市生活者に対する住宅供給の体制は，人々のすまいを“住みつき型”から“住みかえ型”に切り換えてゆくことによりはじめて合理的なものとなしうるという意味のことを述べている。これはまことに核心をついた意見であると思われるが，もしもこのように考えるとするなら，“住みかえ型”の実践の担い手としての団地が，これまで述べてきたような老人の問題をどのように受けとめるかは，きわめて重要な課題だといえよう。

“住みかえ型”の団地の中で，近くに別れて住むことを実現する方法はただ一つしかない。老人向き住宅をある割合で団地の中に建設し，家族との対応で入居させることである。

老人用住宅を或割合建設するということは，単に一家族の縦の関係を円滑にしうる道を開くだけでなく，結果として団地コミュニティー全体としての年令分布をノーマルなものに近ずける点でも高く評価される。

図4は，住宅公団の全居住者の年令構成であるが，こういう偏頗な構成では，学校を始めとするもろもろのコミュニティー施設の計画もうまくゆかないことなどいくつかの欠陥がすでに指摘されている。階層の均質性とも合わせ考えるとき，こうした構成がさらにニュータウンほどの規模にもおよぶとすれば，それはもはや単に施設計画上の問題に止まらず，より大きな社会問題へとつながってゆくにちがいない。団地もニュータウンももとより一般社会の部分であってみるならば，狭小で庭もなくとても同居の余地などないことも手伝ってさっぱり老人達のいないこの新しい世界をば，核家族誕生の場として，

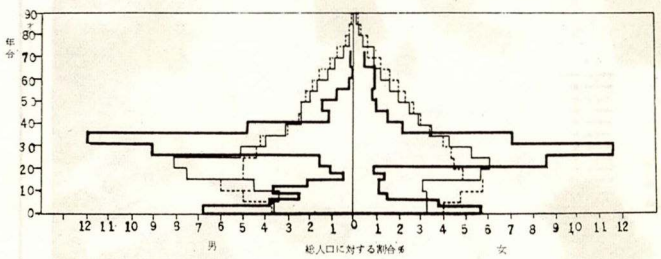


図4　公団団地全入居者の人口構成

太　線　：　公団入居者（1959）
細　線　：　東京都区部（1960）
点　線　：　全　　国（1960）

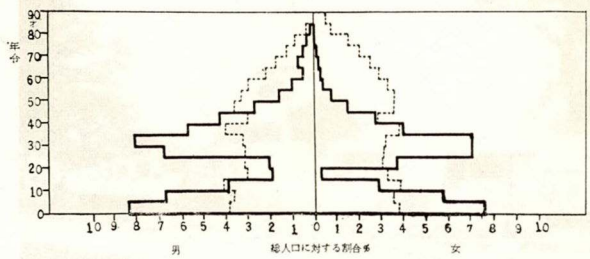
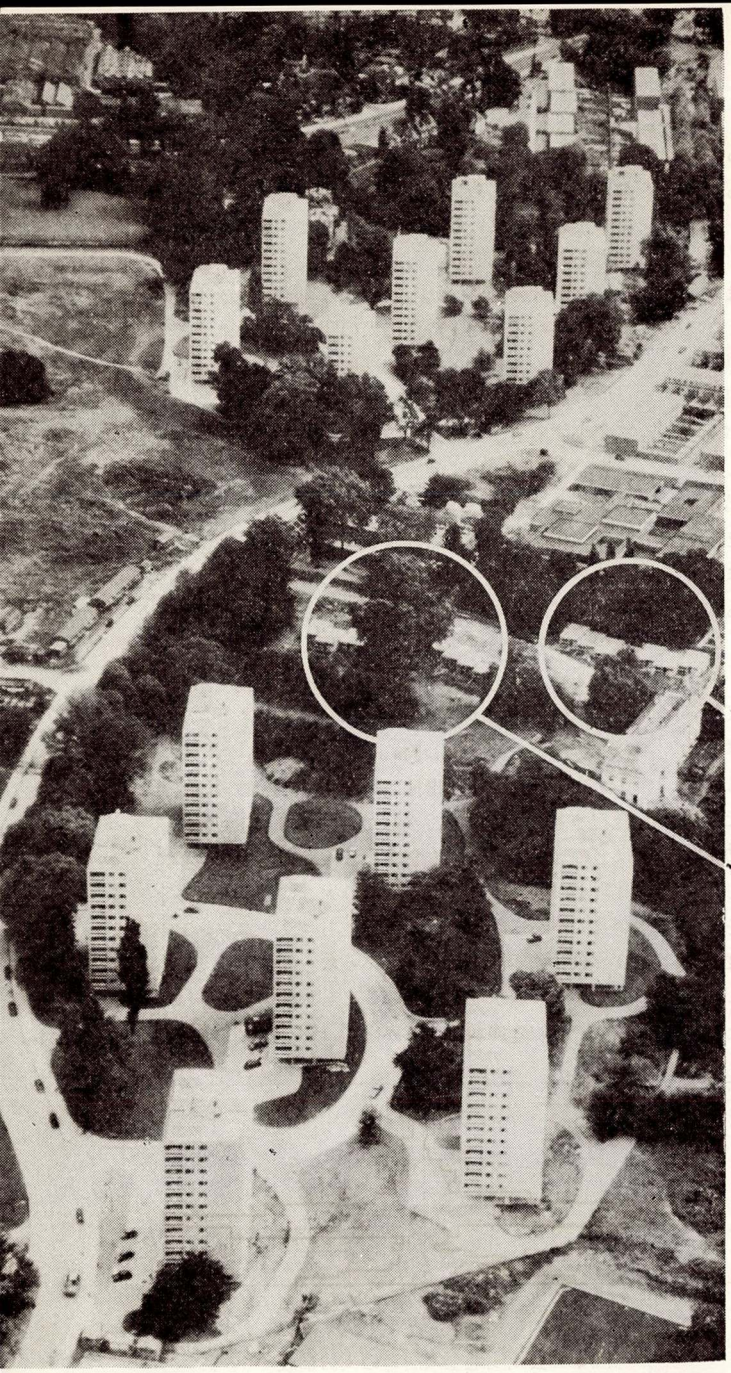
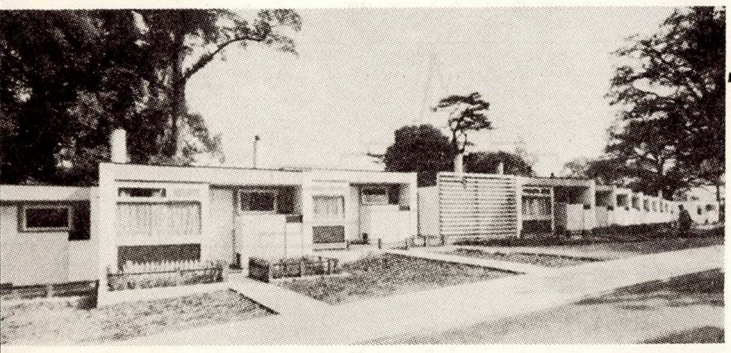


図5　ニュータウン・クローリーの人口構成

太　線　：　クローリー
点　線　：　全　英　国（1958）



ロンドン・ローハンプトン団地における老人用住宅（○印）



同上　老人用住宅の近影

また若夫婦と幼児達の楽園として，肯定的に眺めてばかりはいられない筈である。

もっとも，団地建設の歴史に於て二歩も三歩も先を歩んでいる欧州でさえ，この問題はあまりうまくいっていないらしい。大小・高低いろいろの住宅型をまぜた混合開発（mixed development）を進めることによって調和のとれたコミュニティー（balanced community）をつくるべきことはすでにかなり前から主張されているが，比較的最近の論文においても，まだ団地計画には老人問題が無視されがちなこと，コミュニティーの full members として老人を扱わねばならぬことが指摘されている。図5はロンドン郊外のニュータウン・クローリー（Crawley）の人口構成を示したものであるが，日本の公団住宅ほどではないにしてもそれとよく似た構成になっているのは興味深いところである。しかしニュータウン・フック（Hook）の計画レポートは，こうした若夫婦と幼児の集中をある程度やむをえぬ傾向として認めながらも，老人はもっと多くニュータウンに招べる筈だとして，クローリーなどとくらべてはるかに高い値（60才以上で約 7.5%）を老人の比率に与えて設計している点は注目に値することである。かの地では老人住宅の比率は最近20%を標準にしているということも聞いている。

老人用住宅を団地の中にどのようにつくるかもつぎには問題となろう。低層にすべきは常識としても，団地内のあるブロックにまとめてつくるか，それとも他の建物の間に分散的につくっていくか，あるいはまた中高層住宅の一階をあてるかなど，いろいろの可能性が考えられるであろう。

写真はローハンプトン（Roehampton）団地における見事な実例と，スイスのバーゼルにおける計画模型を示したものである。

ただ，イギリスの場合，老人住宅に入っている老人達の息子が実際に同じ団地にいるのかというと，必ずしもそうではない由である。

9. コミュニティーの中で

子供達との関係のほかに，もっと広く地域社会の人々との関係はどうか。

古くから住みついてきた老人の場合には，昔からの隣近所，顔なじみ，友人への愛着が，そしてまた昔からの家屋や道や風景や，広くいって自分が育ってきた土地に対する愛着がつよいといわれる。（だから，“住みか

え型”の団地に老人向住宅をといっても，一方では，住みなれた土地を離れることの困難さもあることになる。）

こういう感情は外国でも同様で，Townsend も先のロンドン地区の調査の中で，老人達の地域への帰属感が強いことを示している。ただその場合，実際の近所づき合い・訪問のしあいは一般にそれほど多いものではないが，娘が近くにいない老人において，その度合はより高いという事実が報告されていることは注意されてよい。

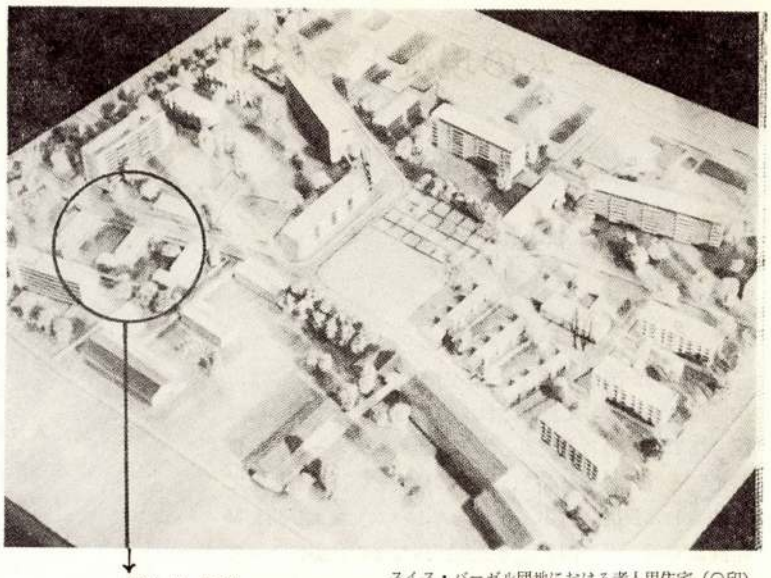
つまり，地域社会は老人にとって，一般に親属との生活の背景としての意味を越えない場合が多いとしても，身近かな親属を欠く場合には，よりどころとしての比重が増してくると考えられることである。そこで，家庭老人の場合もそうであるが，特に老人ホームの建設の場合などは，もっと地域社会との関連が強く打出されなければならないといえる。

最近東京と北海道で，地域の婦人会・未亡人会が，住みなれた土地に自分達の力で自分達のための老人ホームをつくるという例があったというが，もしもこういうやり方が育てば，これまでの一方的に建設された遠くの施設へ入所するのとはちがって，地域社会との関連においてきわめて積極的な意味をもつものになるにちがいない。

アメリカにおいても，大規模で施設の完備した老人ホームという考え方とならんで，たとえ小規模のためにサービスが低下しようとも，ホームは各々のコミュニティーの中に設けられるべきだとする主張がある。そしてその場合には，ホームの規模に由来する健康管理・レクリエーション施設の不備はコミュニティーに負うべきものとしている。

それらの施設をコミュニティーに負うということは結果としてコミュニティーとの融合を促進する力にもなるであろうし，また逆にホームが授産所やクラブなどを含む形で計画されるならば，それをコミュニティーに対してオープンにすることも同様の意味をもつであろう。筆者の見たある近郊農村のホームでは，ホームの老人は農家の手伝い，店番，留守番などの形で周囲の民家とかなりの往来をもっていた。もっともこれは無料ホームの場合であり，特殊な面もあるけれども，コミュニティーとの融合という意味では示唆に富むものであろう。

要はできるだけ地域社会との関連において計画のイメージを考えるべきではないかということである。



スイス・バーゼル団地における老人用住宅（○印）

10. おわりに

以上老人のすまいに対する一通りの展望を試みたが，始めにも記したようにこの問題は，本来老人をめぐる他の諸問題と密接に入りくんだものである。すまいという立場を逸脱せずに論じようとすること自身困難なことでもあったし，またそう努力することによってあるいは問題を単純化し過ぎてしまったかもしれない。レクリエーション関係の施設や保健・医療施設との関係も残された問題である。厚生省がようやく建設しようという看護ホームなども，医療施設との境界に位置するものとして，いろいろの問題を含むであろう。それらは追ってまとめるとして，ともかくもここに一応の方向づけを試みた次第である。

なお，家族の問題などに関して大阪市大社会学教室の上子武次氏に二，三のご教示をいただいたことを記し，謝意を表したい。（62年10月）

〔主要参考文献〕

世界人口年鑑，1961
厚生省統計調査部：高令者調査報告，1960
尼崎市社会保障審議会：尼崎市における老人の生活と意識，1958
八幡市福祉事務所・八幡市社会福祉協議会：八幡市に居住する60才以上の人の生活の実態，1958
厚生統計協会：厚生の指標，1961
小山隆編：現代家族の研究，1960
生活科学調査会編：老人のくらし，1958
生活科学調査会編：老後問題の研究，1961
西山卯三：住宅の将来像，新建築 1961.01
住宅公団：公団アパート居住者の世帯構造の変化
B. E. Shenfield 著・清水金二郎訳：老令者のための社会保障，1959
R. P. Dore著・青井和夫・塚本哲人訳：都市の日本人，1962
P. C. Glick : American Families, 1957
Peter Townsend : The Family Life of Old People, 1957
Mathiasen and Noakes : Planning Home for the Aged, 1959
L. C. C : New Town Development-The Hook Study, RIBA Journal, 1962, 02

老人ホームの現況とその問題点

大阪大学講師・建築計画

荒木兵一郎

まえがき

現在，わが国で「老人ホーム」といわれるものには，生活保護法によって設置され，主として貧乏で暮らしに困っている老令者を対象とする「無料老人ホーム」俗に養老院と呼ばれるものと，個々の施設との契約によって利用される民間経営の「有料老人ホーム」および昭和36年度より新らたに国と地方公共団体などの負担によって低所得層の身寄りのない老令者を収容保護しようとして発足した「軽費有料老人ホーム」の三種がある。しかしここでは一般にこれらの区別にはこだわることなく，現況の老人ホームの実態を通じて，今後のホーム設計の問題点を拾ってゆこうと思う。

1．ホームは老人の集合生活の場である

老人ホームに関する最大の問題は，ホームが無縁な老人達の集合生活の場であるという点であろう。すなわちホームという形態は必然的に集合生活の場を提供することになるのであるが，はたして老人達は集合生活をするのに適しているのだろうかという根本的な問題から，さらにはまた，この節以下で述べられる問題のほとんども，ホームが集合生活なるが故に問題となってくるものばかりである。そこでまず老人の特性や一般的傾向からみて，集合生活が適しているか否かを検討してみよう。

近年，老令人口はますます増加し，戦後の家族制度の崩壊，あるいは住宅の狭小化傾向ともあいまって，縁故者はあっても実際上は孤独な老人や「若い人達の生活には割り込みたくない」とか「彼等の厄介になるのはごめんだ」と考える自立的な老人の数はふえてきている。しかし，このような自立的な老人達でさえ，さて切実に家族と離れて自立しなくてはならなくなった場合，彼等は本当に老人ホームへの入居を求めてやってくるだろうか，昭和35年の厚生省高令者調査報告にもとずいて，その点をみると第1表の如くであって，これは全国的に65～75才の老人を抽出して有料ホームに入りたいか，入りたくないかを調査したものであるが，一般にホームが充分に認識されていないこと，子供等との同居者が多く現在は一応の生活をしていること，また入りたくとも入居料が払らえそうもないことなどから，ホームに入りたくないと答えたものが大半を占め，入りたいと思う者は男で20%，女で12%に過ぎない。さらにここで問題となるのは老人達の約40%が「老人だけで暮らすのはきらいだ」という理由を挙げていることに注目しなくてはならない。すなわち老人達の集合では，ヨチヨチと手摺につかまりながら歩いたり，一日中なにもせずじっと坐りばなしの老人達を身近にみたり，あるいは死亡者があれば，つぎは自分の番じゃないかといった焦燥感をもったり，全体にみじめさや哀われさばかりがひしひしと感じられやすく，若者や子供達のような希望と，あふれるような生命力に欠けることはいたし方がない。たとえ同年輩の気安さや考え方の一致があってもやはり若さの魅力には勝てないというものだろう。さらにまた，老人の欠点ばかりを挙げて恐縮だが，他人の履き物をはいたからとか，その他つまらぬことで半日も対立したりする気むずかしくて融通性の乏しい，いやがらせの年令の老人達はまったく集合生活には向いていないといえよう。

ことに集合保護施設ともなれば，この上にさらに世間の厄介物として保護されるという劣等感がかぶさり「養老院へゆくのはいやだ，入れられる位なら死んだ方がましだ」と抵抗しながら保護費をもらって細々と孤独な生活を送っている老人を生む原因ともなっている。この集合保護するという立場はさらに集合的に保護されている

第1表　有料老人ホームに入りたいと思うか

		入りたい	場合によっては入ってもよい	入りたくない	実数
男		20%	24%	56%	429人
女		12	26	62	513
有料老人ホームを	知っている	18	25	57	492
	知らない	13	24	63	450
入居料を	出せる，出してもらえる	19	23	58	408
	出せない，出してもらえぬ	15	29	56	284
	不明	11	14	75	250
子供と	同居	15	24	61	731
	非同居	19	28	53	211
老人だけで暮すのは	きらい	10	18	72	369
	きらいでない	22	31	47	415
	不明	21	19	60	158

という気安さから集合生活に埋没し，独立性を失なわしめ，保護者に頼りきった生活を送り勝ちにするという欠点もある。

このような欠点をもっている養老施設に，現在なお収容する必要があったり，あるいは入居を希望する老人達は少なく見積って4～5万人いると伝えられ，その数は現況の施設収容人数とほぼ同数の多さである。では果して本当に彼等は施設に収容する必要があるのだろうか，現状の養老院の収容者をみると70才未満の老人が約 1/3 を占め，75才未満ともなると過半数の多きになる。最近は70才を過ぎてもなお健康を保持しえられる老人がふえてきているのであるから，施設老人の半分位は経済的な意味においてならともかく，身体的には充分独立して日常生活のできる人達ではないだろうか，ことに女性の場合（日本の養老院は2：3の割合で女が多い）は，買物に出て調理したり，掃除することなどの家事は自から完全に処理できるのではないかとも思われる。施設でないと得難い看護婦による不断の看護とか，老人向きの特殊な設備を要する慢性病に悩んでいる老人達は決してそう多くはないと考えられる。（**第2表**）

その他に施設老人の特殊性を調べてみても，一般老人と特に異なる点は，ⅰ）配偶者の有る者がほとんどおらず，しかも複雑な経歴をもつ離婚経験者が多い。（**第3表**）このことはあるいは家庭生活への順応性に欠けるといえるかも知れない。ⅱ）従ってまた必然的に子供をもっていない。（無子は一般老人12%に対し施設老人は78%）そして，ⅲ）学歴がやや劣り，ⅳ）零細職業に従事していたものも多い（データ省略）などで，これらは特に施設収容を要する因子とはならないようだ。

にもかかわらず，現実に施設が満員であって現存の施設量が問題となるのは，親類・縁者や，他人との現在の同居生活を好まぬとか，落着ける住居が存在しないかあるいはそれがあっても，老後の身には不適当だとか，または，孤独生活の不便や不安に悩んでいるといった現在とは別の生活形式を必要とはしても，必らずしも施設保護を必要とはしない消極的な理由で入居しているのであり，老人達の多くは老人向きの最小限度の住居があり，緊急の際のみ看護や家事の援助があれば（もっとも経済的に自立しうるだけの社会保障が必要であるが）集団的な生活に甘んじるよりも，自から自己の生活を営んでゆける筈なのであって，現にこの施設に入っているのはまったく現にその施設があって，それのみがあるからだともいえるのである。最近は漸次，家庭奉仕員制度ができたり，軽費老人ホームができたけれども，まだまだ充分なものではなく，なんといっても社会保障金の少な過ぎる今日ではいたし方がないので，現状では施設不足量をいくらかでも解消するよう現況制度に従った施設拡充がなされようが，将来はさきほどから述べてきたように，集合生活施設としては慢性病老人，もしくは身体不自由老人のみを収容する施設，すなわち，アメリカなどでいう Nursing Home （看護ホーム）への方向に転換されるのではないだろうか。今後われわれが老人ホームを設計するときには先ずこの転換を予期して計画されなくてはならないといえよう。

2．ホームは「ナラヤマ」ではない

すでにみたように，老人達の集合生活は本来としては好ましくないものであるが，現実の保護施設を計画する場合にはやはりホームの形態が用いられることになるだろうから，そこでの生活ができるだけ有意義となるような方策が考えられねばならない。この点でまず問題となるのは，ホームにいるすべての入居者達が共同社会生活に積極的に参加でき，個人的な成長や発展ができるよう勇気付けたり，あるいは援助されることが必要になってくるのではないかと考えられる。そして，このような目的を達成するのにはその敷地の選定が一番重要な事柄となってき，ⅰ）近代生活の公共機関（商店，郵便局，停留所，図書館，病院，礼拝堂，娯楽施設など）に便利に通じる場所。ⅱ）親類や友人達の居住地に密接につながるところが望ましい地域として推奨される。しかし老人達の住まいの場としては，この外に，ⅲ）健康によく，見晴らしもよくて，できれば近くに公園のあること。また，ⅳ）都会地のあわただしさや雑踏は老人には向かない。しかし，ⅴ）隔離の必要はなく，かえってそれを好まない。ただし工場の騒音や煤煙からは隔離する必要がある。さらに，ⅵ）できるだけ地価の安いことなどである。だが，これらの条件を完全に満足する敷地はほとんどない。たとえば，都会地の場合には各人の家庭に近く友人も多い。さらに魅力ある施設にも富んでいるが，交通がはげし過ぎて買物にもゆけず，昼寝をするに

第**2**表　老人の健康状態

	総数	病臥中	病弱	普通
大阪府下の施設老人（昭．31）	1,515人	12.8%	23.4%	63.8%
一般老人（昭．35 厚生省調査）	11,980	4.1	14.3	81.6

第**3**表　老人の配偶関係

		総数	未婚	有配	死別	離別	不明
大阪府下の施設老人（昭．31）	男	678人	7.7%	3.4%	53.8%	32.8%	2.3%
	女	998	4.7	1.7	68.5	22.7	2.2
一般老人（昭．30 国勢調査）	男	千人 1,728	1.5	65.3	32.2	1.0	—
	女	2,381	1.3	25.4	71.9	1.3	—



お里・沢一で有名な壷坂寺境内にある盲人養老院慈母園全景。爪弾く琴の音のみが谷間をわたり，近代的な白亜の建物でありながら，そこはかとなく哀愁を感じさせる。

も雑音が気になる。それに埃りっぽく，地価も高い。逆にまた都市施設から相当離れた田舎では環境条件はよく地価も安く，無償で提供される場合だってあるだろう。だが遠隔地ゆえに訪問客はなく，また街へ出かけるにも交通に不便である。このような場合には日常生活に刺激がなく怠惰となり，いわゆる「ナラヤマ」となってしまい老人達自身も好まない。そこで普通はこれらの妥協案としてこの両者の中間点である都市の郊外地が最良のところとして選らばれることになる。なおこの場合老人達が徒歩で市街地まで買物などにゆくのに要する時間として10分程度なら約1割の者が出かけるが，20分以上にもなるとほとんど出かけることはなく，その数は親類などへの外泊者を含めても1%足らずにぐっと減ってしまう。もっとも外泊者はどの施設においても非常に少なく1ヵ月のうち定員の5%程度が泊りがけで出かけるのではないかとみられる。いずれにしても，ホームが「ナラヤマ」とならないように心がけたい。

3. A home as a home ということ

前節では Community とのつながりによって老人達の集合生活がいくらかでも明るくなるように考えてきたがつぎに，ホーム内ではどうあるのがよかろうかと考えてみよう。

一般に老人ホームは長期療養施設であるともみられているけれども，その収容期間は長く（収容されてから平均約5年），しかも収容老人の2/3がそこで生涯を果てるということから，療養の場というよりはむしろ生活の場の方に重点が置かれてくる。そして，この生活の場としてはやはり家庭におけるような生活がもっとも好ましいものであろうけれども，集合生活ではどんなにうまくやってみても家庭生活のような家族全員の親密さをえることはできない。しかし一歩でもそれに近ずけるようにしたい。すなわち，日課にしばられない自由が与えられ，老人の各々が個人として認められ，尊敬され，そして一つ屋根のもとの親密な家族となる安心感や所属感がえられるようにしたい。現状の施設のように長い廊下の片側に居室をならべ，多人数をひとところに収容するという形式では到底家庭的雰囲気は生まれない。最近のアメリカなどでは，8～10ベッドを一つの廊下またはホールで結びつけ，それらの単位を組合せて，全体としても30ベッド以下ぐらいのホームとする傾向がある。また特に英国では，邸宅を老人向きに改装した家庭的気分のあるホームが多いとのことで，これらは非常に参考になる。

ところでわが国の現状をみると，まず**第4表**のように

第4表　施設の全国的変遷

	施設数	収容定員	一施設当り平均収容定員
昭和19年	127	3,158人	24.8人
25	135	6,021	44.6
30	479	27,040	56.4
35	607	37,700	62.1

第5表　理想的収容人数　（施設数）

	～20人	20～50	50	50～100	100	100～	平均
無料ホーム(15)	0	2	2	2	8	1	85.6人
有料ホーム(13)	3	4	3	2	0	1	49.5人

戦後施設数は急激に増加したが，それにも増して収容定員数の増加率が多いため，結局一施設当りの平均収容定員数は漸次増加し，現在では戦前の約2.5倍の62人となり，なおかつ増加の傾向がある。これは切実な施設不足量を解決するのに安易に現存のものを増築してゆく方針がとられているからではないかと思われるが，施設管理者へのアンケート[1]で施設の理想的収容人数を聞くと，**第5表**のごとく無料ホームでは大体100人，有料ホームでは約50人程度が望ましいとし，一般に現状よりも多くを望んでいる。これは無料ホームが一般に公立であり収容定員数によって職員の定員数が押えられ，職員数が多いほど作業内容が組織化されやすいこと。また有料ホームではそれ以下の収容人数では経営が成り立ちにくいといった管理上の問題が大きく取り上げられている。

そこでつぎにその管理上の問題の一端として寮母1人が受け持つ老人数やその世話の内容をみると**第6，7表**のようで，寮母1人が面倒をみる老人数では平均すると無料ホームでは約33人，有料では18人ぐらいであって，その間には15人ほどの差があるけれども，それ以上に個々の施設間での差が多くなっている。そこで，特別な例を拾ってみると，最低のところは定員15人の有料ホーム

第6表　寮母1人の受持つ収容人数　（施設数）

	～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～	平均
無料ホーム(15)	2	0	2	4	3	2	2	33.1人
有料ホーム(13)	3	4	1	1	3	1	0	18.5人

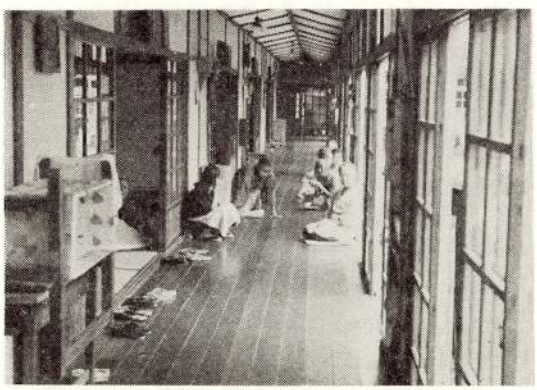
第7表　寮母のみる面倒　（例数）

	寝具の処理	室の掃除	廊下の掃除	給食	洗濯	入浴の面倒	排便の援助	その他＊
無料ホーム(15)	2	1	2	12	13	13	9	4
有料ホーム(13)	2	5	11	12	13	6	0	4

＊ 衣類の補修，生活指導，代筆，買物，発病時の世話，散髪など。

で寮母が4人，うち1人は管理者の妻で収容室は4.5帖の個室ばかり，寮母は炊事・給食・掃除・洗濯・話し相手などの一般家庭の女中と同じ種類の仕事をしていた。また最高のところは定員264人の無料ホームで寮母2人，収容室は10帖・20帖の大部屋制であって各室毎に責任者・当番があり，寮母の仕事は主として老人達の生活指導，すなわち面接し，ぐちやけんかなどの問題解決をするのであるが，その他に掃除・洗濯・給食などの指示をしていた。またここでは寮母以外に職員が25人もおり，仕事が分業化するとともに組織的となっていた。従ってこれでも施設の大きさによる管理上の問題が非常に異なることが判る。なお寮母1人が面倒をみる老人数は，その世話の内容からみて30人が限度ではないだろうか，病院の場合の看護単位とも考え合せてまず妥当なものでないかと思われる。

ここでさきほどから述べてきたことを振り返ってみて一応施設のブロック・プランを考えてみると，30人を限度とした単位に寮母の詰所（夜間の緊急時にも対処できるように宿直設備を要す）を設け，その範囲内でさらに10人以下の小グループができるような建築的デザイン（ディルームの設置や廊下などによる区分）をするのが好ましいものではないだろうか。それは分散式や中庭式あるいはコンパクトな多層式にかかわらず計画しうるものである。なおわれわれの調査した範囲内でのプラン形



縁側で。ラジオを聞きながら陽なたぼっこ。

第8表　プラン形式別施設数　（例数）

	片廊下式	中廊下式	分散式	中庭式	アパート式	独立家屋式
無料ホーム(15)	11	5	4	4	0	0
有料ホーム(15)	10	4	5	1	1	3

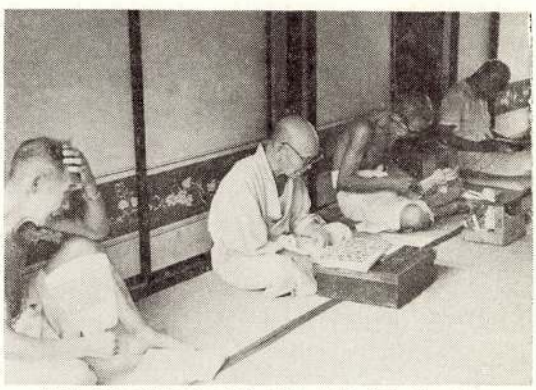
（一施設で数個の形式を含むものはそれぞれを一例として数えた。）

式は第8表の如くであって，片廊下式が一番多いが，この場合廊下を南北のどちらにとるかによって廊下の使われ方が異っており，南側に広縁として設け，陽なたぼっこや老人同志の接触の場としているのが8例あって割合に多く，老人のように各室のプライバシーをそれほど要求しない場合には良好な方法であると思われる。またアパート式（各室毎に便所と炊事場がある）や独立家屋式が有料ホームにのみみられるのは，それだけ経済的に豊かなこと，施設は単に収容所ではなく家庭的でなくてはならないという思想の表われであろうと思われるが，しかしこれらは孤立的であるとともに各戸の管理は入居者自身の責任にまたねばならないので，主として夫婦者がその対象となっている。いずれにしてもホームは Small and Homely ということがモットーとされる。

4．居室は集合生活の最後の安住地である

老人達はプライバシーをあまり必要としないけれどもやはり人間である以上内密性の要求はある。そしてそれは集合生活では居室が個室であることによって充足されるものである。しかし現状では有料ホームの半数にそれが認められる程度であり，無料ホームのほとんどは多人室であって，安住地としての他の条件もあまり満足されてはいない。そこでつぎに施設における居室についての問題を検討してみよう。

まず居室の大きさと居室人数の関係を著者の調査[1]からみると第9表のようで，大略すれば無料ホームでは6帖に3人か8帖に4～5人収容し，有料では4.5帖に1人収容するのが一般的であるが，ここで問題となる



居室。各自の押入の前で読書・内職・就寝・食事（浄るり本の下は箱膳）をする領域を確保し，定着する傾向がみられる。

のは無料の方に3帖に2人とか4.5帖に3人を収容するといった1人当り2帖に満たない例が4割近くもあり，1人当りの平均帖数をみても1.85帖と相当に窮屈な部屋に押し込められている。この点を昭和30年5月18日付の厚生事務官通知「養老施設の設備および運営について」および近々発令されようとしている「保護施設最低基準」にみるとともに8帖に4人収容を最低限に考えて

第9表　居室の大きさと居室人数との関係　（室数）

	2帖	3帖		4帖		4.5帖		6帖		8帖		10帖		10帖～		計	
	無料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料
1人室	2	2	13				124		17		2					4	156
2		26		2		41	27		41		4		1			69	73
3						31		64	28		11					95	39
4								15		63	21	11				89	21
5										60		10	6			70	6
6												2		1		1	0
7～														17	1	19	1
計	2	28	13	2		72	151	79	86	123	38	23	7	18	1	347	296

	1室当り平均居室人数	1人当り平均帖数	1室当り平均帖数
無　料	3.7人	1.85帖	6.95帖
有　料	1.8人	3.01帖	5.48帖

おり，現状では，この規定にさえ満たない施設が半数以上の多きにのぼることになるが，さらに市部一般住宅における1人当り帖数を厚生白書でみると，戦前3.8帖，終戦直後3.2帖，昭和33年3.6帖であり，また2.5帖未満がいわゆる過密居住であることなどからみて，この「保護施設最低基準」においてさえ，やや狭小に押え過ぎている感がある。

つぎに居室へ夫婦以外の男女をどのように収容しているかをみると，30例中3例のみ同室収容がみられ，その理由は「男女が協力してうまくゆく」，「同性だけでは争いごとが多い」，「特異老人（性欲的でない）は異性数名の中に収容すると異状さが融和される」などと，老人の特性を利用しながら問題の解決を計っている。

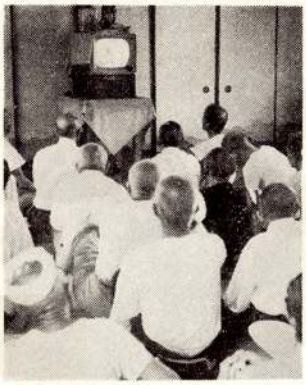
また夫婦の場合をみると，夫婦人数は無料では全収容老人数の約5％，有料でも約15％とあまり多くなく，その収容法は一般には専用個室を与えているが，有料では夫婦用に独立家屋やアパートが最初から設計されている例もあるのに対して無料では1人者と区別しなかったり夫婦に病人や身体不自由者の面倒をみさせている例がある。これらの例ではすべて2人用の小部屋がないか，不足していたがあえてその理由を聞くと「夫婦者以外との融和がむずかしく，集団生活の秩序を乱すから」，「施設内での結婚が多いので，他人を刺激しないため」などどちらかといえば夫婦者をあまり歓迎しない向きがみられる。

ところでつぎに老人達がこういった居室をどのように使っているかを無料ホームの自由時間中の行動観察[2]から簡単にみると，老人達の約7割は自分の居室か，またはそれに直結する縁側に滞在しており，寮外に出たり寮内の他室などに滞在することは少ない。すなわち自分の部屋に閉じ籠り，あまり遠くに離れようとはしない特性がある。そして男女を比較すればやはり女の方が1割程度居室に滞在する率が多い。

また居室でなにをしているかとその行為内容をみるとなにもせずじっと坐っていたり，寝ていたりする無為状態の者が一番多く，3～4割程度おり，さらに話ししながらタバコを喫ったり，お茶を飲んだりしている者も含めれば，なおその数は増すが，これは体力の衰ろえによるとして見逃がしえない重要な問題である。すなわち，このようになにもせず無気力に過すことは，その日その日を生きる意義をなくさしめ，ただ死を待つばかりの気持に追いやったりして，心身は急激に老ける一方となる。これは特に男に多く，男向きの内職の少ないことと，女のように裁縫などの仕事の少ないことによるのではないかとみられる。このようにこのことは結局は仕事というものに関連してくると思われるのであるが，この調査対象となった施設には仕事室がなかったので内職などの仕事も居室かまたはその縁側で行なっていた。そこで，どれくらい内職が行なわれているかをみると，調査当日では全員の20％程度がやっていたが，同時に行なった質問調査によると約45％が「内職をしている」と答えているので，ちょうど仕事の少ない時期に調査したのではないかと思われる（年末に仕事が多い）。また仕事をしていない人のうち30％は「仕事をしたい」と述べ，「したくない」人の理由はほとんど「病弱だからできない」といっていた。ところでここで問題となるのはこのような内職や仕事は居室でするのがよいのか，あるいは仕事室を別に設けるべきかなどの点であるので続いてそれらについてもう少し考えてみたい。

5．仕事は老人にとっても生き甲斐

仕事をすることは経済的な問題を抜きにしても，心身の適度な刺激をもたらし老人処遇にはよい効果をもたらすが，最近老令年金が支給されるようになってからは，これまで内職をしていた人もやめてしまったりするものがある。すでに述べたように仕事をしない場合はどうしても日常生活が無為に過ごされ勝ちであり，アメリカなどの先進国でさえ，老人に生き甲斐を感じさせるため真剣に仕事を与えるよう努力している。それはできれば趣味としてでも仕事をした方がよく，現状ではさきほどの例でみたように仕事室のないのが多く（仕事室のあるのは3割たらず）仕事場があるといっても，たいていはそれに使われる部屋があるというだけで，特別な設備を施こしている例はほとんどなく，大工道具や陶器焼がまを設置しているのがわずかにみられた程度である。一般に



娯楽室。すもうのある時にはテレビは大繁盛。



慰問会（月に1回程度）。待つていたとばかりに集つてくる。

老人達のする仕事は第10表にみられるような種類のものが多く，特殊な設備を必要とするものか少ないので，仕事室など必要でないと思われるかも知れないが，居室ですると仕事をしない人や汚れはしないかと気を使わねばならないこと。また仕事の材料を各々の部屋に搬入しなくてはならない手数がかかることなどその欠点は多い。そしてまた現状の仕事が上記のような種類に限定されているのも，それが居室でなされるためであり，仕事室を設け適当な器機を設置すれば，またその内容は自ずと変化するだろう。ことに仕事をしたくとも適当な仕事のない男性老人や手足など不自由で仕事のできない老人にも作業療法的に仕事が与えられるよう計画されねばならないと思われる。

第 10 表　施設内での仕事の種類　（例　数）

	造花作り	荷札作り	袋張り	編物	着物の仕立	つづり物	草花培栽	建物の廻り掃除	その他*
無料ホーム	0	5	6	2	7	7	4	9	10
有料ホーム	2	1	0	1	3	3	4	3	3

* ゴム通し，ラジオ部品，筆耕，炊事手伝，夜警，陶器焼など。

6．老人達はレジャーをもて余す

すでにみたように老人達はあまり仕事をしていないしそれだからといって他になにもしているわけでもなく，じっと坐ったり，寝ころんだり，まったくレジャーをもて余している。こんなときには娯楽室へでもいって楽しく遊べばよいと思うが，老人の孤独性ゆえに友人がなく遊ぶことにも興味が湧かない。さらに無料ホームの場合には入寮前の生活の貧しさから趣味がない。こんな状態であるから娯楽室はあっても（娯楽室は食堂や集会室との兼用も含めればほとんどの施設にある）その利用率は悪い。ただ相撲のあるときと夕食後にのみテレビ視聴者が多く現われる。質問調査によるとテレビを「毎日見る」31.2%，「時々見る」41.8%，「見に行かぬ」27.0%の比率であった。有料の方では居室にテレビを自費で設置している例もみられるが，無料の方では一施設当り1～2台あるのが普通で通常娯楽室に置かれている。ラジオも有料では各居室毎にあるが，無料では各棟毎に1台とかスピーカーのみ各室に設けるというちがいがみられる。そのほか囲碁・将棋・図書などの娯楽設備も一応はあるが利用されているのをほとんど見掛けなかった。しかし外部から慰問演芸などにやってきたときなどは，その出席率はよく，早くから開演を待つ風景もみられる。すなわち今の老人達は自分から積極的に楽しもうとする傾向は少なく受働的である。従って娯楽室の設備拡充もさることながら，管理者側からの適切な指導・養成が期待される。

7．老人達は食べるのが楽しみ

結局のところ老人達の日常生活としては食べることだけが楽しみで生きているともいえそうで，食事室の問題は大きくクローズ・アップされる。そこでまず食事室の有無や食事の仕方をみると第11表のように食事室は約半数があってそこへ皆が集って食べているが（有料の1例のみ自由にきて食べる），他の半数は食事室がなく各自の部屋で食べており，その場合の食事の運搬は，無料では当番制などで運こび，寮母が運ぶのは病弱者の場合に限ぎられるが，有料では当番制などはなく，各自で運ぶか寮母に運ばせるかのどちらかである。また有料の夫婦用住宅があるところは当然のことながら自炊している。

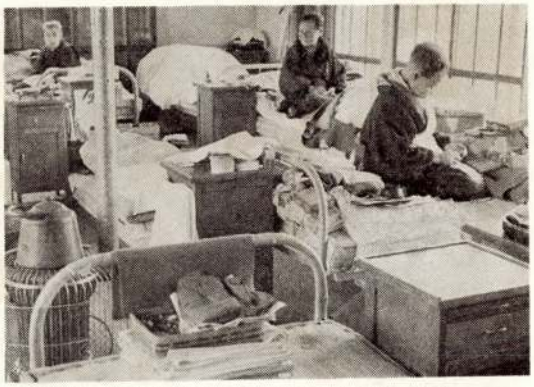
第 11 表　食事室の有無と食事の仕方　（例　数）

	食堂へ皆が集つて食べる	食堂なし	食堂なく各自の部屋で食べる場合				
			各自で運ぶ	同室の元気な者が	当番制で	寮母が運ぶ	自炊
無料(15例)	8	7	2	5	3	5（病弱者のみ）	0
有料(14例)	9	5	2	0	0	3	3

（2以上の方法を混用する場合はそれぞれを1として数えた）



給食状況。これではおいしく食べられそうもない。さらに不潔だし手間がかかる。



病室内部。枕元に日用品がうず高く積まれる傾向が見られる。

なおここで問題となるのは食事室を設けるのがよいか，あるいは各自の部屋で食べるのがよいのかであるが，前者に対しては「一堂に集って食べることによって互に親しくなる」，「食器の運搬に手間がかからず管理上有利」，「衛生的」などという利点があり，また後者にも「親密な者だけで食べられる」，「不足分を自由に補なえる」などの利点がある。しかし後者の場合には結局は食堂がないから各自の部屋で食事をとっているのではないかとも思われる。だが食事が始まる1時間も前から食卓を前にして待っている老人，皆んなが食べ終ってあと片付けもすんでいるのにまだ食べている老人，あるいはグループから離れ1人壁に向ってボソボソ食べている老人等々をみるとなんだか割り切れぬ問題が残ってしまう。このうちの一つの問題である食事時間の長さなどは歯が悪いという肉体的欠陥に由来するものであろうが，老人ホームの設計には常にこういった肉体的条件の悪るさを考慮しなくてはならない問題が多々あり，それで満ちているともいえるので，つぎにこれらのいくつかの例をあげてみよう。

8. 老人の肉体は弱っている

老人ホームには病臥者や病弱者が多いから，その数（第2表）に見合った病室や診療設備を設ければそれでこの問題が解決されたとするのは早計である。しかし現状のホームをみればそういった施設が多々ある。それが老人ホームであるというのはただその中で老人が生活しているからに過ぎず，学生が入れば学生寮にもなるだろう。そんな施設ではまったく意味がない。もうすでに各節で老人の肉体が衰ろえていることに由来する問題もいくらか検討したがまだ残っているものを簡単に列挙すると，老人は足腰が弱いというところから階段は好ましくない，廊下は短かくとかいった問題がある。ことに諸外国では車イスが発達し，ホーム内のすべてが車イスの標準に従わせなくてはならない必要性を生んでおり，わが国においても漸次その方向に向うのではないかと思われる。（現状では病人用にのみ車イスはみられるがその数はわずかである）。また便所や浴室は非常に大切で，一度坐れば立ちあがれなかったり，浴槽の縁をまたぐことのできない老人もいるのだから，その寸法や形式も老人向きのものが考えられねばならない。さらに寮母や看護婦による排便の援助や入浴の手助けができるスペースも必要となってくる。そのほか視力の衰ろえを考慮に入れた照明計画。寒暑の気候変化に弱いことからくる空気調節。神経痛に対する防湿等々数えあげればきりがない。だが幸にもこういった問題の詳細については他の執筆者が書かれているので，ここでは省略する。

おわりに

さて最後にもう一度もとにもどって老人とは一体何者かと考え直し，種々の老人に関する本を調らべてみたが，「老人」というものの明確な定義はみつからなかった。しかしやはり老人というのは一般に65才以上の年月を経て，肉体的にも心理的にもあるいは社会的にも環境の変化に適応しがたくなり，種々の適応障害や衰退の症状をいちじるしくあらわしている人をいうらしい。だからこういった障害だらけの老人達の理想的な人生航路の終着駅を作ることは，ローマの終着駅を作るよりもなお遙かに至難なことといえよう。これが成功するには建築家の深遠な洞察力による施設計画に加えて管理者の適切な運営，入居者である老人達の協力，およびすべての社会人からの援助が一致する必要があろう。

註

1）拙著「老人ホームの有料・無料による施設の差について」建築学会論文報告集第69号参照。

2）拙著「養老施設における居室での生活」建築学会学術講演要旨集（昭37.9.）参照。

有料老人ホーム現状調査

京都大学工学部建築学教室内建築研究協会
山口敬二
京都工芸繊維大学
鈴木良介

◦ 調査期間　昭和37年6月～7月

◦ 調査概要　全国有料老人ホームの諸施設につき，細部の使用勝手についてのアンケートを行なう。
アンケート送附数 33，　解答数 18。

◦ 調査方法　9頁，152項目にわたり，それぞれに解答を文書により得たものである。なお，実地見学6ヵ所については，見学者が解答を記入した。
解答者はホームの管理者（諸設備の設置希望は入居者の意見ではない。）

（A）規模の概要

解答を得たホーム名を，下記番号によって表に示す。

No. 1 桜ケ丘老人ホーム望荘	No. 2 海南荘	No. 3 寿老園
No. 4 郵政省朝里荘	No. 5 函館厚生年金老人ホーム	No. 6 黒光ホーム
No. 7 大阪老人ホーム松之荘	No. 8 玉川マナー	No. 9 新生園目黒老人ホーム
No. 10 憩いの寮	No. 11 御殿園	No. 12 俊成養老園（会員に限り無料）
No. 13 弘清ホーム	No. 14 合掌苑	No. 15 鎌倉老人ホーム
No. 16 鎌倉静養館	No. 17 寿楽荘	No. 18 熱海荘

No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
建築延床面積（坪）		330	958	766	786	498	154	140	522		122	101	184	445					
収容人数	男			14			1	4			3	12							
	女			46			21	23	23	13	16	24	13						
	計	70	90	60	78	70	22	27	23	13	19	36	13	50	32	26	35	60	95
収容室数	男	40	短期20	3	短期18	16	(16)	13	0	0		3		42	6	13		19	
	女		長期10	10	長期13				23	11	16	6	8						
	2人用	5	小住宅10棟			26	3	小住宅6棟		2	1			4	8			6	
職員数																			
事務員		1	4	3	5	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1		1	5
寮母		1	5	2	6	3	1	1	1	2	1	2	2	2	1	1			8
炊事（栄養士を含む）		4	7	2	4	4	2	2	3	2	1	1	1						2
火夫					3	1		1	1				2						
非常勤職員（医師看護婦）		7	6	2	10	1	2	4	1		1	1	2						常勤医師，看護婦2
その他														7	2	2		1	9
計		13	23	9	28	10	6	8	7	5	4	5	9	10	4	4	6	2	25

宿泊職員数 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
宿直員		1	1	2	1				1	1	1	1						
寮母	1	5		6	3	1	1	1	2	1	2	1						
炊事人	4	5	2	3		2	2	3	2	1	1							
火夫				1	1			1				1						
その他			1		授乳期のみ			2			1	2						
計	5	11	4	12	5	3	3	7	5	3	5	5				5		
建物形式別																		
平家						0	0				0	0		0		0		
総二階	0				0			0	0				0		0			0
一部二階		0	0							0							0	
その他（三階）				0														
住居形式																		
独立家屋式				0				0									0	0
アパート式（廊下式）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他																		

備考：No. 9は炊事人以外は経営者の家族。　No. 17は自炊式。

（B）細　部

解答中の数値は用例数を示す。なお，質問事項のうち2種以上併用の場合は，それぞれの事項に重複して算入した。また無解答のものもあり，数値合計はかならずしも解答ホーム数と一致しない。

（a）アンケートの結果を各所別にまとめる。

（b）"Building for the aged" を参照した結果，適当と思われる試案を附記した。上記参考文献はオランダの老人ホームを対象としたものである。習慣と経済上の相違があり，そのままあてはまらないので，わが国の状態を考えた上，下記の試案を提示する。

〔洗　面　所〕

（a）・共同の流しをとりつけている 16　洗面器具をとりつけている 3
- 洗面用具は各自がもっていく 13　備えつけがある　共同のもの 2　各自のもの 1
- 水栓は手でひねる 17　ハンドル式ペダル式は 0
- 水栓を開閉するのに操作が困難な人がいる 1　いない 14
- 排水口がつまることがある 7　ない 7
- 床仕上材料　板ばり 13　タイル 3　モルタル類 3　アスファルトタイル 1
- 洗面所に入るのに上ばきとはきかえる 3　はきかえない 13
- はきかえるところに手摺がある 0　ない 9　いらない 2
- 給湯設備　瞬間湯沸 4　給湯設備 3　レンタン 1　なし 7
- 洗面台の高さ（cm）

ホーム名 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
高さ	82	75	50	91	71	70	76	90	45	55	85	65			76	62		

（b）・洗面器の横に手摺をつける
- 給湯設備は必要
- 鏡は腰かけてみることができるようにすることについても一考を要す
- 排水口のつまるのは不注意にもよるが，汚物入れなどが完備されていないことによる
- 床材はぬれてもすべらないものを使用する

〔便　　所〕

（a）・水洗式 11　くみ取式 7
・水洗式でつまることがある 2　ない 9
・水洗のハンドルは上からひっぱるもの 3　押えるもの 8　ペダルを踏むもの 1
・同上の操作が困難な人がいる 0　いない 10
・手摺が小便器附近にある 10　ない 7　いらない 1
・手摺が大便器の前にある 13　横にある 1　ほしい 1
・トイレットペーパーは備えている 6　いない 7
・備えつけているトイレットペーパーは巻紙式 6　一枚づつのもの 1
・大便所に入るところに段がある 6　ない 9
・そこでつまづいた人がある 1　ない 4
・大便所内に職員への非常用通報設備がある 0　ない 17　ほしい 4　いらない 1
・大便の手洗は大便所の中にある 1　外に出てから洗う 13
・床仕上材は　タイル 6　板ばり 6　モルタル類 5　アスファルトタイル 1
・上ばきとはきかえる 14　はきかえない 1　はきかえない方がよい 1（入居者の健康・教養の状態が良好）
・はきかえるもの　スリッパ 8　木のつっかけ 7　下駄 3
・すべってころぶ人がある 0　ない 14
・汚物入れの置場　大便所の中 6　大便所の外で便所の一隅 5
大便所で内側からカギが掛けられる 9　かけられない 3
・大便所の広さは　普通でよい 13　特に広くする方がよい 2

（b）・便所の位置は防音と各室からの距離についての配慮がされなければならない
・水洗のハンドルで上からひっぱるのは老人によっては握れないことがある
・大便所内には，汚物入れを備える（大便所内でキャラメルなどを食べる老人があるが，その空箱入れにもなる）
・大便所に入るところにはできれば段をつけない
・床仕上材はぬれてもすべらないものを用いる
・大便所内に非常用通報設備をつける
・大便所の扉は非常の場合を考えて，外から開けることができるようにする
・開き勝手は外開きにする　開き戸横の壁に手摺りをつける

〔廊　　下〕

（a）・床仕上材は　板ばり 15　アスファルトタイル 3　モルタル類 2　敷物 1
・スリッパーを使用する 17　外ばきのまま 1
・すべった人がいる 5　いない 12
・手摺をつけている 11　いない 8　ほしい 3
・手摺の取付高さ（床より）cm

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
高　さ		115	65	91	80	91	76				90	75	74 94	81	67			

・手摺の材料　木 6　スチールパイプ 2　ビニールパイプ 1　竹 1
・騒音について苦情がある 1　ない 11
・夜間照明は天井にあるだけ 15　足元を照らすようにしている 4
・廊下は片廊下 14　内廊下 5
・廊下を特に広くする方がよい 8　その必要はない 5

（b）・すべったり，敷物の端，敷居などにつまづいたりすることのないように配慮する
・手摺の高さでは90cmで高いという意見がある。また手摺が握りにくいという苦情があるので，高さ太さおよび形に注意する
・騒音については，各室入口など戸当りにはゴムなどをとりつけることによって防ぐ
・夜間照明は足下灯をつけ，スリガラスにして部屋の名を記入しているのが好評

・廊下の巾はホームの規模，運搬車や椅子車の行きちがい。また視覚上の点を考慮して決定する。また見通せる長さも考慮する（45～50m以内）

〔階　　段〕2階以上のもの　12例

（α）・床仕上材　　板ばり 8　　アスファルトタイル 4　　モルタル類 1

・手摺の高さ（段のどの部分でという明記はない）（cm）

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
高　さ	82	115	70	91	80			80	39	76								90

・段端の色をかえている 5　　かえてない 6

・階段の寸法（cm）

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
各段高さ	15	15	17	25	17			17		20			20.3		18		20	16
各段奥行	27	28.5	26	25	32			27		24			24		29		25	30
巾	120	150	130	120	88			104		90							80	97

(No. 17　は回り階段)

・階段でつまづいたり，すべってころぶ人がある 1　　ない 8

・踊り場に休憩椅子がある 2　　ない 9　　ほしい 1　　いらない 1

（b）・階段は両側に手摺を設け，蹴込板はかならずつける（蹴込板がないと，見通せることから危険を感じ，めまいを起す人がある）踏板は音のでないもので色も明るくする。夜降りる人のため特に段端がはっきりわかるようにする

・踊り場を充分広く，休憩椅子を置くのがよい

〔傾　斜　路〕

・3例あるが，勾配につき明確な解答は得られなかった

〔居　　室〕

（α）・引戸 15　　開き戸 5

・引戸のとき，その戸は　　板戸 6　　フスマ 6　　表板，裏フスマ 1　　ガラス戸 1

・板戸のとき　　真鍮レール 3　　プラスチック材レール 2　　木製敷居 6

・あけるのに重い 1　　重くない 10

・内からカギがかけられる 10　　かけられない 4

・非常の場合外から開くことができる 10　　できない 3

・開き戸の取手金具は　　握玉式 3　　レバーハンドル型 3

・部屋の広さ（坪）

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1　人　室	2.25			2.5	3	2.25	2.25	2.25	3	1.5								
2　人　室	3	2.25		3	4	3	3		4	3								
そ　の　他	3.25	2	4	1.3			1.5		2.25 1.5	2.5	4	5.5						

・タタミ敷 18　　板貼り 1（タタミ敷の部屋もある）

・廊下または踏込みなど，部屋とのさかいに10cm以上の段がある 4　　ない 14

・踏込み附近に手摺をつけている 1　　いない 14

・暖房の方法は　　スチーム 4　　空気調和 0　　ガス 0　　火鉢 10　　電気ゴタツ 7　　湯タンポ 13　　カイロ 3

・非常用通報設備がある 11　　ない 7　　ほしい 2

・通報方法は　　ひっぱってする 1　　押してする 9

・火災報知機がある 11　　ない 7

・報知先　職員事務室 9　附近の居室 1　寮母室 2　廊下 2　宿直室 1
・押入棚は一段のみ 14　多数の棚付 3
・床の間がある 7　ない 9　いらない 1
・縁側がある 8　ない 7　ほしい 1　いらない 1
・ぬれ縁がある 6　ない 8　ほしい 1　いらない 1
・窓には　雨戸 13　ガラス戸 18　障子 3　カーテン 9　網戸 4
・居室の夏期の通風は良い 14　悪い 3　悪いとき苦情がある 2　ない 3
・居室の照明は　天井照明 18　壁付照明 1　スタンド 6
・使用を許可している電気器具　ラジオ 14　電気ゴタツ 7　スタンド 11　電熱器 5（ワット数種類の制限をするもの 1）　アイロン 8（ワット数制限 1）　テレビ 2
一切不許可 1（コンセントの挿入，とりはづしが老人に無理という理由）

（b）・引戸の場合充分手がかかる引手を使用する
・金具はレバーハンドル型を使用すると手の不自由な老人にも操作が容易
・戸は非常の場合外から開けられるよう考える
・内開きの場合，足元に充分余裕のあるスペースがほしい
・戸の開閉に伴う音を防ぐこと。また隣接する各部の音を防ぐこと
・部屋の広さは持込家具が相当あるので，その置場を考えておくこと
・出入口附近の床の上下差はできるだけなくすようにする。10cm以上の上下差のある場合は手摺をつける
・押入は中段付多数の棚に分けている例は女子のみのホームで 3 件ある
・縁側は和室の場合 4 尺ほどの巾をとり椅子など置けるようにしたい。外国の例ではバルコニーをとるのが必要条件となっている
・窓は開閉が容易で転落などの危険のないもの（押出窓はいけない）
・坐った状態で外がみえるよう桟の位置に注意する
・2階以上の階では不安感をなくし，危険防止を考慮する

〔集　会　所〕

（a）・食堂と兼用している 9　いない 9　兼用はよい 1　兼用しない方が望ましい 3
・集会室が 1 つある 12　2ヵ所以上ある 2　ない 1
・よく利用される 9（食堂の近くの集会室）ほとんどされていない 3（集会室が 2 ヵ所以上）
・床はタタミ 12　椅子式 8（2 件は椅子式，タタミ式の部屋に分けている）
・そなえつけているもの　図書 15　新聞 16　雑誌 16　テレビ 17　ラジオ 16　碁 13　将棋 13　ステレオ 1　マージャン 3　テープレコーダー 2

（b）・集会室は外国の例によると多くの小部屋に分け，喫煙，禁煙または静と賑による区別をつけるのがよいとされているが，この調査によると食堂近くの集会室がよく利用され，2 ヵ所以上の部屋があっても，その一つはほとんど利用されていない
・椅子式のホームで和風のけいこごとのためタタミの部屋を希望するのが1例あった

〔病人の世話〕

（a）・診察室（医療室）がある 7　ない 7　いらない 1
・病室がある 7　ない 9　ほしい 2　いらない 2（静養室は別）
・床はタタミ式 2　ベッド 5
・重態のときまたは長期にわたる場合　外の病院にうつす 9　引取人に引取らせる 2　移さづ手当する 1
・霊室がある 1　ない 15　ほしい 1　いらない 1　集会室など他の部屋を用いる 4
・入院するほどでないが起居の不自由な人をどうしているか
・付添人の同居を認め世話をさせる 11　付添人の同居を認めない 2
・入居者同志の看護，援助にまかせる 1
・職員（寮母など）により看護をする 8　しない 0　少しする 3

（b）・診察室または医療室は大規模のものは不要という意見が多く。ない場合は月1回程度の往診は集会室で診断をうけている
・入居条件として健康者に限っているため，病人の看護については不徹底か不統一である
・外国では看護用老人ホームなどがあり，老人ホームにおける病人の扱いの限界が明瞭である
・この調査では病院と併設している3例のうち2例は医療関係の諸室を設けていない

〔ホームへの出入〕

（a）・下足室または下足箱を設けている 11　いない 6
・扉は引戸 9　開き戸 8
・フロアーヒンヂ・ドアーチェックなどの自動閉式器具を使っている 5　いない 9
・自動閉式器具の使用で不都合なことがある 0　ない 3
・土間と床（廊下などの）との上下差（cm）

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
高さ	36 12	15	10	2段 30	15	18	30	30	17	36		30						

・はきかえるところに手摺がある 1　ない 17　ほしい 2　いらない 2
・はきかえるときころぶ人がある 1　ない 16

（b）・戸は重くないものを用いる　全面ガラスはいけない
・ドアーには開閉の手助けになる手摺を横の壁面につける
・はきものをはきかえる場所には手摺をつける。手摺の形，位置は研究の要あり

〔浴　室〕

（a）・共同浴場 16　数ヵ所に分れた浴室 2
・男女の別がある 6　ない 9
・職員用のがある 5　ない 11　ほしい 1　いらない 1
・男女によって大きさのちがいがある 1　ない 7
・床材は　タイル 13　モルタル類 2　板貼り 1
・すべった人がある 1（タイル）　ない 9

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
浴槽の深さ（cm）	62	60	52	90	63	60	61		39		70	78		63		65		
浴槽の広さ（坪）	2	2	2.9	2	2	0.6	2		0.5		1	0.5						
洗い場と浴槽床との上下差（cm）	16	54	33	80	50	15	45		15		30	50		22		18		

・浴槽内に段がある 11　ない 3　ほしい 1
・浴槽への出入が困難な人がある 4　ない 10
・湯水カランはひねる 12　押す 2
・非常用通報設備がある 1　ない 13　ほしい 1　いらない 1
・脱衣室に休むための椅子などがある 5　ない 11　いらない 1
・脱衣室に電気療法のための器械がおいてある 3　ない 11　ほしい 2
・順番で入浴する場合，済んだ人があとに知らせる方法　入浴者が知らせに行く 4　職員がいく 3　通報による 3　知らせない（時間別により決めている）1

（b）・床はすべらないよう磁器タイルを用いるとか，目地を注意して貼るようにする
・浴槽内，浴槽まわり，また浴室の壁に手摺をつける・湯水カランはレバー式のものが使いよい
・男女別の浴槽の大きさは，入居者数の男女の比から推して男1に対し，女2の割合がよい
・男浴室には「ひげそり用カガミ」を多くつける

〔食　　事〕

(a)・自炊式 2　給食式 16
・1ヵ所の食堂 12　2, 3 ヵ所の小食堂 1　各個室 6
・食堂でのカウンターから食卓間の運搬は入居者各自 6　職員がする 9
・食後の運搬は入居者各自 8　職員がする 6
・個室の場合の運搬は入居者各自 5　職員がする 4 (病人のためなど特別な場合1を含む)
・食堂はタタミ 8　椅子式 8
・食卓での各自の位置の指示はしている 7　いない 8
・お茶または嗜好品のため，火器の使用を認めている 11　いない 5
・認めている場合，火器の使用を一ヵ所に限る 6　数ヵ所 4
・火器の使用料はとる 5　とらない 5
・食堂附近に手洗がある 10　ない 3　ほしい 1
・ある場合　手洗用としてよく使われる 7　ほとんど使われない 3　やかん，湯のみを洗うために使われる 3　使われない 2
・茶かすなどの捨て場所　洗面所 3　給湯施設附近 4　ゴミ捨場 8
(お茶，嗜好品のための火器の使用は，食堂の一部にガス台を設けている 1　食堂に給湯設備を設けている 4

(b)・老人が一緒に食事をしお茶を飲むことは各人の孤独化の壁を取除くという点で意味があるが，他方，小食堂で食事する方を好むという例もあり，どちらが適当かは明確でない
・個室での食事の場合，給食式，職員運搬式では廊下から直接食膳を置けるように，個室の廊下側にカウンターを設ける。自炊式の場合，火器は電熱を用いパイロットランプをつける

〔避 難 施 設〕

(a)・避難用の階段 10　避難用傾斜路 0　スベリ台 2

(b)・防火，避難施設は法規一般に従うほか，行き詰り廊下をつくらないこと。特に2階の場合，居室棟両端に階段をつける
・非常燈の設備をすること

〔洗　　濯〕

(a)・全部各自でする 6　一部外註 9　一部職員 4
・入居者相互間で援助し合う 2
・洗濯場所　専用の場所 12　洗面所の一部 7　浴室 3
・洗濯器具で共用しているもの　電気センタク機 15　タライ 9　センタク板 6　洗濟 4　アイロン 7
・洗濯器具使用料をとっている 2　とらない 14　使用料をとっているもの　電気センタク機 1　湯 1　アイロン 1
・ミシンは使っている 10　いない 6　各人に使用させている 2　職員のみ使う 6　両方で使う 3

〔売　　店〕

(a)・ある 3　ない 15　いらない 2

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
広さ (坪)		4		3														

〔理 髪 室〕

(a)・ある 3　ない 12　ほしい 2
・専用の室がない場合集会室を使用する 1

〔倉　　庫〕

(a)・入居者の荷物のための共同倉庫がある 7　ない 9　ほしい 4　いらない 1

ホーム名	No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
広さ (坪)	4	2		3		6	5				4	3						

書評「ふるさとのすまい」

リュックに入れて地方を歩こう

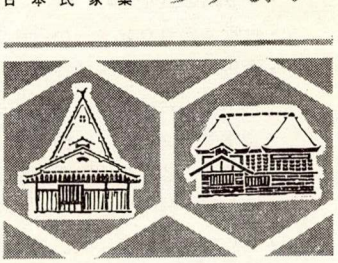
神代雄一郎

この原稿を書こうとしていたやさき，「ふるさとのすまい」が毎日出版文化賞をうけたというニュースが入った。大へん結構なことで大いに喜ばしい。大たい，いろいろな団体が創立何周年記念というときには，使えない皿や役にたたないアルバムなどを配って自己宣伝をやるものだが，さすがは日本建築協会で，立派な出版をやってのけたものだと感心していた。そのやさきの受賞だから，すなおにまずお祝いを申上げる。

この本を一覧してすぐ思いだしたのは，今年の夏わたしの研究室を訪ねてきたポーランドの建築家だった。彼はわたしの室のまえに日本地図をひろげて，日本の民家の特徴的ないくつかのタイプの所在を，プロットしてくれというのであった。あのときこの本があったら，一冊謹呈すればことは簡単にすんでしまったのである。だれか外人がこの本の書評で，最後の分布地図におもだった都市名でも入っていればと書いていたが，番号をたよりに頁をくれば所在は明白になるものの，この地図が木版古図時代のシャレた形をしているため，一寸そんな要求がでるのかも知れない。実は，民芸品をみるようなこの地図のシャレた形や，「ふるさとのすまい」という文芸的な表題のにおいが，一寸わたしにもひっかからないこともなかった。

つぎに思いだしたのは今年の春，やはりわたしの研究室を訪ねてきた二人の若いフィンランドの建築家だった。彼等は例によって，京都の古建築に感嘆の賛辞でも述べるかと思っていると，開口一番彼等が2ヵ月かかって実測した九州の民家について話すのであった。わたしはこのときつくづく，わたしもふくめて，日本の建築家や建築研究者や建築学科の学生諸君が，あまりにも民家に眼をむけなさすぎること，そしてその結果が日本の新しい建築にどんなにネガティブな影響を及ぼしているかを，思ったことである。

近年かなり様相がちがってきたとはいえ，民家の研究者は特志家あつかいされてきた。この本の蒐集の中心になった浅野清・白木小三郎・川島寅次の三氏は「民家の鬼」だそうだが，こうした特志の研究者がなくては，またこうした企画もできないのである。しかもそれでは，いまの建築学科の学生に対して，一体日本の民家が教えられているかというと，まず全々ないか，日本建築史の一部にほんの1時間か30分位ふれられているに過ぎないであろう。これでは研究者もむくわれないし，日本の建築の将来を考えるとき，暗い疑惑に落ちいらざるをえない。



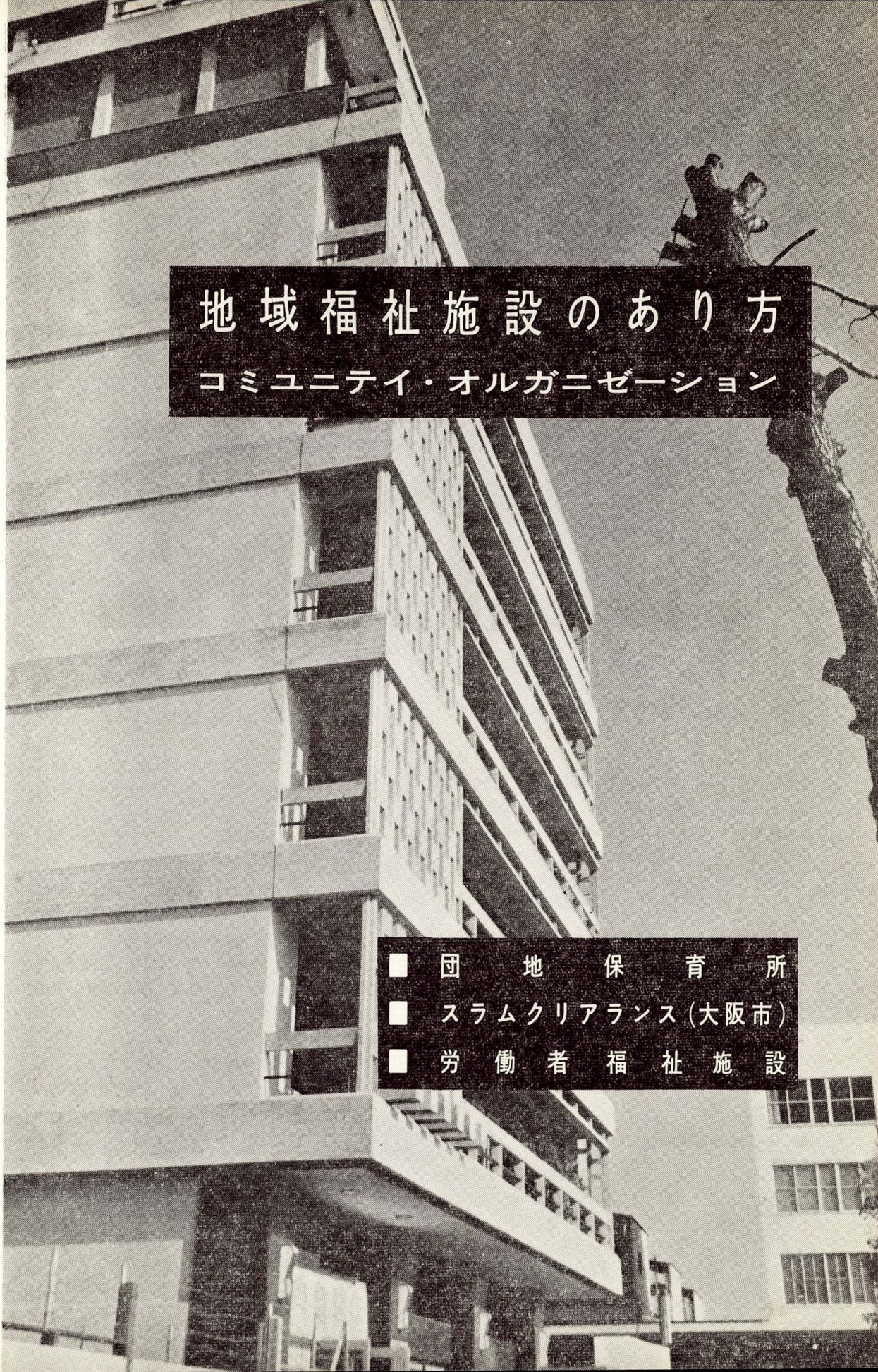
以上のようなわたしの気持に対して，この本がどうひびいたかというと，まず本体をなす写真と解説と図の入った部分には，実にゆきとどいた親切を感じた。わたしは学生諸君がこの本をリュックにつめに，日本全土を歩るきまわる姿を予想するとまったく愉快でしょうがないが，そして是非そういうふうに使われて欲しいと思うのだが，実際それにはよく適している。ここにはわたしが実際に内部にも上ってみた民家がいくつかあげられているが，そのときの印象とこの本の写真をくらべるとそれはもちろん実物に接したときの方があざやかだ。だがそれは，こうした集成本の当然の姿だし，現代建築の写真によくあるような実際に行ってみてガッカリさせられるような写真のないことがかえっていい。

文章では，わたしのような現代性をすぐ考えるたちの人間には，伊藤ていじ氏の「現代と民家」が一番強くひびいてきた。つぎには末尾の概説「日本の民家」の，ひどく煮つまった文章にひかれた。この二つは，もっと長く書いてもらいたい感じがしたし，「民家の鬼」の三氏は名を出さずに執筆していられるのだろうが，欲をいえば，それぞれの方に，それぞれが担当された西部・中部・北部の民家について，記名でくわしく書いていただきかったと思う。

最近はにわかに民家が脚光をおびだして，わたしの研究室でも学生がよく出かけてゆく。やがては民家ブームというような言葉をきくようになるのかも知れない。こんな時期にわたしが一番心配するのは，工芸の世界での同じような気運が，ついに民芸趣味なるものを生みおとしてしまった事実である。民芸とは民俗工芸の略なのか民衆芸術の略なのか，わたしは知らない。知らないがとにかく，民衆芸術とモダニズムの混血である民芸趣味だけはごめんこうむりたい。

民衆への注目が，民芸にみられるような懐古的混血を結果しないためには，われわれは民家にかぎらず，もっと広く民族の生活芸術をとらえる必要があるだろう。民家と現代建築の安易な混血ではなく，われわれがなすべきことは，伝統と創造の保存と開発の調和であるように思われる。この本の企画・出版に感心しながら，次回は協会が一歩を進めて，こんなテーマを打出されたらと思った次第である。

（筆者　工博・明大教授）



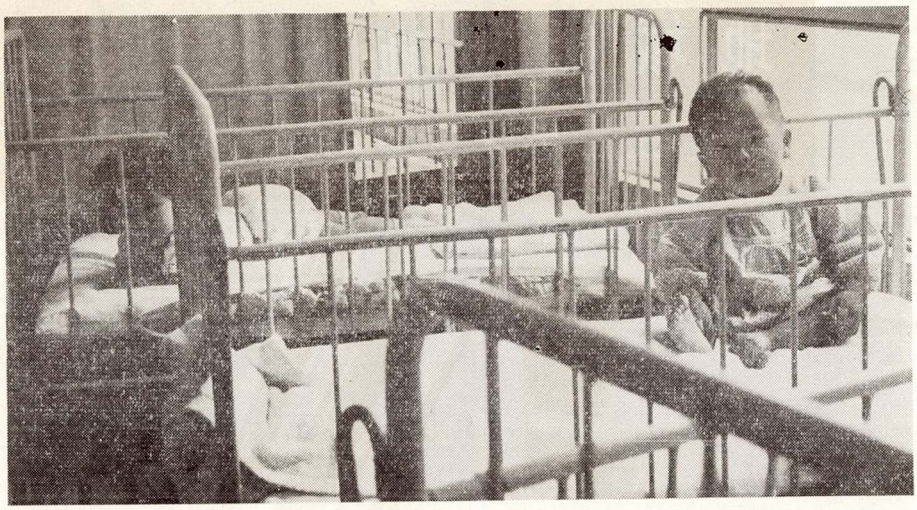
地域福祉施設のあり方

コミュニテイ・オルガニゼーション

- 団地保育所
- スラムクリアランス(大阪市)
- 労働者福祉施設

団地保育所 —ひとつの地域福祉施設として—

京都大学工学部西山研究室　湯川聰子



はじめに

“福祉”というと，なにか湿っぽい，貧乏くさいにおいがつきまとう。しかし，ここではこの言葉を本来の意味に帰して使いたい。一般地域住民を対象とする生活環境施設の一環としての健全な福祉施設を考えてみたい。ところで，現代の日本の都会の中に，地域社会（コミュニティ）という呼び名にふさわしいものはなにもないように思われる。ないというのは，必要とされないからなのか？それとも人々はそれをほしがっているのだけれど，供給側の条件がないからなのか？　プランナーの立場からはこのことをどう考えるべきか？　地域社会の福祉施設といってみても，そういうものの萌芽がどこかに実在しているのだろうか？　住民の要求はどうなのか，また，要求の声が具体的な形として出てくる場合はどんな経過をたどるのだろうか？……と，さまざまな疑問がわきおこる。そこで，問題を解く手がかりとして保育所を選び，関連する多くの人から話を聞き，団地保育所を訪問することから作業を始めた。

◆　A団地保育園訪問記

ここは公団住宅団地でも最古参の部類に属するA団地の保育園である。A団地は現在戸数約 1,200戸，東京都心へ約1時間の通勤距離のところにある。入居者は昭和31年の建設当初からすでに数交替，大半は入替っていると聞いた。当保育園の現況を簡単に紹介するとつぎのようになる。建物施設は公団が集会所名義で建ててくれたものだから，完璧な保育設備は望めないが，建物使用料はいらない。収容定員は50人となっているが，託児希望の増えるのを押えきれず，現在83人預かっており来年春までの待機者リストには現在12人が載っている。83人の中には，母親が三ヵ月の産休を終えてすぐに預けられた乳児から，学令に達するまでの幼児まで，あらゆる年令の子が，ほぼ同じ割合で入っている。これを発達段階に応じて10人から20人のクラスに編成して，一クラスにつき保母1人，助手1人がついている。保育園の一日は，朝7時半に団地内に住む掃除係の主婦がカギをあけるときに始まる。その頃からぽつぽつ子供を連れて現われる母親達の群れは，8時頃にピークに達し，大忙ぎで保育園備付けのおむつに着替えさせて，子供と別れ，身軽にラッシュの波にのまれていく。そして，夕方7時におそ番の先生の手から最後の子供が母親の手に戻るまで，ここでの集団生活が営まれるのである。

私が訪ねていったときは，ちょうど年令の高い方の組のオヒルネの時間が始まるというところだった。先生に童話の本を読んでもらいながら，ヘヤの板の間一杯に敷き並べられた小さなフトンの上に，子供達は思い思いの姿勢でころがっていた。おとなしく先生の声を聞きながらすぐに眠りに入っていくらしい。まもなく園内がすっかり寝静まってしまった。ハテ，やかましく泣きわめいているはずの赤ん坊達はどこにいるのか。園長先生に尋

ねると，苦笑しながら「では」と案内してくれた。そこは同じ団地内で，300m 位離れたところにあるアパートの一室である。2DK のフラット二戸を他人名義で借受け，公団が知らぬ間に（知って知らぬふりをしているのかも知れないが），アパートの中に保育園別館が出現しているのだ。この別館の一戸には 0 才児11人，他の一戸には 1 才児13人が入れられて，チョロチョロと這い廻ったり，ひっくり返ったり，足の踏場もないくらいの大騒ぎである。ベッドには，まだサルとヒトとの間にいるようなクシャクシャの顔が眠っている。先生の話では歩き始めた子供らを外へ運動に連れ出したいのだが，3 階からでは，おっくうで，つい部屋の中で遊ばせることになるとのことだ。なるほど，やっと自分の足で歩き廻れるようになった子らは，歩くこと，走ることが楽しみで部屋の中をあばれ廻るのだ。手近に遊び場もないのに，静かにしなさいなどと叱れるものではなさそうだ。所定の時間になると，一週間の献立に従って本館で調理されたおやつがここへも運ばれて，一人一人先生から食べさせてもらうのである。充満するミルクのにおいに気押されて早々に別館を退散した。

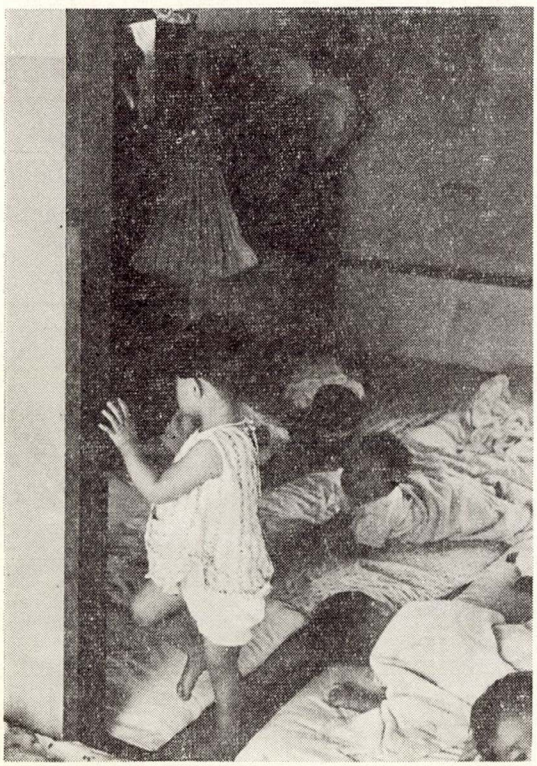
一ヵ月の保育料は1才未満の 5,450 円を最高に，3 才以上の 3,550円まで年令別に段階をつけている。その他に，おやつ代やおかず代がこれも年令毎にきめられている。たとえば八ヵ月の離乳期の乳児なら，合計 6,830円が一ヵ月の出費ということになる。外部からの援助なしに採算をとっているのだから，集めた保育料の中から，保母 6 人，助手 4 人，調理士，雑役婦各 1 人の給料と，先に述べたフラット二戸の賃貸料を支払うわけである。保母さんの給料を尋ねてみると，月額にして彼女達の平均は15,000円位とのこと。最近，父母の会との話合いで，ベース・アップしたばかりだから都内ではよい方と思うとの返事であった。なお，4 人の助手と雑役婦は団地内の主婦のアルバイトで日給 400円（9 時間労働）である。ところで，この保育園はその成立の動機から，資格を団地内居住者に限った，協同組合的な形をとっている。預けている母親側は，父親共々非常な熱意をもって経営に参加し，保母達と話合いの機会を設けて，よい教育の場を造り出すことに積極的な力となっているという。中には，現在 2 人の子供を託している家庭が12世帯もあると聞いてびっくりしてしまった。一体，2 人も子供を預けて働いている母親はどういう仕事をもつ人達なのだろうか。保育園へ収めるお金だけでも月 1 万円を越えることになる。東京には，そんなに収入がよくて働きがいのある婦人の職場があるのだろうか。園長先生から引出せた答えは，預けにくる母親のほとんど全部が都心に職場をもつ共稼ぎ家庭であるということであった。これらの家庭では，母親が勤めを続けることに対して周囲からなんの抵抗もないばかりか，むしろ父親が積極的に支援している。その裏には，父親の収入だけでは最低生活は維持できても，彼らの旺盛な消費意欲を満足させるには足りないこと，女性が一旦家庭に入ると，復職の可能性はまったくないこと，そのためには一時期の保育料が少々高くても勤めを続けた方が得なこと等々の事情があるということがわかった。周辺の中小企業の工員や店員ではないらしいが，さりとて，格別重要なポストについて意欲的な仕事ぶりで男性にごしている女傑達でもなさそうだ。ごく普通のサラリー・ウーマンだが，娘時代から勤めを続け，今では給料もかなりの額に昇給し，労働条件もまあまあで，外で働くことが男性と同様に当然の習性となってしまった比較的恵まれた階層の人達といえるようだ。（別の大阪府職労婦人部の調査では保健婦，看護婦など，かなり専門的な仕事の人に保育希望が多かったようだ。団地の場合，学校の先生がかなりあるのではないかと思うが，データがないので想像の域を出ない。）さて，こういう勤めをもった忙しい人達がどうしてこれだけの保育システムを獲得することができたのか？　組織づくりだけでも大変な労力のいる仕事に違いなかろう。

発端は，昭和32年に全国組織“働く母の会”の団地支部が結成されたときである。この中から，33年春，4 人の母親が各々の自宅を提供する“もち廻り保育”が始まった。4 人の子供に 2 人の保母さんでの出発である。夏には，共鳴者が12，3 人に増えた。場所も管理事務所 2 階のタタミ部屋二室に落着いた。こういう保育運動の発展は，集会所本来の使用目的をじゃますることになった。当然，他の居住者からは文句が出る。保育する立場からみても適当な場所とはいえない。というわけで，別途の専用建物要求の声が“働く母の会”を中心に，公団をつきあげた。公団側では，初期の頃だけに方針も固まっていない。たまたまもっていた空地に，集会所名義で保育所を建て，その費用を全体の家賃にかぶせていくことが業務処理上好都合と考えられた。こういういきさ



A保育園のオヒルネ

つの後に，同年11月開設の運びとなった。話がここで終れば，利用者側も公団側もめでたしめでたしというわけなのだが，翌年末頃になって，思わぬところから火の手があがり始めた。一つは，同じ団地内の保育園を利用しない入居者からの不満の声であり，一つは，噂を聞き伝えた他の団地からの公団に対する保育所要求の声である。前者に対しては保育園を利用している人達が低姿勢に出て保育園の庭や遊具を保育園が専有せずに，他の子供にも解放するなどの処置でおさまった。（ただし，保育環境としてみると近所の大きな子供に庭を荒されることはマイナスである。）後者の方は，東京圏の団地居住者の連合組織である“保育園連絡協議会”にまで発展して，公団を責めたてた。“A団地に続け”というわけである。公団側は“A団地は例外である。住宅公団は住宅を建てることを本位とする”旨，強硬に管轄違いを主張した。しかし，事態はそこここにグループ託児，集会所保育などをふやし，もんちゃくを繰りひろげ，現状のまま放置することはできなくなった。昭和36年6月に第二会社として，団地サービス株式会社が設立されたのは，このような託児要求の攻勢によるところが大きいのである。こうして，居住者達は，施設完備した新しい保育園の創設を夢みながら，鉾をおさめたのであった。このA保育園もやがて，サービス社の経営に移るとか……。ようやく，若い父母達は安心して子供を託し，それぞれの仕事に専心できる見通しとなった。



A保育園分室と化したアパート

◆ サービス社営のK保育園

ところで，サービス社営の保育園は，ようやく本年度から発足した。要求運動の結実を，実地にみるために，K団地へやってきた。戸数1,800戸のK団地は，池袋から遠く延びた私鉄の駅前にある。たんぼの中に，突如として出現したニュータウンだが，今では近くに社宅団地もできている。定員100名のK保育園は本年4月開園したばかりだ。他の幼稚園が募集を終った後だったので，定員に満たず，58人が常時入園児である（そのうち10人は半日保育で1時まで）。余裕があるので，臨時保育として時間ぎめで預かる場合もある。保育料は，時間ぎめの場合，3才未満で4時間200円，1時間増すごとに50円というシステムになっている。全日保育では月に3,500円から5,100円まで，年令が低いほど高くなるように段階をつけている。その他にオヤツ代やオカズ代が750円～1,300円いることなど，A保育園の相場とほぼ同じである。

A保育園のフラットに詰めこまれたすさまじい赤ん坊の群れをみてきた目には，ここはすばらしい天国にみえた。一方の教室では大きな子らが先生と一緒にオユウギをしているし，建物のもう片方の端にあるベッドの入った乳児室では11人の0才児が白衣でキリッと身を固めた保健婦さんの馴れた手つきに任されて，スヤスヤと眠っている。建物に囲われた日当りのよい砂場には，外から入りこむ大きな子供もいないから，ヨチヨチ歩きの子供が安心して遊んでいる。よそ目には理想的な環境にみえたのだが，先生の話を聞くと，そう手放しで喜んでもいられないらしい。このK団地でも自治会の中に保育促進委員会ができて昨春からグループ託児を始めていた。テラス一戸を借りて13人の母親が集って保母1人，助手1人を頼んでいたものであるが，これの発展的解消という形で現在の保育園が出きた。先を見越して100人という大きな定員の立派な施設ができたのだが，当初の託児希望者は開設時期が悪かったことも原因して約半分，保育料の方は，テラス・ハウス時代からそうかけ離れた高額をとるわけにはいかず，現在はまったくの赤字経営である。臨時保育で埋めようという苦肉の策もあまり効果を出していない。では，定員まで入れば黒字になるのか。保母定員は現在5人（他に保健婦が1人）だが，現在の50人でも手一杯である。これが，満員の100人になったとしたら，とても責任ある保育はできない。というわけで，会社に保母増員要求をしているというのが主任さんの話である。（註1）

註1：厚生省規準では，幼児30人に1人，乳児9人に1人の定員である。従ってここの定員は一般の保育所と比べれば低いとはいえない。ただ，この規準には現場から猛烈な改正要求が出ており，規準自体も増員の方向へ改訂される見込みである。理想的に考えれば，この保母定員は倍増される必要があるといわれる。



K保育園の昼食風景

現実には，建物の償却に追われる会社が増員を認めることはむつかしいといわれる。しかしこれを認めないとすると，保母の労働強化と，保育の質の低下という結果を招くことになる。保母の給料も決して満足な額ではない（40代の主任保母が泊り込みで手取り15,000円）。教育的情熱を燃やす前に，労働条件の不満が口をついて出るのも不思議ではない。結局，あんなに期待をかけられていた団地サービス会社も，この割りの悪い商売からは逃げ腰で，これ以上新しい施設をつくりたくないというのが本音らしい。もともと，集会所並みに賃貸料を無料にしてギリギリの経営だったのを，一層高い6分〜7分5厘の金利で，一般商業施設並みに建設されたのでは，最初からソロバンの合うわけがなかったのである。

◆ 団地保育所の問題点

団地は地域施設の要求が活発であるという。実例にみたように，居住者の保育所要求の強さは並たいていではない。また，結束して要求貫徹する様は，まったくたくましいものである。初めて出現した「貧困救済的」でないこの新しい地域福祉施設に対して拍手を送りたい。しかし，これは理想的な地域福祉のイメージにはまだ程遠く，かつ，現実的な要求を満すものとしても，なお問題を残している。

要求を組織する力　保育所をつくる運動の母体となったのは，地域社会の気安い話合いや，階段会議などではなかった。それは職場を通じてすでにでき上っている全国組織の地域への働きかけであった。ここに，現代日本の団地というもの，いや，地域社会というものの性格が端的に現われているのではなかろうか。

受益者負担の問題　団地保育所は，厚生省認可の一般保育所と異なり，外部からの補助がなく，独立採算制で運営されている。建物償却費が運営費の中に大きく食込んでいるし，密度の高い保育要員配置をとっているから保護者の負担はかなりの高額となっている。もっと安い料金になれば利用したいという層がかなりあるのではなかろうか。今の保育料では，1,000戸に一つの保育所をやっと維持するだけの需要しか出てこない。したがって，1,000戸以下の団地では経営が成立たないことが予想される。（註2）

組合経営の是非　たまたま，A保育園は組合経営でうまくいっている。しかし，この方法は，過大な心労を父母に押しつけるものである。保育所運営のために，本来の職務がないがしろにされる危険があるのではよくない。さらに，ボス的人物が出てきた場合に，利用者大衆の意向とは異なる方へ，保育所運営が引きずられるおそれもある。もっとも大きい声が住民の真の声とは限らないからである。

一般居住者との関係　つぎに，保育所を利用しない一般居住者達が，皆が皆，保育所に好意的ではないという問題がある。家賃に保育所建設費がかぶさってくる不満，集会所を占領される不満，フラットの別館附近ではやかましいという不満等々がくすぶっている。これらの中には，自治会内部の感情的な勢力争いもからまっているであろうが，しごく当然の素朴な声もある。あるものは，施設が完成したときに自然解消する性質のものでもある。一方，団地保育所の利用を団地内居住者に限るということで，周辺居住者との離反感情を深めている話も聞く。

◆ 保育所需要の背景

二つの実例でみると，団地ではきびしいまでの保育所要求があることがわかる。なぜこういう強い要求があるのか？　この実例だけが特殊な場合なのだろうか？　この問題の背景にある事情を探ってみよう。

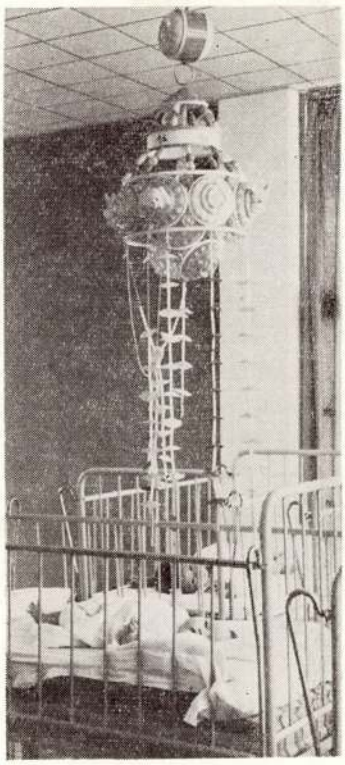
婦人労働者の増加　根底にあるのは一般の婦人労働者の増加である。現在，戦前にはみられぬおびただしい数の女性群が職場に進出している。教育の機会均等の原則は女子にも多くの可能性を与えたため，その職種は幅を広げ，高度な専門職にまで及んだ。今では，社会通念として，未婚女性の就職は当り前のこととなっている。こういう状況の中から結婚しても仕事をやめない女性が多数出てくることは当然であろう。事実，年功序列型賃金体系が，適令期男子の給与を低く抑えている事情も大きく作用して，共稼ぎによって結婚生活を維持する若い人は多い。団地の場合，共稼ぎ家庭の割合は東京で12%，大阪で5%といわれている。（註3）

註2：昭和34年度において，東京郊外団地の人口構成をみると，6才未満の乳幼児数は平均20%を占める。この数値を当てはめると，適令児のうちA団地では3分の1，K団地では6分の1が団地保育所を利用していることになる。

註3：読売新聞"われらサラリーマン"より

まだ子供のない家庭が多い。そして，その大部分は出産を契機に女性が職場を退いて家庭で保育の任に当る。ところで当の女性が比較的安い賃金でルーチン・ワークについており，職場になんら喜びを見出していなかった場合なら問題はない。しかし，比較的に高給取りで家計を支えている場合や，職場が非常に魅力ある場合には事情は異なる。なんとかして，子供をもっても仕事を続けていきたいという希望が出てくる。幸いにも労基法は婦人労働者の権利を保障しているし，社会通念も母親の退職を強制してはいない。

"働く母親"の成立する条件　従来，子持の共稼ぎは，個別処理のできる特殊な条件の家庭に限られていた。その多くは"オバアチャン保育"のできる場合である。（同居する近親者がいる場合で，妻の母親がその役割を果している例が多い。）近所の知人に預ける場合がつぎに多い。もっとも高価なやりかたとして"お手伝い"を頼む方法もある。しかし，これはよほど特殊な場合以外は経済的に成立たない。ところで，従来，ほとんど唯一の解決策であった"オバアチャン保育"が団地では困難な事情にある。すなわち入居者は形の上では一応，古い家族制度と断絶して，夫婦中心の核家族として住んでいるものが大部分である。そこでは，古い大家族のよさともいうべき相互援助の機能は失なわれてしまっている。また，近代教育をうけて最新の育児知識を身につけた若い母親は，子供を古い世代の手に委ねることを好まない。近隣関係が密接でないから，近所へ頼む当てもない。こういうわけで，個別的な解決の方途をもたない団地居住者は必然的にもう一つの道を求めることになる。



K 保育園乳児室

職場保育　個別処理に対して，共同処理方式——保育所——がクローズ・アップされる。（プリミティブな段階ではもち廻り保育がある。）ここで登場する保育所は救貧託児所とはちがう。労働者として働く権利を主張する母親の立場を守るための福祉施設である。こういう目的の保育所は，従来は地域には発生をみず，まとまった組織力のある職場に実例を求めることができる。しかし通勤事情にわざわいされて，利用者の範囲は限られるため，職場保育利用者は子持女子労働者の3％にすぎず，10％が地域保育所を利用，残る大部分は個別処理という現状である（電々公社大阪市外局の場合）。職場保育所利用率の低さには，通勤事情の他にも理由がある。すなわち，企業側としては労組の強い要求に押されて施設を提供するが，この種の福利施設にはなるべく出費したくないし，また立派な施設をつくって希望者が増えては困るという立場である。したがってできた施設は，例外なく育児環境としてまったく不適当な，質の悪いものとなっている。職場保育に問題の解決を求めようとするのは，あたかも給与住宅に住宅問題の解決をまかせるに似た欠陥をもってくるのである。要求がまとまっているので有利だとされていた職場保育も以上のような事情で伸び悩んでいる。なお，職場が散在する職種では経済的な共同保育は成立たない。こうみてくると解決は地域保育に求めざるを得ない。

地域保育所の実状　従来の地域保育所は，その管轄が文部省でなくて厚生省であることからもうかがえるように，欠損家庭や貧困多就業家庭その他の保育阻害家庭を対象に設けられた救護託児所である。保育所創設のためには，周辺に一定数の措置児（保育に欠ける乳児または，幼児と認定されたもの）が，すでに存在することが必要とされる。保育料の保護者負担は月額0～2,200円の範囲に定められ，所得によって負担額は異なる。国庫補助が充分であれば問題ないが，厚生省基準が低いために所轄市町村は出費のかさむ保育所経営に熱心ではない。保母給料を低く抑え，保母定員を少なくし，施設補修費を削るという形でバランスをとっている。こういう公立保育所は大阪府下に147ヵ所存在し（昭34．9．1．現在），これとほぼ同数の私立保育所が存在する。私立の経営は一層苦しい状態で一般に保母対遇，施設状況は公立に劣る。当事者の宗教的献身によって辛じて支えられている現状である。なお，経営難の私立では法に定められた措置児収容をある程度に抑えて，多額の保育料をとれる自由契約児を歓迎する傾向が一般化している（大阪市の平均では，昭31当時6：4の比）。本来の託児目的が半ば変質している姿といえよう。東京近辺の保育所では自家用車で子供を送り迎えする母親も出てきているという。

時代遅れになった現行法規と，厚生行政の手薄さが，あらゆる保育要求を一本化して，質の悪い従来通りの救貧託児所に誰彼構わず押し込んでいる実状といえる。これは一方では本来の対象であった貧困階層の緊急の必要をしめ出す事態を起しており，他方では高度の要求をもった層に犠牲を強いて不満を生じさせている。

団地保育所の役割　以上のような状況から職場組織を通じた保育所運動が団地という新しい土壌を得て，地域に根を下そうとした事情が説明される。発端が地域運動として盛上ったものではないが，居住者の自発的な組織がこれだけの成果を上げてきているのは見逃せない。地域福祉の新しい芽としてプランナーはこれを注目すべきであろう。しかし，利用者はまだ団地の一部の人にすぎない。実例にみたほどに運動が成功しなかった団地では待ちきれなくなって保育所のあるところへ引越した人もあるという。保育所の実現を待たずに不本意ながら出産退職した多くの人々があることをも忘れてはならない。また，保育所ができても貧弱な施設にわが子をまかせきれずにちゅうちょする場合もあろう。保育料の負担にたえられない場合も多い筈である。こうみてくると保育所に対する潜在需要は条件の変化によって急速に顕在化する性質のものであることがうかがえる。団地保育所では保育料の問題以上に保育の質が問題となろう。なぜならば，利用者は共稼ぎによってある程度の高い収入を維持できるし，かなりの負担もいとわない。一方，健全な家庭保育と比較できる水準の保育所はどんな高額料金を払っても，現在どこにも存在しない。本当に必要なのは家庭に匹敵する，完備した地域福祉施設なのである。現在の団地保育所はあくまでもその芽生えというにすぎない。

保育所反対論　一方，このような保育所運動の反面に強い保育所反対論がある。男女の職能分割論，女性の育児天職論に始まって，施設児の心理学的欠陥指摘，孤児の家庭養育制度推奨に至る雑多な次元の論理であるが，子供は一定年令に達するまで家庭で育てられることを理想としている点で一致している。一見，もっともらしい論議も集団保育の前提となる高度の技術をもった保母と充実した設備がない現状の施設育児を中流家庭の育児に比較する粗雑な論議が多い。こういう比較論は保育所システムのないために，現在余儀なく出産退職する人々が家庭育児と保育所育児の自由な選択ができるようになった時点で始めて成立つものである。そのときには，賢明な母親達が自らの判断でよいと思う方を選ぶこととなろう。婦人解放の歴史的な流れの進む中で原始的な天職論も説得力を失ないつつある。国民経済的な観点から問題の重要性が認識されて積極的な対策が打ち出されるべきときであろう。

むすび

共稼ぎの増えつつある時代の要請として，保育所は新しい重要な役割を負わされている。それは，従来の救護託児所とは異なるものである。質のよい家庭保育の機能を半ば代行するものであり，新しい地域福祉のイメージにつながるものである。団地は古い家族制度と断絶した若い家族が集り住む地域として要求がまとまりやすかったし，共同して解決する以外の道がなかった。新しいタイプの保育所が団地で初めて実現したについては，こういう必然的な基盤があった。この要求は今後も一層強まり団地の内外を問わず，各地域へ波及するものである。しかし，要求が諸々方々の立派な地域保育所として結実するためには多くの困難がある。その一つは，厚生行政の弱体，地方財政の貧困である。しかし，財政問題以前にも解決すべき困難は残されている。その中でも保育所の必要に対する一般の認識不足が最大の難点となっている。時代の必然的な勢いとしての保育所要求から目をそらすことなく，個々の姑息な解決を越えて，国民経済的な視野をもった解決の道が考えられねばならない。団地保育所の現状はそのまま肯定されるべきではないが，その先駆的役割は高く評価できる。団地を未知の可能性をはぐくむ土壌と考えるならば，そこでは“健全なコミュニティづくり”のために，もっと積極的な試みがなされるべきである。（1962．10．20）

大阪市におけるスラム・クリアランス

大阪市立大学家政学部社会福祉研究室

柴　田　善　守

序

スラムとは不良住宅地区のことである。不良住宅とはその住宅が人間の住生活に不適当であったり，またその手入や管理が不充分である住宅である。近代都市ではこのような住宅が都市の一部に密集していることが普通であり，この地区がスラムである。なぜ住生活に不適当と考える住宅に居住し，その住宅の手入や管理が不充分になるかというと，その原因は多くの場合は居住者の貧困ということができ，その密集地区はすなわち貧民街であるといって差支えない。

このようなスラムに対して19世紀来多くの社会事業が行なわれた。それらは医療とか教育とかの形で貧困者に接近しようとした。しかし住宅の問題やその地域全体の構造や施設の問題は個々の社会事業家の手に余る問題であった。少数の人達は住宅問題に手をつけたが到底スラム全体を左右することはできなかった。結局スラム・クリアランスの問題は個人の手によるよりも，国家とか地方自治体の政策として行なわれることが不可欠であるという結論に到達した。そして他方においてこのスラムの問題が衛生的にみても，風紀上からみても，また社会不安の観点からみても重大な問題であり，スラム・クリアランスは国家自身にとっても必要な政策となってきたのである。

日本においても産業革命が終って大正期に入る頃には“細民問題”が次第に国家の重大問題として考えられるようになり，貧民対策は考えられ始めるが，大正末期になると「不良住宅改良法」が国会を通過し，六大都市におけるスラム・クリアランスは法制的な義務として考えられるようになった。このスラム・クリアランスに率先して実践したのが当時の大阪市であった。以下大阪市のスラム・クリアランスについて述べてみよう。

1

大阪市におけるスラムの歴史は，江戸時代末期に始まる。当時の大阪市街地のはづれから南へ紀州街路に沿って細長く形づくられた居住地は，長町4丁（長町6丁目から9丁目までのこと）といわれ，そこは江戸時代中期頃から商業の中心として発達してきた大阪に向って集中する出稼人などの宿泊する木賃宿の集中地区であった。それが幕末には乞食，浮浪人などの集中地区となり，明治に入ると貧民窟として大きくなった。長町4丁は日本橋3丁目から5丁目までに改称したが，大阪市の近代化とともにこの地区の貧民の数はますます多くなり，明治20年頃には1万人の人口があったといわれている。しかし一方において大阪市の都市計画とともに貧民街は表通りから裏通りへ移り，さらにまた南の釜ケ崎方面に中心は移行していき，現代にいたっている。この大阪南部のスラムに対して大阪市はいろいろの対策を行なってきた。この対策の歴史は大きく二つに分けられる。すなわち大正末期までと昭和以降である。

2

大正末期までに大阪市がスラムに対して行なってきた対策は一言でいえば，スラムの居住者のためのものではなく，大阪市の他の住民のための対策といえる。すなわち，明治初期においては社会不安を理由として木賃宿を長町4丁から追放し，これを大阪四郷（大阪市街地）の内には許可しなかった。このため長町は貧民長屋の集中地となり，木賃宿は明治時代には存在しなかった。つぎに明治19年コレラがこの地区に多く発生したことからとくに不潔な長屋を取りこわした。もちろんこれにかわる住宅を与えたわけではない。明治36年現代の新世界において万国勧業博覧会が開催されると難波・千日前よりこの博覧会への通路となる日本橋3～5丁目の貧民長屋が見苦しいという理由で表通りを取りこわした。明治42年には大阪駅から阿倍野間の市電堺筋が貫通すると表通りは商店街となって発展し，この電車通りの東西の裏町に貧民窟が散在することになった。これらの貧民窟はウラといわれ“桃ノ木”ウラ，“カンテキ”ウラなどと呼ばれて特殊な貧民街を形成していた。この貧民街はさらに外からみえぬようにその出入口に遮蔽のための眼かくしがあったといわれる。

このように当時大阪市のスラム対策は追放したり，抑圧したり，また“臭いものにはふたをする”式のものであったりして根本的対策を構じるということはなかった。しかし一部民間の有志者はこの地区の貧困者の救済や教化に努力していた。明治末期には貧民学校は南部地区に三校あり，また大阪の資産家や警察官のなかにはこれらの地区の救済事業を行なおうとする人もあった。だ

がこれらの有志者の活動はこの伝統の古い大きなスラムに対して影響を与えることはできなかった。むしろ大阪市の近代化とともにスラムはより大きくなり，貧困問題はより深刻となった。とくに大正期の大阪は商工業の発展はいちじるしく大きく飛躍したのであるが，その背後にはスラムは拡大し，いままでの対策ではいかんともしがたい状況においこまれることになった。

当時の旧長町地区の貧民窟（ウラ）の状況は，5～10軒の2階建長屋群によって構成され，一戸当り建坪は4～8坪で，床下1尺5寸内外，天井の高さ4尺あれば住宅に使用されていた。採光換気は極めて不完全であり一戸当り平均人口は5.42人であった。建物は建築後20年を経て土台は腐蝕変型し，造作建具の整備されているものはまったくない有様であった。便所は共用で通路は，4～5尺の巾がほとんどであり，排水設備はなく，水道は共用が大部分を示め，水道栓一つに対して平均16，7世帯が使用していた。

3

大正末期日本における大都市の発展と，その内部におけるスラム問題は経済不況とともに，もはや放置しておけなくなった政府は，大正15年国会に提案して“不良住宅改良法”を可決せしめた。大阪市は関市長のもとに全国に先がけて住宅政策を実施することになり，翌昭和2年11月旧長町である日本橋貧民街に対する不良住宅改良事業施行の件を市会に提案している。

議案第 324 号

不良住宅地区改良法に基き別紙計画により標記事業を施行するものとす。

昭和2年11月26日　提出

大阪市長　関　一

説　明

本市旧市域における要改良地区を整理し，市民の福利を増進せしむるものとす。

これ本案を提出したる所以なり。

そして関市長は上の事業の大要をつぎのように説明している。まづ西成区東入舟町に鉄筋コンクリート3階建78戸をつくり，この住宅に該当地区の住民を住居せしめて，その間にその住民たちの居住していた貧民窟をとりこわして改良住宅を建設し，ここにまた他の貧民窟の居住者を転居せしめて，順次貧民窟をなくしてゆき，最後にすべてを鉄筋コンクリート3階建の公営住宅とすることであった。この公営住宅の各戸建坪は8.75坪であり，その内別は居室2個（4.5坪），便所（0.25坪），台所（1坪），押入（1.75坪），土間（1坪），床（0.25坪），階段（1坪）である。以上の事業は昭和2年～6年の5ヵ年間継続事業として総戸数1,661戸，経費710万余円の大事業であった。

上の提案に対して大阪市会はこれを審議するために委員会をつくり，その委員会はつぎのように報告している。すなわち従来の大阪市の住宅政策は増加する人口に対して住宅を供給するという住宅緩和の方向に重点があったが，いまやこの住宅の量の問題から質の問題に重点をおかねばならなくなった。そして市長の提案する地区については，「日本橋5丁目ヲ中心トスル東西ノ下寺町，或ハ南日東町，或ハ浪速区東関谷町，広田町，此ノ一角ハ最モ不良住宅ガ密集シテ居リマシテ而モ南大阪中部ニ近ク，此ノ地帯ハ市民ノ生活ヲ脅カス而已ナラズ市民ノ幸福ヲ増進スル所デハナイト云フコトニ鑑ミマシ心テ先ヅ此ノ地区ヲ選定シタノデアリマス」と述べている。こうしてこの提案は市会において可決され，事業は施行されることになったが，5ヵ年計画は順調に進展せず，加うるに戦争によって物資も思うように使用できない状態になり，鉄筋コンクリート3階建公営住宅団地が4で他は木造住宅となり，昭和14年をもって打切られることになった。

4

以上のようにスラム・クリアランスの政策として日本において始めて鉄筋公営住宅を建設した大阪市の英断と努力は尊敬しなければならないが，一体このような政策がはたしてどのような効果をあげたのであろうかを検討しなければならない。便所も水道栓も共用で汚穢と不潔の中にあったこれらの地区の住民が上下水道，ガスはもとより，当時珍しかった水洗便所まで完備された鉄筋アパートの中でどれだけ落ちつくことができたであろうか。事実南にある釜ケ崎はいよいよ大きくなり，旧長町に対するこのような住宅政策は貧困者をかえって結果的

改良住宅の状況

		創設年月	建築費	敷地面積	建物建坪数	建物総坪数	戸数	建物構造
			円	坪				
改良住宅	下寺町第1住宅	昭和6.12	140,019	2,109	921	2,594	264	鉄筋コンクリート3階アパート
〃	北日東町住宅	7. 6	179,051	1,202	465	1,310	126	〃
〃	南日東町第1住宅	8. 2	377,512	2,420	828	2,562	259	〃
〃	南日東町第3住宅	9.10	67,346	1,031	394	755	60	木造石綿瓦2階建
〃	南日東町第4住宅	9.10	92,419	1,507	542	1,039	86	〃
〃	広田町住宅	13.12	376,000	1,735	750	1,371	134	木造瓦葺　2階建
〃	今宮住宅	4. 2	152,588	648	249	759	17	鉄筋コンクリート3階アパート
仮住宅	下寺町第2住宅	6. 7	14,814	355	128	221	30	木造
〃	南日東町第2住宅	7. 8	27,814	611	286	519	64	〃
〃	南日東町第5住宅	10.12	17,765	287	115	212	20	〃
〃	宮津町住宅	4. 6	25,325	296	154	288	30	〃

には釜ケ崎に追いやったことになったのではないかという疑問が起されたのである。これに答えるため，昭和12年4月，下寺町，南北日東町の改良住宅居住者に対して実態調査が行なわれている。

この調査結果によれば，この公営住宅の居住者の3分の1は前任者でないということが第一に注目されねばならない。この住宅はこの地区に以前から居住した世帯数に合わせて建設されたものであって，これら地区外からの居住世帯である3分の1にあたる世帯数だけ入居しなかったことであり，またこれら入居しなかった世帯が他に行くところがあったとは当然考えられないし，結局南の釜ケ崎などの貧民街に流れたものとみて差支えないであろう。

この理由の第一にあげられることは家賃の高額なことであろう。昭和2年，これら入居者が以前に払っていた家賃の平均は7円07銭であり，これらの世帯の平均収入は69円40銭であるから，収入に対する家賃の比率は約1割であった。これをこの改良住宅に対する昭和12年の調査についてみると世帯平均収入は54円68銭であり，住宅使用料（水道料および共用電灯料を含む）は普通住宅で最高16円，最低4円20銭であり，店舗住宅で最高27円であり，最低12円50銭であり，平均して住宅使用料の収入に対する比率は約19%であり，明かに家賃の上昇をみることができるのである。

つぎに以前の貧民街を構成していた木造2階建長屋はその構造の精しいことは不明であるが，各戸2階建であったということは複数世帯の同居を容易ならしめるものであり，改良前にはほぼ半数の家に二世帯以上が同居していたのである。しかしこの改良公営住宅には同居する余地はほとんどなくなってしまった。事実改良住宅で二世帯以上同居している家庭は1割弱となっているのである。このことは家賃を二世帯以上で分割払いできることや，一戸を借りるより安い家賃の部屋借りで生活していた貧困者をして新しい改良住宅へ入居せしめなかった理由でもあろう。

つぎに入居した人達の職業は以前この地区に住んでいた人達の職業に比して変化したであろうか？これを世帯主の職のみについて比較すると，筋肉労働者が少し減少し，家内工業がやや増加している。しかし全体的な職業構成は大きな変化をみせていない。すなわち全体の約4割が筋肉労働者であり，2割が屑物商であり，1割が履物製造などの家内工業である。ここで特に問題としなければならないのは後二者である。すなわち屑物商にしても家内工業にしてもいづれも家庭が，すなわち職場となるのである。屑物商にとっては買集めてきた屑を家庭で選別し，家内工業は家庭がそのまま工場である。また公営住宅の階段や道路はもちろん，その附近はただちに物置場に変じ，屑買車の置場に変ずるのである。折角の鉄筋コンクリート3階建公営住宅も大阪市内から集められる屑物が雑然とおかれた倉庫と化してしまったのである。

のみならず日常生活に対する指導はまったく行なわれなかったから，ガスは使われず屑物を七輪で焼くことによって炊事を行ない，綺麗であった鉄筋コンクリート住宅はただちに煙で真黒になり，また水洗便所はつまって汚物が集積するという有様になった。近隣との交際は以前と同じ構造がひきつがれて，屑物を屑商から買いとるヨセ屋の親分が社会の中心となり，権力者となっており外の一般社会との間に交通はほとんどみられなかった。この地区の中心にあったセツルメント石井記念愛染園は昭和9年の室戸台風で破壊されて事業を行なわず，また大阪市の吏員の一人二人は生活指導に努力したものもあったが効を奏することなく，世は戦争時代に入ってしまったのである。

5

以上大阪市が行なったスラム・クリアランスとその効果を述べてきた。こと志と異って新しい型のスラムをつくり，一方釜ケ崎を拡大するということになったのであるが。その理由は

1. 家賃が高額であったこと
2. 入居予定者の職業を考慮してその対策，たとえば職場や物置場の設置をしなかったこと
3. 入居者に対する適当な指導が充分でなく，ただ入居させればよいという風であったことである

とくに第3の項目は現代の住宅政策における公営住宅，公団住宅にもそのまま適用することのできるものである。鉄筋アパートへの居住は日本人の従来の住生活とは根本的に異っているのであるから，その指導はとくによく行なわれなければならない。まして現代から30年前の極貧者においておやである。

スラム・クリアランスは国家や自治体によって行なわなければ不可能であろう。というのは経済的な裏づけと権力とが必要であるからである。しかし，金と力だけではスラムをなくすることは不可能である。人間の新しい住居に適応するように指導しなければならないからである。そのとき住宅に対する手入も管理も充分となるのであって，この指導がなければかえってスラムを製造することになりかねないのである。

参考文献

鈴木梅四郎：大阪名護町貧民窟視察記
桜田文吾：貧天地飢餓窟探検記
大阪市社会部報告71号
同上　222号
日東30年誌（日東小学校30年記念事業後援会）
村島帰之：どんぞこ生活

労働者福祉施設について

労働者福祉施設研究所常務理事

田　代　正　尚

1. 福祉施設の二重構造

「大きなネオンサインをつけた社宅の手前の坂道で，Kさんの足どりが重くなった。今日は別に疲れたのでも職場でうっとうしいことがあったわけでもない。ただ前方に課長とその家族が帰っていく姿をみとめたからである。課長は好人物だから，追いぬきながらあいさつをしてもかまわないでもないが，こう毎朝毎夕では……社宅の家賃はたったの 1,500円だし，会社からそう遠くはないし，申し分ないが，厚生課の係長さんざん恩きせがましく入居手続をしてもらった社宅にこのごろいや気がさしてきた。会社が建てたとはいえ公団からか，公庫からか知らないが相当の額の融資でできたものらしいからKさん自身の払った税金もめぐりめぐってその一部になっている筈だ。理窟はわかっていてもなんとも頭が上らないのが不思議だ。」

「A君は長い列に並んで，アルミの食器に入っためしとオカズを受取って，テーブルにめじろ押しのところへわりこんだ。いきなり肩をたたかれ『今日練習やで』と声がかかり，ふりむいたとき声の主はもうずっとむこうの部員に話かけていた。野球部のマネージャーである。働いているときはまったくにがりきった顔をしているのが，こと野球部となると水にかえった魚のようにいきいきして，重役から寄附をせしめたり，苦心さんたんの末，学校のグランドを都合してきたりする。A君は高校で野球部員だったし，入社してからも野球をやりたかったのでマネージャーが全然気に入ってしまった。しかし今日は売店で無理して仕立てた背広の月賦の払いがA君の当面の頭の中を支配していた。」

「二人はひやかす同僚達の目をのがれて，保養所の裏山にのぼった。草いきれのする小さな窪地をみつけて時の流れるのを惜しんだ。結婚しても当分共稼ぎだし，子供はしばらく生まないことに二人で結論をもったが，C子としては，もう30になったし，そういつまでも子供なしでいる気持にはなれなかった。二人とも系累が少なく，子供のめんどうをみてくれる人もないし，アパートの近くに託児所でもあればと思うのだが……」

サラリーマン小説のさわりのようになってしまったが，こんなことが，日本の労働者の生活の一こまであろう。労働者の生活を描いていく中に「住宅」「給食施設」「売店」「医務室」「保養所」「運動場」「託児所」といったようなものが次々に登場する。このようにわれわれは日常生活全体にいわゆる福利厚生施設なるものが，いかに深く広い関連をもっているかをみとめないわけにはいかない。

古くは悲痛な女工哀史を生んだ紡績工場の女工員寮があり，炭鉱労働者のハーモニカ長屋がある。近年はコンビナート開発や，郊外に展開する大工場には必らず労働者のための社宅や，体育施設やその他の福利施設が経営者の手でつくられている。

労働者の福利厚生施設といえば，通念として以上に述べてきたような施設のことを想起するのは当然である。ところが，社宅という給与住宅の問題や，官公庁や大企業で実施し，あるいは設置している福利厚生の制度や施設の問題が，今日大きな問題となってきている。この問題は後でふれることとするが，企業内福祉施設が存在すること，しかもそれが大企業や官公庁に遍在し，さらにその内部でも職制によって差別がついているという現状に最近ようやく問題意識をもたれるようになった。大企業や官公庁の労働者の大部分は，その生活のあらゆる面に関連している福利制度，施設が存在することに今まではほとんど当然のことと感じていたし，主管が健康保険組合や共済組合であっても，企業主や使用者のイニシャチーブが保たれており，なんらの疑問も発生しなかった。

反面，中小企業の場合はどうか？大企業が各種の面で公的資金の融資やその他の優遇策にめぐまれているのに反して，零細企業になればなるほど労働者の福利厚生施設は零に近く，それこそ女工哀史時代から数歩も出ない悲惨な状態に放置されている。そういう底辺にある労働者を救うのが，社会保障や社会保険制度であり，また社会政策の問題であることは論をまたない。社会保障，社会保険政策についてここでくわしくふれるわけにはいかないが，「国民皆保険」というキャンペーンがいかにはなやかであっても，高度成長下の資本主義国としての社会保障制度の劣悪さは数字をみちびき出すまでもなく国民全体が身にしみて感じとっているところであろう。

もちろん中小企業の場合も，昭和30年頃の景気の活況のさいから，大企業のいたれりつくせり（？）の企業内福祉に対抗してみずからの福利厚生施設の充実に乗り出

した。そこには労働組合からのつきあげも作用していることは事実であるが，企業主の立場からいえば，生産と利潤水準を維持するために必要な最低限の労働力確保のための福利厚生施設，制度は企業が生存するために不可欠の条件となっている。したがって少い経費で効果的な一時的・行事的なこと，つまり春秋のリクリエーション・運動会などがよく普及している。(註1)

最近独占大企業の圧迫に抵抗し共同化が各地でとりあげられている。すでに全国で20個所以上の中小企業団地が計画され一部実施されている。しかし，これとても，やはり独占大企業なみに政策的にも資金的にも手厚い保護は現状として期待薄であり，労働者の福利厚生施設などはどうしてもあとまわしにされているのが実情である。一国一城のあるじという意識が企業主に根強くあるし，共同化による将来の見通しには不安があるし，他企業の労働者同士のヒューマンリレーションから労働者の階級連帯意識が生れるのを警戒する向きもあって，一朝一夕に進展しないのが現状であろう。

2. 労働者福祉ということ

「児童福祉」「老人福祉」「社会福祉」等々のように「福祉」という言葉が最近やたらと流行している。「福祉国家」ということも，もし額面通りにうけとれるものならこれほどめでたいものはない。中味はどうあれ，なんとなく「福祉」といえば，有難そうなムードがでる。国民にとって「福祉」の安売りは決して有難いものでもないし，むしろ国民の生活をより向上し充実する意欲を蒸発させてしまうものである。

ひところ「福祉企業体」ということで，企業の中で労働者の一切の生活の世話をするていの構想が打ち出されたことがある。これは，日本社会の歴史的な発展経過の特異性から資本主義企業の中に大家族主義の思想がうけつがれたものであり，労働者は，その一生を企業の高い塀の中にかこまれて暮すことである。これが永い間労働者の企業帰属意識をつちかい，労働運動自身を歪めてきた原因の一つでもある。

日本の敗戦にともなって労働運動はいわば外的な要因から復活したために，その中に胚胎していた大きな弱点が2・1ストを頂点として急激な衰退をまねいた。よくいわれるように日本の労働組合は従業員組合・職員組合であって，企業毎の組織の殻がいまだについてまわっていることが，運動の最大の障害になっている。欧米では，労働組合は産業別に整理されており，労働者はその産業別組合に個人として加入しているし，同時に例外なく生活協同組合に加入している。その上，社会保障が相当に整備しているために，欧米労働者の生活は日本のようにたえず深淵にのぞむような不安が少くないということである。したがって，いま労働界で大きな問題になろうとしている労働者の自主的な福祉運動は諸外国に類のない日本独特の運動である。労働者の福利厚生ということは「労働福祉」「勤労福祉」ともいわれ「労働者福祉」ともいわれる。それはみな同じことなのだろうか？労働者福祉の意義を組織労働者は「労働組合が中心になって組合員のために，地域や全国的連帯の中で独自にかあるいは別人格の方式で行なう福祉に関する一切の運動と事業」であると規定している。(註2) そうだとすれば，企業主のイニシャチーブになる「企業内福祉」や官制の「労働福祉」とはまったく対立したものと考えられる。

概念を具体的につかむために，いわゆる「労働者福祉活動の組織」としてあげられるものを簡単に述べるとつぎのようなものがある。(註3)

1）労働金庫

労働者組織の出資による労働者のための金融機関である。昭和25年兵庫・岡山で始めて設立され，現在はすべての府県にできている。労働金庫の当面の問題は各企業が行なっている社内預金の問題がある。

2）労働者共済生活協同組合

火災と生命を二本の柱とする労働者の保険組合である。昭和29年以来，大阪，新潟，富山，長野，北海道，福島，東京その他40府県に結成されている。中央に全国労働者共済生活協同組合連合会（労済連）が確立されている。

3）消費生活協同組合

歴史はもっとも古いが，労働組合が組織としてとりあげたのはそう古いことではない。日常繰り返される労働者の消費生活を守り向上させるものである。独占資本の販売網と無数の零細な小売商業者の間にまじって生協の機能を発揮することには非常な困難がある。そのほか，生活協同組合としては，医療，住宅その他があるが，まだまだこれからの課題が大きい。

3. 労働者の自主建設

以上のような労働者の自主的な福祉事業にともなう諸施設が当然必要であり，戦後かなり各地で建設されているようであるが，労働者福祉の問題が本格的な議題にのぼっている今日，全国的な集約と成果の検討が必要であろう。

各地で「労働会館」「労働福祉センター」「労働者クラブ」などという名で集会を中心にした施設がある。いずれも労働者が組織としてイニシャチーブをもっていたものが，その後の経過をみると，あるいは完全に官側に移管してしまったり，他へ身売りしてしまったりしたものが多い。（単産の中央会館は例外であるが）

住宅については労働者の自主的事業体として日本労働者住宅協会（労住協）がある。これは昭和33年に建設大臣認可を得た財団法人で，全国で累計5千余戸の住宅を

建設している。しかし，労住協は住宅金融公庫の窓口という性格から，いろいろの制約と限界があり，今日の労働者住宅問題を運動として主体的に推進するにはかなり難しい問題がある。

当面，労働者が企業内の給与住宅から脱脚し，住宅建設の自主的な実行体として期待しうるものは協同組合所有による賃貸住宅である。この点1961年の国際労働機構（ILO）が採択した「労働者住宅に関する勧告」の意義を繰り返し強調したい。(註4) ILOの勧告は労働者組織でようやくひろまりつつあるとはいえ，一国の政治問題としてとりあげられるまでに発展していないのは残念なことである。とくに国民の住宅建設を担う建設家，建築技術者にとってはあらためてILOの勧告に待つまでもなく，住宅問題を第一義的にとりあげなければならないことはいうまでもない。

住宅を始め労働者の自主的福祉施設として考えられるものを列挙すればつぎのようなものがある。

1. 住宅，宿泊施設
2. 労働金庫，マーケット等
3. 病院，診療所，療養所，保養所等
4. 保　育　所
5. 遊戯場，図書館，展示場，音楽堂等
6. 体育館，運動場，休暇村等
7. 集会場，会議場，劇場，映画館，食堂等

これらの中，たとえば，住宅に分類されるものでも，鉱山や遠隔地の事業場に附随する住宅や，交代制のために必要な寮や宿泊施設，保育，授乳施設，保健衛生施設技能訓練施設，給食施設，通勤施設などは本来生産過程で労働力を保全し，働きよくするための施設であるから労働者の当然の権利要求として位置ずけられなければならないものがかなりあるであろう。したがってこれらは福祉施設でなくむしろ生産施設というべきであるが，いままで企業主側はこれを温情的，恩恵的なものとして労働者に押しつけていたものである。

「アメリカの労働組合はゆりかごから墓場までの一切の世話をしている」という。こうなれば，労働者福祉施設はほとんどあらゆる社会福祉施設に包括されるし，あえて労働者福祉施設として区別することも無意味になる。したがって，ここでいう労働者福祉施設は以上述べてきた日本の労働者福祉運動の現実とその指向する当面に必要な施設を一応定義ずけておくことが妥当であろう。

列挙した各種の施設について個別に深く堀りさげて検討しなければならない問題が大きく存在しているが，これは今後の発展を見守るなかで，詳しくとりあげていくとして，ここでは共通した一般的な問題としてとりあげることを許していただきたい。

4. 地域開発と労働者施設

K製鉄が新工場建設にともなって，社宅団地を建設した。デラックスとまではいかなくてもかなり瀟洒なフラットのあいだに遊園地があり，プールでは団地の子供達が遊んでいる。団地の周囲は高い金網フェンスで区画され，周辺民家の子供達はネットにしがみついて食入るようにプールの子等をみつめている。まるで植民地的風景である。

大企業の労働者が企業内福祉のとりこになっているかぎり，労働運動の正しい発展は期待できないし，まして国民の要求の先頭に立つことなどは観念の遊戯に過ぎないものとなろう。

企業内福祉を打破する一つの方策として労働者組織による自主建設がある。しかし，これが○○労働組合とか地区労とか，総評とか全労とかが建てたものであるからその組織の労働者だけの施設であると主張したらどうであろうか？

まだまだその数も規模もわずかのものであるとはいえすでに大都市をもつ東京，兵庫，京都などの府県では，労働者住宅団地が10万坪，20万坪という単位で計画されている。日本の大都市はさまざまの規制措置や計画はあっても，依然としてアメーバ状に周辺へ周辺へと拡がり無政府的な混乱状態がますます深まっていっている。

このごろは文字通り山をけずり海を埋め，禿山と泥海で国土が荒され放題である。そして，その数はわずかとはいえ，労働者住宅団地も都市の混乱に拍車をかけることになるのではないか？労働者の住宅用地だから農民組合と直接話しあって中間搾取なしで用地が確保される。これぞまさに労農同盟の実証なりという。労農同盟して国土荒廃に一役を買うことになるのではないだろうか？

地域開発や都市再開発の問題は革新勢力のとりくみも弱いし，まして労働者組織にとって無縁に近いものとされてきた。今日，自治体労働者が行なっている自治研集会などでようやく真剣にとりあげられ始めてはいるが，まだ災害防止とか，独占資本の企図の暴露といった守勢的・消極的な立場からあまり出ていないようである。

労働者が生産点をはなれれば，いやおうなしに地域住民であり，組織労働者だけが労働者でもない。そういう地域住民，地域社会の現実の姿を弁証法的に捉え，地域計画，都市計画上のコミニティ概念を根底からつくりかえていく必要があろう。労働者が地域連帯の中でつくり出していく諸施設は地域社会との関連をぬきにして考えることはできない。開発計画を血の通った生きた人間像を基本にした姿にするためには，労働者，市民組織が自らの建設プランをもつことが大切である。

5. 労働者福祉と建設技術者，建設労働者組織

端的にいって，現在の労働者組織における技術アパシー（無関心，無感覚）はまだ強い。したがって建築設計という精神労働に対する正しい評価を期待することができないことも否定できない。これは労働者組織の事業活動そのものが，きわめてわずかの経験しかもっていないためでもある。

いままで行なわれた事業にも，もちろん技術者の個別的協力があるが，そこでは技術者は要するに「建築屋」であり「設計屋」であって，技術の切り売りに過ぎない。そういう営利主義的ルールでドライにわりきった関係では一応のまとまりはあるにしても，運動推進に積極的作用をうけもつことはできないであろう。

また事大思想も労働者組織といえど例外なく深いものがある。××大学工学部建築学科教授なら，建築についてのオーソリティーであるといって，その先生の専門とはお門違いのことにもご指導をあおぐというケースをよく耳にする。こういうアパシーや事大思想は双方から克服していかなければならないが，それにしても労働者の立場にたつ民主的な技術者の組織の不毛をなげかざるをえない。

戦後の民主々義昂揚期にいわゆる建築運動の組織として建築界の民主化を進める一大勢力であった新日本建築集団（NAU）は，もはや昔語りとされるほどに凋落して久しい。とはいえ，その当時，先頭きって活躍した建築家諸氏のほとんどが現在建築界の各分野で相当の重きをなして健在である。NAUが旗印に民主的建築運動はその役割をおえて，その存在意義を失なったのだろうか？あるいは，あのような運動は熱病的な一時の流行に過ぎない浅薄なハネ上りだったのだろうか？

「協同設計」「民建方式」というような，極めて斬新であり，意欲的な建築設計と生産方式を打ち出した先進的組織の中央が瓦壊したのち，関西では東京ほど先進的でもなく，運動理論も不充分だが，とにかくNAUの伝統組織だけは辛うじてその灯を消すことなくつづいてきた。

労働者福祉の運動が整理統一の時機にきている今日，技術者の組織的協力事業体として「労働者福祉施設研究所」がNAUの伝統をつぐ関西での運動体，新建築家集団（NAC）を母体として誕生した。まだ建築技術者のあいだでもまったくの微小グループに過ぎないし，現段階で評価することは早計であろう。今後の方向ずけに重大な関心をはらわなければならない。

全国4万の一級建築士を始め，数十万におよぶ建築技術者のうち相当数がなんらかの労働者組織に加わっていることが考えられるし，労働者組織がそういう技術者の技術を組織自体の運動に生かすことを真剣に取り組むならば，非常に大きな力量を発揮することは想像に難くない。

いまひとつ，建設労働者組織については，東京では建設労働者自身が生協をつくり自主建設を進め，東京住宅生協に発展している例もみられるが，まだ全国的にみれば，労働者の自主建設と建設労働者組織の結びつきはそう多くはない。もちろん，労働者自主建設と技術者，建設労働者組織との結びつきは，素朴，率直に考えられるほど甘くはないし，むしろ困難な問題の方が多いといえる。しかし，建築界で労働者の問題を今一度深く掘りさげ，歴史的経験を整理する時期がきている。ヒューマニズムの建築論争が未消化のままであることもあわせて，この分野での論議の展開を期待したい。

おわりに

労働者福祉の問題が，労働運動の中に評価され正しい位置ずけが努力され始めたのは，ようやく最近のことであり，これまで各所で建設されてきた労働者の諸施設についての集約検討は今後に展開されなければならない。したがって，今の段階では実例，資料経験をもとにした諸施設の方向ずけを論じうるまでには至っていないので内容が極めて乏しいものにならざるをえなかったことは残念である。

いずれにしても，労働者福祉施設については未開拓の分野が多く，建築研究者，技術者としても広汎な組織的な取り組みが望まれる。

註1：大阪府労働部労政課「大阪府下工場事業場における労働福祉実態調査報告書」昭37.7

註2：旬刊労働福祉資料9月15日号（労働福祉中央協議会機関誌）

註3：三一新書「社会保障と労働者福祉」公文他二氏著

註4：労働者住宅シリーズ6「ILO労働者住宅勧告の普及と住宅生活協同組合確立のために」全国労働金庫協会編
ILOの勧告については，この他雑誌国際建築「労働者住宅の問題，ILOの勧告をどのように受けとるか」1962年2月号，その他全国労働金庫協会，日本労働者住宅協会発行のパンフで紹介されている。

社会福祉施設実例八点

1
老人ホーム
堺市立八田荘



2
老人ホーム
神戸市立福寿荘



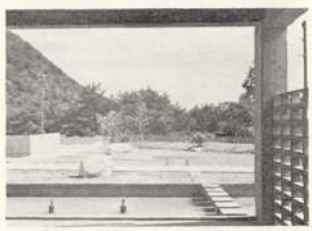
3
老人ホーム
朝日ケ丘荘園



4
救護施設
神戸市立救護院



5
精薄施設
精華園
赤穂学園



6
保育所
愛染橋保育所



7
福祉会館
早川福祉会館



8
福祉会館
新潟県労働者
福祉センター

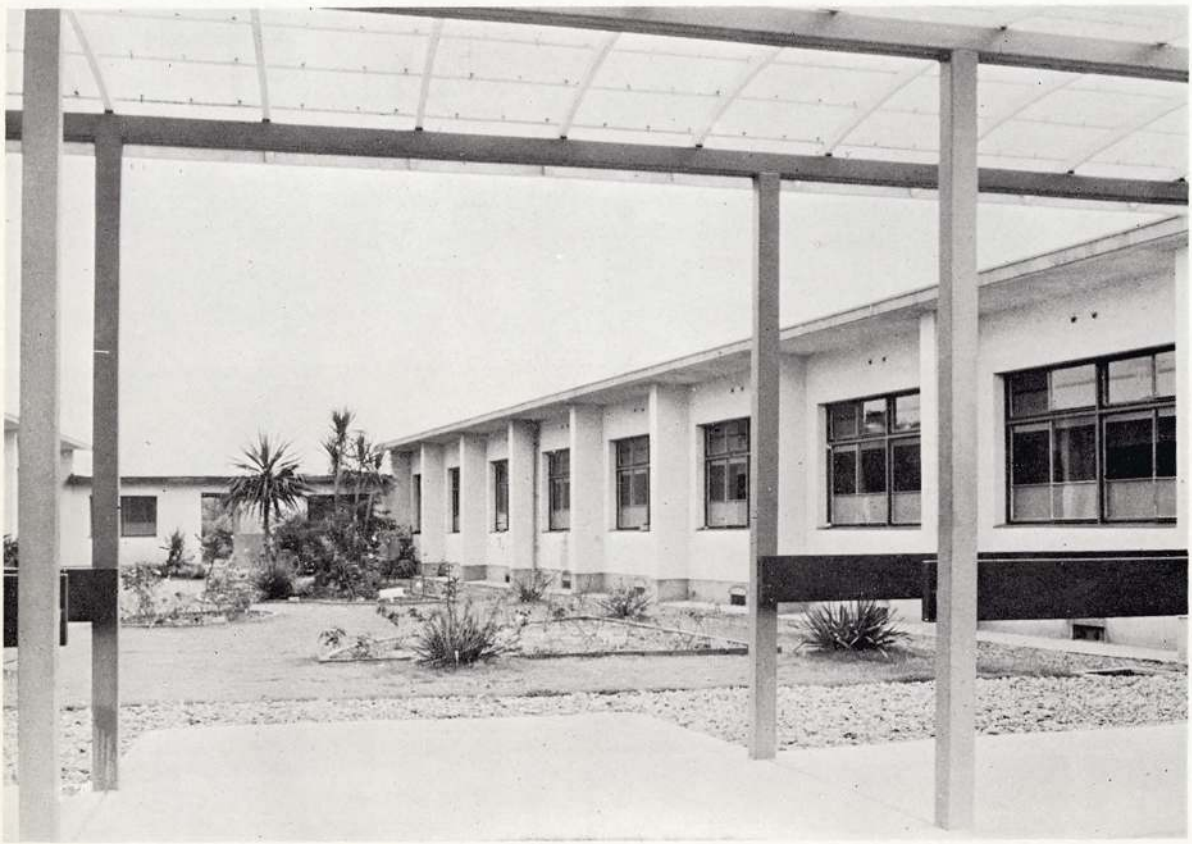




堺市立八田荘老人ホーム

設　計：堺市建築部営繕課　　施　工：西田工務店

上：主玄関外観
下：渡り廊下より中庭と棟をみる



建築位置	堺市八田南町168番地
敷地面積	13,000m²
建築面積	2,275m²
構造	鉄筋コンクリート造平家建（棟数8棟）
工事費	44,737,000円



廊　下

設計のことば

堺市建築部長　島田　一

本市では，当時155名の老人を各養老院に分散収容委託しておったが，なお居宅保護を受ける者のうち養老施設へ収容すべき老人も多数あり，しかも既存の施設は木造で非常に老朽していたため，新らしい保護施設の必要から建設の計画をしたものである。

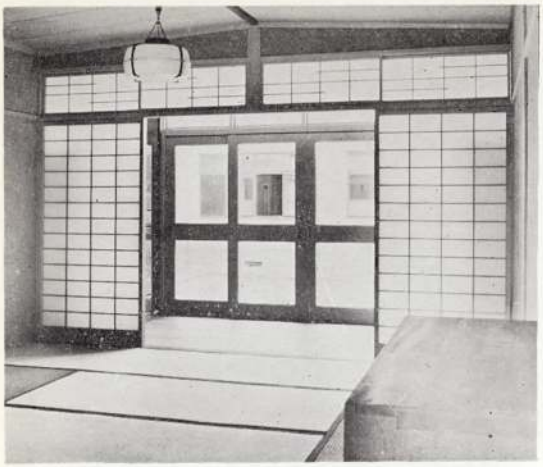
候補地は，市の中心部より約8粁南部の閑静な松林に囲まれた標高30米の丘陵地で，東に池，果樹園，畠などあり，西に田園を展望する環境のよい場所であるが，土地の高低差が著るしく約8,000立方米の土を切り取らねば平地が得られないところで，幸い敷地内北側に深さ16米以上の谷があり，切り取った土は谷に埋め，進入傾斜路を設けて最大限の平地を構成した。

人生の終着駅に近い老人たち，社会的に疲れ果てた人たち，施設自体がややもすると一沫の淋しさ，冷たさを持つ雰囲気，このような気分を一掃し，老人ホームに入ることによって余生に生甲斐を感じるような環境を建物のなかに創り出すべく努力した。

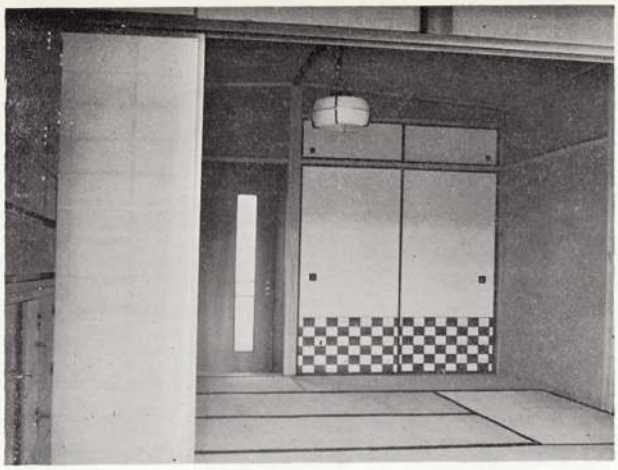
限られた予算内でできるだけ近代的なセンスを採入れ，老人の生活に快適な気分を盛り上げるよう配慮して計画を進めたが，三期に亘る工事のため収容人員数および次期工事との関連，その他工事上考慮すべき点が多く，計画途上非常な苦心を払わねばならなかった。一応三期工事が完了し，全体計画には未完成であるが，想像に近い建物ができたと思う。しかし，一昨年度よりの建設費の高騰のため，三期に予定された建物が一部次期に延期せざるを得なかったことを付記する。

配置・平面図





個　室



個　室

堺市立八田荘老人ホーム



浴　室



食　室

工事内訳

	床面積	工事費	工期
敷地整地工事	13,000m²(全体面積)	472,000	34. 1.30～34. 5.23
第1期工事	744m²	12,723,000	34. 3.20～34. 7.31
第2期工事	865m²	14,807,000	34.10. 9～35. 2.25
第3期工事	547m²	13,995,000	36. 9.14～37. 3.22
食堂及倉庫増築工事	119m²	2,650,000	37. 8.20～37.10.20
合計	2,275m²	44,265,000	
総合計		44,737,000	

主要室内外仕上

室名＼仕上面	床	巾木	腰	壁	天井	外壁
玄関ホール	一部現場テラゾー 他アスタイル貼りボーダー人研	人造石研出	一部モルタルコテ押えゾラコート吹付 他モルタルスプレットサテン塗り	プラスター	一部リシン掻落し 他アートボード打上げ底目地貼り	一部2丁掛けタイル貼り他青石乱貼り仕上げ
所長室並応接室	アスタイル貼りボーダー人造石研出し	同上	モルタルコテ押え ビニールクロス貼り仕上げ	同左	三井ボード打上げ底目地貼り ビニールペイントローラー掛け仕上げ	リシン掻落し仕上げ
廊下	同上	同上	モルタルコテ押えスプレットサテン塗り	プラスター	アートボード打上げ底目地貼り	色モルタル吹付仕上げ
浴室	モザイクタイル貼り	タイル貼り	同左	同左	レジノ浪形鉄板貼り	同上
個室	一部アピトンピーリング貼り 他タタミ	一部色漆喰塗り 他センイ壁			杉柾ベニヤ底目地貼り 舟底天井	同上
軽量鉄骨造渡廊下	モルタルコテ押え目地切り	吹抜き 金物類油性ペンキ塗り			屋根エスロン浪板葺き	吹抜き



神戸市立軽費老人ホーム　福寿荘

設計監理：神戸市建築局営繕第１課
施　　工：港建設工業株式会社

所在地　神戸市須磨区板宿町1丁目3番地
規　模　構造　補強鉄筋コンクリートブロック造　２階建
敷地面積　２８３．８１坪
建築面積　１３６．２４坪
延面積　２５３．７９坪
総工事費　２１　２０４，６１２円
（内国庫補助金　5,025,000）
施設内容　収容人員　５０名
居室（１人３帖室20室，２人室６帖15室），集会室（和室），応接室，医務室，食堂，厨房，浴室，静養室，事務室，宿直室，洗濯室，便所，倉庫





上：中庭より　　下：玄関前廊下



設計者のことば

神戸市建築局営繕第1課

本施設は，社会事業法第2条第2項にもとずく軽費老人ホームであって，昭和36年度厚生省より軽費老人ホーム施設整備費により補助金をうけ設置したものである。

設計に当っては，補助の関係もあり厚生省の軽費老人ホーム設置運営要綱によることを主眼とした。すなわち低所得階層に属する老人であり身寄りのない者を低額な料金で収容し，医学的心理学的配慮のもとに健康的で明るい生活が送られることを主眼としている。

まず敷地環境は交通便にして，郊外住居地域内の旧別荘跡で申し分ないが，多少狭少の感じである。建物は設置要綱によれば1人当り所要延面積は14.85m²（4.5坪），居室については原則として1人有効面積は4.95m²（1.5坪）以上となっており，できるかぎりこの範囲内で収めるよう指示されたが，当初予定の1人4.5帖と押入付居室を，予算の関係で，3帖押入付に変更せざるをえなくなったので，集合室，応接室など共用部門を完備するよう努力した。

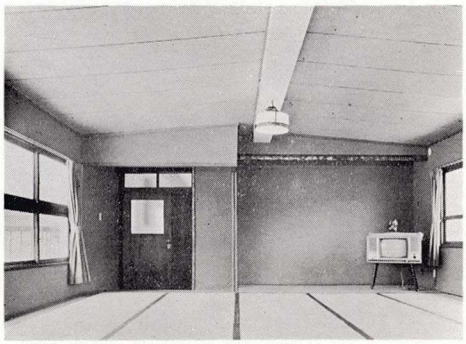
構造についても最低簡易耐火構造とあるのでコンクリートブロック造とした。配置については当初南面の前庭をなくして中庭を強調するよう考えたが，日照などの関係もあり南面前庭をとることにより環境に変化をもたせた。主として管理部門および共用部門を北側および東面にとり配置を考えた。集会室については当初洋式の意見もあったが，和室の方が結果喜ばれているようである。全般としては階段，廊下，便所，浴室などに手摺を，便所には汚物処理器など老人にたいする心ずかいを考えた。居室については6帖夫婦室は問題はないが，合部屋は嫌らわれる恐れがあり各個独立した個人の生活を楽しむ孤独さを考慮すべき点があった。

以上設計の観点からのべたが，経営面については，この種施設の国庫補助金としては坪当り1人44,000円の5割，4.5坪までで50人最低として100人までとなっており，経営団体は国または地方公共団体または社会福祉法人となっており，利用者は資産所得10,000円，年令65才以上，利用料は7,000円以下で権利金その他一切はないものとしている。

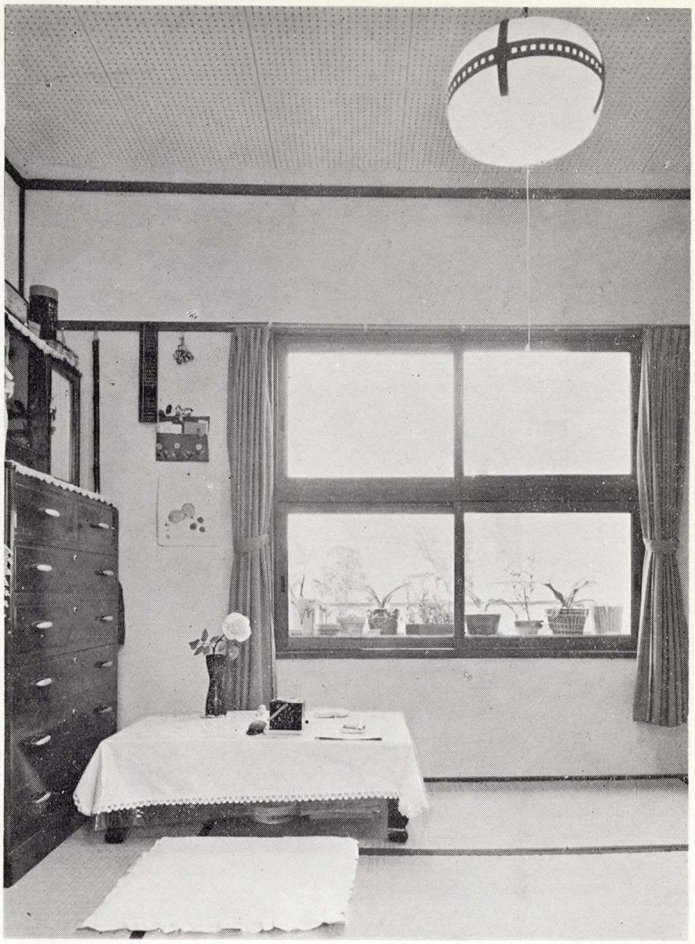
本施設では平均年令75才であり，利用料は1室1人で使用なす場合は月額7,000円，1室を夫婦または親族2人で使用する場合は6,500円，合部屋は6,000円，外に暖房費月300円を必要としているが，事実上，運営費については1人5,000円の持出しの状況であり，政府も近く運営費については来年度当りから考慮する考えがあるようである。

この種建物が社会補償制度の一環としてますます増加することは必要と思われるが，この建物はとくに東京都および神奈川県につぎ3番目の建物である。予算の関係もあり十分なる施設とはいえないが今後ともご批判をいただけば幸甚と思います。　（記　今村智則・加納久司）

神戸市立軽費老人ホーム
福 寿 荘

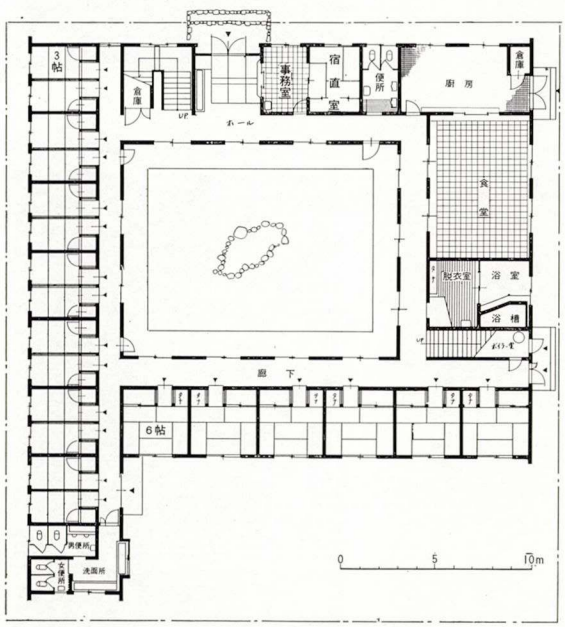


集 会 室

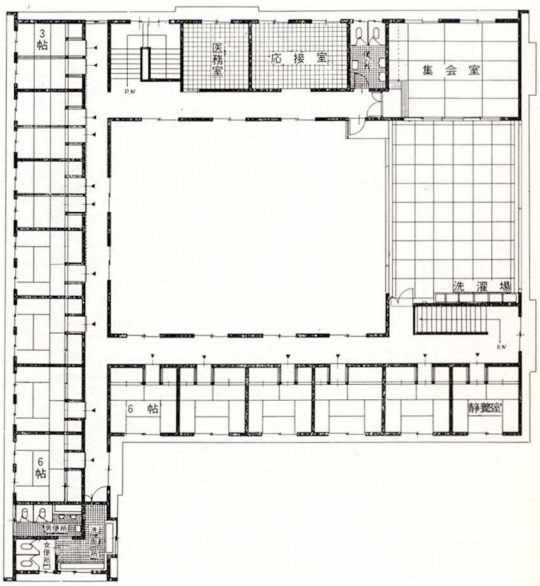


居 室（6帖）

1 階



2 階



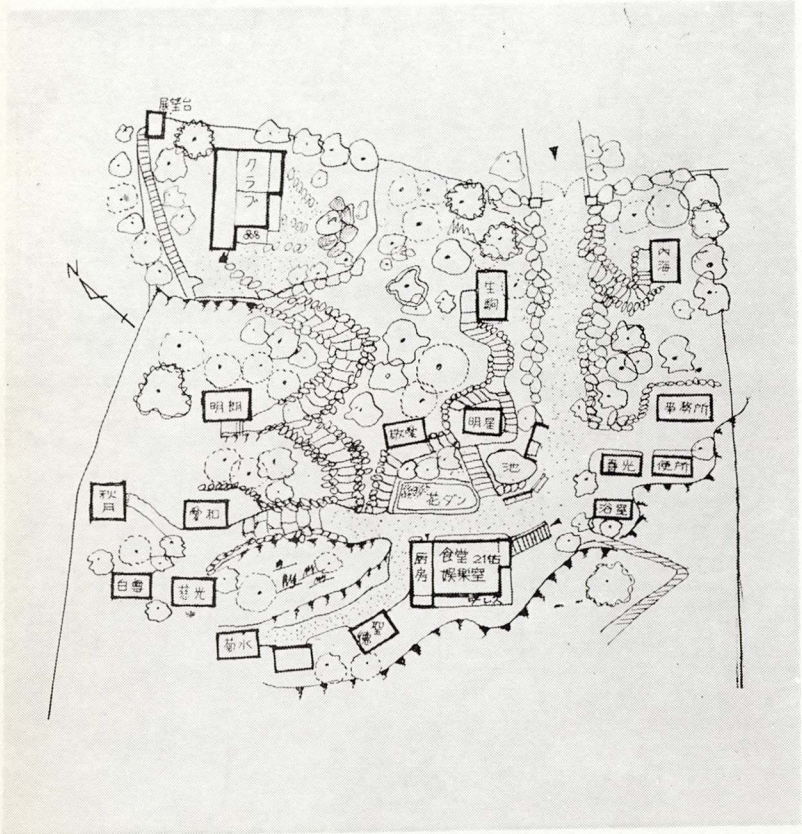


芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘園

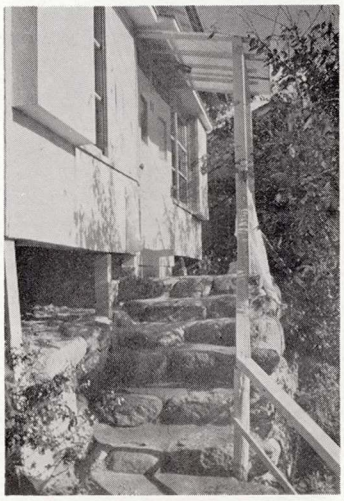


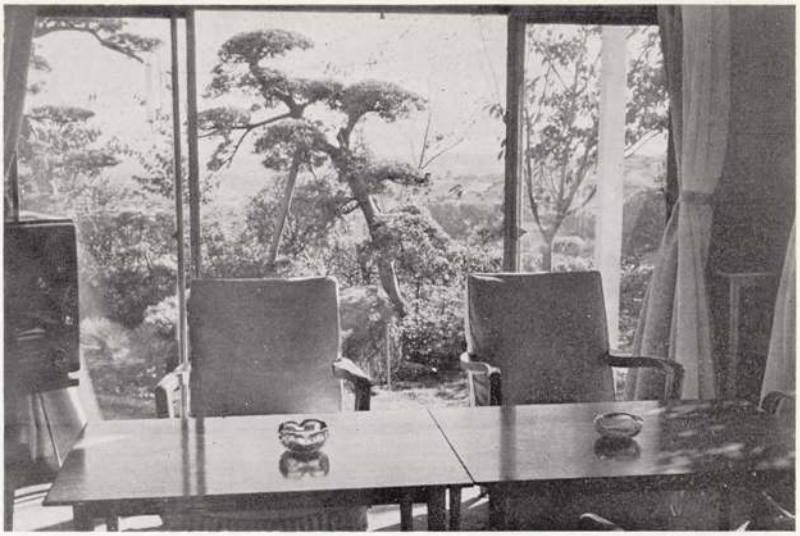
写真は独立した小住宅の数点

芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘園配置略図









見はらしのよいクラブ談話室

クラブ居間



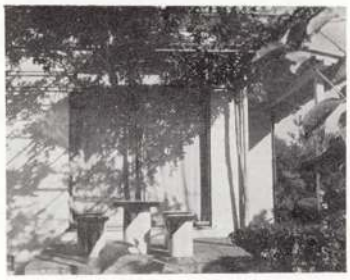
芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘園

園長：三上法道

クラブのテラス



クラブ外観



食堂・娯楽室内部



クラブ外観



芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘園について

このホームは，国鉄芦屋駅より約15分バスにゆられ，山手に向けて約10分ぐらい歩いたところにある閑静で南斜面の景色のよい台地に位置している。敷地は2,550坪で，春は桜，つつじ，新緑，自然の美しい環境のなかで，小鳥のさえづりを聞きながら，大阪湾を一望のうちに見おろされる。ホームは，それぞれ独立した小文化住宅式（木造一13棟）となっている。そのタイプはおおむね，4.5帖の個室を2つもつ木造の文化住宅で，6帖の個室をもつタイプのものもある。このほかに小集団方式として，食堂・娯楽室（22帖）・調理室を兼ねた1棟があり，また，浴室，事務室，宿直室等々が適当に配置されている。さらに一段と高い台地には，みなで楽しく使うことができるクラブハウスがある。このクラブハウスは談話室と居間が主な部屋であるが，展望がよく，この荘園の方々だけでなく，他の人でも入園者の紹介があれば，クラブ員として利用できるようになっている。

この朝日ケ丘荘園の特色は，なによりも花を作ったり，鳥を飼ったりして，自由に屋外生活，それも，山手の見はらしのよい，空気のよい，太陽と緑にめぐまれた台地の屋外生活を十分に楽しむことができる点にあろう。

入園者は60才以上であるが，希望者は一名の紹介者と一名の保証人連署で戸籍謄本を添えて申込むことになっている。健康診断書も必要とする。因みに入園費用は，契約金3万円，入園料3万円，保証金15万円，生活実費毎月1万2千円ていどである。



神戸市立救護院

設計監理：神戸市建築局営繕第1課
施　　工：株式会社 岡 工 務 店

所在地　神戸市須磨区養老町1丁目35番地
敷地面積　2,900坪
建坪・延坪・構造

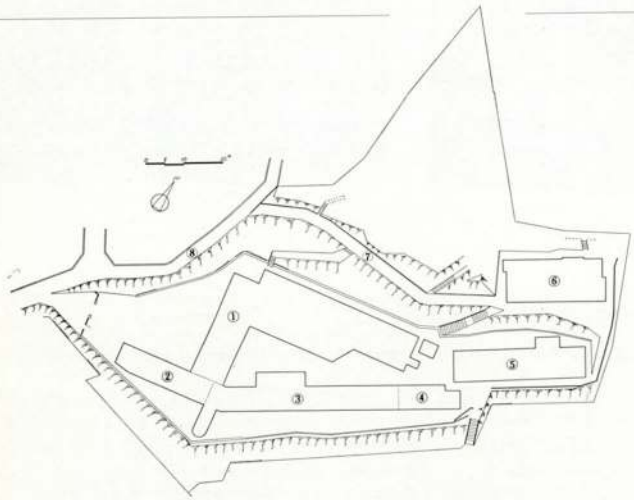
建築年度	建坪(坪)	延坪(坪)	構　造
昭和32年		90.81	補強鉄筋コンクリートブロック造平家
昭和35年	115.50	231.00	鉄筋コンクリート造（壁式）2階
昭和36年	245.50	321.70	組立鉄筋コンクリート造（プレコン造）2階
昭和37年	167.70	327.39	鉄筋コンクリート造（壁式ラーメン）2階（施行中）

工事費

	総　額	国庫補助額　内容(補助金)
昭和32年度		
昭和35年度	14,525,000	4,686,000(坪@42,000の5割)
昭和36年度	25,770,000	7,072,000(〃 48,000 〃)
昭和37年度	39,081,000	9,332,000(〃 55,000 〃)

施設内容

（現在）	養老施設	100人収容（完成）	120人収容
	救護施設	50 〃	120 〃
	計	150 〃	240 〃



救護院配置図　　敷地　9,572.21m²

①本　館	プレキャストコンクリート造2階建	延	1,063.47m²	
②医療棟	鉄筋コンクリート造2階建	延	321.40m²	（工事中）
③養老棟	壁式鉄筋コンクリート造2階建	延	762.00m²	
④ 同上	同　上	延	176.84m²	（工事中）
⑤ 同上	補強コンクリートブロック造2階建	延	300.20m²	
⑥救護棟	壁式鉄筋コンクリート造2階建	延	582.35m²	（工事中）
⑦構内道路				（工事中）
⑧公　道				

計　3,206.26m²

救護院設計者のことば

神戸市建築局営繕第1課

本施設は大正13年，養老，救護，医療，児童，母子，厚生の綜合施設として開院したもので，その間救護法時代を経て，昭和25年生活保護法が施行された当時木造2階建延638坪の規模で収容人員200名であった。32年度にコンクリートブロック造の救護棟の増築をなし，他木造建物老朽により35，36，37年度にわたり耐火構造にて全面建替を続行しており，今年度中に一応形態が完成されるものである。

設計については，敷地状況が好条件でなく崖地および旧地形が谷間の盛土などにより建物全面にわたり基礎杭打工事を施しており，また地形不良による配置計画に至極難点が感じられたが，一応正面に管理部，2階に集会室，北棟に食堂，厨房，作業室などの共用部分を集め，各棟は主階段はスロープ階段にして連絡をし，南面に養老棟，北面東面に救護棟を配置した。

各室の特色はないが，特に厨房施設は近代設備とし食堂関係も一時給食をなすよう配慮した。各構造については，時代の経済状況を反映して種々異ったのも地方公共団体の特色ではないかと思われる。

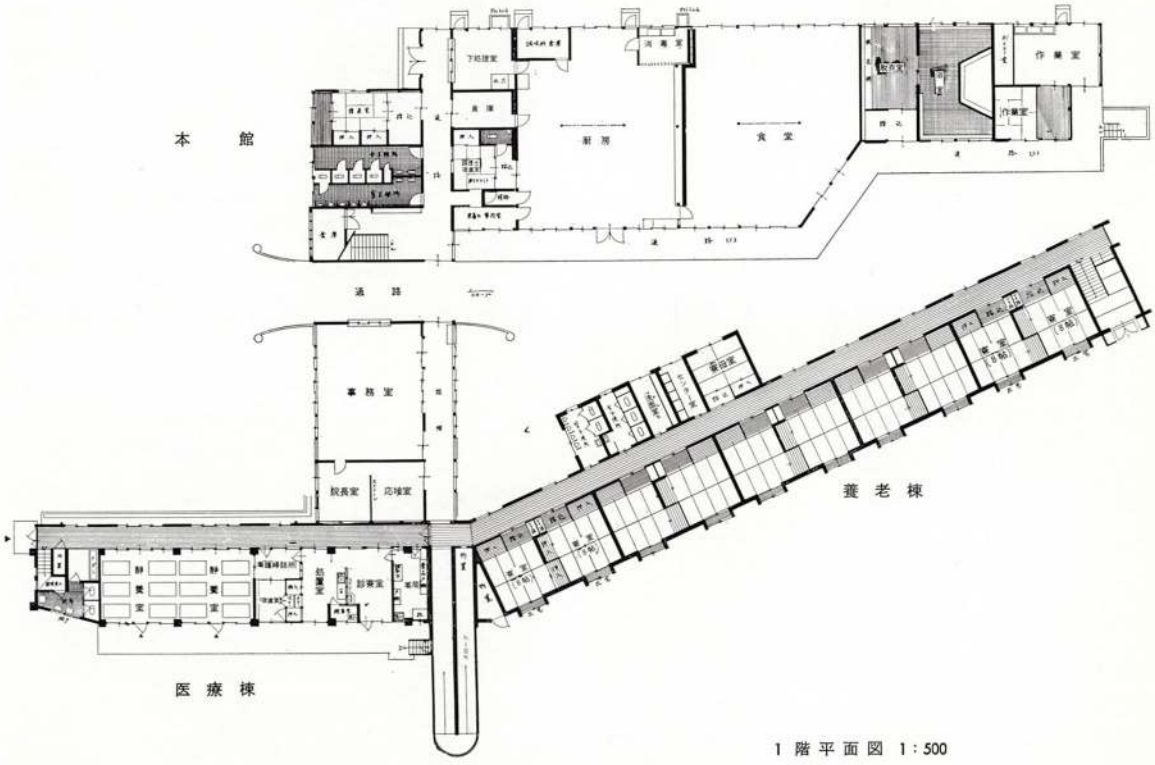
現在社会補償制度が叫けばれている現今でも，この種建物の予算および認識の貧困が伺われるが，一応経営内容および収容者資格などを紹介すれば，すなわち生活保護法（昭和25年法律第144号）による，保養施設の養老施設とは原則として老衰のため独立して日常生活を営むことのできない年令60才以上の要保護者を収容して生活扶助を行なうを目的とするもので，救護施設とは原則として日常生活の用を弁ずることのできない年令18才以上60才未満の要保護者を収容して生活扶助を行なうを目的とする。

経費としては1人月に生活費3,780円，事務費については養老施設3,640円，救護施設4,282円，合計約8,000円余りとなり，そのうち国庫8/10，市費2/10の比率となっているが，各施設とも2,000～3,000円の持出しが予想される。

（記　今村智則・加納久司）



スロープ踊場より養老棟を望む



1階平面図 1：500



食　堂

神戸市立救護院

救護棟１階



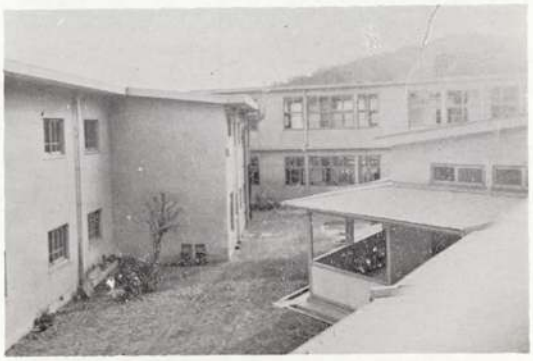
養老棟１階





養老棟の寝室一部

全　景





赤穂精華園外観

精薄援護施設

兵庫県立精華園（大人）
兵庫県立赤穂学園（子供）

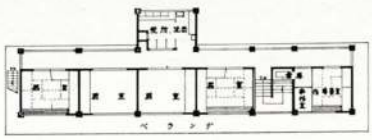
設計監理：兵庫県建築課
担当　三川栄吉
　　足立英雄
　　猪沢徳忠
施　工：小西工務店



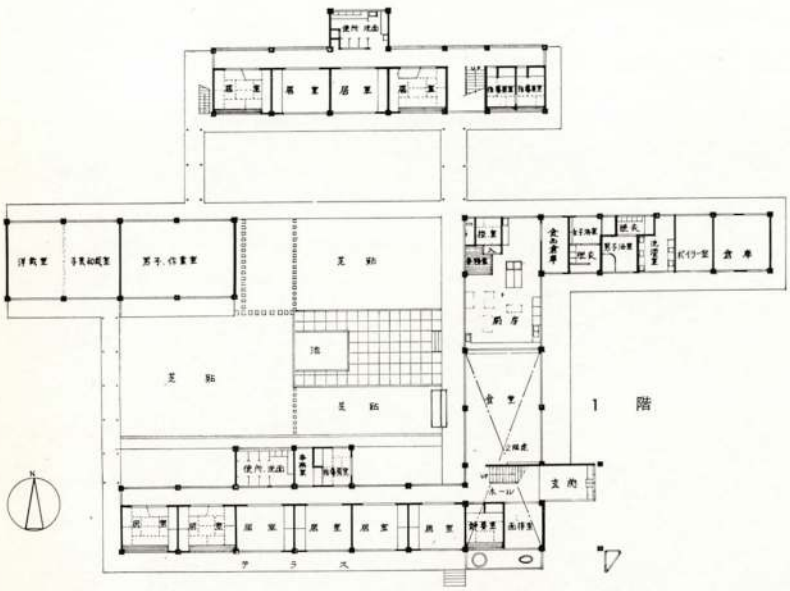
兵庫県立精華園







2　階



1　階

所在地　兵庫県赤穂市大津
構　造　鉄筋コンクリート造　一部2階建
収容人員　男 40名　女 30名　計 70名

坪数	1階 m²	2階 m²	延 m²
本館管理棟	176.04	133.92	309.96
設備棟	207.36	——	207.36
女子棟	233.28	——	233.28
男子棟	205.44	205.44	410.88
作業棟	155.52	——	155.52
渡廊下棟（軽量鉄骨平家建）			12.24
		延合計	1,329.24
			（402.8延坪）

屋上防水　カネボーゴーレックス
外　壁　モルタル塗，刷毛引，ヘキサイト塗
室内天井　タイガボード貼，ヘキサイト塗
壁　モルタル塗，鏝押エ，ヘキサイト塗
床　居室タタミ敷，廊下・食堂アスタイル貼

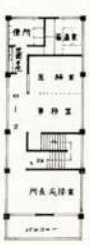
設計者のことば　（精薄施設　精華園）

精華園と名づけられたこの建物は，成人精薄者を収容するもので，必要な知識や技能を与え，職業的にも自活できるように，作業や訓練をさせ，社会復帰させることを目的として建てられたものである。この建物は，赤穂市の街はずれ，三方山に囲まれ南が開けて，東側に谷川があり環境も良く，絶好の敷地に建てられている。

この種施設の決定は，敷地の選定が困難で，せっかく良い敷地があっても，地元の反対があったりして，不便な場所に建てられることが多い，幸いこの敷地は，元果樹園であり，最初調査に行ったとき，素晴しい土地だと感じ，ここに恵まれない人，社会から忘れられようとしている人たちのために，最上の施設を創ろうと思った。

この地には，これより早く精薄児施設，赤穂学園（建築と社会1960年12月号参照）が建っており，成人施設を隣接することは，好ましくないという意見があったが考慮の末，あらゆる面で効果的であり，初めての試案として，隣接して建てられ，運動場は共有して使用することにした。プランニングにおいては，赤穂学園と少し異り，男女の寮舎を南北に分けて，動線を明確にしたことと，男子寮を2階建にしたことである。この種の建物で陥り易い，単調で味気のない建物でなく，明るく楽しい生活ができるように，建物のみでなく，環境にも意を用いて，プールを造り，芝生を貼って，うるおいのある空間を創りだすことに努めた。

数少ないこの成人精薄施設に入っている人たちが，早く社会に復帰できる日を祈るとともに，ますます調査研究して立派な施設を造っていきたいと願っている。　（三川栄吉）



2　階

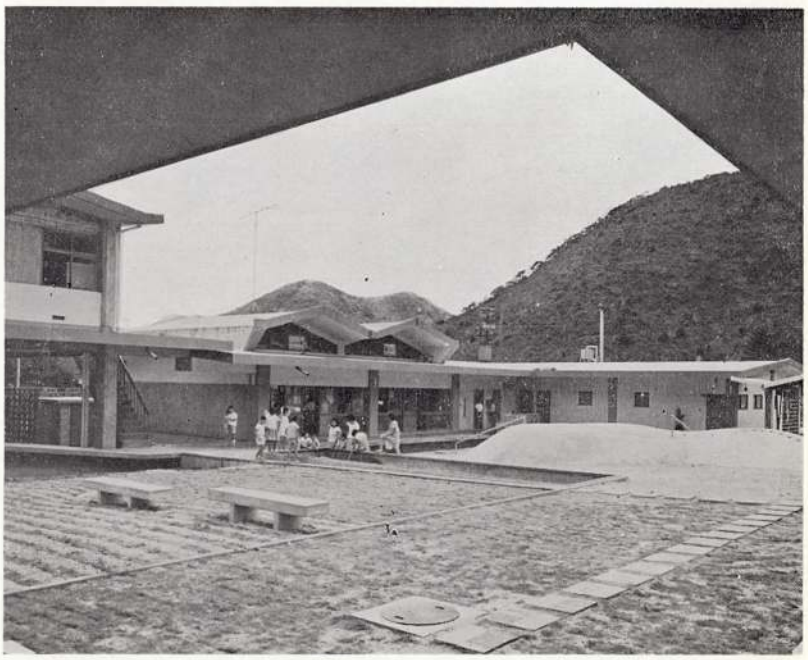


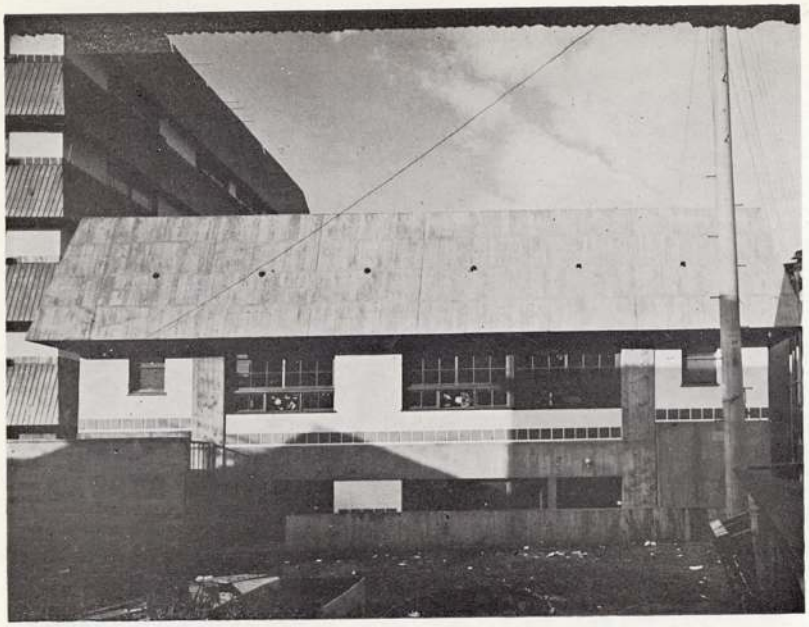
赤穂学園アプローチ

兵庫県立赤穂学園

（計画については、本誌1960年12月号の児童福祉施設特集号を参照のこと）

所在地　兵庫県赤穂市大津
構　造　鉄筋コンクリート造平家建　本館のみ2階建
収容人員　１００名
坪　数
　本館管理棟　397.82m²　(120.34坪)
　設　備　棟　403.31m²　(122.00坪)
　居室棟(２棟)　693.59m²　(209.81坪)
　職業補導棟　176.06m²　(53.26坪)
　延合計　1,670.78m²　(505.41坪)
屋上防水　カネボーゴーレックス
外　壁　モルタル塗，刷毛引，ヘキサイト
室内天井　タイガボード貼，ヘキサイト
壁　モルタル塗，鏝押エ，ヘキサイト塗
床　居室タタミ敷，廊下本館アスタイル貼





1. **南棟外観**　庇：普通型枠コンクリート打放，壁：モルタルヘキサイト吹付，クリンカータイル，腰：モルタルクシカキ，窓：スリガラス絵：故宮武辰夫原画

2. **外庭屋外遊戯場**　クズタイル壁（ひまわり）製作：辻野純徳・尾崎英二



石井記念愛染園
愛染橋保育所

設計監理：株式会社倉敷建築研究所
浦辺鎮太郎・辻野　純徳
（構造）北村　修・原　尚弘
協働指導：府立大阪社会事業短期大学
碓井　隆次・待井　和江
施　工：株式会社〝藤木工務店
（担当）辻本　実

建築位置　大阪市浪速区日本橋東5丁目10の8
敷地面積　665.62m²
既存建物建築面積（付属病院看護婦寮ー〝新建築〟'62.11）　196.28m²
建築面積　196.77m²
延床面積　317.98m²
開放通路・斜路・中庭　154.34m²
屋外あそび場　345.23m²
内庭(舗装)　99.15m²
屋　上　66.18m²
外　庭　180.00m²
構　造　鉄筋コンクリート造　2層メザニン型式
工　期　1962・3～8
収容人員　80人

設計者としてのことば

天は父なり　人は同胞なりせば　互に相信じ相愛すべき事　石井　十次

キリスト者であるなしを問わず，保育所建設に直接携わった人々，それをバックアップした人々，すべてこの祈りと信頼と愛に支えられ〝子供の城〟は産声をあげた。

1902年石井十次氏の手により大阪出入橋に社会事業の種がまかれ（岡山孤児院大阪事務所），1909年この愛染橋に大阪最初の保育所が設けられて以来，低費医療事業，隣保事業などを含め，半世紀を越えたスラムとの戦いは，あの釜ケ崎をよそに，豊かな実りのときさえもっている。

保育所建築の現状は，数多くの問題をはらんでいる。それにくわえて，都市中心部の狭い高価な敷地，高騰した建築費，児童福祉法による3.3m²/人の屋外遊戯場と1.98m²/人の1階に設けなくてはならぬ保育室・四周ヨセ屋という立地条件など，耐えがたい重荷を背負っていた。保母・協働者・設計者の度重なる研究会がもたれて3年，ここにその愛の結晶をえたのである。

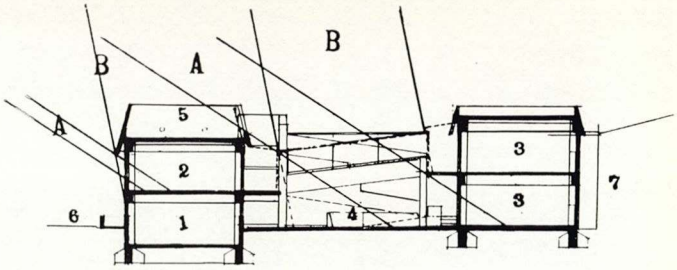
閉鎖的な外殻をもつ保育所は，明かるく開放された中庭を境に半階ずつの差を斜路でつながれたコートハウスとなっている。暑い日射と雨を防ぐ可動式テントをもつ中庭は，太陽と月をクズタイルで描きだした壁を中心に，床一杯自由な落書き板であり，遊戯場であり，そのコーナーは子供だけのすまいでもあった。さらに低い通路を経て小さい戸外の遊び場に通じ，ヒマワリからのぞきでたスベリ台で手をふり，ピーチパラソルに憩う子供たちの世界となっている。そして旧保育所のなれからぬけきれぬ保母たちを戸惑わせ，頭に瘤をつくらせている。子供の視点は常に設計の機能的・心理的原点となり，K・M（クラシキ・モデュール）で展開された。かくしてなお不満・不備な点は多いが，この前向きの〝子供の城〟が，保育所建築の問題点解決の一つの手がかりとなれば幸いである。

誕生日を同じうして私たちは二つの出版の実りをえた。保育所建築の唯一の手びきである〝保育ハンドブック〟（碓井・待井共著六月社刊）であり，〝ふるさとのすまい——日本民家集〟（日本建築協会編）であることをつけ加えたい。

（辻野純徳）

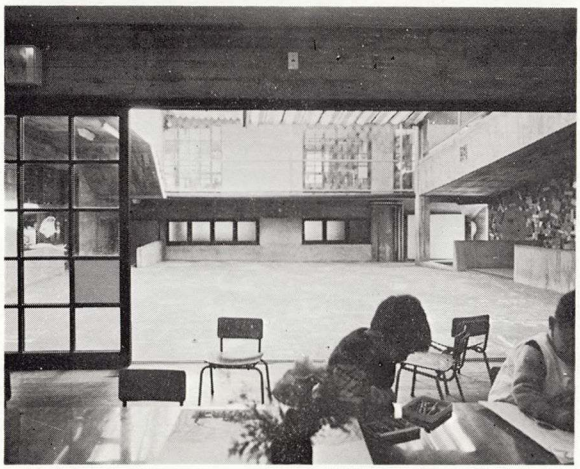


3. 最年小児室



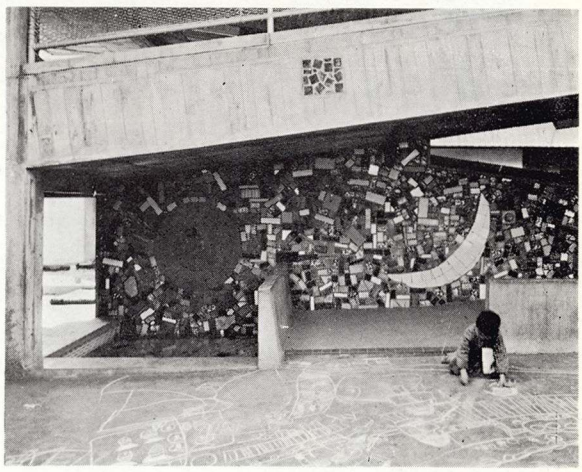
断面図　1. 児童クラブ　2. 保育室・保母室　3. 保育室
4. 中庭(舗装)　5. 屋上・遊戯場　6. 前面道路
7. 隣接建物(ボロ選別場)　A 冬至日射　B 夏至日射

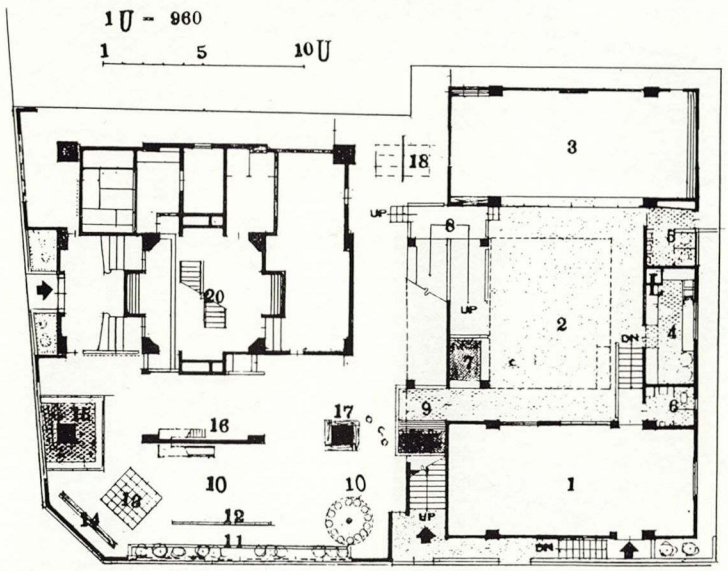
4. 保育室からみた中庭（一年保育）



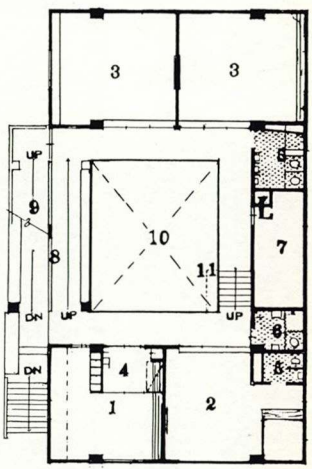
5. 中庭と斜路

壁：クズタイル壁（太陽と月）
製作：辻野純徳・尾崎英二
左：水あそび場
右：上層への斜路（床ピラミッドゴムマット）





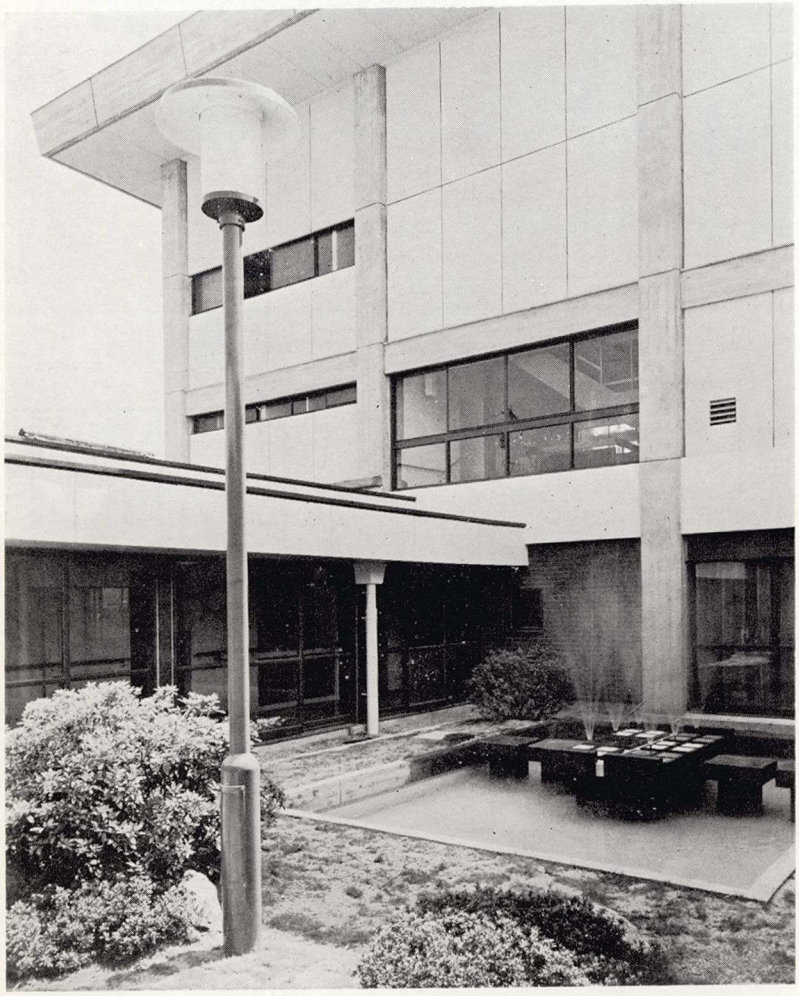
配置図・下層平面図
1. 児童クラブ・児童図書館　2. 中庭(舗装)　3. 保育室　4. 調理室　5. 手洗便所　6. 手洗便所(児童用)
7. 水あそび場(クズタイル壁)　8. 斜路　9. 足洗場・出入口　10. 屋外遊戯場　11. 花壇　12. 低鉄棒
13. ジャングルジム　14. 平均台　15. 砂場　16. スベリ台　17. ベンチ　18. ブランコ
19. ピーチパラソル・水銀灯　20. 既設建物



上層平面図　1. 保母室　2. 保育室(年少児)
3. 保育室　4. 医務室　5. 手洗便所　6. 保母化粧室(洗濯室)　7. 研究室　8. 斜路　9. 斜路(屋上戸外遊戯場に通ずる)　10. 吹抜(上部可動テント)　11. 非常用スベリ台(予定)配膳用リフト



1



2

大阪市立
早川福祉会館

監　　理：大阪市建築局営繕課
設計施工：清水建設ＫＫ大阪支店

建築位置　大阪市東住吉区田辺本町６丁目35の１
構造概要　鉄筋コンクリート造一部鉄骨造　地下１階地上３階
敷地面積　１，２１６．２２㎡
建築面積　　７０６．１０㎡
延面積　１，２６５．４８㎡
工　　期　昭 37.2.27 ～ 昭 37.8.31
建物高さ　標準地盤面よりパラペット天まで　11.500m

1. 正面姿図
   庇・柱型：コンクリート打放し
   グリル：特製陶管ブロック
2. 中　　庭
3. ホワイエおよびスロープ
   天井：木毛セメント板色モルタル
   壁：モルタルまたはベニヤ板貼の上ゾラコート吹付
   手スリ腰：ラワンネリ貼り，ステインクラッカー
   床：ビノリウム貼
   スロープ床：ノンスリップビノリウム
   壁画：大理石モザイク（矢橋六郎作）
4. 一般人・未亡人クラブ
   天井：ベニヤ板下地裂地（竜汁製水衣）張
   壁：ベニヤ板下地ジュラクサテン
   床の間：壁コーライ紙貼
5. 講　　堂
   天井・壁：木毛板貼スプレッドサテン吹付の上繰型付縁甲板スカシ貼り，ステインクリヤラッカー
   床：アスファルトタイル貼
6. 中小学生用開架式図書室
   天井：吸音テックス貼
   壁：ベニヤ板貼
   床：アスファルトタイル貼

設計者のことば

この建物はかねてから，社会福祉事業に深い理解と力添えをされている早川電機工業株式会社社長，早川徳次氏が新たに身体障害者のために大阪市へ寄贈されてできあがったもの。そしてこの建設にたずさわった人々がすべて早川社長の善意に感じて奉仕的な協力をした結果できあがったこと，こういう事実がなによりの特長である。

この建物は市の社会福祉事業の一環をになうものであり，この建物を利用する人は身体障害者のほかに，未亡人，老人，生活保護者と一般児童が優先である。したがって，設計上，全体とのバランスからいって大き過ぎるぐらいのスロープがあり，眼と足の不自由な人がどの部屋へでも手すりに伝って行くことができ，しかも出入口を示すサインを設けたり，あるいは便所にグラブバーを設けるなどの配慮がある。またこういう建物には機能のほかに，記念性と遊びが許されてもよいとの考え方で，ファサード，ホワイエ，庭園とかを構成したこと，なおホワイエのスロープの壁を構成する大理石モザイクの力作は作者矢橋六郎氏の多大のご援助によるものであることを加筆します。

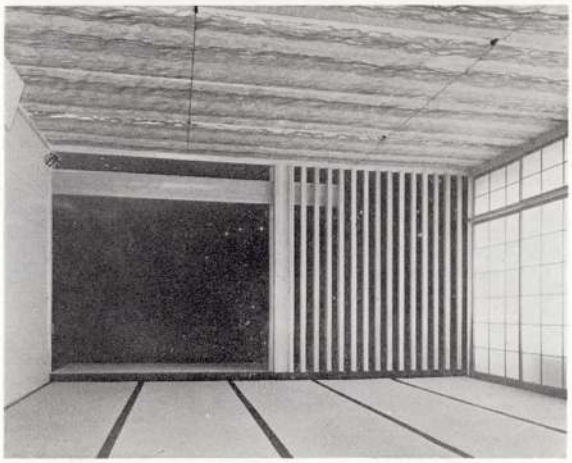


3

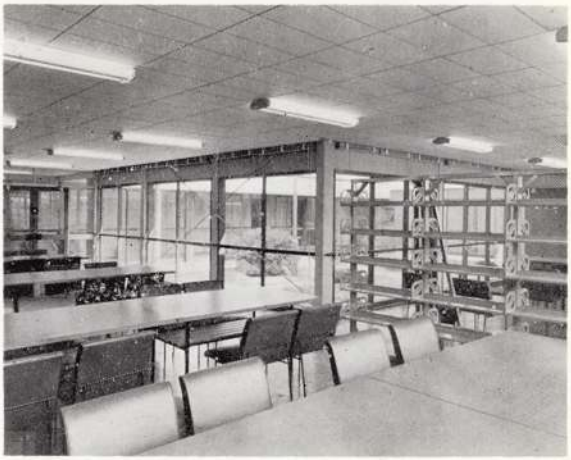


5

6



4



1　階

1. ホワイエ
2. ホール
3. スロープ
4. 談話室兼身障者クラブ
5. 失明者図書室
6. 会議室兼クラブ室
7. 開架式図書室（中小学生用）
8. 一般人クラブ兼未亡人クラブ室
9. 事務室
10. 喫茶室
11. 便所
12. 管理人室
13. 中庭

2　階

1. ロビー
2. ギャラリー
3. 講堂
4. 便所
5. 吹抜

3　階

1. 映写室
2. 技術者控室
3. 整流器室
4. 控室
5. 講堂上部
6. 吹抜

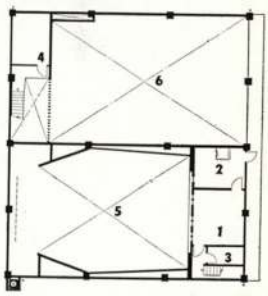
地　階

1. 機械室
2. 電気室
3. ドライエリヤ

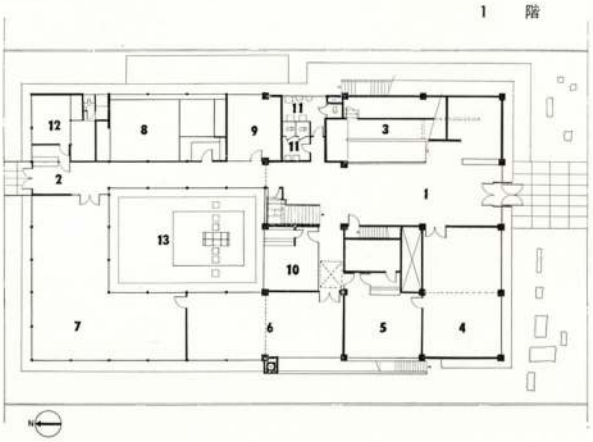
地　階



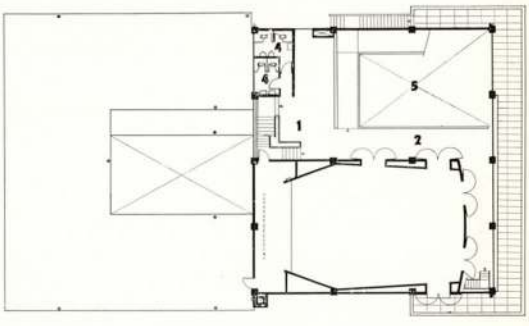
3　階



1　階



2　階





新潟県労働者福祉センター

設計監理：有限会社　刈谷建築研究所
建築工事：佐藤工業株式会社

設計者のことば

新潟県労働者福祉センターの設計に当り，まず敷地が極端に変形している点に苦慮しなければならなかった。同地は駅前広場に面している防火地域で，100％建築可能な所であり，本建物の性格からしてもその設置場所としてはまさに地の利をえているといえる。

平面計画に当っては施主の強い要望で敷地一杯のプランを作ったのだが，なにしろ敷地が上記のようなので，できあがった平面もシンプルな形のものでなかった。

この建物はたんなるオフィスビル的なものではなくおのおの違った用途を持つ施設が入り混るため，各室の位置する階，面積などの配し方については相当苦心し，種々の平面計画案を作成し検討したものである。

200坪にも満たない凸凹のある敷地に多種多様の室をうまくまとめるため地下を設け，地階から2階までを店舗，劇場，宿泊室，浴場，飲食店などの一般営業部分に，3階，4階全部と5，6階の一部を労働団体関係の事務所とし，5，6，7階は大ホール，会議室などの集会場にあてた。それゆえに，地下1階，地上7階は敷地の狭さを考えると最低の線であるといえる。

建物の外観については，平面の形状からくるものはべつとして，まずこの建物が労働者の福祉施設として意義を持っている点で，一般の娯楽センターのようなきらびやかさが出ることはさけた。といって労働者，労働団体だけの利用場，本拠地だなどという印象を与えるものであってもならないと考え，きわめて質素で，重量感があり，またしたしみの持てるようなものにしようとつとめた。

最後に設計全体を通じていえることは，内部，外部の意匠，仕上材料についても建築工事予算の制約をかなり受け，また，敷地の方も隣地買収が途中で流れたりで決して満足するまでに行かなかったが，総じて見るに種々の設計上不理な条件，あわせて設計の不備な点もあったけれど，この建物が駅前広場の一隅に位置し，周囲の物とうまく融合しかつ，公共福祉のためにその存在を認められ大いに利用されるものであるならば幸だと思っている。

所在地　新潟市花園町1丁目5番地

規模坪数

敷地面積　571.38m²　（172.84坪）

建築延面積　3,720.78m²　（1,125.54坪）

鉄筋コンクリート造　地下1階　地上7階

階高　地下6m，1階5m，2階以上25.5m

各階主要室名

地階　ニュース映画劇場，飲食店3室，機械室

1階　店舗

中2階　事務室1，喫茶室，理髪室

2階　食堂，浴場，宿泊室（和室6，洋室1）

3階　事務室3室

4階　事務室2室，会議室

5階，6階　大ホール，事務室各1室

7階　会議室2，電気室

屋上　庭園，塔屋エレベーター機械室

工期　昭和36年5月起工

昭和37年7月竣工

主要仕上

外壁：色セメント吹付，梁型打放しコンクリート，正面一部コンクリートホローブロック積，スチールサッシュドアー

1階柱：テラゾーブロック貼

各階床：トヨタイル，ビノタイル貼

各階腰：ゾラコート吹付，ビニールペイント塗

壁：プラスタ

5階大ホール　天井：蛭石モルタル吹付

壁：吸音防火ライト貼

地階劇場　天井：蛭石吹付

2階浴室　床：緑泥片岩水磨貼

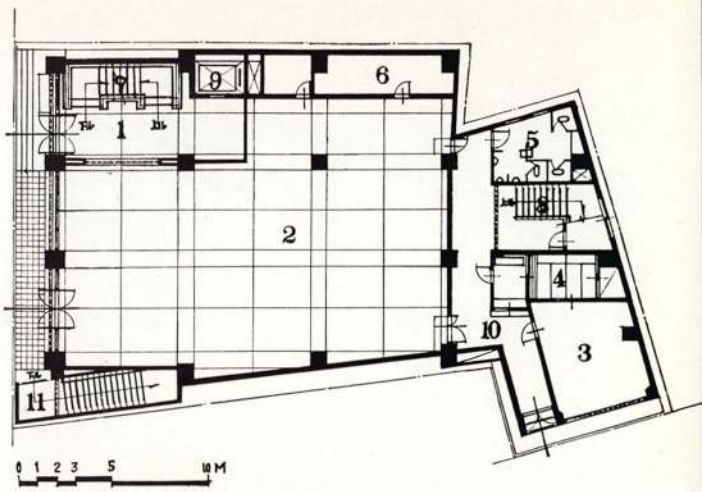
壁：ガラスブロック積，リシン掻落し

天井：トムレックス吹付

事務室関係　天井：吸音テックス

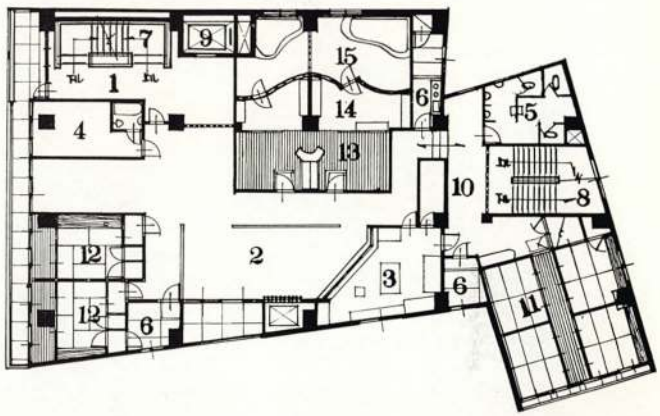
1　階

1. 階段ホール
2. 店舗
3. 車庫
4. 宿直室
5. 便所
6. ポンプ室
7. 西階段
8. 北階段
9. エレベーター昇降路
10. 廊下
11. 地階階段



2　階

1. 階段ホール
2. 食堂
3. 厨房
4. 洋室
5. 便所
6. 更衣室
7. 西階段
8. 階段
9. エレベーター昇降路
10. 廊下
11. 東側和室
12. 南側和室
13. 休息室
14. 脱衣室
15. 浴室



浴場（男）



地下ニュース映画館



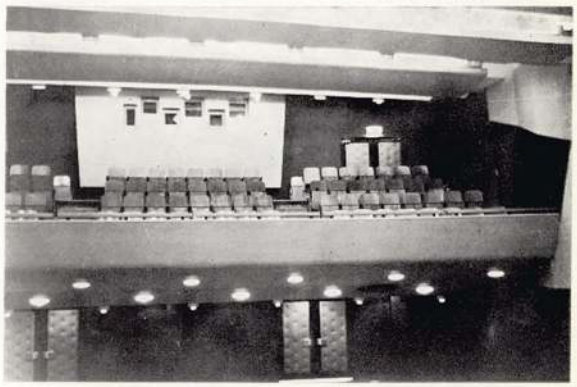
2階和室6帖



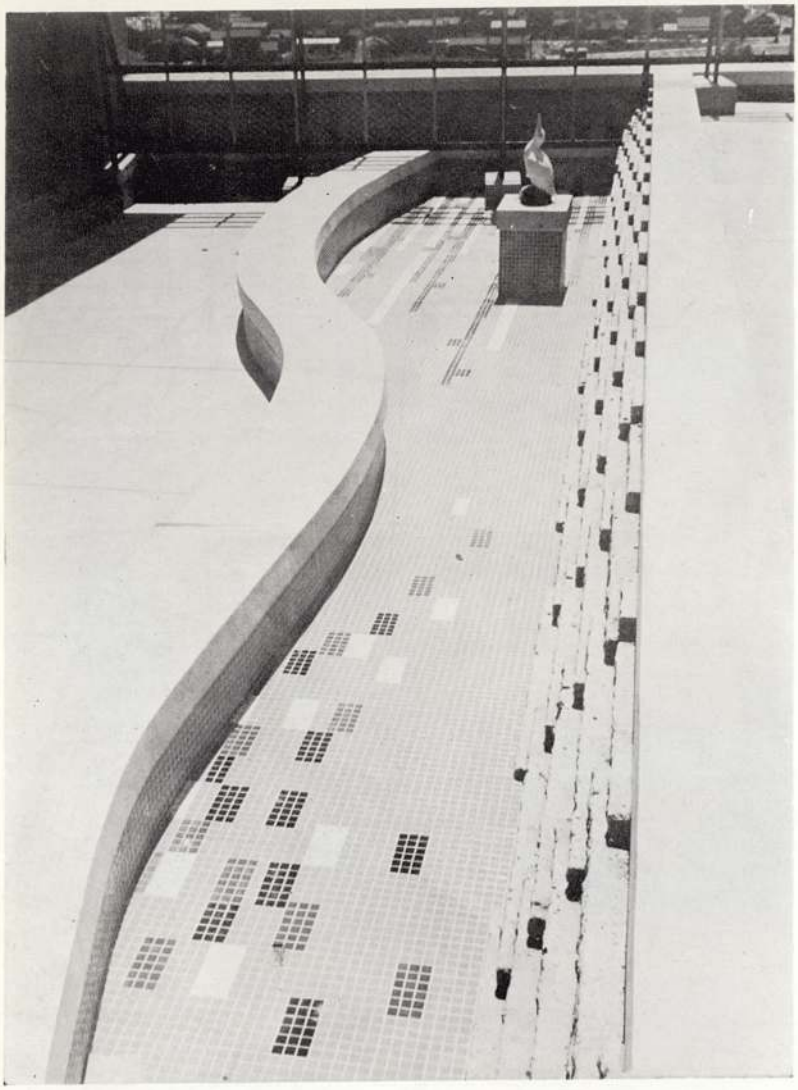
1階階段ホール



5，6階大ホール



新潟県労働者福祉センター



屋上庭園・池

モザイクタイル貼
縁：人造石研出し



屋上壁画

エレベーター機械室打放し
壁面にホームタイルにてク
リーフ製作工事中

毛馬閘門と洗堰

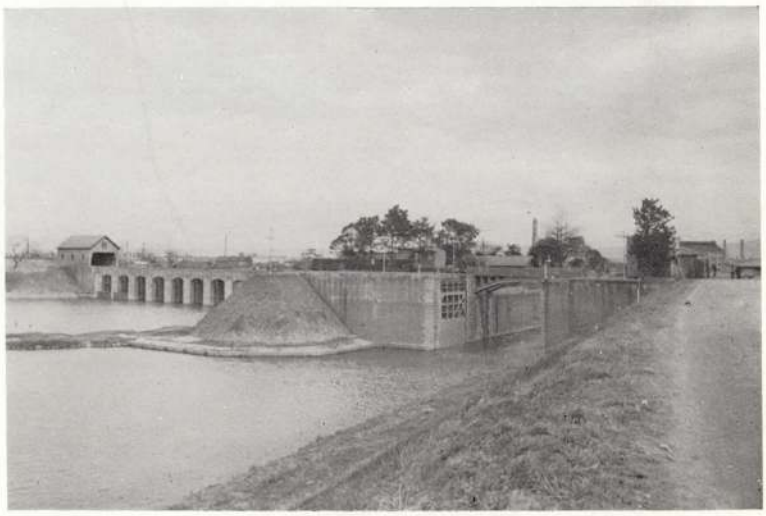
淀川は，今の毛馬から南進し，曲りつつ天満付近から西へ折れて中の島を形成して，安治川へ出ている。新淀川に相当する部分は，もとは細い中津川で，大阪湾にそそいでいた。このため，大阪三角洲は洪水になやまされ，古来何度も改修工事が繰り返されていた。明治初期にも洪水があり，かつ舟便の増加とともに浚疏の工事が繰りかえされ，遂に明治18年7月には，2度にわたる大洪水を受け，国庫補助を受けて毛馬より安治川口にいたる浚疏の工事が長期計画で行なわれた。しかしその根本策は，29年に河川法（附河川改修予算）が帝国議会を通過するまで待たねばならなかった。この法が通るや，31年4月より42年にかけ，淀川全流（瀬田・宇治・淀の三河）の全面改修工事が起工され，土木技師沖野忠雄博士の計画により工事が進められた。

新淀川は，旧中津川の一部を利用して開さくせられ，同時に，旧淀川との分岐点に洗堰を設け，旧淀川に流れる水量を常時 80—110m³/sec におさえて，他の水は新淀川へ通した。これにより従来の舟便に影響を与えぬように，洗堰の西に閘門を設け，新旧両川の水位が異った場合にのみ運河として用いた。大正期に入って，この閘門の南に第二閘門，さらに新淀川沿いに，六軒屋にいたる運河と閘門を設け，昭和に入ってからは，新淀川そのものの水位調整のための，大可動堰が設けられるにいたった。これは毛馬洗堰および閘門に定量の水が流れるためである。なお瀬田の洗堰も，明治37年に，淀川全水域改修工事の一環として竣工したものである。

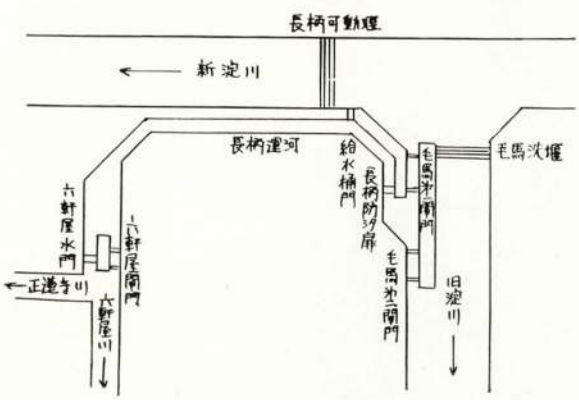
淀川関係の改修工費は総額1,900万円（内府負担221万円）で，40年度以降にも続いて多額の追加が行なわれている。

第1閘門は，40年8月竣工してお

真 1



現況配置図





写 真 2



写 真 3



写 真 4

り，巾11.35m，長89.85mで，淀川の水位が上昇したとき，前後の鉄扉を閉し，舟運の便を図っているが，当初から鉄扉を用いていたのか，あるいは後述のように角材を追落して閉ざす原始的な方法を用いていたのか（その痕跡はある）不明である。構造は煉瓦一部石造。

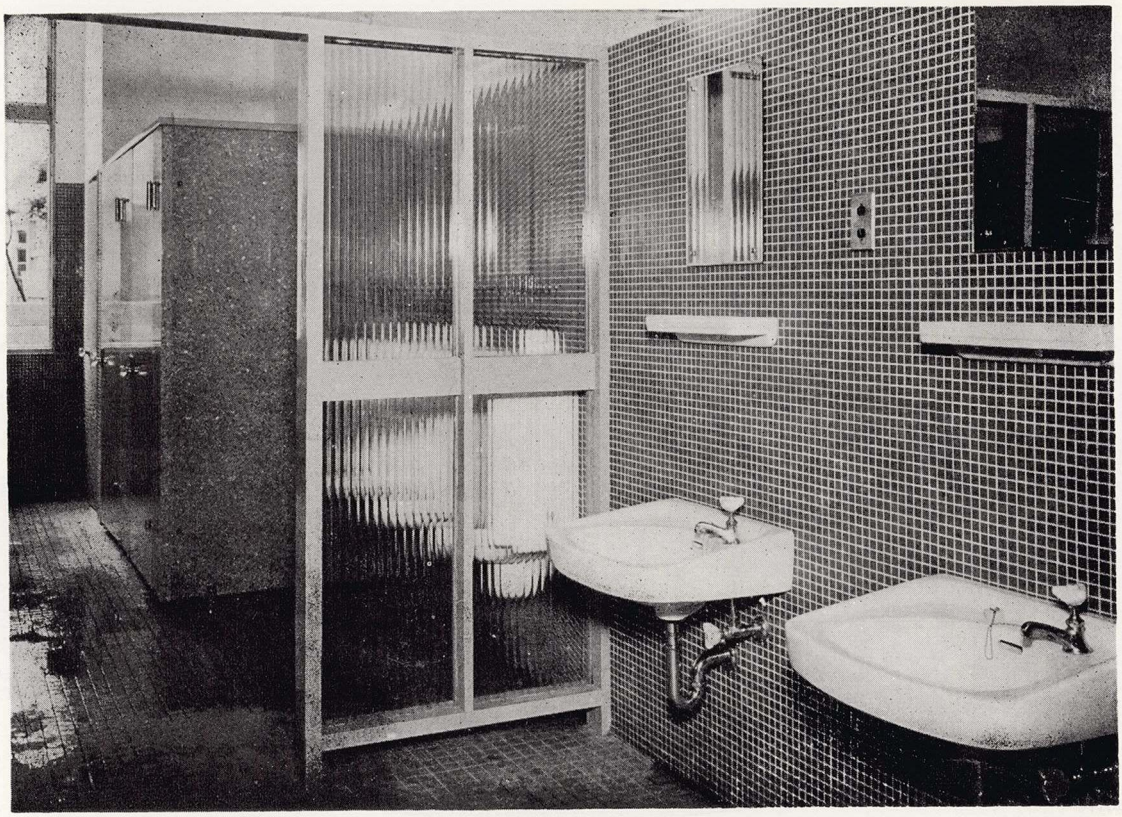
洗堰は，北側は後に改築を受けているらしく，手摺はコンクリート製になり，橋脚なども当初のものに，さらに北約1mほど補加されている。南面（写真2）はもとのままで，ほとんどが煉瓦造で，一部石を用いている。この写真の向うに見える小屋は，追落角材の倉庫で，新淀川の水位が上った場合，クレーン車で角材を運び，写真3にみるように，一つずつ角材を追落してゆくのであるが，これは非常に時間と労力がかかるので，現在では，全部鉄扉による自動開閉式に改められている。

写真4は，この改修工事完成の記念碑で，沖野博士らの功績をたたえたものであるが，バロック様式の明治末らしい豪華な碑である。

なお，洗堰の西南端に O.P. のベンチマークがある。O.P. は Osaka Peil の略で，明治7年中の天保山干潮時の最低平均水位を O.P. 零とし，毛馬の原標を O.P +4.697m と定めたもので，大阪の地盤測定の基準となっている。しかし，この原標の近くに，旧陸地測量部の一等水準点陸交229があり，東京湾中等潮位を基準にしており，O.P.4.2204mとなっている。ただしこれは，昭和9年までのことで，陸交そのものが，昭和25年には O.P. +4.2172 となり，その沈下がわかるので，O.P. そのものも沈下していると考えられている。したがって，この O.P. 使用の可否も論ぜられる運命にある。

参考資料
「明治大正大阪市史」　第1巻，第3巻
「淀川下流施設概要」　近畿地建淀川工事事務所　36年1月
「淀川について」　近畿地建淀川工事事務所　35年1月
「ジェーン台風による大阪湾諸港に於ける異常高潮について」大阪市大永井荘七郎教授　土木学会誌　26年9月

（林野　全孝記）



伊奈の衛生陶器

伊奈製陶株式會社

本社・工場　愛知県常滑市扇面新田　電常滑700(代)
東京事務所　東京都中央区西八丁堀2－8　電(551)6371(代)
大阪事務所　大阪市西区新町南通1－23　電(541)5484(代)

カタログ送呈

コーキングパテ

ウヅラED



柏原瀝青株式会社

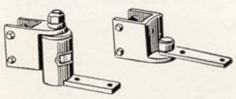
本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪(471)1494～４
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪(471)０４２６

パテタイル

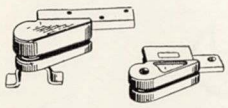
NEW★STAR

創業大正八年

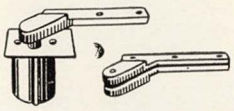
ラバトリーヒンヂ



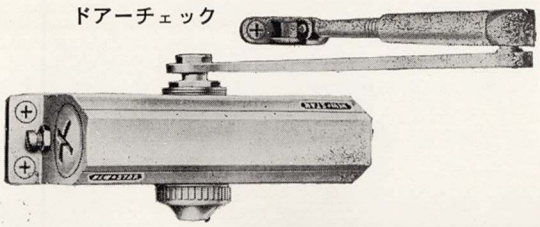
ピポットヒンヂ



ピポットヒンヂ



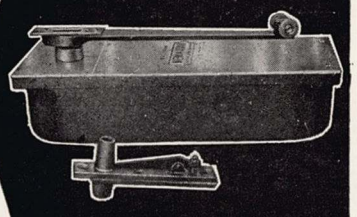
ドアーチェック



ドアーチエック



フロアーヒンヂ



日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　大阪市生野区巽矢柄町222　電話 大阪(716)2231(代)
東京支店　東京都千代田区神田錦町1丁目23　電話 東京(291)1920・4920
福岡出張所　福岡市舟津町1番地　電話 福岡(74)2372・3312
名古屋出張所　名古屋市東区高丘町1丁目11番地　電話 名古屋(941)4627～8

社団法人 日本サッシ協会 関西支部賛助会員

スチールシャッター

小俣製作所大阪支店
三和シャッター株式会社
鈴木シャタア商会
日本シャッター製作所
本田工業株式会社

錠前

昭和金属工業株式会社
谷山製作所

サッシ・ドアー附属その他建築金物

石倉金属株式会社
大阪建築金物製造(株)
大鳥機工株式会社
協同金属工業株式会社
近松金物株式会社
株式会社熊本商店
渋谷金属産業株式会社
日本ドアーチェック製造(株)
平安伸銅工業株式会社
増田産業株式会社
株式会社満点製作所

サッシバー

加納鉄鋼株式会社大阪支店
東都実業株式会社大阪出張所
東鋼商事株式会社大阪営業所
西村金属株式会社大阪出張所

サッシ・ドアー製造用諸機械

関西鉄工所

パーカー

日本パーカライジング株式会社大阪出張所

(五十音順)

世界に誇る驚異的建材!
ガスにも熱にもビクともしない!
40年の厂史と最新技術の産物

特許---耐酸.耐アルカリひふく鉄板
オリエンタルメタル

永久建材・超ひふく鉄板
スーパーオリエンタルメタル

新時代にマッチした色つきのひふく鉄板
オリエンタル カラーメタル

美しいアルミ箔ひふく鉄板
オリエンタル アルシート

型錄送呈
責任施工

オリエンタルメタル製造株式会社

本社工場 尼崎市大物北口 電話 大阪(481)4947~9
大阪支店 尼崎市北新町4-41(古川ビル) 電話大阪(401) 9745~6
東京支店並工場 埼玉県蕨市大字塚越1620 電話蕨 3252~4
支店・出張所 郡山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・敦賀・三原・徳島・徳山

ABCの建材

アメリカ・アームストロングマーク社の

アームストロングタイル

三次元模様の

テッセラ・コーロン（ビニール・シート）

2.29mm×182cm×21m

斬新なデザイン・耐久性に優れた

アスファルト・タイル　（厚　3.2mm）

エクセロン・タイル　（厚1.59mm）

クラシックなフンイキは

テラゾー・コーロン（ビニール・シート）

1.6㎜×182cm×28m

"ベンチ・レーティング"の登場!!

ダクト網と放散器のいらない
画期的な吸音板
不燃防水性鉱物質繊維の
経済的な吸音板



ABCコーキング

凡ゆる間隙から
永久に漏水の心配を根絶
永久に気密を保持する
コーキング剤

台座非収縮機
機械台座非収縮機
……ノンシュリンク

コンクリート
モルタルの接着剤
……クリートボンド

カラクリート

美しい床をあなたに!
床・階段・廊下に
ロビー・ガソリンスタンドに
どこにでも使える
カラクリート
耐磨耗性
耐水・耐潤性に富む

フェロコン

フェロコンは工場の
倉庫の床に
鋼板を張ったような
効果をあげます

繁栄する会社の良き伴侶

K.K ABC商会

東京都千代田区永田町2～77
TEL (581) 1411 (代表) ～7
大阪出張所
大阪市西区京町堀1～18(京町会館ビル)
TEL (441) 3915・0500・9303

創立45年記念事業報告

■ 記念事業報告

■ 記念講演会記録

建築随想/竹腰健造

経営雑感/松下幸之助

■ 住宅講演会記録

社団法人 日本建築協会

創立45年記念事業報告

日本建築協会

(1) 経過概要

36年5月10日理事会において，37年3月30日に本会の創立45周年を迎えるので，前例に倣って記念事業を行うことを決議し，記念事業委員長に東畑副会長，同副委員長に竹中副会長の両氏を選任した。次いで6月5日，会長，両副会長協議の上，実施事業の種目とその実施時期，各事業担当の委員長候補者，事業資金の募集目標などの案を纒めてこれを6月14日の理事会に附議し，審議の結果原案のとおり承認を得て次のとおり決定した。

記

1. 記念事業と担当委員長

記念事業委員長　副会長　東畑　謙三氏
同　副委員長　同　竹中　錬一氏
財務委員会委員長　鴻池　藤一氏
事業資金の募集　予算決算の実施
総務委員会委員長　岩崎甚太郎氏
記念式典，表彰式，祝賀会（以上3月30日）
慰霊祭（6月）特別見学会，会員余技展，
運動会（以上4月—5月）などの実施
住宅展委員会委員長　塚本　猛次氏
各社組立住宅，本会設計組立住宅の展示
（3月下旬—4月中旬）
展覧会委員会委員長　小川　正氏
主として住宅関係資材の展示
（3月下旬—4月中旬）
記念出版委員会委員長　浦辺鎮太郎氏
日本の民家のガイドブック出版
記念講演会委員会委員長　鷲尾　健三氏

1. 事業予算　約500万円

8月4日委員長打合会を開催して実施事業の内容，各事業に対する予算割当てなどについて協議し，先づ財務委員会を始めとして各委員会ともそれぞれ準備活動を開始した。

11月各委員会委員を後記のとおり委嘱して委員会活動も本格化したが，住宅展委員会においては，当初御堂筋難波別院隣地の敷地を会場として，各組立ハウスの業者にそれぞれ自社作品の出陳を乞い併せて本会よりも本会設計の組立ハウスを展示することで企画を進めていたが，その後同地の使用について支障が生じ，ご斡旋を願つていた竹中工務店のご好意によつて同社が管理使用中の御堂筋本町4丁目角の相愛学園前の敷地に会場を変更することになつた。しかしながら，本会設計の組立ハウスも一応設計の完了はみたが何分にも短期間のことにて未だ多くの問題点を残し，本会設計として権威あるものとして展示するに充分でない点があり且敷地も前予定敷地に比して半分以下の面積であるため満足できる戸数の展示ができない憾みがあるため，37年2月1日の委員長会議において協議の結果，住宅展示会はこれを取り止め，これに代はるものとして住宅に関するシンポジウムまたは講演会を開催することに変更し，同月の理事会においてこの方針変更についての承認を得た。また展覧会委員会においては当初住宅展委員会とタイアツップして住宅に関する展示会を開催する企画を進めていたが，住宅展が中止となったので改めて協議の上各種の案を検討した結果，二川幸夫氏の「日本の建築の根」写真展を10月以降に開催することを企画し，二川氏との交渉も成ったが，偶々出版事業に資金が固定し，短期間にこれが回収の見透しが困難となり，展示会の開催は資金的に難事となった。よって10月展覧会委員会に対してこの間の事情を釈明して展覧会開催中止の諒解を求め同月の理事会において中止の承認を得た。なお出版委員会では企画の進行に伴って漸次集録内容が増加充実して，住宅展中止に伴う予算剰余を出版に振向け増額することに決定し，当初の予期以上に充実したものを出版することになつた。その他の委員会においては予定のとおり企画を進めて滞りなくこれらを終了した。

事業資金については，約500万円の予定で募集を開始したが，会員各位のご熱意により，建築投資抑制などの情勢の変化があったにも拘はらず，予定を超す5,886,000円のご応募があり，ご後援ご協力の程は洵に感謝に堪えない次第である。

記念事業も8月24日の講演会を以て全部これを終了して，10月26日大新楼に役員，記念事業委員をお招きし，東畑委員長から謝辞を述べ，記念として記念出版「ふるさとのすまい」を贈って創立45年記念事業無事完了を感謝し，記念事業委員会を解散した。

創立45年記念事業委員（略敬称）

記念事業委員長　東畑謙三
同　副委員長　竹中錬一
財務委員会
委員長　鴻池藤一
副委員長　浅沼猪之吉　室谷　山水

委　員　中原　茂　上林　博雄　山本龍太郎　梶本　秀尾
平山　京平　仙田　四郎　村石　秋吉　一円　俊郎
井手　正雄　栗林　一馬　山内嘉兵衛　古林　義敦
薄　与荘

総務委員会
委員長　岩崎甚太郎
副委員長　岡本　弘　原田　守
委　員
(記念式典祝賀会)主査　山本　義樹
浅海　正雄　尾亀清四郎　谷川　丈夫　中村　信夫
平田作太郎
(表彰式) 主査　岡本　弘
井上　滉　小松　次郎　松尾　文吉　矢野　豊作
(慰霊祭) 主査　政岡　基次
今西　祥郎　中島　忠継　松下　一郎　若林　季雄
(会員余技展) 主査　三品　哲夫
駒　日出男　富永　六郎　楢崎　正也　松下　良一
(特別見学会) 主査　原田　守
審　忠夫　藤沢　達夫　藤田　邦昭　水本　稔
宮本　孝一　望田　忠夫　山本　茂
(運動会) 主査　滝本　安規
東　孝光　紙野　桂人　清水　民雄　橋長　忠雄
広瀬　二郎　水谷　顕介

住宅展委員会
委員長　塚本　猛次
副委員長　海上　静一
委　員　泉　資一郎　井宮　淳江　亀田喜世子　木原　正雄
小嶋　将志　下河内信子　中間廉之助　松本　大平
葉袋　公明　光崎　育利　村上　秀夫

展覧会委員会
委員長　小川　正
委　員　足立　孝　石堂正三郎　伊吹　弘　須賀　栄一
樋口　治　村尾　栄　山本　博三

記念出版委員会
委員長　浦辺鎮太郎
副委員長　足立　孝
委　員　浅野　清　岩本　博行　川島　宙次　小林　邦雄
佐野　正一　白木小三郎　多比良敏雄　辻野　純徳
恒成　一訓　西沢　文隆

記念講演委員会
委員長　鷲尾　健三
委　員　五百蔵芳明　石原　正雄　川名吉衛門　越田　正勝
田中　弥一　西田　芳弘　福田　朝生　三品　哲夫
村上　秀夫　元吉勇太郎　森　忠一

(2)　実　施　事　業

(37年3月29日—8月24日)

1. 記　念　式　典

3月30日　2時——2時20分　於　太　閤　園

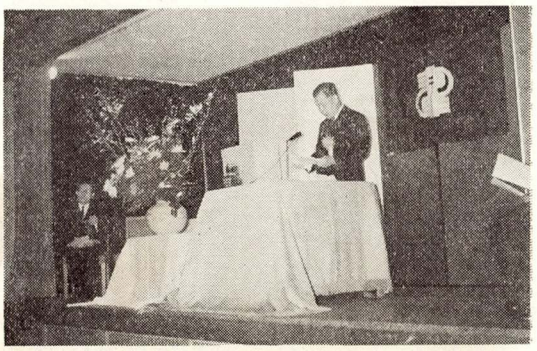
開式のことば　司会　岡本総務副委員長

式　辞　東畑副会長
(尾崎会長病気のため代行)

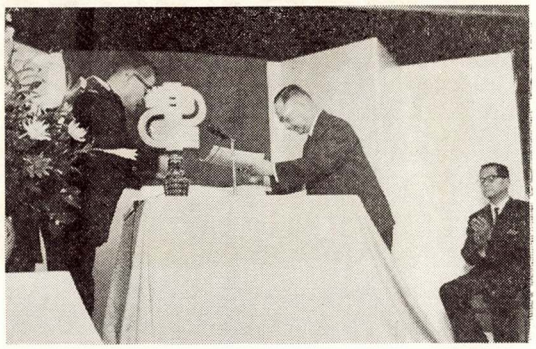
来賓祝辞
大阪府知事殿(大阪府営建築部長殿代読)
日本建築学会会長殿(前田副会長殿代読)

祝電披露　司会者
日本建築士会連合会会長　石井　桂殿
建築業協会　竹中藤右衛門殿
日本建築協会九州支部殿
日本電信電話公社　会員有志殿

閉式のことば　司会　岡本総務副委員長



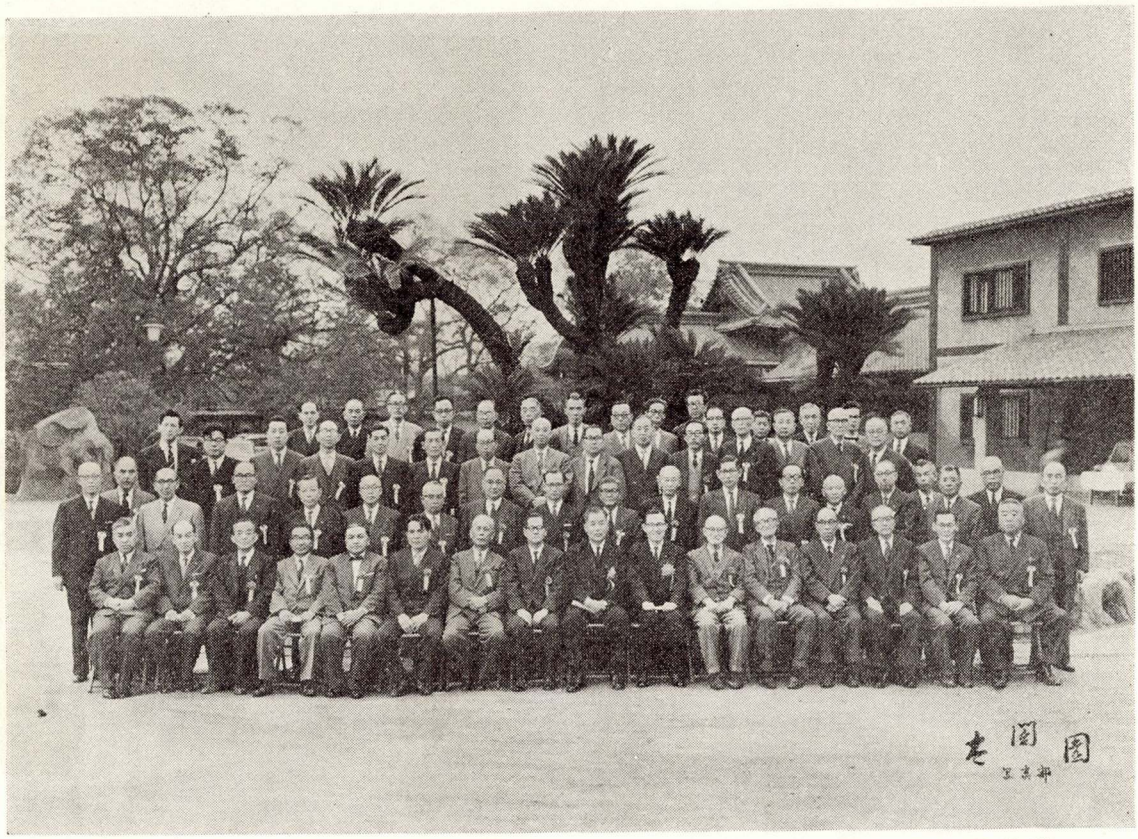
記　念　式　典



記念式典における表彰式



記　念　祝　賀　会



記念式典表彰者

1. 表　彰　式

30日　2時20分——2時50分　於　太閤園

開式のことば　　司会　矢野総務委員

感謝状並に記念品贈呈

特別功績者

竹腰健造殿

役員並に委員多年在任者

故青木友一殿　浅沼猪之吉殿
池田達雄殿　岩崎甚太郎殿
尾崎久助殿　尾亀清四郎殿
大林芳郎殿　奥島正一殿
上林博雄殿　小泉昇殿
鴻池藤一殿　越田正勝殿
佐藤太殿　菅田豊重殿
銭高輝之殿　竹中錬一殿
竹内成夫殿　竹内孝殿
谷口尚武殿　東畑謙三殿
西山卯三殿　藤木正一殿
松村雄吉殿　政岡基次殿
森忠一殿
山本竜太郎殿

以上代表　佐藤太殿

委員多年在任者

置塩章殿　岡本弘殿
榊弘美殿　西島勇殿
林野全孝殿　馬場善雄殿
増田幸次郎殿　益尾辰雄殿
山本義樹殿　矢野豊作殿
渡辺禎已殿

以上代表　榊弘美殿

支部役員多年在任者

東海支部

一円俊郎殿　五十嵐昇殿
岡田平蔵殿　城戸武男殿
佐藤四郎殿　菅谷知己殿
染木正夫殿　水野金市殿

和歌山支部

故今津吉兼殿　井崎梁次殿
宇治田政雄殿　貴志満二殿
栗林一馬殿　児島正積殿
島村佐次郎殿　瀬村禎二殿
出村治作殿　栂野正春殿
富松助六殿　中西勇二殿
埴谷俊雄殿　布袋国雄殿
前田保永殿　薮本芳一殿
渡辺栄蔵殿

京 都 支 部

井手正雄殿　大倉三郎殿
大鳥居満也殿　小崎修殿
佐々木米太郎殿　佐藤正堯殿
白石博三殿　館林熊司殿
棚橋諒殿　中村金三殿
平田作太郎殿　松井清之助殿
水野喜一郎殿　本川駒三郎殿
山本磯十郎殿

兵 庫 支 部

石井一信殿　早良俊夫殿
桑田正一殿　清水栄二殿
設楽貞三殿　野田清三殿
伴潔殿　宮飼克二殿
森田康次殿　山内嘉兵衛殿
吉田信武殿

中 国 支 部

青盛繁男殿　飯塚源吉殿
古林義敦殿　高谷与一殿
田坂朝生殿　藤岡正一殿
藤田定市殿　守谷茂殿

九 州 支 部

硲崎秀一殿　黒木源次郎殿
篠原政次郎殿　薄与荘殿
牧毅殿　松田昌平殿
以上代表　古林義敦殿

後 援 団 体

大阪建設業協会殿　大阪府電気工事工業協同組合殿
大阪府管工事業協同組合殿　社団法人日本建材協会殿
以上代表　大阪建設業協会 会長 銭高 輝之殿

永年勤続事務局職員表彰

沖田誠一殿　山田唯美殿
以上代表　沖田誠一殿

感謝状受領者代表挨拶

佐藤太殿

閉式のことば　司会 矢野総務委員

終了後前庭において来賓と共に感謝状受領者の記念撮影を行う。

1. 記念祝賀会

30日 3時——4時半 於 太閤園

開会のことば　司会 尾亀総務委員
挨拶　東畑記念事業委員長
開宴
乾杯　白杉嘉明三殿
余興（日本舞踊）
テーブルスピーチ
池田宮彦殿（技術）　鈴木清市殿（建材）
一円俊郎殿（支部）　竹中錬一殿（建設）
万才三唱　元良日本建築学会支部長殿
閉会の挨拶　岩崎総務委員長

30日の来賓外出席者（順不同）

大阪府建築部長	菅陸二殿
近畿地方建設局営繕部長	中原茂殿
日本住宅公団大阪支所次長	田中弥一殿
住宅金融公庫大阪支所次長	早川文夫殿
郵政省建築部建築調査官	立花量吉殿
日本建築学会副会長	前田敏男殿
日本建築学会近畿支部支部長	元良勲殿
日本建築家協会関西支部幹事長	佐野正一殿
大阪府建築士会会長	渡辺節殿
京都府建築士会会長	大倉三郎殿
和歌山県建築士会会長	島村佐次郎殿
全口建設業協会会長	大林芳郎殿
大阪建設業協会会長	銭高輝之殿
兵庫県建設業協会専務理事	山内嘉兵衛殿
五日会幹事	奥村慶二殿
同同	伊豆倉武一殿
十日会副会長	岡三郎殿
大阪府電気工事工業協同組合理事長	山本竜太郎殿
大阪府管工事業協同組合理事長	石田憲二殿代
日本建材協会副会長	鈴木清市殿
都島工業高等学校校長	丹羽健蔵殿
今宮工業高等学校校長	又野重信殿代
堺市立工業高等学校校長	磯部正聰殿
建設工業新聞社関西総局長	中山豊雄殿
建設通信社関西支局	小川京吉殿
建設産業新聞社関西総局長	木場博之殿
建設新聞社	浅田種太郎殿
読売テレビ放送審議室部長	柴田勝春殿
本会副会長	東畑謙三殿
同	竹中錬一殿

（大阪）相沢喜久太郎殿　青木義雄殿　審忠夫殿
井上滉殿　井上福蔵殿　伊東正也殿
池田達雄殿　池田宮彦殿　石崎有基殿
岩崎甚太郎殿　内田成之殿　置塩章殿
尾亀清四郎殿　岡本弘殿　太田由雄殿
柏岡十三介殿　梶本秀尾殿　神谷新一殿
川島寅次殿　河津喜之助殿　上林博雄殿
久米保衛殿　小泉昇殿　小林清殿
小林得志殿　小松次郎殿　佐藤太殿
鴻池藤一殿（代小林清周殿）　榊弘美殿
篠原太郎殿　島上光夫殿　島田良馨殿
白杉嘉明三殿　妹尾一夫殿　仙田四郎殿
田辺信殿　田中寿男殿　滝沢真弓殿

竹内　成夫殿　竹腰健造殿（代福田朝生殿）
谷川　丈夫殿　谷口　尚武殿　塚本　猛次殿
出川　喬志殿　寺岡　　真殿　寺井　一勇殿
中西　六郎殿　中村　信夫殿　波江　悌夫殿
西島　　勇殿　馬場　善雄殿　林野　全孝殿
早川　和男殿　伴　　秀雄殿　伴野　貞三殿
平山　京平殿　広瀬　幸一殿　福岡庄一郎殿
福田万亀雄殿　福山　良三殿　藤沢　達夫殿
藤田　邦昭殿　藤原　　巧殿　堀井　澄次殿
政岡　基次殿　益尾　辰雄殿　増田幸次郎殿
松尾　文吉殿　松村　雄吉殿　松本　儀八殿
松本　大平殿　三品　哲夫殿　水本　　稔殿
村石　秋吉殿　村上　秀夫殿　室谷　山水殿
元吉勇太郎殿　森　茂樹殿　森川喜代之助殿
矢野　豊作殿　柳田爽己夫殿　山田　幸一殿
山本　　潔殿　山本　　茂殿　吉田　音松殿
和田　友一殿　若林　繁吉殿　若林　季雄殿
鷲尾　健三殿
（東海）石原　　巌殿　一円　俊郎殿　城戸　武男殿
水野　金市殿
（京都）井手　正雄殿　池田総一郎殿　佐々木米太郎殿
垂井増太郎殿　中村　金三殿　平田作太郎殿
松井清之助殿　本川駒三郎殿　山本磯十郎殿
（和歌山）井崎　梁次殿　貴志　満二殿　栗林　一馬殿
児島　正積殿　出村　治作殿　栂野　正春殿
埴谷　俊雄殿　藪本　芳一殿　渡辺　栄蔵殿
（兵庫）石井　一信殿　早良　俊夫殿　清水　栄二殿
設楽　貞三殿　宮飼　克二殿　吉田　信武殿
（中国）青盛　繁男殿　飯塚　源吉殿　古林　義敦殿
藤岡　正一殿　藤田定市殿代　武藤　　亨殿

1. 会員余技作品展

3月29日——4月3日　於阪神百貨店8階画廊

出品者並に作品（50音順，略敬称）

足立　幸一（大阪市建築局）　**油絵**　西伊豆の海岸
青山　正義（富家建築設計事務所）　**墨絵**2点　円山音楽堂の夕暮鴨川にかかる橋
赤松　　修（赤松省野建築設計事務所）　**水彩画**　花
池田　宮彦（大阪建築事務所）　**日本画**2点　三色董　たそがれの下呂温泉
大井弘治郎（大井建築設計事務所）　**水彩画**2点　さざゑ　九重山遠望
大久保昌一（住宅公団大阪支所）　**油絵**　圭策の像
多井　幸男（大林組）　**油絵**　石切風景
尾崎　久助（日建設計工務KK）　**油絵**　熊野海岸の朝
沖田　誠一（日本建築協会）　**油絵**　プランクトン（抽象画）
川勝源兵衛（松村組）　**書**　月を握って風を担う
喜多　聖泰（大日本土木大阪支店）　**日本画**2点　薔薇　苺
黒谷　俊一（住宅公団大阪支所）　**油絵**2点　秋果　漁村風景
篠原　太郎（近畿建設）　**日本画**2点　落椿，菊（軸仕上）
滝沢　真弓（神戸山手短大）　**書**2点　古詩　**幾何学模型**　目で見る幾何学
中井惣一郎（中井総組）　**書**　2点，業其楽（額共）普而堅（額共）
波江　悌夫（置塩建築事務所）　**クレパス画**，早春の武庫川，**油絵**，富士の遠望　**墨絵**，叡山の夕暮
原田　武雄（大阪市交通局）　**油絵**2点，黒い境界線　原爆に反対するデモ隊
伴　　秀雄（西原衛生工業所大阪店　**パステル画**2点，麦秋（日御崎風景）北大校庭風景
伴野　貞三（関西建築事務所）　**書**，君が代（仮名書）
樋口　　治（高島屋設計部）　**油絵**，ムーヴィとA
久田　良吉（久田建築事務所）　**拓本**2点，天王寺五重塔の水煙，秋篠寺川田順氏の句碑
平賀　一郎（住宅公団名古屋支所）　**クレパス画**2点，果物と洋酒ビン，花
藤村　清一（日新建築設計事務所）　**エマイユ**，習作，**陶芸**（花器）鵞尾
星野　三雄（兵庫県建築課）　**油絵**，花片（抽象画）
間永　　進（大阪市交通局）　**油絵**，蹴上風景
光安　義光（兵庫県綜合庁舎建設事務所）　**油絵**2点，抽象作品，F8号
元吉勇太郎（住宅公団大阪支所）　**油絵**2点，練習曲，徳寿宮にて
矢野　豊作（藤木工務店）　**彫刻**（ブロンズ）習作（女の像）
山口　吾郎（不二建設）　**日本画**　阿修羅菩薩（額共）


会員余技展


会員余技展

山本　利雄	(大阪市立工芸高)	**油絵**，中之島の夕
山本　竜輔	(近畿地方建設局)	**貼絵** 2点，中の島風景 土佐堀風景，
和田　正節	(自営)	**油絵** 2点，秋の北海公園（北京）大境門外 （張家口）
岡村　文子	(大阪建築事務所)	いけ花
小山美奈子	(住宅公団大阪支所)	いけ花
武田美智子	(住宅公団大阪支所)	いけ花
藤飯　久子	(大阪市建築局)	いけ花



懇親ゴルフ大会

1. 懇親ゴルフ大会

3月29日　9時——5時　於 宝塚ゴルフクラブ
27ホール　メダルプレイ（H．8掛け）

参加者並に成績（略敬称）

	H．	N			
川崎　敬三	12	110	B	G	
石川　良興	14.4	110.6			
井原　巌	14.4	110.6			
上野　四郎	30	114			
堀内　宣也	13.2	118.8			
山中　国光	21.6	119.4			
笹川　季男	16.8	120.2			
彦谷　邦一	43.2	120.8			
速水宗治郎	33.6	121.4			
神田　正平	21.6	121.4			
高橋　至	19.2	121.8			
多田　英之	30	122			
岩住平治郎	16.8	122.2			
白井　徳蔵	27.6	122.4			
安田　金吾	27.6	122.4			
島村佐次郎	9.6	122.4			
中西　和夫	13.2	122.8			
滝　茂	33.6	123.4			
野中　駒市	18	124			
雑賀　孝夫	24	124			
木下　国男	12	124			
梶本　秀尾	12	125			
岡本　美男	16.8	125.2			
地頭　政人	27.6	125.4			
柿岡十三介	14.4	125.6			
本田　令三	19.2	125.8			
太田　敏郎	34.8	126.2			
木下　光雄	20.4	126.6			
南　長吉	20.4	126.6			
山田啓三郎	8.4	128.6			
牛田　正郎	30	129			
豊田　新平	27.6	131.4			
隅田　正美	43.2	131.8			
田中　孝男	22.8	132.2			
木村　精一	27.6	132.4			
佐野　正一	21.6	132.4			
大木　末次	36	133			
村上　秀夫	30	134			
谷山　俊輔	22.8	134.2			
斎藤　光夫	31.2	134.8			
三宅　昭栄	24	135			
井上　民治	30	138			
伊東　正也	30	139			
佐藤　和美	43.2	143.8			
松尾陽三雄	24	144			
佐藤九州男	36	145			
田中　幸弘	36	146			
仙田　四郎	16.8	147.2			
滝　邦一	22.8	148.2			
北村　俊純	43.2	150.8	B	B	
岡本　弘	42	170			

川崎敬三氏（ＫＫ近畿建設社長）優勝。会長賞（銀製花瓶）を獲得。

1. 特別見学会

（イ）大阪市内新建築見学会

3月31日　9時——5時　貸切バス

見学箇所

大阪駅西口出発——大阪市体育館——四天王寺五重塔金堂講堂——東本願寺難波別院御堂会館——日本板硝子本社（中食のご接待を受く）——日本興業銀行大阪支店——関西電力本社——新阪急ビル——阪神百貨店会員余技展観覧

参加者（略敬称）

浅野　清	浅野　繁	井上　道夫
今西　靖和	岩崎甚太郎	岩橋　敏行
植木文之助	小川　勝	小野　進一
小原　彦光	岡本　一郎	岡本　久和
奥山清治郎	笠井　宏悦	久保田進也
古城　功	古林　義敦	合田　治作
佐藤　公三	更井　清志	菅井　昌興
芹生　幹二	辻　太一郎	辻本　豊
中岡　善吉	中村　綱	西浦　康夫
西田　一	浜口　洋一	林　太一
福井　敏夫	益尾　辰雄	桝谷　芳明
水本　稔	溝口　政夫	南石　知子
武藤　享	安田　誠一	和田　克朗
和田　忍	和田　正節	和田　洋一

（事務局　山田，三木）

（ロ）京都名園巡り見学会

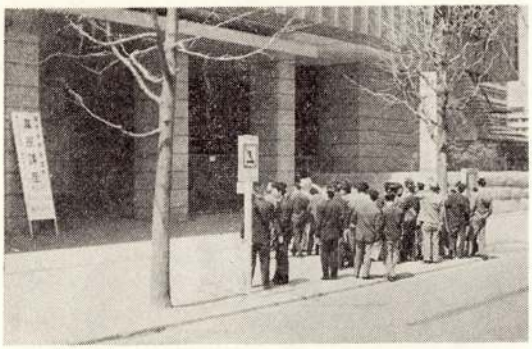
3月31日　10時半——5時半　貸切バス

会費　¥ 500（精進料理，抹茶，拝観料）

解説　庭園　中根　金作氏（京都府文化財保護課）
　　建築　川上　貢氏（京大助教授　工博）

見学箇所

国鉄京都駅東口集合——西芳寺——天竜寺（中食）——竜安寺——妙心寺，退蔵院（抹茶）——南禅寺



大阪市内新建築見学会



特別見学会：京都名園めぐり



特別見学会：倉敷と鞆のタイアミを見る会



特別見学会：黒部峡谷と発電所を見る会

金地院——国鉄京都駅前解散

参加者（略敬称）

伊藤敬祐	井戸本英紀	臼井通洋
内田成之	大木基弘	岡田孝男
岡村忠一	折戸興市	片田俊彦
神島弘	川島昌保	小泉豊
雀堂登	白鹿正鹿	末吉俊郎
田中宏	竹内喜次男	武田真業
二宮清	西江輝二	西本貞男
灰野一郎	藤利充宏	藤本恵一
星住哲夫	間永進	松田新
三浦文夫	大和雄三	山下啓三
山田芳雄	吉林清明	吉本文彦

（事務局　安藤，笹川，鹿内）

（ハ）倉敷と鞆のタイ網を見る会

5月19日（土）20日（日）

会費　¥ 4,500（往復旅費，宿泊費，中食費等）

5月19日

大阪駅発（8.15）——倉敷着（11. 24）——（貸切バス）——旅館くらしき（中食）——民芸館，陶器館，大原美術館，同分館，市庁舎，民家等見学——（貸切バス）鞆の浦対山館泊，懇親会

5月20日

対山館発（9.00）——タイ網および鞆の浦遊覧（貸切船）——（貸切バス）——福山駅発（14.03）——大阪駅着（17.58）解散

本見学会については，大林組，藤木工務店，倉敷市，福山市，古林中国支部長各位より多大のご後援，ご斡旋を頂いた。

参加者（略敬称）

井手正雄	岩崎甚太郎	上野稔
小野山博	尾亀清四郎	大津敏晴
岡村忠一	工藤明	小林清
古林義敦	佐藤公三	財田文夫
酒井弥三郎	久田良吉	福田万亀雄
藤田邦昭	藤田弘子	正岡隆市
政岡基次	森茂樹	森西竜太郎
八田実	吉崎源三郎	

（事務局　空，鎌尾，佐々木）

（ニ）黒部峡谷と発電所を見る会

7月21日（土）22日（日）23日（月）

集合　21日10時半　国鉄名古屋駅8番ホーム

会費　A班（22日夕刻宇奈月駅前解散）

¥ 3,000（第1日宿泊代第2日中食代外）

B班（23日正午富山駅解散）

¥ 5,000（第1日第2日宿泊代，第2日中食代外）

7月21日

名古屋発（11.00）——松本駅着（15.27）——（貸切バス）—— 松本市内，大町郊外木崎湖見学 ——（貸切バス）——葛温泉河鹿荘泊，懇親会

2月27日（堰堤では稀にみる快晴に恵れた。）

葛温泉発（8.00）——（貸切バス）——黒部建設工事骨材採取場（鹿島建設ＫＫ採取）——黒部第四発電所建設事務所——大町ルート——堰堤(間組施工)——黒部ルート——インクライン——地下の第四発電所（大成建設ＫＫ施工）（中食）——仙人谷（上部軌道）——欅平上部駅（エレベータ）—— 建設中の新第三発電所（佐藤工業ＫＫ施工）—— 欅平駅発（黒部鉄道）——宇奈月駅着(16.58)——A班解散，B班宇奈月温泉河内屋泊懇親会

富山県建築課長椚座正信氏（前大阪府建築部指導課係長）がお繰り合せ富山より来訪され，一同と久濶を叙し懇親を重ねた。なお同氏より麦酒の寄贈を受く。多謝。

7月23日

宇奈月駅発（10.20）——富山駅着（11.40）解散

なお若干名を除いて一同12.50富山発19.45大阪駅帰着

本見学会については，関西電力ＫＫ，間組，大成建設ＫＫの各社より貸切バス並に懇親会の開催について特別のご後援ご厚配を頂いた。なお関西電力の原田建設部次長外の方々には終始ご懇篤な諸準備ご案内を頂き大変な便宜を受けて本見学会を誠に有意義な記念すべきものとすることができた。参加者一同も非常な喜びであつた。ご後援の各位に深く謝意を表す。

参加者（略敬称）

A 班	井上 達也	加藤 毅夫	金子 稔
	楢崎 正也	西江 輝二	真柄 敏郎
	松尾 恭治	松田 郎三	森本 茂次
	山内嘉兵衛	山口 明	
B 班	岩崎甚太郎	尾亀清四郎	川村 統之
	木村 喬夫	小林 清	小林政一郎
	坂内 幾男	坂本 松男	滝 邦一
	永田 武雄	中村 信夫	西 裕
	橋本 政一	原田 守	伴野 貞三
	平田作太郎	藤田 邦昭	前川 敬蔵
	前田 大二	政岡 基次	矢野 豊作
	山本 茂	吉岡 義昭	

（事務局 手島，山田）

1. 懇親ソフトボール大会

5月2日 12時——4時半 於大阪郵政局グラウンド

東畑記念事業委員長の開会の挨拶に次いで官公庁公社連合（カンコーズ）建築事務所会社営繕連合（ハンサムズ）建設連合（ビルダーズ）学校設備建材連合（スナオーズ）の4チームにより3試合を行い，建設連合チーム優勝。なお東畑委員長から出席者全員に対し参加賞の寄贈があつた。多謝。

第1試合 ビルダーズ 10——9 ハンサムズ
第2試合 カンコーズ 11——7 スナオーズ
優勝試合 ビルダーズ 14——13 カンコーズ
ホームラン賞 吉本 文彦 淀井 健彦 鳥井 豊秋
渡部 泰三 牧田 顕治 香取 礼三 間永 進
ファインプレイ賞 倉石 秀夫 斧出 正隆
間永 進 大西庫三郎
珍プレイ賞 小川 正 武田 明男

参加者（略敬称）

官公庁，公社連合

総監督	福知秀夫
主将	片山光生
コーチ	三品哲夫
	中川秀夫
	貝戸俊一
	岩本尚三
	鳥井豊秋
	間永進
	山本広志
	牧田顕治
	斧出正隆
	今西祥郎
	泉資一郎
	中田隆
	審忠夫
	松下良一
	高木登
	北山理

建築事務所，会社営繕連合

総監督	香取礼三
主将	福田朝生
コーチ	井上滉
	上野博美
	北山勝昭
	淀井健彦
	前川陽一
	山尾善夫
	北山克行
	駒日出男
	坂内幾男
	内藤一真
	青木健一
	西本貞男

建設連合

総監督	小川正
主将	寺沢一夫
コーチ	長沢徹夫
	武田明男
	力武利夫
	倉石秀夫
	渡辺清治
	岡本弘

学校，設備，建材連合

総監督	須賀栄一
主将	上林博雄
	水谷顕介
	楢崎正也
	鈴木良介
	光崎育利
	脇本啓一
	田沢昭一



慰　霊　祭



慰　霊　祭



慰　霊　祭



慰霊祭参加のご遺族方

辻野純徳	家原典
木村秀夫	渡部泰三
前田満亀雄	赤谷吉信
吉本文彦	中野吉晟
大西庫三郎	三宅昭栄
北村収	松本大平

試合終了後，岩崎総務委員長閉会の挨拶を行い，各賞品を授与，同グラウンドにおいて一同乾杯して懇談した。

1．物故会員、職員慰霊祭

6月2日　1時――3時　於大阪中央公会堂3階集会室

当日お祀りした物故者芳名（五十音順）

故安藤　謙介殿	故安藤　春雄殿	故安孫子三雄殿
故安間　立雄殿	故足立清一郎殿	故足立　芳助殿
故青木斎次郎殿	故赤松　重一殿	故明石　龍一殿
故秋吉　金徳殿	故浅野　幸吉殿	故天沼　俊一殿
故網永　庄八殿	故鮎川　衛之殿	故荒川　利一殿
故荒木　大作殿	故荒木　正巳殿	故有山福重郎殿
故井上　賢二殿	故井上　新二殿	故井上　忠吾殿
故井上　友一殿	故井上　貢殿	故井上　由平殿
故井尻　義雄殿	故井原　百介殿	故井平　重夫殿
故伊東　和雄殿	故伊東　輝治殿	故伊藤　英一殿
故伊藤　肆郎殿	故伊藤　真雄殿	故伊藤　谷蔵殿
故伊藤　為吉殿	故伊藤　義雄殿	故伊部　貞吉殿
故飯田松太郎殿	故生川　修殿	故生田種治郎殿
故池上　四郎殿	故池田栄三郎殿	故池田　勘三殿
故池田　唯一殿	故池田　晁也殿	故池田　実殿
故池野　逸郎殿	故石賀忠五郎殿	故石田勝之助殿
故石田　成男殿	故石田　敏樹殿	故石田　義雄殿
故石橋為之助殿	故石原　靖介殿	故磯田　竹次殿
故板垣　嘉一殿	故板倉　達殿	故泉谷　四郎殿
故市村　光恵殿	故糸永　文古殿	故稲井　常夫殿
故猪瀬幸太郎殿	故今井　正雄殿	故今北　乙吉殿
故今西林三郎殿	故今村　次男殿	故今村　光三殿
故岩井長三郎殿	故岩尾　保衛殿	故岩田　愛吉殿
故岩田　末広殿	故上田寿一郎殺	故上田善三郎殿
故上西　五郎殿	故上野　三男殿	故牛村　喜勇殿
故臼井　正三殿	故内山熊八郎殿	故海野浩太郎殿
故梅原　格三殿	故浦　英之助殿	故遠藤　一次殿
故小川　政徳殿	故小川安一郎殿	故小沢　憲一殿
故小関　守一殿	故小田　林殿	故小野木孝治殿
故小原　力殿	故大石　忠夫殿	故大内　重夫殿
故大内秀一郎殿	故大浦　悦郎殿	故大江新太郎殿

故大岡　喜治殿　故大隈　重信殿　故大島鎌太郎殿
故大島弥一郎殿　故大杉　謙二殿　故大高庄右衛門殿
故大塚　錦三殿　故大槻　龍治殿　故大西　幸七殿
故大西　正二殿　故大林賢四郎殿　故大林　義雄殿
故大原　忠隆殿　故大松　正之殿　故大道　勝也殿
故大森　喜一殿　故大森　茂殿　故岡崎　芳樹殿
故岡田大三郎殿　故岡田　達弥殿　故岡部　顕則殿
故岡本　忠行殿　故沖　尚助殿　故沖　盛殿
故奥田　芳男殿　故押鳴　六郎殿　故尾之江武義殿
故折居満寿介殿　故折田　義雄殿　故織岡　一夫殿
故織田　泰雄殿　故加々美武夫殿　故加藤喜三郎殿
故加藤　熊雄殿　故加藤　一俊殿　故加藤　茂殿
故加藤　誠二殿　故加護谷祐太郎殿　故鍛冶　弘殿
故柿崎　欽吾殿　故柿本　清治殿　故笠井新十郎殿
故柏谷　義男殿　故糟谷　謙三殿　故片岡　勇夫殿
故片岡　直輝殿　故片岡　安殿　故勝田才次郎殿
故葛西　萬司殿　故葛野壮一郎殿　故門田　頼夫殿
故金田　兼吉殿　故金森又一郎殿　故上久保節男殿
故上谷　利夫殿　故上地　清治殿　故亀山　寅夫殿
故川勝　健二殿　故川久保梅治郎殿　先代故川島甚兵衛殿
故川島　末吉殿　故川瀬　三郎殿　故川野　平造殿
故川人　繁一殿　故河合喜三郎殿　故河杉　親一殿
故河原啓太郎殿　故神戸　又七殿　故木内　定雄殿
故木田　延衛殿　故木原　佐吉殿　故木村音右衛門殿
故木村　寛一殿　故木村外茂夫殿　故木村　義雄殿
故喜田　利義殿　故城戸　彦七殿　故貴宝院　隆殿
故岸本　幸治殿　故北野　勇殿　故北村　薫殿
故北村　萬治殿　故橘高　寿殿　故衣笠　信夫殿
故清野長太郎殿　故桐田　登殿　故久保田繁亮殿
先代故久保田種吉殿　故久保田政周殿　故楠瀬　澈殿
先代故窪島　宗治殿　故下松　一男殿　故国枝　博殿
故国川　正殿　故国永　清喜殿　故倉崎寛一郎殿
故黒沢　研殿　故黒住福三郎殿　故黒田　忠雄殿
故黒田　浩殿　故毛尾大三郎殿　故小池　鋪三殿
故小坂　信一殿　故小谷　利郎殿　故小嗣　精殿
故小西　一良殿　故小林　堅二殿　故小林　嘉高殿
故小林　亀雄殿　故小林　悉殿　故小森　稠殿
故小山　健三殿　故小山助太郎殿　故児島春太郎殿
故児玉広太郎殿　故後藤　新平殿　故五島　政雄殿
故高坂　辰夫殿　故高津壮太郎殿　故鴻池忠三郎殿
故合田　勝一殿　故郡　富太郎殿　故駒井貴兵衛殿
故権藤　貢殿　故佐々木源之助殿　故佐々木　茂殿
故佐竹　信次殿　故佐藤　彰美殿　故佐藤　正二殿
故佐藤松太郎殿　故佐藤　茂助殿　故佐納　盛登殿
故佐伯　徳吉殿　故斎藤　敏夫殿　故斎藤　久孝殿
故雑賀良之助殿　故酒井藤一郎殿　故坂本己之助殿
故坂本　譲殿　故坂野　兼通殿　故作山　義弼殿
故桜井　督平殿　故貞包　悦一殿　故真田　光正殿
故沢田　清一殿　故清水　釘吉殿　故清水芳次郎殿
故志村　安馬殿　故設楽　貞雄殿　故塩崎　政雄殿
故宍戸　秋生殿　故篠原　清孝殿　故柴田　四郎殿
故下浦　光衙殿　故下田　高三殿　故下畑春太郎殿
故荘田平五郎殿　故ジョサイヤコンデル殿　故神保豊治殿
故新名　種夫殿　故須恵　徳朗殿　故須賀藤五郎殿
先代故須賀豊治郎殿　故須藤　員雄殿　故須藤　隼人殿
故末沢喜久男殿　故菅谷　一郎殿　故杉本　助博殿
故祐安　薫信殿　故鈴木　省三殿　故鈴木　武殿
故鈴木　冬蔵殿　故鈴木与五郎殿　故砂本　清殿
故瀬川　廉平殿　故瀬戸　文吾殿　故関　一殿
故関場　茂樹殿　故銭高　善造殿　故曽弥　達蔵殿
故園部　茂殿　故園部　文雄殿　故田口　正夫殿
故田尻稲次郎殿　故田代　守次殿　故田代　正熊殿
故田中亀太郎殿　故田中　慶三殿　故田中　勤殿
故田中　綱殿　故田中　績殿　故田中　進殿
故田中　稔朗殿　故田中　豊輔殿　故田中　通夫殿
故田中　譲殿　故多賀　鈴彦殿　故多田　凡一殿
故伊達　多平殿　故伊達陶二郎殿　故高岩　静殿
故高岡　逸平殿　故高岡　信郎殿　故高木　正三殿
故高田　昌平殿　故高寺市之介殿　故高野　二夫殿
故高野瀬藤太殿　故高山　長幸殿　故高橋　栄治殿
故高橋　是清殿　故高橋　太郎殿　故高橋　種夫殿
故高橋　三男殿　故高橋　茂殿　故高崎　斉蔵殿
故滝野鞆太郎殿　故竹内　兼次殿　故竹内　佐市殿
故竹下　正也殿　故竹田　延朗殿　故竹中　利雄殿
故武田　五一殿　故武富　英一殿　故巽　純一殿
故立島　幸助殿　故立木　誠三殿　故辰野　金吾殿
故辰巳吉之助殿　故辰巳　吉政殿　故谷　隆夫殿
故谷川　敬一殿　故谷口　徳政殿　故谷口　利常殿
故谷口　廉児殿　故谷村　信吉殿　故玉川　貫治殿
故玉川　卓一殿　故津田　悦治殿　故津田　敏雄殿
故津村　芳三殿　故都藤次三郎殿　故塚　安治殿
故築紫　太郎殿　故佃　忠蔵殿　故辻坂信次郎殿
故辻本　勇殿　故筒井　二郎殿　故堤　多計士殿
故坪井　誠一殿　故鶴丸　伝右殿　故寺井　広義殿
故寺川　三郎殿　故寺沢　林吉殿　故寺西藤五郎殿
故天満　勇殿　故土井助三郎殿　故徳川　頼倫殿
故徳政　金吾殿　故富坂　昇殿　故富田　勇殿
故富田　勘治殿　故友田　薫殿　故朝永国次郎殿
故豊島　停雲殿　故鳥越　良一殿　故内藤　功殿
故内藤　太郎殿　故直江　弘殿　故直木倫太郎殿
故中井　孝夫殿　故中栄　徹朗殿　故中川幸太郎殿
先代故中川　辰蔵殿　故中島　彦六殿　故中根　亀一殿
故中村角之助殿　故中村　喜七殿　故中村　信義殿
故中村　英夫殿　故中村　庸二殿　故中村　亮吉殿
故中山　義雄殿　故永田三次郎殿　先代故永田　仁助殿

故永田善次郎殿　故永沢　清信殿　故永野　房吉殿
故永元　乙吉殿　故長尾　繁治殿　故長尾　勇造殿
故長田増次郎殿　故鍋島　義忠殿　故成田　一男殿
故成富　輝雄殿　故南京仙太郎殿　故難波江久通殿
故二階堂禎典殿　故二宮　裕造殿　故西尾　亮殿
故西岡　道信殿　故西田　偉三殿　故西野　春夫殿
故西村　利弘殿　故西村　安彦殿　故西林　慥爾殿
故丹羽　七郎殿　故蜷川光太郎殿　故根来　弘殿
故根本　繁士殿　故野儀久四郎殿　先代故野沢幸三郎殿
故野沢　勉殿　故野田　義雄殿　故長谷川五一殿
故長谷川銈五郎殿　故長谷川　真殿　故萩原　貞殿
故間　猪三郎殿　故橋本　勉殿　故橋本　実殿
故畑　政七殿　故服部萬次郎殿　故花岡才五郎殿
故馬場　英一殿　故浜　芳雄殿　故浜田　茂雄殿
故浜田日出穂殿　故浜脇　敬蔵殿　故早箏　五朗殿
故林　仙造殿　故林　良信殿　故原田金次郎殿
故原田　千歳殿　故原野　恵助殿　故坂東　八郎殿
故播野安兵衛殿　故桧垣　武弘殿　故桧皮　正隅殿
故久留　弘文殿　故姫野　武殿　故姫野　磨殿
故平井　英一殿　故平塚　鎗吉等　故平野　等殿
故平林　美彦殿　故平松　鶴吉殿　故広田　精一殿
故福井　房一殿　故福井　裕殿　故福島　増三殿
故福富　清殿　故福永　謹吾殿　故福永　貞夫殿
故伏見　紀一殿　故藤井亀之助殿　故藤井　厚二殿
故藤井　春三殿　故藤田重太郎殿　故藤田　茂殿
故藤田友太郎殿　故藤田　治雄殿　故藤田　元吉殿
故藤田　龍三殿　故藤谷茂二郎殿　故藤本　阡夫殿
故藤本　好雄殿　故船本　晋殿　故古市　好威殿
故古川　豊殿　故古谷　雅一殿　故古橋　郷丸殿
故戸次　秀夫殿　故別所　襖殿　故北条　時一殿
故北条　時敬殿　故本田　義夫殿　故本間　乙彦殿
故前田　松韻殿　故牧野　元良殿　故増田　熊一殿
故松井　清足殿　故松井　光彦殿　故松久保敬三殿
故松下甚三郎殿　故松田　亥作殿　故松見　智雄殿
故松村　武雄殿　故松村　雄造殿　故松室　重光殿
故松室　成貞殿　故松本　禹象殿　故松本仁重郎殿
故松森　修太殿　故丸本　啓司殿　故三浦　尚史殿
故三木　作殿　故三橋国太郎殿　故三好喜三郎殿
故三善　好人殿　故光安梶之助殿　故水上　昌三殿
故皆崎　舜亮殿　故宮川総三郎殿　故宮川　豊蔵殿
故宮本　徳一殿　故宮本　長治殿　故宮脇　福松殿
故向山友次郎殿　故村田　篤殿　故村田　小一殿
故村山　龍平殿　故樅山連次郎殿　故室原　政興殿
故毛利庄太郎殿　故毛利　高明殿　故本野　精吾殿
故本山　彦一殿　故森下　新造殿　故森田　茂殿
故森田　茂三殿　故森本　光昭殿　故森本　三次殿
故森山松之助殿　故八木　盛二殿　故八島　章殿
故八尾　金一殿　故矢木　英夫殿　故安田　保蔵殿
故安永　義章殿　故籔内　仁一殿　故籔中　幸彦殿
故籔本久三郎殿　故山川健次郎殿　故山口　正殿
故山口　挺二殿　先代故山口半兵衛殿　故山下　一夫殿
故山添　繁蔵殿　故山田　源蔵殿　故山田　静殿
故山名　啓介殿　故山中鹿太郎殿　故山本　修殿
故山本鑑之助殿　故山本辰五郎殿　故山本治兵衛殿
故山本　延次殿　故山本　正重殿　故山本由太郎殿
故山脇友三郎殿　故湯川　浩殿　故依田新三郎殿
故横井　謙介殿　故横田左右衛門殿　故横田　作蔵殿
故好井　博明殿　故吉井　長七殿　故吉川時三郎殿
故吉川　智殿　故吉木　久吉殿　故吉住　義一殿
故吉田　邦一殿　故吉田　兵蔵殿　故吉野　修録殿
故米倉　威夫殿　故米田　外次殿　故和田　友吉殿
故和田　登殿　故渡辺　武男殿　故渡辺　珍久殿
故渡辺　正治殿　故渡辺　譲殿　故職員　各位殿
（以上昭和27年4月お祀り 567柱）
故青木　友一殿　故青柳　貞世殿　故浅田　義克殿
故浅海　治平殿　故東　和市殿　故阿倍　礼次殿
故荒川　義夫殿　故伊東　五郎殿　故伊東　忠太殿
故伊藤幸太郎殿　故伊藤　正文殿　故飯田　紀造殿
故池田　稔殿　故池田谷久吉殿　故石原　政三殿
故板井　公威殿　故市川　進男殿　故今津　吉兼殿
故岩井　勘二殿　故植田　稔殿　故上山　元市殿
故梅阪　旦殿　故小野政太郎殿　故大隅　武夫殿
故岡　実殿　故岡村徳一郎殿　故落藤　藤吉殿
故加藤得三郎殿　故角尾　篤彦殿　故樫原　登二殿
故金田　茂殿　故上林　敬吉殿　故河村　新殿
故紀伊　健造殿　故木子　七郎殿　故木下　金蔵殿
故木村　捨蔵殿　故北山　米吉殿　故工藤甚五郎殿
故楠田　実殿　故栗原　信虎殿　故黒川　健二殿
故小泉為治郎殿　故小泉　雄殿　故小西　順一殿
故小松　四郎殿　故児玉　充弘殿　故佐伯与之吉殿
故佐竹　則翁殿　故佐渡島英祿殿　故境　正一殿
故阪口芳三郎殿　故志垣　正次殿　故清水　一雄殿
故城口　亀吉殿　故周藤　馨二殿　故末広　実蔵殿
故田中　章殿　故田中　清一殿　故田中民三郎殿
故田中　留男殿　故田中　弘幸殿　故田中　正雄殿
故田中　義信殿　故田辺　平学殿　故高井　久治殿
故高丘　治季殿　故高戸　紀綱殿　故高橋喜平太殿
故竹内　六蔵殿　故竹林富三郎殿　故武内　富雄殿

故武田　久吉殿　故谷　民蔵殿　故常石　稔殿
故寺西　武吉殿　故戸塚　端殿　故富永　長治殿
故鳥井　信殿　故中川　了文殿　故中野　忠殿
故中村収次郎殿　故永瀬　狂三殿　故永野　三郎殿
故長田岩次郎殿　故西尾　寛治殿　故根岸　信殿
故橋本憲治郎殿　故長谷川富二郎殿　故長谷部鋭吉殿
故長谷目　浩殿　故林　健太郎殿　故日高　胖殿
故日野　勝好殿　故久田　憲親殿　故平野　弥助殿
故布施　忠司殿　故福田　茂殿　故福永　顕文殿
故古川　隆三殿　故本田明三二殿　故本田　林八殿
故馬渡　豪殿　故松井　文一殿　故松江　秀季殿
故松原　長春殿　故松村　俊雄殿　故松本　吉平殿
故三浦　茂殿　故三原　清治殿　故森本　達雄殿
故八木　繁志殿　故矢田　茂殿　故安井　武雄殿
故薮中　一良殿　故山内　茂殿　故山岡　孫吉殿
故山上　正吉殿　故山口儀三郎殿　故山崎　鉄人殿
故山外　佐吾殿　故山中彦三郎殿　故山森　資一殿
故吉村清太郎殿　故和田　友一殿　故渡　実幸殿

（以上今回合祀 126 柱）

慰　霊　祭

政岡総務委員司会して，祭主東畑副会長，斎主御霊神社宮司により執行，終了後地下室食堂において出席のご遺族に茶菓を供して懇談。

次　第

1．修　祓
1．降　神
1．献　饌
1．斎主祝詞奏上
1．祭主祭文奏上
1．斎主玉串奏奠
1．祭主玉串奏奠
1．遺族玉串奏奠
1．来賓並各代表玉串奏奠
　菅　陸二殿（大阪府建築士会）
　元良　勲殿（日本建築学会支部）
　川勝源兵衛殿（建設）
　山本竜太郎殿（電気）
　平山　京平殿（管工）
　中村　文夫殿（建材）
1．撤　饌
1．昇　神
1．神　官　退　場
　祭　主　挨　拶　東畑副会長
　遺族代表御挨拶　浅海正雄殿
　遺族記念撮影

当日の出席者（五十音順）

御　遺　族

青木　義雄殿　青柳　貞次殿　浅海　正雄殿
安孫子信夫殿　阿部　君子殿　荒川真佐江殿
有山　ふじ殿　井尻　新雄殿　池田　達雄殿
生川　純殿　市川　元殿　泉谷　保夫殿
今津　義勝殿　植田志津子殿　上地　金蔵殿
浦　まさ殿　小川波津枝殿　大内喜太郎殿
加藤　久枝殿　加藤よし子殿　柏谷アキノ殿
紀伊ミドリ殿　岸本　幸臣殿　木下　光雄殿
木原　意枝殿　木村　静江殿　久保田種吉殿
栗原　信英殿　小泉　守殿　小西スエノ殿
小西裕一郎殿　佐渡島　博殿　阪口　節子殿
志垣かほる殿　設楽　貞三殿　柴谷　仁人殿
城口　庸平殿　菅谷　三郎殿　鈴木　直枝殿
瀬戸　文雄殿　銭高　久吉殿　田中　清恵殿
高岡　昭殿　高戸　直子殿　武内　義雄殿
辰巳　義一殿　谷口　尚武殿　堤　静子殿
角尾　志け殿　寺西　節子殿　天満利兵衛殿
鳥井久美子殿　直江　和夫殿　中川トシ子殿
中野　輝子殿　永瀬　秀殿　永田　仁助殿
成田　鹿次殿　西村与三郎殿　浜　とめ殿
林　清子殿　播野　よつ殿　日野　勝夫殿
久田　和公殿　姫野　敏子殿　古川　滋夫殿
本田　幸子殿　松村　さと殿　松室　精三殿
三浦　茂己殿　三木　敏子殿　三原　清敬殿
矢木　寿殿　山上　サト殿　山口　貞子殿
山口　澄子殿　山添　平蔵殿　山外　さく殿
山中喜佐子殿　山本　義樹殿　山森　豊殿
和田　政男殿　渡　テル殿

来賓並会員

審　忠夫殿　伊東　健殿　石堂正三郎殿
今林彦太郎殿　岩崎甚太郎殿　臼井　良吉殿
岡本　弘殿　奥村重兵衛殿　川勝源兵衛殿
神谷　新一殿代　小松　次郎殿　駒　日出男殿
佐孝　義治殿　佐野　正一殿　桜井　進一殿
菅　陸二殿　杉本　寛治殿　東畑　謙三殿
中原　茂殿　中村　信夫殿　中村　文夫殿
七尾　健三殿　波江　悌夫殿　西村　庄市殿
土師　正弘殿　坂　静雄殿　平田作太郎殿
平山　京平殿　政岡　基次殿　松本　儀八殿
三井　威夫殿　村石　秋吉殿　室谷　山水殿
元良　勲殿　山上　孟男殿　山本　茂殿
山本竜太郎殿　和田　真一殿　若林　季雄殿

歳月の経過につれてご遺族中に住所不明のためご案内状の送附のできない向が大変多く，また発送した案内状で受取人不明として返送されたものも多数であった。会員各位で物故者ご遺族の住所ご承知の向は随時事務局までご連絡願いたい。なおご出欠のご連絡があったご遺族で当日欠席された方々には，当日お供えの粗供養をお贈り申し上げた。

1. 住宅講演会

6月29日　12時半——4時　於阪急ホール

司会　木原住宅講演会委員

1. 映　　画

千里山ニュータウン　日本のスラム

1. 開会の辞　　副会長　東畑　謙三氏
1. 講　　演

千里山ニュータウン

大阪府企業局宅地開発部長　深尾　実郎氏

各国の住宅政策

東大社会科学研究所教授
建設省住宅審議会　委員　有泉　亨氏

フランスのサラリーマン生活

評論家　角田　房子氏

1. 閉会の辞　住宅講演会委員長　塚本　猛次氏

後援　毎日新聞社

聴衆　約　300名

1. 記念講演会

8月24日　1時——4時　於関電ホール

司会　村上記念講演会委員

1. 開会の辞　　副会長　東畑　謙三氏
1. 講　　演

建築随想

前本会会長
双星社竹腰建築事務所長　竹腰　健造氏

経営雑感

松下電器産業株式会社会長　松下幸之助氏

1. 映　　画

「大いなる黒部」ワイドカラー

黒部第四発電所建設記録第3部

1. 閉会の辞　記念講演会委員長　鷲尾　健三氏

後援　朝日新聞社

聴衆　約　600名

1. 記念出版

1. 書　名　「ふるさとのすまい」日本民家集
1. 体　裁　18×17cm　上製本 260頁　総グラビア
1. 序　文　今和次郎氏　竹内芳太郎氏　小倉　強氏

蔵田周忠氏　石原　憲治氏　伊藤ていじ氏

1. 内　容　日本全国各県に亘り約190点集録

写真と共に全ての平面と主な断面を附す

1. 発　刊　8月23日　5,000部
1. 定　価　¥960円　全員特価　¥800
1. 本書は日本図書館協会の選定図書に推薦された。
1. 本書は第16回毎日出版文化賞を受賞した。(昭和37年11月3日)

追て本書は，記念事業資金寄附者，記念事業関係者並に関係各方面へそれぞれ寄贈した。

(3)　収　支　計　算

(昭和37年11月30日現在)

収　入		
事業資金寄附金		5,886,000
事業収入		331,850
祝賀会会費	10,500	
京都名園巡り会費	17,000	
倉敷見学会会費	119,350	
黒部見学会会費後援金	185,000	
雑収入(預金利子)		28,026
計		6,245,876
支　出		
式典費		128,915
表彰費		250,685
祝賀会費		284,010
慰霊祭費		241,945
記念出版費		840,624
総費用 3,560,624の内「ふるさとのすまい」4,000部代¥2,720,000を戻入		
講演会費		225,936
住宅講演会	147,149	
一般講演会	78,787	
見学会費		442,276
大阪市内見学会	13,580	
京都名園巡り	51,906	
倉敷見学会	161,685	
黒部見学会	215,105	
余技展費		132,610
運動会費		84,600
宣伝費		172,730
準備会合費		96,007
通信費		107,765
印刷費		119,638
挨拶状，依頼状，案内状，礼状その他		
交通費		4,140
雑費		124,343
計		3,256,224
差引残金	2,989,652	

創立45年記念講演会講演記録

と き　昭和37年8月24日　　ところ　関電ビルホール

○日本建築協会副会長(東畑謙三君)のあいさつ

本日はご多忙中のところ，又暑さの折柄ご参集くださいまして，まことにありがとうございます。本日は会員以外の方もお見えになっているようでございますが，日本建築協会は大正6年片岡安先生のもとに技術者が集りまして創めました会なのでございます。

最初は技術者中心として広く活躍しておったのでございますが，本日ここにご講演の竹腰先生を会長といたしまして，構想も新たに単なる技術者に限らず，大阪における，あるいは大阪を中心として，全国の建築に携わるたくさんの方をいろいろ集めまして拡大したところの会であります。そして，ここに本年をもちまして45周年を迎えることになったのでございます。この間益々大きくなりまして，会員数約4,500ということになっております。各々その職域におきまして，又その業務を中心として社会奉仕並びに業界の奉仕をいたしているのでございます。

人間も45になりますと，だんだん重厚になりますが，この会といたしましても，益々重厚になってまいりまして，本年の3月から発足いたしまして記念事業をやっているのでございますが，本日これを最後といたしまして，この講演会を開いたわけでございます。竹腰先生はご承知のように，わが建築界の大先輩でございまして，さだめし非常に有益なるお話を伺えることと思うのであります。

引き続きまして松下さん，これ又，業界の大先輩でありますので，有益なるお話を承われるだろうと思いますので，どうかご静聴のほどをお願いいたします。(拍手)

(以下に，竹腰健造氏の「建築随想」，松下幸之助氏の「経営雑感」の講演記録を集録する。)

記念講演会風景(講演者は松下幸之助氏)



建　築　随　想

竹　腰　健　造

ただいまご紹介にあずかりました竹腰でございます。建築協会もいよいよ創立後45周年を迎える事になりましていろいろと記念事業をしておられるようでございますが，ちょうど私が大学を出ましてから今年で50年になります。そして大阪にまいりまして建築の仕事を始めましてから，45年になりますので，建築協会とともに私は育ってまいったような次第であります。こういうことを申しますと，およそ私の年令も知れるということに相成りまするが，やはりいよいよ壮年とは申しがたい年令になってきたことを感ずるのであります。私は何も特別に専門的に勉強したというものも持ち合わせておりません。したがってお話することも，専門的なものは持ち合わせません。唯，建築業界に身を投じましてから50年，約半世紀でありますが，その間に日本は非常な発展をしました。又科学の進歩，技術の進歩は，実に驚くべきものがあるのであります。その間に泳いでまいりました半世紀の経験をお話いたすよりほかありません。したがって題も「随想」というようなことで，はなはだ無責任な題でありますが，ごく漠然と断片的にお話するようなことに相成ろうかとも思いますけれども，まあ，年寄りの今日まで経てきた道が多少とも皆さんのご参考になれば非常に幸いだと思うのであります。

19世紀の末葉，それから20世紀の前半と申しますか，前三分の一くらいまで，その間の建築に対する考え概念と申しますか，それと，現在の建築に対する概念とは非常に差が起ってきたのではないかと私は考えております。

その第一は，建物というものが昔は唯箱であった。その中に入って人が働くという無機体と考えてよかったのでありますが，今日は全然その姿を変えております。電気があり，暖冷房があり，上下水道があり，それからエレベーターがある。通信機関といたしましては，電話その他があり，最近には又無線機までも取入れられているのであります。これらのことを考えてみますというと，かりに一例を取って電源が止ったと仮定して見ましょう。その場合10階，11階の建物を歩いて上り下りせねばならぬということになりましたら，その建物の機能というものは全然発揮できませんし，その建物は使いものにならないことに相成るものであります。

それで私が一番感ずることは，従来の建物と違って，今日の建物は無機体が有機体に変ってきているということであります。

ちょうど人間の体でいいますならば，電話とか，通信とかいうものは神経に相当いたします。それから暖冷房というものは血管でありましょうか。あるいは又給排水の問題，これらは淋巴線あたりに相当するものでありましょう。近代の建物はちょうど人間の体のようなものになってきている。昔の建物とは本質的に違ってきているということを第一に感ずるのであります。

第二には，現代の建築はコマーシャライズされて来たと云うことであります。昔の建物は，たとえば大きな教会，寺院にいたしましても，それから富豪又は大名の家，それから城というようなものにいたしましても，これは今日のようなものではなかったのでありまして，ある特殊の人のもので，その無機体で事足りておったのでありますが，今日商工業の時代になって参りますというと，これが非常な変化を来たし，例えばこの関電の建物にいたしましても，或はたくさんこの中之島近辺に建っている建物にいたしましても，これらは皆商工業を目的とし，利潤を目的としたという事によって本質的に昔の建物とは変化しているということであります。まあ商工業時代という時代に封建時代から移り変って参りましたから，自然そういう事が起るのも一つのやむを得ない結果だろうと思います。けれども何れにしても非常にその本質が変って来ているということを第二に感ずるのであります。それからもう一つ第三に，建築の根本的な考えの違いというものは，その生命というものがその長さにおいて昔ほど期待されないということであります。

私ども，職につきましてから若い間に建物を建てます。そうすると友人達は，「君の仕事はよいなあ，末代までも残って」と，こう云われるのであります。又実際に数千年の昔に建ったピラミッドを始めといたしまして，たくさんの建物が今日まで残っております。記念すべき建物もたくさん残っております。

若い時に建てた建物には私の友人が云うような，「よいなあ，建物が残って」と，いうようなことは反対の結果もありまして，若い時に建てた建物で内心心やすからないものもあります。前を通るのも気が引けるので，脇道へ避けて通ったということもあります。年令を取って経験を積んでまいりますと，そういうこともなくなってまいりますけれども，いずれにいたしましても，我々建築家は，設計した建物が末代までも残ると云うような希望と抱負を持っていたのであります。そして19世紀の終り，20世紀の初期まで建築という

ものは永遠に残るものと云う考えでいたのであります。

今日の建物をみますと，どうもそうはいかない。今日中之島にたくさんの建物が建っておりますけれども，それらの生命はピラミッドやセントポール，セントピータースあるいはウィンザーのキャッスル，そういうような長い生命というものは期待できない。これ等は100年も経てば大方つぶされて変って行くのではないか，こう云うように私は感ずるのであります。

それはなぜかと申しますというと，やはり建物が有機体である。又コマーシャライズされたこの二つの点から起ってくるのであります。無機体の生命は長いが，有機体の生命は短かいのであります。大正の頃に建てた相当よい建物も，今日では機能性が発揮できない。機械の設備も十分でないと云うこともありましょうし，又地価が高くなってこんな低いものをここに建てておったのでは商売が引合わない。高く建てようと云うような時代がきまして，昔とはよほど建物に対する概念が変ってきたのではないかと思います。

もっともこれは大部分の建物についての話を申し上げたのでありまして，二，三特殊なものはこれは残るものもありましょうけれども，これは全く無機体として使われるような建物にすぎないのでありまして，先ず大部分のものは長く残るということはないのではないかと思います。

又住宅にいたしましても，昔は子々孫々に伝える。つまり封建制度と申しますか，家族制度と申しますか，それらの制度の下にありまして，一度建物を建てますというと子も使う，孫も使う，又それによってその家が繁栄するというようなこともありましたけれども，今日は又だんだん変ってまいりまして，これもこういう考えは少くなってくるのではないかと云うような気がいたすのであります。建物に対する考えも自動車と同じようになって参りました。又衣類にしましても昔は永持ちする，為になるものを作っていましたが，今日は永持ちする事は考えません。年々新しいものを作って着るということに考えが移ってまいりました。これが近代の思潮であり，建築だけがその思潮から遊離することはできません。

これらのことを考えまして，過去のことを順次思い出るままに申し上げてみますと，まず建築の材料であります。昔はご存じのように，（大昔の話でありますが）石とか大理石とか，土をかためたものとか，こういうふうなつまり天然物を以って建築しておったわけであります。それで大地を構成している自然のもの，またはそれに大変近いものを使ってやっている。そしてその強さというものも別に計算して出るわけでもありませんので，重厚な，数千年経ってもそれが崩壊する，あるいは力が弱くなるというようなことのないようなものが使われているであります。それがためにピラミッドを始めセントポール，それからその他の19世紀頃までのものはずっと残っているのであります。

私の考えでは，自然の材料というものはどうも年とともに「さび」と申しますか，「わび」と申しますか，年と共に材料がよいとよくなって行く。少々デザインが悪くても材料が良ければだんだんある意味で美しくなる。すなわち時が物を美化する。こういうふうに感ずるのであります。ロンドンのセントポールその他の建物にしましても，あの煤煙の多い都市でありますから，それがために腐蝕することが非常に多いのでありますが，しかしそれにもかかわらず，どことなしに美しさを感ずる味がでてくる。やはり「さび」と申しますか，だんだんそこに美しさを感ずるようになる。木造にいたしましても，使っていると光も出てきて美しさを感ずるのでありますが，しかし近代の建物では，そういうふうな材料は余り使われなくなってまいります。そして鉄，セメント，コンクリート，あるいはガラスというようなものが，産業革命の結果現われてまいります。これらは全て人工を施した材料であります。これで以って建築するというのが19世紀の末から今日まで及んでいるのでありますが，こういう人工によってつくり上げられた材料というものは，ことごとくとは申しませんけれども，どうも年と共に美しくなるという要素が少いように思います。

ということは，命が短かいということになるのではありますまいか。鉄にいたしましても，成程錆止めいたしますというと相当の年月は持ちますけれども，やはり出てきた錆というものは決して美しいものではありません。コンクリートといえども同様であります。ガラスも破壊されてまいります。その上これらの材料は強度が決定せられ，また経済問題が入ってきて，産業ベースの観念からその使用量が強度上必要な限度に節約されます。これがやはり建築の寿命というものを長く期待することのできないような形にもって行くのではないかというような気が致すのであります。

それから，その次に出てまいりましたのは，これは主として世界大戦後でありますけれども，アルミニュウムがあります。第一次世界戦争以来飛行機というものが戦争のために使われるようになった。空を飛ぶのでありますから，なるべく軽くしなければならぬというので，アルミニュウムが生れて来たのであります。それで第一次戦争から第二次戦争の間というものは，アルミニュウムも割合に貴重品でありまして，ボーキサイトからアルミナをつくる。アルミナを電気分解してアルミニュウムをつくるという技術もなかなか容易なものではなかったのでありますが，さらにそのアルミを圧延するこ

とができるようになったその頃は，アルミは飛行機の材料で建築材料には余り使われなかったのでありますが，第二次戦争以後は非常な大きな設備を持っておりましたアルミ製造の大工場の生産しますアルミの量というものが相当膨大なものでありますが，戦争が終りますと余ってまいりますから，自然と建築材料の方に使われてまいったのではないかと思います。

それからもう一つは，戦後の著しい発達というものは，プラスチックではないかと思います。これはどこまで発展いたしますか，今日のところはどうも見当がつかないような状態であるのではないかと思います。

アルミニュウムを使いますといろいろな点で利便があります。例えば建物の高さの問題にいたしましても，今日でこそアルミニュウムの使途では，構造材に使うということは困難かも知れませんが，日進月歩の世の中で，アルミニュウムの化合物，合金が構造に使われるということもないこともありません。

今日建物の高さということがいろいろ論議されているのでありますが，こうなってくると，コンクリートというものは非常に目方が重くて厄介視されてくるような時代になって参っております。唯，鉄とコンクリートを併用して各々欠陥を補い合っているのが鉄筋コンクリートでありますが，しかしそれにいたしましても，このコンクリートの目方というものは相当厄介なものであるのに違いないのであります。今日我々世の中に住んでおっても大きな石を天井にいただいている。こういうふうな考えがどかないのです。この前，関東大震災の時でありましたが，ご承知のようにコンクリートは打ってから二，三週間は強度が充分でません。そこへ持ってきて地震があったので，重いコンクリートの下につぶされて大ぜいの人が死んだのであります。こういうことが将来ともなきにしもあらず。この重いものを頭の上に置きながら生活しているということをごく神経質に考えますというと，まことに危いような感じがいたすのでありますが，こういうものも将来だんだん改良されて，もっと軽くて良いものができてくるのではないかというような気がします。過去10数年の間のことを考えますというと，これからの進歩というものは，どこまで行くやらわからないというような気がいたすのであります。

それからまた，構造の方を考えてみますと，私共まだ学校におりましたころ，あるいはそれから暫くというものは，大体レンガを積み，石を積む，そういうもので家を建てておったのであります。そしてその内に鉄骨というものができてきた。

私共が学校におりましたときにある先生が初めて鉄骨のカーテンウォールの方法で設計されました。皆見学に行けということで，私どもも学生として見学に行ったのであります。それらが鉄骨を使って設計された初めてのものではないかと思います。

それからレンガのことですが，明治初年西洋人の技師がきて，東京の官庁など建てておった。レンガもこれは輸入したのであります。

大体香港からきておったのではないかと思いますが，今日でいうウス鉄板で包装されて，レンガを送ってきておった。そこで日本のある技術者が西洋人の技師に，「これは何か」と聞いた。そうしたら，聞かれた外人は内容は何かと聞かれたと思ったのですね。ところが聞いている本人はその外を包んである薄い鉄板をこれは何かと聞いていたのです。レンガを英語でブリックといいます。そこでその外人技師はこれは「ブリックだ」といった。それを日本の技師は表に包装してある薄い鉄板をブリックだと聞いたものだからブリック，ブリキとなって，今日薄鉄板をブリキと呼び，ブリキ屋という名も生れたのであります。

そういうふうなレンガをも外国から輸入しなければならないような時代もあったのです。それでレンガが主な構造物となっていたのでありますが，次第に鉄骨構造，鉄筋コンクリート構造ということになってまいりました。今日ではほとんどがそれによって築造されているのであります。これは構造上の大きな進歩であります。

鉄骨構造でありますが，これも非常な進歩をいたしました。初めはご承知のように鉄材を切りまして，それをリベットで打ちつけておったのであります。これは戦争前まではほとんど全部その方法でいったのでありますが，戦後は熔接の技術が非常に進歩いたしました。

それでほとんど全熔接，殊に船舶のごときは熔接を非常に使っているような時代になった。しかしながらガス熔接にはいろいろな欠陥があります。例えば雨の時に現場でガス熔接なんかいたしますと，どうもくつつかない。取り上げて見ると中から折れるというようなことが度々あったのでありますが，これも非常な進歩をなしつつあるのであります。これはどこまで進歩するか，今世紀，ここ10年くらいの間の見ものであると感じているのでありますが，仮にこの熔接が欠陥のないものができるといたしますならば，日本の建築構造というものは非常な進歩をするのであります。今日はガス熔接をいたしているのでありますけれども，電気の方も次第に鉄筋や鉄骨の熔接に使われるようになってまいりました。この後でお話しくださる松下さんのところでも電気熔接の研究をされております。16ミリくらいの鉄筋までは炭酸ガスの下で瞬時に熔接ができる。そしてこれはほとんど欠陥というものがないということをこの間承わって，その実験を見せてもらったが，それに必要なポータブルの

変圧機もできております。

こういうことで熔接の進歩というものが進んで参りますならば，その建築界に及ぼす影響というものは非常に大きなものがあるのではないかと考えているのであります。

また，構造の方といたしましては，建物にコンクリートを使わないでも防火になるような，相当防火力があるもので被覆して防火建築になるようにし，床もコンクリートでなく鉄板の上を軽い防火的な材料でおおっていくということが防火建築上許されることになるならば，建物の目方というものは2，3割減って，現在の建物の高さを相当数ふやしても差支えないというような時代がくるのではないかというような気がいたすのであります。

それから，設備の方，これは大変な進歩であります。ちょうど大正8，9年頃でありましたが，私は住友の鹿ケ谷の別邸の建築に関与しておったのであります。その頃電線というものは舶来を使っておった。日本ではできないことはない。住友さんも電線の製造所を持ち電線を作ってはいる。しかし我々は当時は住友電線というものに対して信用をおかない。それで舶来の電線を使うことにしていたが，住友さんがなぜ住友電線を使わないかというご質問がありましたのに対し，どうも大事な家を建てるのに電線が悪くて火事が起ったというようなことになると，我々申しわけない。それで舶来の信用のできる電線を使うことにいたしておりますと申し上げたところが，いや，焼けてもよろしい，やはり住友電線を使え，という話があったのでありますが，そういうふうにそのころは電線さえも外国品を使うというような時代であったのであります。

その後の電気の発達というものは実にめざましいものであります。私が第一高等学校におりました時分には，大体光源というものはガスでありましたが，第一高等学校だけ校内に何キロか知りませんけれども直流の発電設備を持っておりまして，それで電灯をつけて勉強しました。他はみなガスであったのであります。少し進歩してそれがタングステンになったのは，明治41年頃だと記憶しております。今日は螢光灯になりました。

それらのことを考えますと，今日の電気の発達というものは，これは弱電も強電も両方ともでありますが，実にすばらしいものがあります。今日のこの建物は関電の建物でありますが，この中の電気をとりますというと，私の想像では人口2，3万の都市と同じくらいの設備を持っておられるのではないかと思っております。

それから昔は電気は200ボルト，大きいところで3,000ボルトであったのでありますが，今日では何万ボルトの電気を持って供給されている。モーターも200何ボルトかが普通であったのに，今日では6千何百ボルトというようなものも建物の中の機械に使います。こういうような非常な発達をしているのであります。

それから弱電の方にいたしましても，電気通信，その他にこれはまた非常な進歩である。電話なんかはどこまで発達いたすやらこれは想像もつかない。今日電話の方では，クロス・バーというのが一番進歩した方法だというのでこの建物にも使われておりますし，他の大きな建物にも使われておりますが，やがてもうこのクロス・バーというのはもう古い。今度は電子だというような時代がくる。必ずくる。できかかっているのではないかと想像するのであります。

これらのことを考えますと，実にその進歩というものがおそろしいほどである。エレベーターにいたしましても，私は大正10年にアメリカへ住友ビルのいろいろな設備を買いに行きました。その時に，エレベーターというものは大体交流でありますす。もっとも中には水圧でもって上り下りしておったものもありますが，大体交流の200ボルトというのが普通であります。そしてそれは交流でありますために，正確に着床いたしません。マイクロドライブという小さなモーターをつけて，遅い速度で着床を容易にするのであります。それはその頃初めてできたもので，とうてい一般の建物に使うほど安いものではないということであったのでありますが，それがどうでしょう，今日では交流を以って直流にかえ，そして着床が精密に行われている。この変化などを考えてみますと，実に大変な変化ではないかと考えているのであります。

それから今度はこれは皆さんよくご承知のように建物のスタイル。昔とあるいは戦前と，今日建てます建物の様式の差というものが著しいことは，これは素人でも誰れでもお気付のことであろうと思います。

しかし，これはどういうことかと申しますと，一つのスタイルというものがありますというと，何かそれに反逆する，それを快よしとしない進歩したものということを考えるのは人間の常であります。

それから建物のスタイルというものは，その時代の思想と切っても切れない縁があるのであります。ある意味から申しますと，スタイルというものは，その時代の思想を表わしている。こう考えなければならぬと思うのであります。

ちょうどギリシヤ，ローマ，それからゴシックの時代を経まして，建築のスタイルというものは19世紀頃までは，これらいろいろなものを使っておったのでありますが，どうもこれにはあきたらない連中ができてまいります。これはちょうど思想的にも同じようなあきたらなさを感ずる人がでてくるのと同じであります。70年ばかり前でありますが，例のカールマルクス。カールマルクスが現状にあきたらない。それで思想

の革命を唱導します。それに続いて建築界ではオットワグナーの一派，この人等が今までのスタイルというものは，これは我々の時代のスタイルではない。封建時代のスタイルであり，宗教に基くスタイルである。我々には我々の新し時代のスタイルがなければならぬというので，セセッションというものを唱導いたしてまいったのであります。ワグナーは私よりは50年位若いと思います。死んだのはたしか20世紀の1910何年かであったと思いますが，そのころまで生きておって，やはりそういうことを唱導している。

こういった流れがありますと，継承者がこれについてくるわけでありまして，これらは思想的にも，何と申しますか，建築のスタイルの上でも先行する人々でありまして，当時から申しますと，一種の反逆児と申しますか，そういう人もでてくるのであります。

私は1888年の生れであります。ワグナーなどの建築様式改革の思想をつぐものは，コルビュジェ，グロピウス，タウトがあります。今日皆がやかましくいっているコルビュジェがたしか私と同じ年だと思います。それからグロピウス，私よりは2年先輩，それからご承知のブルノータウト，これは7，8年先輩であります。私は大学をでましてすぐイギリスにまいったのでありますが，その途中パリに参りました。ところが絵画の方面にも，音楽の方面にも，同様に現状にあきたらないというものの動きがありまして，パリの展覧会に行ってみると，未来派，キュービズム，ダダイズムというような会派があって，我々が見ても分らないような絵がかかっている。音楽会に行ってみますと，ゲタを叩いたような音，ドラ，破れダイコを叩いたような音で以ってやっている。ともかく現状打破，こういう傾向があったのであります。

その時に私は25，6030位まで外国におったのでありますが，やはりグロピウス，タウト，それからコルビュジェ，これが私と同じような25，6才から30才というところで，同じく現状にあきたらない組で改革運動の先鞭をすでにその頃致していたのであります。今日建築というものは今の時代の思想を反映しておらない。今やっている建築というものは，皆大名の建築であり，お城の建築であり，宗教の建築である。これではいけないのではないかということを唱導しておった時代であります。私ども日本の建築は，まだユリカゴ時代でありましたから，唯，アカデミックの，オーソドックスのものを取り入れていた時代でありましたが，私のまいりましたイギリスも保守的な国柄でありますから，その時代にも新建築運動は取り上げられませんでした。従って私自身もそういう運動には耳を傾けなかったのであります。

欧州大陸の新建築運動でも，建築家が如何に新しい建築をしようとしましても，資金を出すのは自分ではない。かつ多額の金がかかる。家を建てる人は危険を侵したがらない。そこでそう手易くは試作品を作るわけには行かない。そこで初めは博覧会のような，短期間で壊してもよいようなもので試みていたような次第なのであります。

私ども今から考えますと，同じ年頃の人にこういう情熱家がおり，半世紀後の今日その成果が上ったのを見ますと，誠に心中忸怩たるものもあるのであります。しかしこれらの人はやはりその時代に容れられない理想を持ち，周囲の圧迫を押し切って進んでこられたのであります。ところがご承知のように，その後世界第一次戦が起り，戦争中はこういう文化運動は一時停止しました。

第一次の世界戦争がすみますというと，やはり問題になるのは住宅問題である。それでその時分ジードルンク，共同住宅，今の団地，そういうものが建築の主なる仕事と考えられておりました。グロピウスもワイマールでそういう方面を担当しておったということであります。

そこで住宅の集団ができますというと，どうしてもそれを支配するというか，統一するというか，そういうことが起ってくる。共同的な経営……そうすると自然に政治方面に頭を出したくなる。団地の統制が如何にあるべきかという考えが次第にすすみ，国はどうあるべきかというようなことに思想が向いてまいりま

合成樹脂塗料
トルギノール
トルギスキン
Forginol トルギノール 継目のない床材
torgiskin
合成樹脂
塗床材
壁材内装
・外装用
トルギスキンとは特殊合成樹脂を主体とした高分子粒状塗料であります。
特徴 通気性があるため，施工下地に案外早く塗装ができ，しかも剥離することがありません。その上乾燥も極めて早く，従って工期の短縮ができます。
トルギノールは合成樹脂の塗装式（コテ仕上）の床材で継目がなく衛生的で，圧力，磨耗に耐えて永もちのする理想的床材で保温防音にも富み踏む感じのよい適度の弾力をもっています。
★ 不変色 色調自在 ★ 誌名記入カタログ御請求下さい
大元工業株式会社
本社工場 大阪市東淀川区三津屋北通り1の38 TEL大阪(301)2734～5
営業所 東京 TEL (561) 4678 名古屋 TEL (24) 4491

す。

その時分にご承知のようにワイマールの憲法というものができましてドイツは左傾しかかったのでありますが，その後にヒットラーの時代になりまして，これはけしからんということで，グロピウスの建築界では有名なハウバウスの組織もつぶされた。グロピウスもタウトも，ヒットラーがでてきましてから追い払われるのです。追い払われてタウトは日本にきました。そしてタウトは暖かく迎えられました。しかし生活をここでするということは別問題でありまして，そう思うようにまいりません。それで遂にイスタンブールへ去って，あそこの大学で革新主義者として客死しました。

昔から我国ではよく，方角がいいとか，悪いとかいいますが，タウトが東に向ったということは，方向が悪かったかも知れません。グロピウスは反対に西に向ったのです。先づ英国に，次にアメリカに向ったのです。

アメリカという国は，国が新しく欧州各民族の寄り合いでありますから，建築のスタイルは「借りもの」であります。そして，戦後非常な経済的な発展を遂げまして，何もかも世界一でなければ承知できない。しかしそこにたった一つたりないものは，自分のところの特有の建築のスタイルである。そこにグロピウスというものがアメリカに現われた。そして過去の様式を罵倒し，商工業が今日の建築様式のインピータスでなければならないと主張したものですから，それこそ商工業で立つ我国のスタイルであるといって悦んで迎えたのであります。彼らは今日では建築の材料というものは世界中同じである。世界各国同じ材料を使うならば，同じスタイルができるはずではないか。インターナショナルで行こうと主張します。保守国にとってはインターナョナルという言葉はどうもよろこばしい言葉ではありません。まあしかし，アメリカでは建築の方面では非常にうけた。それでだんだん発達して，今日のようなスタイルが生れてきているのであります。とにかく建築のスタイルには，宗教とか，封建性にインピータスを持ったものは，世界各国今日ではすたれていきつつあります。

そこで日本でも昔のスタイルというものについて行くわけにはいかない。やはり大勢に従って今日のアメリカのスタイルというものにだんだん移って行くのであります。しかしこれも今後どういうふうに変ってまいりますか，なかなか予断を許さない。今日でこそやっと屋上にヘリコプターが着くような時代でありますけれども，数年，数10年経ちましたら，窓から飛行機で飛び出すというような時代がくるかも知れません。

そうなってくると建築もまた様子がすっかり変ってくるのではないかというような気がいたすのであります。

まあ，スタイルにおいてもそういうふうでありますが，他方建築は，今日ではもう経済を離れてはあり得ないと私は考えるのであります。

私は学校をでて外国にすぐまいりました。いろいろ良いことがありましたが，帰ってきて一番困ったのは，日本の材料の名前を知らないということ，建物がいくらかかるかという日本の相場がわからなかったことであります。

大阪へ参りますと「坪なんぼかかりまんねん」。と聞かれるがそれが第一さっぱりわからない。しかし建物を建てる人にとってはそれが最も重大なことで，これは今日でもその観念が非常に強いのではないかと思うのであります。

かれこれ勘案いたしますというと，昔の建築というものと，今日の建築，また昔の建築家と今日の建築家というものはその性格が非常に変ってきているのではないか。昔の建築家というものは，大体芸術家である。良い平面をつくり，美しい内外観を作る。それで以ってその方面に才能のすぐれた者が良い建築家であったということであります。しかし私は今日では建築家はそれだけではいけないのではないかと思う。それでは今後の建築家というものはどういうものであるべきかというと，もちろん従来のアーキテクトというものと同じように，芸術的センスの豊さが第一に必要です。第二に材料のことをよく知っていること。材料使

ブロックの防水塗料！
ビニール・セメント・ペイント
ブロックタイト
刷毛又はスプレ塗り　常備淡彩12色
安価・速乾・美麗
水谷ペイント

用の手腕は，その巧拙は建築家の価値を定める重要な要素となります。第三に構造のことでもその時代における充分な科学的な知識を心得ていること。それから第四に設備についても，これは建物の中に陰蔽して入れてありますからわかりませんけれども，巧妙に取り入れるにはよほどの知識を持たなければいかん。それからもちろん経済的観念が必要である。これが第五であります。

今日の建築はそのほとんどすべてが商業ベース，工業ベースに沿っておりますから，これを無視しての建築というものはありえない。

それでは結局以上五つの点を概念的によく心得ている建築家であればそれでよいかと申しますと，私はそれでもまだやはり足りないと思う。

先ほど申し上げました五つの項目はとかく相反撥する性質を持っているのであります。例えば外観を美しくしょうと試みると構造に無理があったり，冷暖房のために外観や平面計画が思うように行かなかったり，経済問題が芸術的方面と矛盾を来したりして互に相離れないものがあります。

そこで私はこれらの諸条件のバランスを執って統制し，纏めて行く能力を持っている者が，真の現代の建築家であると思うのであります。

それではそういう能力というものはどうして得られるのかといいますと，私は結局これは努力だと思います。

私は人によくいうのでありますが，１日は24時間，これを三つに分けて，８時間は眠る。次の８時間は仕事をする。あとの８時間はどうしてすごすか。このすごし方によって人間の価値というものがでてくろ。８時間働き，８時間眠る。あとはどうでもよいのでありますが，マージャンをしたり，パチンコをしたりしてむだにすごす時間は，人間としてはまことにもったいない。この時間をどう努力するかによって，人間の価値判断というものがでてくるのではないか，こういうふうに考えるのであります。

もう一つは，この努力と経験によってバランスのとれた判断ができるようになってくる，こういうふうに私は考えます。

また，建築家の責任というものは実に重大であります。建築は大きな企業であります。建てる人は真剣である。それでその建築の計画を任される者は，やはり立派な人でなければいかん。立派な判断をし，信頼するにたる人でなければいかん。まあ人間というものはたくさんおりますけれども，真に頼りになる人，正しい判断をする人，いろいろな案を出しうる人というものは誠に少いのでありますが，これからの建築家というものは，真にそういう人でなければならないと私は考えているのであります。また特に，責任感が強いということはこれは大事なことです。いかなる職業の人にでも大事なことでありますけれども，建築というものは只今も申しましたように，非常な大きな事業であります。これに対する責任感というものは強くなければいかん。

これも私はよく若い人にいうのでありますが，例えば大阪の事務所にいて神戸に出張する。それで事務所に帰るのは五時。執務時間が終りだ。何もできない。それではもうこれから家に帰ろうという考えと，まあ何もないかも知れないが事務所に行ってみよう，何か起っているかも知れない。この差が人間の価値を決めると思うのです。わずかの違いであります。人間の能力というものはそう大した差があるものではありませんので，わずかにそれくらいの差が人間の終生を支配し，人間の価値を決めるのではないかと思います。

今後の建築家たるものは，先ほど申しましたように，芸術，材料，構造，設備，経済，これらに調和した判断をする人でなければならないと思うのであります。個々の専門的な卓越した技術については多くの人を得られましょう。しかしその建築家であるこれらを統率し，バランスをとった裁決を下していける建築家というものは，なかなか得られにくいものであります。この点を我々いっしょに考えたいものです。私は老年でありますけれども，そういうことになり得なかったことを，はなはだ悔いているのであります。皆さんの中にはこれから世の中に立とうという人がたくさんおられると思いますが，どうかその心がけでやっていただきたいと思います。時間もまいりましたので，これで終わらしていただきます。（拍手）

特許吹付タイル・内装・外装用化粧材
セラスキン
CERAMIC SKIN
建造物の外壁面に!!陶器の壁紙
セラクロス
CERAMIC CLOTH

山本窯業化工株式会社
大阪市東淀川区西淡路町3—176 TEL(371)—4851～3
関東地区取扱店・小林窯業株式会社
東京都太田区山王２丁目1887 TEL(771)—6347

経　営　雑　感

松　下　幸　之　助

紹介されました松下でございます。私はご存じの方もおありだろうと思いますが，松下電器産業株式会社の会長をいたしております。今日まで皆さん方にいろいろとお引き立てを蒙っております次第でございまして，大へん皆さんとは私個人といたしましても，私の会社といたしましても，非常にご愛顧を蒙って関係の深い方々でございます。そういうことでございますので，今日お話を申し上げますにつきましても，初めてお目にかかる方もございますが，しかしそこに私，今申しましたようなつながりを持っている，かように私は思うのであります。そういう意味におきまして，全然知らない方もない，いわばお引き立てを願っている方々である。そういう意味におきまして，非常に親しさを感じましてお話を申し上げることができる，かように思いますので，多少私が申し上げますことにつきまして，日ごろの親しさから出るところの不勉強と申しますか，そういうことのあることをご了承願いたい，かように思う次第でございます。何卒よろしくお願いいたします。

今日は私の話は経営雑感ということになっておりますが，何から申し上げてよろしいか，思い出ずるままに申し上げる。従いまして話の筋も前後いたしますが，しかるべくお聞きとり願いたいと思うのであります。

ちょうど今月は8月でございまして，今から17年前の8月の月は，ご承知のとおりわが国は敗戦に直面した年でございます。敗戦の年は，これは私が申すまでもなく皆さんはいろいろな形において打撃を蒙っておられますし，言語に絶するような悲惨な状態も一部には起っておったような次第でございます。こういう状態で日本はどうなっていくのだろうか，果たして再建できるのかどうかということについては，危惧の念を相当深く持たれたと思うのでございます。しかし17年間過ぎ去ってみますと，ご承知のように日本は非常な復興をいたしました。またその復興の率にいたしましても，数字的には日本の復興指数というものは興味深いものがある。年々10%前後復興してきた。昨年のごときは14.5%，20%近い経済復興をいたしているというような状態で，当時を思い出してみますと，よくもここまで日本は復興したものだという感がいたすのでございます。これはお互いが非常に日本経済の回復のために努力をいたしました結果であることは，これはいうまでもありません。従いましてその限りにおきましては，大いにわれわれは日本国民の健全さ，復興力の強さというものを私は誇ってよいと思うのであります。

また諸外国も日本のこの復興の力というものは，十分に認めているようでございます。そう考えてまいりますと，17年経ちました今日，何も心配することがない。かように復興した，将来もこういうことで能率に多少の変化があってもどんどん復興していくだろう，こういうふうに解釈できるのでございまして，非常に結構だと考えるのでございます。

しかし果たしてそうであるかどうかということを考えてみますると，私はここにまいりまして，そう将来楽観することができないことをひしひしと感ずるのであります。ということは，今日ここまで日本が復興したことにつきまして，われわれ民族，われわれ国民がみずからの力でこの復興繁栄というものを招来したのだ。こう申しますと，一面そういう点もありましょうが，他面におきましてはそうはいえない。それは外国の援助なり導き，いろいろな救済的なものをわれわれがもらっている。そういうような努力によって今日の復興を来たしたのではないかという感じがするのであります。

それはいろいろの点からそういうことがいえると思うのでありますが，2，3日前の新聞か放送だったと思うのでありますが，外国から日本は建築といわず，その他機械，科学といわず，いろいろな生産の知識を海外から導入いたしております。この導入の件数がたしか千数百件だと思うのであります。そしてこれに払った金が1年にこのごろでは3億ドルになる，こういうふうなことを聞いております。3億ドルというのは，1年にいたしまして相当の金額でありますが，この金額に対してそれによって海外輸出するということが要請されているその金額を見積ると，8億ドルである。結局3億ドルというけれども，それに関連して考えられるもの，海外から受取るところの金というものは8億ドル，これはものにして売っているわけですね。皆さん方が8億ドル売って海外から3億ドル技術導入分として払うのだから，差引5億ドルであります。これはそのとおりであろうと思うのであります。これは非常に結構だと思うのでありますが，しかしそれだけの問題ではないと思うのであります。

そういう3億ドルを出して，それによってものを製造し，また技術を向上されて，そこから生まれる海外輸出を助けてやるということは，私のいわんとするところは，3億ドルに匹敵する技術の導入をもし外国が拒絶しておったならばどうなるか。日本には売るということはいたしません。そういうものをほしければ，

私の方でつくったものを買ってください，こういうようにいって技術の導入をこばんだならば，特許使用をこばんだならば，今日の日本の発展と申しますか，日本の復興ができておったかというと，そうではないと思う。そうでありますから，現実にいいますと，今日のこの日本の発展というものは，われわれも努力いたしましたけれども，しかしそのある部分は海外の知識なり，そういうものの協力によって今日の日本を復興せしめたということがはっきりいえると思うのです。

そういうような技術上のところから生まれる復興のほかに，われわれはもっと精神的な面と申しますか，ものの考え方といいますか，あるいは経営のやり方と申しますか，そういうものをどの程度にわれわれは見ているかということであります。これは概して私は無料だと思うのであります。金をとっておらない。早くいえば生産性を向上しなければということで，日本は各社の生産性向上ということ，わが国の経済界，産業界の生産性向上ということをやかましくいってまいりました。それに関連いたしまして海外にも出張し，海外の生産性の向上の在り方というものをお互いが調べてまいりまして，そのとるべきものはとって出しているのでありますが，そもそも生産性向上ということを誰れがいい出したかというと，これは戦後の日本復興を担当してまいりましたアメリカがいっております。日本の経営者はよいところもあるし，悪いところもあるし，まちがったところもたくさんある。これでは日本はよい技術を入れても，必ずしもそれが立派なものになるとは限らない。もっとその経営の在り方というものを研究しなければいかんということをいったのがアメリカであります。

それでアメリカからはそういう指導者がまいりまして，いろいろ研究の結果，日本の生産性本部というものがつくられて，今われわれさかんにやってきている。そういうような金をとらないが，あるいは技術導入，特許導入以上に価値があるような経営の在り方，いかに経営すべきであるかというような問題，そういう精神的な問題，心の問題，そういうものはすでに日本に入っている。

また，われわれ経済界におきましては，やはり海外視察をいたしまして，海外のやり方，あり方というようなことを視察してまいりました。その視察の結果よいものをどんどん取り上げていく。これも金が要らない。視察に行く費用は要りますけれども，視察した視察料，見料というものは要るとはいいません。そういうものと非常に協調いたしまして，両々相俟って今日のすべてを築き上げたのであります。

そう考えてまいりますと，日本の今日のこのめざましい経済復興というものは，われわれ国民も努力いたしたのでありますが，その努力と合わせて海外のいろいろな形の援助，金をとって援助したものもありましょうが，無料で援助したものもある。そういうような力が加わりまして，今日の日本の再建ができたということをお互いがよくこれを考えてみる必要がありはしないか。いやそれはずいぶん考えているが，その考え方に徹底さがないのではないかというような感じがするのであります。これは私は非常に問題ではないかと思います。と申しますのは，今まではそういうようにアメリカの軍の方針といたしましても，日本を占領している，あるいは日本の国際的な地位，これを援助しなければならぬということで援助したことは皆さんご承知のとおり，それが先ほど申したような結果となっているのであります。

しかし今日の日本というものは，ともかく一人前になりまして，これからは私は援助の手というものがなくなっていくだろうと思います。

ちょうど大学を卒業するまでは親父からいろいろ融資を受けておった。しかし大学を出ればもう親から学資の金はもらえない。これは学校を出ると，すぐ社会人としてやっていかなければならぬという状態に今日日本がおかれているのではないか。誰れのものでもない，みずからの力においてのみ日本を維持し発展させる方向に進んでいくということに直面しているのが，ちょうど今日ではないかと思います。

日本は少し経済に自信がありまして，最近はそういう面に調整をしようということになっております。これは容易ならない状態であって，悪くすると相当各方面に経済的な支障が起ってくる。経営の上に支障が起ってくるというような傾向もぼつぼつと出てまいりました。そういうもの一つをみましても，日本の経済というものは，ほんとうに援助の手はなくて，全部自力によって創意工夫そして発展をしていかなければならぬというような状態に直面していると思うのです。そういうことが一つだと思います。

もう一つ私がいいたいのは，これとは別個なこと，それはどういうことかというと，今日戦後17年間この経済復興なり，またもっと広い意味において日本の経済復興といってもよろしいが，それを実践遂行してきたのは誰れかと申しますと，これはお互いであります。今日のいわゆる大人といわれる人であります。その人たちの教育というものは，どういう教育を受けたらよいか。日本は戦後民主主義になりました。憲法も変わったのであります。従いましてそれから後は新憲法により，新しい民主主義によって教育は施されたのでありますが，17年前から日本の再建にかかった人たちはどういう人かというと，旧日本精神の教育を受けた人と思います。それは当然そうだと思います。

ここにおられる皆さんの大部分は

戦後逸早く日本再建のために立ち上った人でありますが，そういう皆さんの受けた教育というものは新しい時代の教育を受けておらない旧日本精神の教育である。その教育を受けて，新教育を受けて，新時代の再建に立ち上ったのであります。それを担当したわけであります。そうでありますから，口では新しい民主主義だといっておりましても，行うところは知らず知らず身についた旧日本精神の考え方というものがお互いの行動に出ていると思うのであります。これは私は事実だと思います。その当時25才の人，25才であれば青年である。その25才の青年はどういう教育を受けたかというと，旧日本精神の精神教育を受けた。それから25才の青年のものの考え方，自然に身についた行いというものは，旧日本精神のところから生まれる行動であります。その行動が私は今日の日本を築き上げたのではないかと思います。その当時の日本の悲惨な状態，こんな馬鹿な世の中はない，こんな戦争をしたからえらい目に遭ったと口ではのろう人もありました。しかし日本を再建するということに当たってその人が行う行動は，旧日本精神，道徳観念，ものの判断で，全部が活動したのであります。その行動がないならば，力がないならば今日復興はしていなかったのであります。

しかし日本精神によって，お互いの胸に宿っているところの旧日本精神というものは，新しい時代，新しい前進，正しい憲法の下に立ったといいながら，やはり胸に蔵しているところの，その培った精神というものは，日常の仕事の面にどんどん出てきている。その力こそがこの日本の再建を基礎づけたものだと私は思うのであります。

そういうように考えてみますと，今日はしからばどうなっているかというと，今日は17年経ちましたが，その時に5才の人は今日では23才であって，実際の仕事に就いているということであります。5才や6才の人は旧日本精神の教育はまず受けていない。新しい時代の思想に基いた教育を受けております。でありますから，今22，3才になった人々がすべて新しい時代，新しい思想，新しい民主主義，新しい憲法のもとに，要するに精神なり教育がやられて，そしてそのものの判断によって仕事をしていこうというのが今日ただいまだと思います。今日までこの発展をみたものは，皆，旧思想と申しまするか伝統の日本精神というものによって培われてきた，その培われたところから生まれてきた実践行動というものが，ほんとうに力として働いてきたのであります。

そういうふうに考えてまいりますと，ちょうど日本の繁栄の段階にきたときには，一つは日本の再建というものがある程度なった。それが海外のいろいろな援助に伴ってこうなったのだ。そうでありますから，これは容易ならない問題である。また今日まで努力してきて築き上げたものは，皆，旧思想と申しますか，伝統の日本精神によってこうなってきた。それが今度はぼつぼつと新しい民主主義というものによって育ったものによって置きかえられんとしている。今日まで基礎をつくっていったところの教育を受けた伝統の日本精神ということがだんだんと数が少くなっていって，新しい人がそれに取って代わるような段階である。それが今日の日本中の実態だと思う。それで新しい民主主義によって，新しい憲法によって，教育せられた人々が，だんだんと教育者に取って代わらんとしている段階になって，さらに進歩発展できるかという問題であります。これはぜひともそういう人たちによって，日本をより堅実にもっていかなければならぬ。そしてバトンを渡さなければならぬと思うのでありますが，今日の現状はどうか。これは一面の角度からでありますが，皆さんもご承知のように，10日ほど前調査しておりました白書ができました。それによりますと，昨年度は青少年の犯罪というものが非常にふえたということであります。警察が補導した青少年の数が170万人であります。警察でなく親，すなわち親父さん，おばさん，あるいは姉さん，先輩が指導したというものは入っておりません。そういう数を入れると，あるいはその数字をはるかに上回わるものであります。かりにそういうものを80万といたしますと，250万人という数が出てくる。これは新憲法によって，新しい民主主義によって，新しい時代というように解されるところの状態によってやられた一つの騒ぎであるということであります。

これはなんと驚きますことには，イギリスの青少年の犯罪数と比較いたしますと，日本はイギリスの13倍であります。驚くべきことだと思うのです。イギリスも戦後いろいろ精神的な問題もあって，一時は青少年の上に十分なる配慮ができないということもありましょうから，青少年から見ますと，殺ばつな空気もあったでありましょう。しかしその数は日本の13分の1ということになっている。同じ敗後戦のドイツなんかを見ますと，日本の4分の1である。ドイツのような，しかも半分は東独西独というような形に二分された，いわば非常に困難な状態におかれているところの西ドイツが，青少年の犯罪もふえたけれども，それは日本の4分の1にしかすぎないということ，そういうことを考えてまいりますと，日本は今日こういうように経済が発展していくからまことに結構なことである，日本の将来は立派に再建して，しかも健全にやっていけるということが果たしていえるかどうかということを私は考えているのです。そうでありますから，今が一番問題である。ずっと上がってきたという，その上がってきたところの

実際の強い原因というものは，一つは海外の援助によっておった。一つは旧日本精神の発揮によって今日これがある。しかしもう海外の援助もなくなる。旧日本精神の教育を受けた人たちの数もだんだん少くなって，新しいものに変わってきているというような状態にきている時に直面いたしまして，ここに考えられるものがあります。さらに心配なのは，もし海外援助というものがなくなってもう1，2年経ったら日本の力でやりなさいということになると，新しい教育，新しい憲法のもとに，新しい民主主義のもとに，どんどん若い青年が教育されていく。これらは日本の再建の力である。こういうようにならなければならぬと思うのです。そういうような力がだんだん出てくると考えたのでありますが，ところが今申しましたように，青少年がそういう教育を受けて，青少年の犯罪が先に申しましたように警察の手をわずらわせたものが170万人，警察の手をわずらわさずして学校の先生の手だけで補導されたもの150万，そういうようにイギリスの13倍，ドイツの3倍というような実情を考えてみますと，どういうようにこれは判断してよいかということが私は非常に問題だと思うのであります。それが今日われわれが直面しているところの実情ではないかと思います。

そう考えてみますると，日本の今日新しい思想も結構である。新しい民主主義によるところの教育も結構である。しかしその結構なものから生まれるものは現実のものでなければならぬ。青少年のこのような実態は非常に考えなければならぬと思います。

そういうように考えてみますとこれはなぜそういうことになったかということであります。民主主義というものは青少年の犯罪を集中するものである。私は民主主義というものは決してそうではないと思う。民主主義というものはお互いに結合し合って，お互いに認めあってこそほんとうに繁栄をもたらすものだと思います。民主主義というのは，ほんとうに人間化するものである。お互いに人権を尊ぶことはもちろんでありますが，尊ぶだけではなくて，お互いの長所というものを活かし合う。そしてそこからものを生み出していく，仕合わせを生み出していくべきものだと思います。それがほんとうの民主主義であり，ほんとうの民主主義の教育がだんだんと浸透をしておれば，そういうことにならないと思う。そういう判断が起ってくるだろうと思います。

それを逆にということになりますと，それは民主主義ということに名をかりているが，その本質は違ったものをやっている。今は民主主義であるけれども，その行うところ，狙うところというものは民主主義というものと反する結果を招来したのではないか。そういうところにこそそういう結果を露呈しているのではないかということを考えてみますと，何と申しましても今日の大人というものは健在であると思います。その健在な大人はその責任の衝に当たらなければならぬかと思います。これは各界を通じてそういうふうに私は思う。そういうことに取組んで，ほんとうに日本が自力で発展していくためには，青少年の教育を水が平地をいくような状態にもっていく。そのためにこそほんとうの民主主義というものをばわが国に招来しなければならない。名前は民主主義でありましても，行うところは勝手主義であるというような状態を続けていくならば，決して日本の繁栄はこれ以上のびないということ，これは考えなければならぬかと思います。これはあらゆる経営と申しますか，また団体もあります。団体もありますけれども，資本に影響すると思います。団体の中にはほんとうの意味の認識というものがやはり得られる。またその理念に基いて行動しなければならないと思います。

勝手なる民主主義によって行動し日本が運営されてまいりますと，日本の完成はここのところにきて逆転するおそれがあるのではないかということをつくづく感ずるのであります。これが私どもの今日直面して考えなければならぬ問題だろう，かように思います。

こういうことは話が少し重なりますからやめまして，次に私は皆さんと関係のあるお仕事につきましてちょっと申し上げますが，これは私の会社でありますが，ニューヨークのセントラル・ステーションの屋上に新しいビルディングが今建設されつつあります。60階建でありまして，新しくつくられるものでありますから，また場所の関係から第一等の建築が施されていると思います。そのビルディングの一角を借らないかという勧誘を受けたのであります。昨年のことでありましたが，どういう条件で貸してもらえるのかといいますと，日本の金に直しまして家賃が7,000円であるという。そして昨年のことでありますから，2年先でありますけれども，場所は1等よい場所でありますから非常に安い。アメリカにしては安いものだと思います。しかし権利金はなんぼかわからないから，権利金はなんぼかというと，権利金は要らない。タダだという。それは安いなあというわけです。それなら借りておけということで，2年も3年も先だけれども借りておいた方がよいということで申し込んでおいた。今日ちょうどくる時に写真を見ますと，実に立派なものである。これは見ていないからわかりませんけれども，セントラル・ステーションの上ですから1等地の場所で，立派なものです。7,000円でも高くないと思う。場所が場所でありますから。しかし1坪に50万円もとられたらかなわないなあと思ったが，それはタダだ。こういう信用の

ある会社に貸すのだから，要らないという。それで私は恐縮したのでありますが，これはわれわれは非常に考えなければならぬ。今，日本で東京といわず，大阪といわず，それに匹敵する場所で 7,000円の家賃，あるいは 6,000円の家賃はあるけれども，しかし少くとも50万円や60万円という権利金はないと思う。そしてそれが10年据置，従来の定率でいくということにおそらくなっているでしょう。そういうことを考えてまいりますと，日本のそういうビルディングの家賃と，ニューヨークの家賃はどちらが高いかというと，ニューヨークのビルディングの家賃が安いということははっきりいえる。第一嬉しいことは，日本は金がないから，少々家賃が高くても権利金がない方がよい。お互いに正直なところ。だから家賃がそう高くなくて権利金がないのですから，これほどよいことはないと思う。家賃は 7,000円そして30万円なり敷金をおかなければならぬというと，金のない日本でありますから，ひとしお身にこたえます。そうすると日本では仕事がしにくい，こういうことになる。私は少くともビルディングを借りて商売をして，そして海外と競争をするには日本は不利だと思います。これは一切の事業はそういう傾向であります。

単に銀行から金を借りるにも，日本は金利は高いし，向こうは安い。すべての条件は日本に不利であります。その不利な条件にわれわれ経営者が立って海外に進出しよう，また海外に進出しなければ日本の貿易は伸張することができないからやってくれというのが国の至上命令であり同時に政府の要望であります。

そういうように考えますと，日本の経営者は私は非常にえらいと思う。非常に勇気があるということ。非常に困難に直面して，なお世界場裡で競争しようというのでありますから，日本の経営者は骨が折れる。もし同情という言葉があるならば，日本の経営者にこそ同情しなければならぬと思う。日本の経営者はそういう同情を受けているかどうかというと，国内では必ずしも経営者は同情を受けておらない。非難されてもご苦労であるというような感じはありません。それはかまわないとしても，そういう実態を経営者みずからどの程度考えているか。これは大へんなことである。容易ならないことである。容易ならないことであるけれども，日本再建のためには，日本国民の仕合わせのためには容易ならないことであるけれども，その上に立って責任を全うしなければならぬという考えを日本の経営者は持っているかどうか。これは相当持っておられると私は信頼し，またそういうように考えたいのでありますが，必ずしもそれは最良の形において持っておらないと思う。これが最前申しました今後自力で日本を再建していくについて，非常に大きな問題である。そういうような点もございますし，また今申しましたように，建物一つみましても，相手は安い，こっちは高い。高いは高いなりに原因があるでしょう。皆それぞれ原因があるでしょう。原因なくして高いわけはないでしょう。その原因をそれはもっともだと皆承認しているところに原因がある。しかし一応の理由がある。しかし一応の理由を理由として承認することができないのだ。もっともな理由であるけれども，そのもっともな理由を打破して，そしてもっと違った考え方を及ぼして，少くとも世界と同等に建築をもっていくようにやろうではないかという考えが今建築界に起ってまいらなければならないと思うのであります。それがどの程度に起っているかというと，私は起ってきておらないのではないかと思います。

それは注文するところの会社，商店の人は安くしてもらいたいということは一応考えているでしょう。それは買う方ですから，それが人情でありますけれども，しかし供給する方の皆さん方がこういうふうに高くしておったならば，日本の産業界は競争場裡において負けるだろう。だからもう少し安くする必要がある。日本はどうしたらよいか，注文主の言葉を待たずしてそういうものをつくり出すところにその仕事があると信ずる。そういうように非常に力強く取組んでいかなければならないかと思います。これは私がいわないてもよく知っている。それはやっているとこうおっしゃるだろうと思います。私は大いにやっておられるだろうと思います。そこに皆さんのご苦心があるということはよく知っておりますが，しかしそういう苦心は，日本の業者の方の，打って一丸とする力というものは最低だと思います。これは建築だけではありません。私どものやっている電気業界でもそうだと思います。あらゆる業界は打って一丸としてそこからより高きものを見出すということに最善の努力を払っているということはいえない。ある程度の努力を払っているけれども，最善の努力を払っているということはできない，こう申し上げられるのではないかと思います。

これは建築界だけではなくして，あらゆる産業界がそうでありまして私も経営人としてそういう要望をいたした方であります。

先ほど私が申しましたように，私は建築ということにつきましては全く素人でございます。だから建築の良し悪しでありますとか，建築がどうあるべきであるということについての具体的な要望というようなものを論ずるわけはありませんし，それはまちがっていると思います。しかしこういうことはいえると思います。それは何かと申しますと，これは建築でもまた建築外のことでもいえると思いますが，一つの美というものが生まれる。芸術的と申しますか

美というもの，経済的な実際の要素というものを抜きにして美というものを表わすということも，私は美という点からいって必要なものだと思います。しかし私はそれがさらに今日の日本の一般的な経済視野に立って申しますると，美というもの，いわゆる構成美というものは，全部実用の点について構成されていかなければならぬと思います。どうしても日本の美というものが必要である。これによって非常にこの品物が立派なものになる。強固になっていく。ある一つの構成物，なるほどこの構成物は恰好といい，性能といい実に立派なものだ。芸術商品といってもよいほどの立派なものだというものがありましても，一本の線，一本の鉄棒にしても，全部それがきちんと出る。そして出たものが今日ほんとうに要求されているのではないかと思います。

ところがそういうことを抜きにして，美そのものを追求して，効用には多少欠けるところがあってもあるいは効用に至らないでも，美そのものを追求する，大へん立派な美であるというようなものは，今日の日本では非常に足りなくなったと思う。それは否定しませんが，高嶺の花として完成するということをしなければならぬと思うのでありますが，今日の日本は，そういう高嶺の花としてのすべてを超越した美を完成するということも私はやはり大事であると思います。決して私はそれを否定しません。しかし目下の日本は非常に国内の整備というものが遅れております。立派なビルディングの前の道路は非常に汚いというようなアンバランスであります。そういうアンバランスをバランスさす，均衡さすためにものを考えなければならぬ切羽詰った状態に日本はおかれていると思うのであります。そうでありますから私は，美というもの芸術というものを追求するということは非常に結構であるが，それには必ず経済性，実用性というようなものが上手に組み込まれて，むしろそれが組み込まれることにかえって強い高い美が現われるということをわれわれはやらなければならぬのではないかと思うのであります。

まことにとりとめない話をしたようでありますが，いま一つお話をいたしたいと思いますことは，ちょうど前に話しましたこととやや重複するかも知れませんが，われわれこの戦後17年間ひたすらに歩いてきたわけであります。我れも彼もとにかく日本再建，日本再建ということで，ひたすらに脇を見ずに歩いてきたわけであります。そしてようやくここまで歩いてきたわけであります。歩いてきたところをみますと，日本の復興，しかしここまで歩いてきて復興してきたけれども，さて足もとを見ますと，長い間歩いてきたために，紙やクズやゴミが一ぱい足に絡みついているというわけであります。ここまできたことはきたけれども，何分ゴミとかそういうものを取り払って，そういう邪魔ものを取り払って，進むなら進むという段階にきていると思います。

外国では戦争によっていたんだ国内復興をいたしておりましても，常に足もとを見て，ゴミをとって走りとっては走っております。あるいは進んで行く早さは日本と変わりがないといたしましても，彼らは足もとがきれいである。われわれはそういうことをせずしてただ歩いてきたから，同じように進んできたけれどもここへきてもう動きがとれない。紙クズ，いろいろなものを全部とってきれいにして歩かなければ歩けないということになっているのが今日のわが国の経済であり，わが国の政治であり，わが国の思想であるというような感じがするのであります。ここが他国とえらい違いだと思います。そういうような足にまつわりついたゴミで動けない状態になっているという原因はいろいろありましょうが，親のものでも取って食うというような混迷したときよりも，その数がふえている。非常に教育が進歩し，教育の場はたくさんできたけれども，そういうようなかえって犯罪者が出てきたということは，足のゴミであります。また一つのものに対処するために仕組んだものが十分生かされないということであります。早くいえば立派なビルディングに対する，非常に行き届かないところのもの，これも一つのゴミでありましょう。要するにそのアンバランスがゴミでありましょう。それをそっくり掃除をして歩かなければならぬということが，今日本の政治，経済，あらゆる面に起っているということを考えてみたときに，われわれは経済上昇を進めるというよりも，足もとのツル，ワラであるとか，枯れ葉でありますとか，足一ぱいにまつわりついているものをとって，仕事についているものもとらなければならない。そして初めて日本は身軽になって，駈け足でも早足でもやって歩いていかなければならない。それをやらずにやれば，今度は倒れるということになる。これが今動けない一つの原因ではないかという感じがいたします。経済なり生産に従事いたしますものお互いといたしましては，ほんとうにそういうところに心いたしまして，そしていたずらに人を傷つけるような言動をせずに，お互いに相呼応して調和いたしまして，努力をしていくところに，個人々々の重要なる責任がその行動の面に強く現われてくるということを感ずる次第でございます。

今日は45年の長きにわたって尽してこられた貴会の記念大会として，いろいろご協議もたくさんあるだろうと思いますが，私は国民の一人といたしまして，皆さんに力強くお願いをし，また訴えまして，私の今日の話を終わることにいたしたいと思います。ありがとうございました。

（拍手）

創立45年記念事業住宅講演会記録

と　き　昭和37年6月29日（金）正午より4時まで　　ところ　阪急ホール（阪急百貨店9階）

大阪府企業局宅地開発部長

千里山ニュータウン　千里丘陵住宅地区開発事業

深　尾　実　郎

大阪府における住宅事情

大阪府下における戦後の深刻な住宅事情は，絶えざる府民の努力によって次第に住宅不足を克服し，経済復興に従ってその生活水準の上昇とともに質的にも向上しつつある。しかしながら，これを人間生活の三要素といわれる衣，食，住の他の二要素に比較すれば，住のみがいまだに敗戦の歪を残したまま，我々の日常生活を圧迫し家庭生活の中の新しい人間関係の成立に歪を与えている。

いまこれを統計によってみると，昭和36年の大阪府推定人口 571万に対し，住宅の絶対不足数は約15万戸に達しこれに非住居居住世帯，同居世帯，老朽危険住居居住世帯，狭少過密居住世帯（使用する畳数が9帖未満で，かつ1人当り，2.5帖未満）の合計を加えた住宅難世帯（所謂客観的住宅不足数）は21万を越えている。しかもここで注目すべきことは，以上の住宅難世帯に加えて，昭和36年度大阪府建築部で実施した住宅事情調査によると，住宅困窮を訴えた世帯（住宅困窮世帯）は約41万世帯に及び府下全体の31%に達しかもこのうち約27万世帯は以上の住宅難世帯に含まれない世帯であって各収入階層に一様に相当の率を示している。このことは府下の全人口の約¼が一定の規準以上の住居に住いながら，なお住居に対して非常に不満を感じながら生活をしていることを示している。

住宅問題の問題点

（1）数の問題

昭和36年度における住宅事情は以上の通りであるが，これに加えて最近の大阪府における経済事情の急速な発展に伴う膨大な増加人口に対する住宅供給の問題がある。本府の人口増加は昭和30年～35年の5年間に約88.7万人（年間平均18万人）に達し，その⅔が社会増で占められている。

今これにより昭和50年度の人口を推定すると，約 763万人に達するものと考えられ，これらの増加人口を含め今後昭和50年までに必要とされる住宅戸数は（さきの昭和36年度住宅不足数および昭和50年迄の除却滅失戸数を含む）118万の膨大な数となるのであって，これを昭和36年における府下の全住居数約 123万戸に比べれば如何に大きな問題であるかわかるであろう。

（2）質の問題

現在の我々の生活は終戦直後の悲惨な状態から急速な立直りをみせ，戦前を上廻る水準に達したとはいえ，なお所得水準では西欧の⅓～¼，米国の約⅛に過ぎないのであって，このことが我々の生活の上で，衣食等の消費資材あるいは家具，電気器具等生活に必要な一部の耐久資材を充実させ生活を豊かにしたのであるが片方で一番大きな問題である住の問題を現状のような我々の現代の生活に合わない状態のまま放置させた大きな原因であったといえる。

しかしながら，住の問題はここで人間の最も大切な日常生活が行なわれ，子供達がここで成育し正しい人間関係が生じる場所であることも考えれば，一日もこれを放置することが出来ない重要な問題であり，しかも理想としては，その質において欧米の水準あるいは，それ以上の日常生活の場として考えられる第1級のものであることが望ましいのはいうまでもない。しかも急速に発展しつつある日本経済の現状よりすれば，我々の努力によって欧米並みの所得水準まで達するのは，そう遠い将来の夢ではないと考えられる。

したがって我々は戦後の住宅不足に対してとられた数を急速に充足する低質は住宅の供給から，我々の現代的な要求に合った質の良い住宅の建設に住宅政策を変換しなければな



らないのであるが，ここで難しいのは，住の質の上昇は当然建設費の上昇を伴い，従って，現在の所得水準では，日常生活に相当影響することである。

（3）団地から住宅地区へ

すでに年々相当多くの住宅が建設され，住困窮の緩和に役立ってきたことは事実であるが，それとともに大きな欠陥が生じ，これを放置できない現状にある。

急激な需要に応じるための劣悪な宅地造成による宅地と質の悪い住宅の供給および住宅地の急激な膨脹すなわち，都市膨脹による公共施設の立遅れは住環境を劣悪化し，また片方では通勤交通の混乱，無計画な土地使用による土地利用効率の低下，都市膨脹による中心機能の低下等を生じているのであって，これらはもはや一日も放置できない現状である。

これらの欠陥を少しでも緩和するために，在来からも国が政策的に建設する公営住宅，住宅公団住宅，金融公庫住宅等においてはそれぞれ適地を選び，比較的大きな団地にまとめ，住宅を建設，あるいは造成を一般に分譲する等の施策がとられてきたのであるが，なお宅地政策の不備，必要資金の不足等から比較的入手しやすい土地を選定し購入し得た面積の土地に合わせて建設計画がとられるというようなことのために，でき上った団地自体は一応快適な住環境を備えてはいても，この団地が周辺地区住民と生活の較差から地区としての歪を生ぜしめ，またこれらが学校，道路，下水道等，公共施設の面で地方自治体の財政に過重を加え，このことが逆にまた本来良いはずの団地の環境を悪くしている現状である。

戦後の大阪府下の人口配分の大きな特徴は，中心都市である大阪市の人口が比較的増加せず，府下に散在したことであってこのことは府下の諸都市が膨脹し続けていること（人口と同時に諸企業の分布を含めて）であって無計画に現状のままこの傾向を放置するならば，現在の東京都の如き状態に立ちいたることは明らかである。このため，大阪府においては，大阪地方計画を樹立し，府下一円に対する適切な土地利用計画を定め，その線に沿って諸施設業を行なうことによって，土地を有効に利用し，関西経済団の中心としての機能を充分に発揮しながらかつ理想的な住環境をもつような一つの生活圏を作りあげることをその目標にしているのである。このために住宅地に対しては，適切な地域を適切な規模で選定しその地区の状況に或いは開発目標に合った建設計画を樹立し住宅と同時にすべての公共施設を集中的に建設することによって資金効果を上げると同時に，地域社会として完全な社会圏を作り，かつそれが大阪府下全域の全機能の一部として充分な機能を持つように考慮されなければならない。このことから在来の単なる団地建設から住宅地区建設へ踏み出ることが如何に重要であるかわかる。

いま，大阪府下において，昭和50年までに建設を要する住宅数を 118万戸とし，一部を既成市街地の再開発により収容するものとして，新らしく必要とする宅地面積を推定すると，約12,500ヘクタールに達するのであって，現在施行中の千里丘陵住宅地区（面積約 1,150ヘクタール）の約11倍に達する。昭和50年までにこのうち約半分の面積を公的な機関で開発するとすれば，千里丘陵地区程度の規模の建設事業を常時３ケ所程度建設しなければならない。

千里丘陵住宅地区開発計画

本事業は，府下においてもっとも発展速度の速い従って急速に施策を必要とする北摂地区の中心部すなわち吹田，豊中両市にまたがる丘陵地に約 1,150ヘクタールの地域を選定し，ここに住宅３万戸を建設し既存集落の人口を合わせて約15万人の住宅地区を形成せしめ，放置されれば無計画な開発によって生ずる環境の劣悪化を防止し，隣接する吹田，豊中両市並びに池田，箕面，茨木の各市内および三島町等の今後の計画的発展に役立たしめ，大阪市および北摂地区に勤務地区を有する人々の住宅地として理想的な住環境を持ったまとまりのある住宅地区として完成することを目標としている。このような企ては，わが国においてはもちろん始めてであって，全体の規模において世界にもあまり例のないもので，したがって，技術的な面においても，またその手段（法的な面にでも）においても種々の困難があったが，今後これらの面については逐次検討し改良しなければならないと考えられる。

本計画についての概要は次の通りである。

① 規　　模

全面積　約 1,150ヘクタール
（約 350万坪）

人　口　最終時約15万人

ヘクタール当り人口密度を平均100人とし，わが国における中型都市程の人口を持つようにすることによって，都市機能を充実せしめ居住者の利便を高めるとともに，本地域全体の経済の独立性をある程度確保できるように考慮し，これにより地域中心地区を充実させる。

② 地区の性格

本地区は，母都市である大阪市の中心部より 15Km 圏内にありかつ最近急激に発展しつつある北摂地区の中央部にある。しかも地形が全般的に丘陵性の起伏に富んだ住宅地として最適な条件にあるので，大阪市および北摂地区に通勤する人々のための住宅種別，住宅指向性，需要傾向等を調査しそれに見合う住宅種別，住宅形式を選定し，なお完成後は本地区が一つのまとまった生活圏を形成することを考慮し，所得階層別に一つの都市とし適正な構成となるよ

うに配慮し社会的な歪を生じないようにした。

③ 社 会 構 成

本地区の最小社会圏を住区（人口約10,000～12,000人戸数2,000～2,500戸）とし，地勢により3～5住区が1地区を形成し，それぞれの地区に地区センター（中心市街地）を持つように配置し，3地区でもって全地区を形成するように計画されている。一住区は即ち一小学校区であり日常消費物資を販売する商店群，マーケット公衆浴場，郵便局，診療所集会場等を持つ近接センターを2ケ所あて持ち日常の生活に必要なすべての施設を備えており，第1次の生活圏を形成する。

日常生活に必要な購売施設，公的機関，保健衛生施設，教育施設，レクリエーション施設，公園緑地施設等は以上の住区，地区全地区の3段階に分けそれぞれ必要な部分に適切に配置する。

（4）基 本 計 画

基本計画は，以上のことを考慮し本地区を周辺諸都市に連絡する幹線道路（大阪中央環状線および御堂筋線延長線）および通勤者のための鉄道の延長線（阪急千里山線および大阪市地下鉄1号線）が計画され，それぞれの地区センターはこれらによって外部と連絡される。

地区内は地区内幹線道路により12の住区に分割され，それぞれの住区は通過交通により日常生活が交通により攪乱されないように考慮されている。住宅の配列は高層中層，低層アパートおよび個人住宅を混在させそれぞれの地区で適切な人口密度になるように配置し，また地区の性格に応じてそれぞれ住区内においても適切な人口を持つようにし，居住者の日常生活の利便をみると同時に住宅環境を良くするように計画している。

各国の住宅政策

東大教授社会科学研究所
建設省住宅審議会委員長 有 泉 享

1，住宅政策の第一の目的は，どこの国でも国民のすべてに健康で文化的な住宅を供給するにあることはいうまでもない。そして近代社会における住宅，特に都市におけるそれは，国民が各自で処理するにしてはあまりに金のかかるものになっているので，何等かの形で，国または地方公共団体が住宅供給ないしその管理を担当することを余儀なくされている。そうでないと，多くの住宅困窮者を生じ，スラムの発生を防ぐことができないからである。しかし，その目的を達成するためのやり方はそれぞれの国の政治上の仕組みや経済力の違いによって，さまざまである。

2，英国はもっとも早く国家が住宅問題の解決に乗り出した国のひとつである。それは産業革命に伴なう人口の都市への集中がいち早くスラムを発生させたからである。しかし今日見られるように人口の4分の1が公営住宅に住んでいるという状態が生じたのは，第2次大戦による破壊と，そうでなくとも1870～80年代のヴイクトリヤ期の建物がつぎつぎに寿命がきたために都市の再建が必要とされたからである。この国で公営住宅を供給する主体は原則として市町村であり，国はそれに対して住宅建設の目的に応じて定まった率―スラム，クリヤランスや老人向住宅の場合は率が高い―の補助金を年々支給する。例えばロンドン県で新しく建築するフラットは平均して毎年償却費，利子，管理費合計 240ポンド（24万円）かかるが，そのうちの家賃は平均年額95ポンド，国庫の補助金55ポンド，ロンドン県の負担90ポンドである。家賃は建設費に関係なく市町村が相当と思う額にきめる。なお低収入者のために差額家賃制度をとることができるが，その採否は市町村にまかされている。保守党はそろそろ公営住宅を引きしめようとしているが，労働党には現存の私有の貸家をも市町村で買取って公



営住宅化せよという主張もある。

3，米国の住宅政策は第1次大戦後にはじめて動きはじめたものであるが，ニューディールの延長として第2次大戦の直前の1937年に社会政策の1環としての現行の連邦住宅法が制定され，1949年に大きく修正されて今日に至っている。ここでは低収入者に安い家賃の住宅を供給することを主体として，連邦が各州の都



住宅講演会会場風景

市を援助する仕組みになっている。すなわち大体建設費1戸当り2千ドルから，3千ドル程度の家を建ててこれを市価よりも20%安い家賃で貸すことを基本とし，入居資格をその家賃の5倍以下の収入の者に限っている。そして，現実に入居した者の収入が，その家賃の5倍にみたない場合には，その者の収入の5分の1まで家賃を下げることにしている。いいかえれば低収入の者は，収入の5分の1の家賃を支払えば公営住宅に入れる。その代り，入居後収入が1定限度（入居資格の125%）以上になると住宅を明渡さなければならない。各州の都市はそれぞれ自己の計画に基いて公営住宅を建設するがその利子は連邦からの補助によって賄われる。この制度を利用する都市は若干一定の地域に片よっているが1960年現在で約60万戸の公営住宅が建設されている。

4，仏国では国や地方公共団体が直接に住宅供給を行なうのは例外的で，低廉家賃住宅の建設に対する低利融資と，その他の住宅建設を対象とする利子補給の二つの方法で住宅の建設を促進している。そのうち低廉家賃住宅団体（低廉家賃住宅公社，同株式会社，同協同株式会社などを含む）に対する低利資金の融通（利子は2%～3%になっている）が大きな役割りを果している。これらの住宅への入居にはやはり収入，世帯員等の条件をみたしていることが必要とされ，点数制が採用されている。

5，西独逸でも仏国とほぼ同じ構想によって各地に法律上認められる公共住宅企業という特殊の団体が設立されていて，かって地方公共団体が所有管理していた住宅もその管理下に収めている。その毎年の建設戸数の合計は西独逸全体の3分の1近くに上っている（1955年の例では私的建築主31万7千，公的住宅企業15万5千，官庁，会社等6万6千，合計53万8千になっている）。これらの団体は税法上の特権を与えられ，非営利の原則によって運営されている。

6，ソ連では住宅は国有を原則する。すなわち国有住宅フォンドに属するものおよび協同組合その他の社会組織に属するものが77%，個人所有に属するものが33%あり，固有住宅フォンドは4対6の割合いで地方ソビエト管理下にあるものと，国営企業，国家施設管理下にあるものとにわかれている。そして，この国の公的住宅の特色は，団地が地方の行政組織と密着していること，従って団地での共同生活の規制がきびしいことである。しかし，その使用関係は公的な入居許可から次第に私的な賃貸借契約へと重点が移っているように見える。そして近年住宅建設にかなり大きな努力が払われている。

軽量鉄骨
設計・施工
新鋼建設工業株式会社
取締役社長 吉田信武
本社 大阪市西区立売堀北通1—76(立売堀ビル)
電話 (531) 0609・6575
工場 神戸市東灘区本庄町青木古堂町53
電話 神戸 (8) 6161
広島県御調郡向島町立花3010
電話 尾道 2868 向島西19

杭
株式会社 武智工務所
取締役社長 福留並喜
大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話 (202) 3233・3234

フランスのサラリーマン生活

評論家　角田房子

フランス人は「楽しむために働く」といいます。一般に勤め人の休暇は長く3，4週間は普通ですし，ルノー（自動車会社）では全員が1カ月休みます。復活祭や夏の休暇の前には「ヴァンカス（休暇）をどのようにお過しになりますか」と訊ね合うのが日常の挨拶がわりになるほど，誰も彼も休暇で頭を一ぱいにしています。太陽光線の不足なパリでは，健康保持のためにも田舎へ行くことが必要なのですが，それだけでなく彼らは休暇というものを普段と全く違う環境で徹底して楽しもうという気持なのです。

フランス人は〝自由〟という言葉をよく使いますが，彼らの生活にとって自由は食物や空気と同じくらい大切なもののようです。殊に勤め人は日常の生活でもこの自由な時間を多く持ちたがりますし，大切にしています。勤務時間も一般に日本より短かく，またルノーを例にとりますと，土曜，日曜が休みで，1日8時間，5日間働きます。

彼らは自由な時間を大切にする反面，勤務時間中は一般に日本人よりきびしく働いています。ぶらぶらして煙草をすっていたり，外へお茶を飲みに行くなどということはありません。これは権利と義務の観念が発達していて，勤務時間中は働く義務があり，その他の時間は自由に過す権利があると，はっきり割り切っているためでしよう。

東欧共産圏をまわってみても，自由時間を多くという方向に進んでいて，チエッコスロバキヤの有名なスコダの工場など，事務関係の人は早朝出勤で午後1時には仕事から解放されています。

フランス人が自由な時間を過す中心は，常に家庭におかれています。夫だけの宴会や，夫達だけが飲み屋をはしごで廻って酔いつぶれるということは，特殊な人を除いてまずありません。日本とくらべて家庭の持つ比重，妻の地位が違うようです。

フランス人の生活には社交というものが，上流階級は元より，一般のサラリーマンの生活でも大きな部分を占めています。この社交の面で中心になるのは主婦で，一部の日本人のように一家内は一切出ないことにしていますので」と，夫だけが1家を代表することはありません。このため家というものが単に家族が食事をして寝る場所ではなく，社交の場として社会とのつながりを持っています。「主婦の社交上手は夫の出世につながる」とまでいわれるフランスですから，主婦は家の中の装飾，殊に客間に気を配ります。夫の社会的地位と，住宅，家族とは密接な関係を持っています。

フランス人は住宅というもの，不動産というものに日本人より一層関心が強く，執着も深いようです。これは建物の構造の違いからも来るようで，彼らにとって家は半永久的なものであり，日本のように郊外に小さい土地を買えばすぐに簡単な木造の家が建つという手軽さがないためもありましょう。日々を過す家というものは長い間に人々の精神面に及ぼす影響も大きく，私たち日本人の心の底に抜きがたい強さで横たわる無常感も，一つには今までの家の構造の影響があると思われます。火事があれば一瞬で灰になる木造の家ですぐ穴のあく紙の障子に囲まれて暮す日本人と，石の家で厚いドアに区切られて暮す西欧人との間に，大きな精神面の差が出てくるのは当然でしょう。彼らの宗教の中心である教会は壮大な石造りで，中世から何百年の風雪に耐えてそびえるものが多く，長く我々の精神生活の中心であった伊勢神宮は20年毎に建てなおす木造であることなども，深い関係を持っているでしょう。日本人，殊に主婦の多くは社会意識の点で西欧人に劣る点があると思いますが，これは今までの我々の住宅が小さくても独立した1戸建てであったことも関連しているようです。戦後の都会の住宅難が，多くの人を団地生活者にしました。この中には，いまに1軒の家を持とうと望んでいる人も多いようですが，その時期が来れば，いよいよ深刻になる宅地不足，物価の値上りなどの理由で，また他のよりよい団地へ移ることを余儀なくされてゆくでしょう。



こうしてこの人達の子供はすっかり集団生活に馴れてゆきますし，現在30代の人々の多くはこのまま順応してゆくでしょう。多くの人が，日常生活の中に非常に社会意識を求められる集団生活に移ることが〝新らしい日本人〟が生れる原因の一つになると思われます。こうして〝住〟の変化は，我々の精神構造にも大きな変化を与えるでしょう。

これが日本の文化史に一つの画期的な変化として残される日も，遠くないように思われます。

会　　報（10月分）

理　事　会

10日　4時半――5時半　於会館会議室
出席者　桐本理事外4理事
議　事　（1）防錆塗料に関する講演会開催の件
（2）欧州におけるプレハブ建築に関する講演会共催の件
（3）鉄筋コンクリート構造基準講習会後援の件
（4）「住みよい住居と新しい自動車ショウ」展覧会後援の件
（5）第5回「現代建築シンポジウム」協賛の件
（6）関西デザイン会議協賛の件
（7）記念事業展示会中止の件
（8）入退会者承認の件
（9）報告事項

編　集　委　員　会

小　委　員　会

5日　3時半――5時半　於会館会議室
出席者　石原委員外3委員
正月号よりのシリーズ「技術の頁」の企画について協議

幹　事　会

10日　4時――7時　於会館会議室
出席者　田中幹事外4幹事
2月号「消防火特集」号の企画について協議

委　員　会

12日　4時――7時　於会館会議室
出席者　恒岡委員長外5委員
議　事　（1）経過報告
（イ）11月「宅地開発特集」号
（ロ）12月「社会福祉施設特集」号
（2）正月「建築教育特集」号の企画審議
（3）2月「消防火特集」号の企画審議
（4）3月号以降の企画について

住　宅　委　員　会

5日3時――5時半　於会館会議室
出席者　海上委員長外8委員
議　事　（1）南海電鉄の新住宅懸賞設計競技に関する件
（2）欧州のプレハブ建築視察報告会開催の件
（3）千里山組立住宅団地外見学の件

事　業　委　員　会

委　員　会

8日　5時半――7時　於会館会議室
出席者　岩崎，岡本正副委員長外10委員
議　事　（1）11月，12月の事業企画について
（2）忘年懇親会の企画について
（3）各種説明会の企画について
（4）第5回建築写真コンクール締切延期の件

小　委　員　会（若い会員の集い）

17日　正午――2時　於会館会議室
出席者　東，清水，広瀬各委員
松下電器産業辻弘治氏
若い会員の集いの実施について打合せ

小　委　員　会（忘年懇親会）

18日　正午――2時　於会館会議室
出席者　岡本主査外6委員
忘年会の企画について協議

エマルション壁塗料
日本ペイント
ビニレックス
5000級スーパー
外部用・内部用
ビニール壁塗料
ビニレックス5000
大阪・東京・名古屋
福岡・小倉・広島・神戸
金沢・新潟・浜松・静岡
藤沢・群馬・仙台・札幌

教育委員会

小委員会（工高生デザインコンクール）

4日　正午——2時半　於会館会議室

出席者　杉本主査外2委員

応募作品について応募規定違反の有無を調査

法規委員会

16日　3時——5時　於会館会議室

出席者　山本委員長外10委員

議　事（1）審議方針の再検討と再確認

（2）関係法の改正に関するアンケートの件

建材委員会

19日　3時——5時半　於会館集会室

出席者　竹内委員長外9委員

製造会社　伊奈製陶谷川氏外5氏

施工管工業者　須賀工業引野氏外2氏

衛生陶器に関する検討を行ない，洗面器，便器の各問題点についてそれぞれの立場から意見を交換した

近代建築調査委員会

26日　3時半——4時半　於会館会議室

出席者　政岡，林野両幹事外7委員

議　事　（1）12月号発表建物の件

（2）1月号発表建物の件

（3）福岡県庁舎及び長崎の建物調査に関する件

（4）今後の調査方針に関する件

記念事業委員会

記念展覧会委員会

6日　6時——8時　於関電会館

出席者　小川委員長外6委員

記念展覧会中止の已むない事情を事務局より報告して諒承を求め，展覧会の開催企画を中止することに決定

記念事業委員感謝会

26日　6時——8時　於大新楼

出席者　東畑記念事業委員長外役員委員50名

東畑記念事業委員長から委員の労に対して謝辞を述べた後会食懇談。なお記念として記念出版「ふるさとのすまい」を全委員に贈呈した

工高生デザインコンクール審査会

8日　2時——6時　於会館集会室

出席者　清水審査委員長外8審査員

教育委員　杉本主査

課題「湖畔に建つ学生のためのボートハウス」応募24校91点を審査して入選10点を決定。なお入選作の中から新潟県立高田工高の高島忠夫君外3君共同製作の作品を最優秀作として「一の会」賞受賞作品に推薦した

講習会

第7回現場実務講習会

1．期　間　10月22日——27日　8時半——12時半

11月7日——9日　8時半——17時

11月10日　8時半——10時半

延50時間

1．会　場　大阪建設会館6階集会室

1．聴講者　135名

10月22日　建築工事の着工から竣工までの業務総論

大阪府営繕課　板垣精治郎　氏

22日 23日　労務管理と安全管理

鹿島建設支店　岸田　成計　氏

23日 24日　仮設物と仮設材料

松村組　政岡　基次　氏

24日　現場に関する諸法規とその手続

大成建設（神戸）　大久保　登　氏

25日　材料の検収とその管理

鴻池組　近藤　史郎　氏

25日 26日　工事機械と工器具類

大林組　依田　潔　氏

26日 27日　施工計画

大成建設支店　松岡　照夫　氏

27日　現場製図

浅沼組　篠崎　一郎　氏

特許 防火シャッター全般
小俣式
電動式～箱型・ウオーム・スパー
手動式～自動・鎖・オートマチック
ステンレス・アルミニウム・シャッター
株式会社小俣製作所大阪支店
大阪市北区若松町30
電話（341）9004・9016・4825
本社及工場・埼玉県与野町
東京事務所及工場・東京都北区田端町

講　演　会

防錆に関する講演会

1．と　き　10月22日　2時——4時半
1．ところ　千代田生命ビル9階ホール
1．演題並に講師
（1）金属材料の腐蝕と防蝕について
京大教授　工博　吉沢　四郎　氏
（2）ラストマスターについて（日米特許錆止塗料）
石産化工大阪工場長　島谷　庸憲　氏
（3）ジュラクサテン（京壁仕上塗料）
プライナメル（床用塗料）
石産化工大阪工場　宮崎昭一郎　氏
1．協　賛　石産商事株式会社
1．聴　衆　約250名

欧州のプレハブ建築視察講演会

1．と　き　10月24日　1時半——4時半
1．ところ　大阪建設会館6階集会室
1．演　題　欧州のプレハブ建築を視察して（スライド使用）
1．講　師
松下電工住宅事業部
技術部研究課長代理　小林　昭夫　氏
大林組設計第2課長　木田　幸夫　氏
不動建設常務取締役　諫早　信夫　氏
1．共　催　日本建築学会支部　日本建材協会　本会
1．聴　衆　約200名

座　談　会

建築技能者教育についての座談会

1．と　き　10月17日　2時——5時
1．ところ　本会会議室
1．出席者　司会　大阪府労働部訓練課長
福岡　正　氏
大阪府左官工事業協同組合　上田与三郎　氏
大阪タイル衛生陶器商工業協組　川岸　繁夫　氏
大阪府塗装工業協同組合　熊谷　広吉　氏
建設労務研究会　関　雄二　氏
大阪府建築部建政課　寺岡　真　氏
大阪建設労組訓練所　遠山　春二　氏
1．会誌正月「建築教育特集」号企画として開催

若い会員の集い

1．と　き　10月24日　6時——8時半
1．ところ　本会4階集会室
1．テーマ　企業内における工業デザイン
1．ゲスト
松下電器産業技術本部意匠部意匠製作課主任
辻　弘治　氏
松下電器産業技術本部意匠部管理課
宇賀　洋子　氏
1．出席者　24名

見　学　会

豊中市庁舎と緑ケ丘団地見学会

豊中市庁舎　設計　日建設計工務K.K.
施工　銭高組
20日　1時——5時
大阪府建築士会と共催。銭高組ご提供バスによって実施
参加者　80名

平川鉄工所滋賀工場と日本電気硝子大津工場見学会

27日　9時半——午後8時半
参加者　53名
両会社より往復バス，中食，夕食のご提供を受く

編集後記

最近，厚生省あたりで「老人福祉法」の大綱がまとまり，国会に提出される段取だと聞く。一方，所得倍増計画による生産手段の拡大に比較しておくれがちな，保健福祉計画なども考えられていると聞く。こうした老人福祉をはじめとする社会福祉面を建築的にどうとらえれるかは，とくは社会保障のすすんだ北欧の諸国にくらべて貧弱なわが国においてはこれからの問題であろう。いかに“世界にはじめて”という老人福祉法ができても，実態が伴なわないなら空文だ。建築側から老人福祉施設などのデータを整理して，その資料の検討積上げの成果の上に立つて，社会に訴えていくことが必要なときだ。またそうした視覚的な空間提案をしなければ，すつぱい果実におわつてしまうだろう。こうした意味で，本号は老人福祉施設を中心に編集した。これは，1960年12月号の「児童福祉施設特集」に続くものである。この老人福祉施設のほか，新しい地域社会の福祉のあり方を追求してみた。さらに福祉施設の実例8点を紹介した。この号の企画にご協力いただいた幹事の方は，柴田善守（大阪市大家政），堀照男（兵庫県），荒木兵一郎（阪大），田代正尚（労福研），島田勝次（神戸大），栗原嘉一郎（大阪市大），相川浩（京工大）の各氏である。執筆者ならびに幹事に厚くお礼申しあげる。次号は「建築教育特集」の予定。この特集のほかに「技術の頁」「職人シリーズ」等々のシリーズものがつくことになつている。

＝特許＝
氣光式通風器　製造販売
南閉式レヂスター
特許第一五一三六号
カタログ進呈
大阪市西区江戸堀下通2-79
田辺工業株式会社
電話土佐堀(44)7437—9

天井・間仕切には軽量鉄骨を・日進式軽量鉄骨を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社　奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北(44)四一三一～四

屋根浪板
谷樋には **大島化学のひふくてっぱんを**

固定式通風器 連続式換気装置にも

耐酸スタンダードメタル

カラースタンダードメタル

PATENT Standard

大島応用化学工業株式会社

本社 大阪市城東区野江東之町4の104 (931) 7071—3
支店 新居浜・名古屋・四日市・広島

田中式 スカイライト・ベンチレーター
スチールサッシュ・ドアー
スチールシャッター・オペレーター

TNK **田中工業株式会社大阪出張所**

大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2—89

本社 東京第一工場 東京都墨田区錦糸町1—25
東京第二工場 東京都墨田区吾嬬町東4—122
小倉工場 福岡県小倉市赤坂上の宿37
川崎工場 神奈川県川崎市東渡田3—43
札幌出張所 北海道札幌市北大通東4丁目4
盛岡代理店 岩手県盛岡市木伏49・東北建設(株)
名古屋代理店 愛知県名古屋市西区西菊井町2—12・岡田建材KK
米子代理店 鳥取県米子市祇園町2—93・吉田工務店

TEL 大阪 (06)6341(代表)・(06)6342
TEL 東京(623)代表0106—0108・(622)0790
TEL 東京(611)2118—9
TEL 小倉(52) 2833・2834
TEL 川崎 ②7594—5
TEL 札幌 ③ 6762・0515
TEL 盛岡 7642
TEL 名古屋(53)0121・2057
TEL 米子 4683

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(341)207～8・4836～7

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社 大阪市西区京町堀1丁目62 電話(441)代表2613・代表9431
出張所 東京都北区上十条1丁目10 電話 (911) 3941
名古屋市中村区牧野町1の6 電話 (54) 0966
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1 電話(4)1778・4386
広島市中町2番地の4 電話 (2)7575・7588

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社 大阪市北区富田町16 代表(341)7031
支店 東京都千代田区小川町2丁目1 桧ビル (201)7751-3
福岡市養巴町22 (74)1158
出張所 名古屋市中区新栄町2丁目1 (97)1820
福井市宝永上町105 (2)1596
松江市東本町4丁目147 5098
広島市紙屋町8 (2)4537

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

代表取締役 城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪㊱7575(代表)
京都市東山区大和大路正面上ル電話京都㊫4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話 神戸 ④ 5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 大阪電気商会
株式会社 大阪暖房商会

取締役社長 菅谷三郎

本店 大阪市西区江戸堀一丁目60番地
電話 大阪㊶大代表8231番
支店 東京・名古屋・福岡
出張所 京都・神戸・岡山・高松・広島・熊本
札幌・仙台・新潟・富山・金沢・福井

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話大阪㊶4145㊽2687・2887番

本店 東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話(281)局6505～8番

金沢営業所 金沢市高岡町三五 電話金沢 ② 2074
福井出張所 福井市城之橋下町一〇ノ 電話福井 ② 2436
高松出張所 高松市二番丁九 電話高松 ② 5195
岡山出張所 岡山市大供松ノ木三八〇ノ一 電話岡山 ③ 7047

創業 大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 斎藤省三商店

東京店 東京駅前丸ビル6階676区
電話東京(201)3761・3762・3763・3764
大阪店 大阪市西区土佐堀通 大同ビル714号
電話大阪㊶1568・1569・2594
札幌店 札幌市北四条西16丁目1番地 高田屋ビル二階
電話札幌 ② 0010・0956・③ 4661
名古屋店 名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号
電話中局 ㉔ 1766

建築設備・金属製建具
荷役運搬機械・環境衛生施設
化学・鉱山機械

三機工業大阪支店

取締役社長 山田熊男
取締役支店長 池田英太郎

大阪市東区北浜2—22(三井信託ビル) 電話大阪(202)代表3071
本店 東京都千代田区有楽町1丁目10番地
支店・出張所 名古屋・福岡・札幌・広島・仙台・富山・金沢・静岡
工場 鶴見・六郷・中山・高槻

須賀工業株式会社

空気調和衛生設備
設計施工

大阪市西区土佐堀通1丁目14 電話 441—5171
支店——東京・名古屋・京都・神戸・福岡

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目44 電話大阪㊽3531番

空気調和装置・熱風乾燥装置
設計施工

株式会社 建材社
大阪支店

大阪市北区中ノ島二丁目 (新朝日ビル5階)
電話大阪㉑6041・㉗7046(代)
本社及東京支店 東京都中央区八重洲三丁目七
営業所 名古屋市中区菅原町2丁目 (センタービル)
連絡所 広島市基町一 (朝日ビル)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工
高砂熱学工業株式会社大阪支店
大阪市北区梅田8番地（新阪急ビル8階）
電話 大阪（312）4521（代表）
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工
東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店
大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電話大阪㊵局8356（代表）
本社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 東京都足立区下沼田町360番地

暖冷房・水道衛生工事
設計施工
株式会社 **栄興商会**
取締役社長 中山敏正
本店 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話大阪 ㊺ 3391～5番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話（351）2177～8番
神戸出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三 電話元町④3035番
仙台出張所 仙台市東四番丁四五 電話②5136番

暖房・冷房・水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工
株式会社 **朝日工業社**
大阪市北区中之島4—39 電㊶6671～5
東京支店 東京都港区芝浜松町2—7 電（431）7341～5
北海道支店 札幌市北四条西15丁目 電②2203・③5374・5969
仙台支店 仙台市元寺小路（五城ビル） 電②8061・③9261
名古屋支店 名古屋市中区東陽町6—5 電㉔1270・1484
広島支店 広島市大手町8—155 電 ③ 7949
福岡支店 福岡市薬研町3 電 ㉞0788・㉕0296

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工
第一工業株式会社大阪支店
大阪市北区富田町30 電話大阪㊵ {（代表）0977 / 0978～9・0970}
本社 東京都千代田区丸ノ内2—10
電話（281）2631—5
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話 7332
名古屋出張所 名古屋市東区東門前町3—6
電話 ⑨ 2893

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工
日本管工業株式会社
代表取締役 市川繁雄
本社 京都市中京区両替町通り姉小路上ル
電話㉒（代表）7975・（夜間専用）5532
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1-37（天満橋北詰）
電話㊱8829
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話7503・3665
津営業所 津市栄町2—111 電話3610

暖冷房・空気調和・環境衛生工事一切
設計施工
日本熱学工業株式会社
社長 牛田正郎
大阪市北区万才町50 北大阪ビル
電話 大阪 ㉜ 8671
東京支店 東京都千代田区神田和泉町1
電話（866）5156～8・2594・0408
名古屋支店 名古屋市中区城代町7
電話㉓4690・3520
営業所・出張所 下関・金沢・藤沢・新潟・八幡・京都

暖房・冷房・温湿度調整・衛生設備
設計施工
大嘉熱工業株式会社
取締役社長 嘉幡政四郎
大阪 大阪市北区万才町四三 浪速ビル六階
電話大阪㊱直通2085・5725
（代）9851～9・9951～9
東京 東京都千代田区西神田町一ノ八
電話東京（291）8002～3
出張所 愛媛県川之江市・九州福岡市

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工
第一企業株式会社大阪支店
大阪市北区天満橋筋4—71
電話 ㊱ 2808・2809・2800・2134
本社 東京都文京区元町2丁目17番地
電話（811）（代表）6294
支店出張所 名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

冷暖房・温湿度調整装置・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工
理研鋼機株式会社
大阪営業所 大阪市北区宗是町1（大ビル）
電 大阪 代（441）8621番
本社・工場 東京都北区神谷3の10の3
電 東京 代（901）3191番
本社・分室 東京都港区芝佐久間町1の46（大同ビル）
電 東京 代（501）3156番
営業所 名古屋・仙台 連絡所 福岡

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

大阪市北区野崎町六九
電話・大阪㊱2891－5番
東京支店 東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(551)8・3330・8303
営業所 名古屋・神戸・岡山・広島・福岡

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長 浅海正雄
本社 大阪市東区北浜二丁目六九
電話大阪㉑5273－5・5451－2
東京支社 東京都港区赤坂溜池町1
電話(481)8621～4・3573
営業所 名古屋・札幌・旭川・福岡

電気工事設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英
大阪市北区永楽町8番地 (日産生命館)
電話 大阪㊶ 代表 1234～9
支社 東京・名古屋
出張所 舞鶴・広島・八幡・福岡・富山

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長 今村騰
本社 大阪市北区梅ケ枝町二五番地
電話 大阪代表㊶8131～7
東京支店 東京都港区金杉町二丁目十三番地
営業所 名古屋・新宮・御坊

電動機自動操作用配電盤・分電盤・受電盤
自動遠方操作盤・電動機単逆相運転防止装置
温湿度自動装置監視盤・遠方監視自動装置
各種フロントスイッチ・スペースヒーター及び
ウォータヒーター・其の他特殊電気機器設計製作

森井電業株式会社

東京本社 東京都港区芝三田綱町一番地
電話 東京(451)9611～5番
工場 東京都港区麻布新広尾町一丁目一三四番地
電話 東京(451)0535番
大阪支店 大阪市北区常安町十六番地
電話大阪(441)9516～8番夜間専用(441)502番
名古屋出張所 名古屋市中村区長戸井町三丁目四十一番地
電話 笹島(54) 6865・9495番
福岡出張所 福岡市東職人町二七番地
電話(4) 7813番(5) 3516番
広島出張所 広島市三川町二六番地電話(4) 2449番

各種電気工事設計施工

株式会社 **ヤマト電気商会**

取締役社長 山本龍太郎
本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(341)代3056
東京営業所 東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室 電話東京(541)7464
出張所 大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

電気工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納伝三
本社 大阪市北区絹笠町五〇 (堂ビル三階)
電話 (312) 1471(代)
支店 東京都中央区西八丁堀四丁目十(後関ビル三階)
電話 (551) 5590～2
営業所 名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話 (98) 236～7
〃 小松市符津町才四四ノ三
電話 (粟津) 237
〃 堺市三宝町七丁目三六九

電気工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

取締役社長 山本博三
本社 大阪市北区中之島三丁目三 朝日ビル6階
電話 大阪局㉑9531 (大代表)
営業所 大阪市西区土佐堀通リ四丁目八番地
電話 大阪局㊵5201番(代表)～3
出張所 京都市右京区西院今田町六番地
電話 京都局㉞3481番

電気工事設計施工

江東電気株式会社

取締役社長 猪飼幸次郎
本社 大阪市生野区勝山通9丁目72
電話 (716)4035(代)～8
支社 東京都新宿区淀橋533
電話 東京(371)6203
出張所 金沢・名古屋・高知・広島

電気工事・設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中本正明
本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話 大阪(931)代表7341～5
機器工場 大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫 電話(931)2193

電気工事設計施工
並架線金具製作販売
（日本工業規格表示工場）
八千代電設工業株式会社
取締役社長　梶本秀尾
大阪市東区森之宮東之町
電話大阪 ㊶ 6531（代）～5
支店　名古屋
出張所　東京・岡山・門司

電気工事設計施工
株式会社　三興社
取締役社長　坪井　大
本社　大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電話 ㊱ 2138（代）～9
支店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話 ㊼ 1478（代）～9
出張所　堺・下関

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
大阪支社
支社長　姉川正男
大阪市東区高麗橋五丁目二八番地
電話 大阪（202）0325～9番

エレベータ　・コンベヤー・リフト
エスカレータ　・ホイスト・クレーン
N・T・E型オートパーキングステーション
設計 ㊞ 製作
日本エレベータ工業株式會社
本社　大阪市大淀区天神橋筋6（天六阪急ビル）
電話（351）4927代表7071交換
東京営業所　東京都台東区長者町2－7（豊富ビル）
電話（831）7949直通（866）5276交換
東淀川工場　大阪市東淀川区小松中通5－6－2
電話（381）0363・4588

㊞
社寺数寄屋用瓦…大佛瓦
耐風雨緩勾配用瓦…大和瓦
美術建築内外装用タイル…大佛タイル
大佛組
本店　京都市東山区今熊野池田町（6）3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町1～13（941）0975
名古屋営業所　名古屋市瑞穂区堀田通1丁目（88）2703



陶管・練瓦・ヒューム管
ベンチレーター・アンホール
株式会社
三幸商會
大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㊵ 3145

PAINTING　CONTRACTOR
塗装工事請負
株式会社　**林塗装店**
TEL. 大阪 ㉕ 1756—7・東京 ㉘ 1335

青写真とマイクロフイルム
株式会社　**内外写真**
製図・トレース・複写写真
大阪市北区堂島北町16　TEL ㊱ 9055（代表）

特許植物性　型枠離剥塗料
サンヒット
メタルフォーム用特号
関西代理店　株式会社　**金剛商会**
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道　野里電停前
製造元　東京サンヒット商会　電 大阪㊿0417・4091

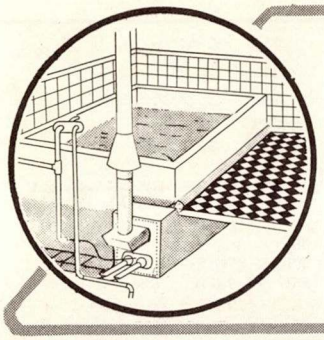
奉仕感謝の店
タイル　衛生陶器
㊊ 株式会社 **川岸窯業商店**
大阪市西区靱南通2丁目21　市電靱南通り電停前
電話大阪・㊵ 2435・2788・8597番

鈴木式防火シヤッタア

株式会社 **鈴木シヤッタア商会**

大阪市北区茶屋町33　電話 ㉑ 0098・5837・8729・6810

北陸営業所　金沢市長田町119　電話 ② 2287



田中のガス風呂

ミリオンポリバス浴槽

清

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂・温水鑵

大阪ガス会社指定

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町1丁目742　但シ賑橋電停前　(641)5313・8128

シヤッター

重量シヤッター
電動シヤッター
軽量シヤッター

レディメイド サッシ

アルミサッシ
スチールサッシ
ドアー

HEIWA KOGYO

平和工業株式会社

ナンバスケート場前

施工迅速
親切丁寧
在庫豊富
信用を誇る
(乞御照会)

TEL(641)5750・8836

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売



建築陶器の百貨店

株式会社 **吉田芳雄商店**

大阪市北区南森町交叉点
電話 大阪(341)2403・3904

諸官庁御指定
吹付及び掻落ソリジットスタイン
床材（合同リグノイド）マグネシート
外壁シリコン防水・ゴーレジン 樹脂防水
製造。販売。責任施工

合同特許建材工業株式会社

取締役社長　山下謙治

本社　大阪市東住吉区田辺東之町3—109　電大阪 ㊸ 9086
営業所　大阪市東住吉区駒川町3—54　電大阪 ㉑ 4370・6760
出張所　広島市比治山本町1180　電広島 ④ 4967
出張所　東京都新宿区花園通46　電東京(351)5298・5264

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店　大阪市西区南堀江上通一丁目三一
電話 大阪 ㉛ 3426～7

工業用及建築用各種石灰製造販売
セメント
小野田 レミコン 特約販売店
ブロック
セントラル硝子特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目十四番地
(桜橋電停曽根崎新地西入)　電話大阪㊱1274～6
支店・東京・神戸・姫路・徳島・高松

広告目次 (50音順)

建築と社会 昭和37年 Vol. 43 No. 12

ア アサヒカラコン ……17
アルケン工業kk ……10
浅海電気kk …… 4
kk 朝日工業社…… 3
旭化工板 ……前付
伊奈製陶kk ……中挟
井田商事kk ……17
泉石綿工業kk ……16
岩元工業kk ……18
岩住鉄工所 ……20
kk 栄興商会…… 3
栄進鋼業kk ……15
ＡＢＣ商会 ……中挟
オリエンタルメタル製造KK ……中挟
小俣製作所 ……本文
大阪機工kk …… 8
大阪建材工業kk ……20
大阪鉄工所 ……11
kk 大阪城口研究所…… 2
大阪石綿スレート同業会 ……11
kk 大阪電気暖房商会…… 2
大阪耐酸工業所 ……15
大島応用化工業kk …… 1
kk 奥村重兵衛商店……本文
奥山化工業kk ……19
織本建築事務所 ……17
カ 笠松工業kk ……前付
樫野石灰工業kk …… 6
kk 川岸窯業…… 5
川口ゴム工業kk ……前付
関西暖房工業kk ……16
関西三星タイル会 ……前付
関西ペイント ……前付
柏原瀝青 ……中挟
工藤電気kk …… 4
kk 久保商店…… 1
クマガイ工業kk ……前付
栗原工業kk …… 4
黒川金物 ……16
kk 建材社…… 2
江東電気kk …… 4
合同特許建材工業kk …… 6
kk 金剛商会…… 5
サ 斎久工業kk …… 2
kk 斎藤省三商店…… 2
三栄建材工業kk ……18
三機工業kk …… 2
kk 三幸商会…… 5
kk 三晃商会…… 3
kk 三興社…… 5
三宝電機kk …… 4
三和シヤッターkk ……前付
敷島金物kk ……前付
新鋼建設工業kk ……本文
kk 新興建材工業所……19
須賀工業kk …… 2
鈴木シヤタア商会 …… 6
住友金属工業kk ……前付
タ 田島応用化工kk …… 表4
田中工業kk …… 1
kk 田中風呂製作所…… 6
田辺工業kk ……本文
谷山製作所 ……本文
第一企業kk …… 3
第一工業kk …… 3
大嘉熱工業kk …… 3
大元工業kk ……本文
大日本硝子工業kk ……14
大仏組 …… 5
耐酸化学工業kk …… 2
高砂熱学工業kk …… 2
kk 武智工務所……本文
中央電気工業kk …… 4
朝陽電気kk …… 4
つねなり・すたじお …… 7
東光電気 …… 5
東京カーテンオール工業kk …16
東洋キヤリア工業kk …… 3
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋シャッターkk ……12
東邦商会 ……13
ナ ナニワ瓦kk ……17
内外工業kk ……14
内外建材kk ……15
中本電気kk …… 4
浪速合板 ……13
浪速建材工業kk ……18
日東紡…… 前付
日本アスベスト ……12
日本アスファルト防水工業会関西事務所 ……前付
日本エレベータ工業kk …… 5
日本管工業kk …… 3
kk 日本金具製作所……前付
日本サッシ協会関西支部 …中挟
kk 日本シヤッター製作所… 表3
日本スピンドル ……前付
日本セメント防水剤製造所…表3
日本ドアーチエック製造KK ……中挟
日本熱学工業kk …… 3
日本ペイント ……本文
日瀝化学工業kk ……前付
西日本アスファルト事業協同組合…… 9
kk 西原衛生工業所…… 2
ハ kk 林塗装店…… 5
kk 平川鉄工所……前付
平田タイル ……13
フタバ黒板 ……13
福屋工業kk …… 6
平和工業kk …… 6
マ 松下電器……表2
満点製作所…… 10
kk 三高製作所……17
三菱商事kk ……前付
三菱レイヨン ……前付
美素工業所 ……本文
水谷ペイントkk ……本文
kk 室谷商店……13
森井電業kk …… 4
森延窯業kk ……18
ヤ 八千代電設工業kk …… 5
八幡製鉄 ……前付
kk ヤマト電気商会…… 4
山田工業kk …… 2
山本窯業kk ……本文
kk 山本建材社……前付
kk 油脂化工社…… 表3
kk 吉田芳雄商店…… 6
吉野石膏kk …… 8
kk 寄木商会……14
ラ 理研鋼機kk …… 3



神戸市庁舎　アルミルーバー施工

日軽建築賞受賞

“特種プレスフォームアルミルーバー”

納入先　神戸市庁舎

設計　日建設計工務ＫＫ

施工　（株）竹中工務店

製作品種　アルミ・サッシ
スチール・サッシ
ルーバー
ド　ア
カーテンウオール
其他特種設計、製作一式

OKK

大阪機工株式會社

大　阪　大阪市大淀区豊崎西通1の4　電話大阪(371)664・665
工　場　兵庫県伊丹市北村猪名川製造所　電話伊丹(大代) 5121

TIGER BRAND

■待望の世界の建材

ニュータイガーボード

■新時代の壁材

ＹＮプラスター

■60年の歴史・最大の生産

吉野の耐火ボード

燃えない建築資材！

■準不燃材料・難燃材料

■特性

長手の方向を表面の厚紙でへり折り被覆した強靱で美麗な新しい耐火ボード

カタログ進呈

石膏ラスボードを下地にすれば和洋壁が３－７日で出来る

石膏ラスボード
タイガートーン
アートボード
秋田杉耐火ボード

吉野石膏株式会社大阪支店

大阪市西区土佐堀１の１（大同ビル）
電話（441）８９１２～４
本社　東京都千代田区丸ノ内２の６
営業所　東京・名古屋・福岡・仙台・札幌・広島
工場　東京・福岡・四日市
（菱化吉野石膏）秋田・高砂

何よりも安心できる　**年限仕様**

Ⓐ アスタイト防水

地区	組合員名	住所	電話
近畿（順不同）	(株) 久保商店	大阪市北区真砂町5	大阪(341)0207～8・4836～7
	(株) 木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5ノ35	大阪 (441)5408・5486
	(株) 井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1ノ7	大阪 (441)8531～5
	(株) 大和商会	大阪市南区高津町4番丁73	大阪 (631)6221～4
	(株) 石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通り1ノ31	大阪 (301)3340・3505
	内外工業株式会社	大阪市阿倍野区旭町1ノ51	大阪 (631)3434～6
	旭化建工業株式会社	大阪市北区茶屋町38	大阪 (371)6555～7
	日本瀝青工業(株)大阪支店	大阪市北区富田町40	大阪 (341)1804
	石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	神戸 ⑤2140・2697
	(株) 中出商会	神戸市兵庫区上沢通6ノ9	神戸 ⑤4630
	タテバヤシ商店	京都市下京区四条大宮南入学校前	京都 ㊽0871～2
	田島応用化工(株)大阪出張所	大阪市西区京町堀1ノ74	大阪 (441)5951代表
東海	岡田建材株式会社	名古屋市西区桜木町3ノ8	名古屋 ㊼7461～3
	(株) 名建商会	名古屋市中区宮出町41ノ2	名古屋㉔1329・2817・2106
	高橋建材店	名古屋市中区材木町1ノ12	名古屋㉓3295
北陸	北川工業株式会社	金沢市西側町8	金沢②4552～3
	北川工業(株)富山出張所	富山市奥田新町23	富山②2218 ③1014
	北川工業(株)福井出張所	福井市大和中町70	福井②4532
	(株) 小島工務店	高岡市大坪旭町2丁目32ノ1	高岡③2463
	(株) 小島工務店富山営業所	富山市神通町3区1003	富山②8221
中国・四国	青盛建材株式会社	広島市鉄砲町108	中②2281～4
	青盛建材(株)岡山営業所	岡山市東田町3	岡山②7911・8169
	(有) 小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	岡山②4272
	(株) 浜原豊商店	尾道市吉和町新浜	尾道 2760
	(株) 浜原豊商店防府支店	防府市大林寺	防府②3611～2
	古市断熱工業株式会社	高松市宮脇町960	高松③5034
	正和商事株式会社	松山市1番町21	松山②8161～5
九州	青盛建材(株)福岡営業所	福岡市万行寺前町14	東③1225～6
	高稲工業株式会社	長崎市大橋町138	長崎④1726
	高稲工業(株)小倉営業所	小倉市西本町2	小倉(56)6177

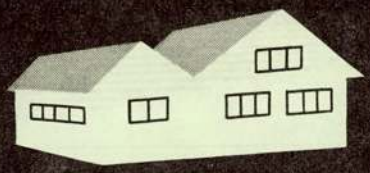
建設省阪建22号認可　　出資金600万円

三星 西日本アスファルト事業協同組合

大阪市西区京町堀1--74　TEL ㊵ 代表 5951
東京連絡所　東京都千代田区神田岩本町13（田島応用内）　TEL(866)代表 6101
北陸・東海・近畿・中国・四国・九州

住友の アルミサッシ・ドア

押出し型材使用



アルミサッシ使用率　米国 70%　西独 26%　日本 6.5%

雨の多い日本には……
雨仕舞の良い気密な窓を
錆びない・軽るい・精度が高い

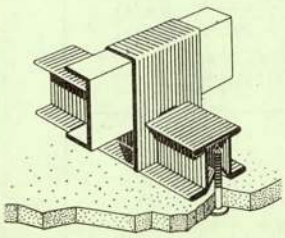


製造　取付

アルケン工業株式会社

大阪市西区新町通4－39　電話（541）0865 2905

マンテンの SK式軽量鉄骨天井下地



燃えない
狂わない
取りつけ易い



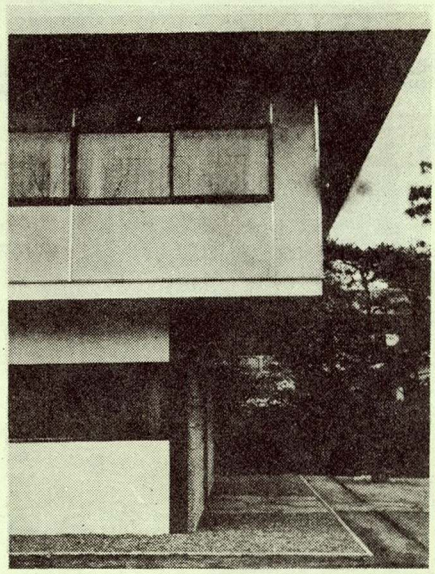
MANTEN

発売元 住友商事株式会社
製造元 株式会社 満点製作所
大阪市南区日本橋筋3丁目2番地　電話 大阪（641）1156～8

東京出張所　東京都江東区亀戸町2丁目114（新協和ビル内）電話東京（681）8425

燃えない家で明るい暮し！

通商産業省認定工場 不燃 No.



建築基準法定不燃材料

石綿スレート

フレシキブル板
平　板・軟質板
パーライト板
孔あき板
サンドイッチパネル
小波板・大波板
（着色・化粧板他 各種加工品あり）

美しいカタログお送りします

石綿セメントボード協会
波形石綿スレート協会

東京都中央区銀座7—3朝日石綿ビル
電話（571）1359・6914

古き歴史と斬新な技術を誇る大鉄製品

スチール アルミ サッシュ ドアー シャッター

営業品目

ステンレス製品
美術金物
金庫 金庫室扉

設計 製作 取付

株式會社

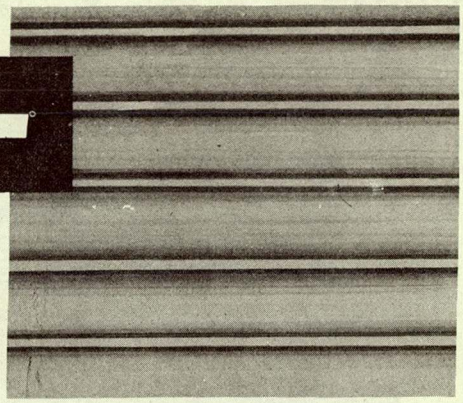
大阪鉄工所

取締役社長　冨田豊松

大阪市西区本田町一丁目四四番地　電話 大阪（531）1254・4615（541）0910・0919
津守工場　大阪市西成区千本通七丁目二四番地　電話 大阪（661）1418
千舟工場　大阪市西淀川区佃町四丁目五七番地　電話 大阪（471）0420

亜鉛鍍金の上に塗装した

東洋シャッター



キングスプリングシャッター

見えない所まで心をくばった……

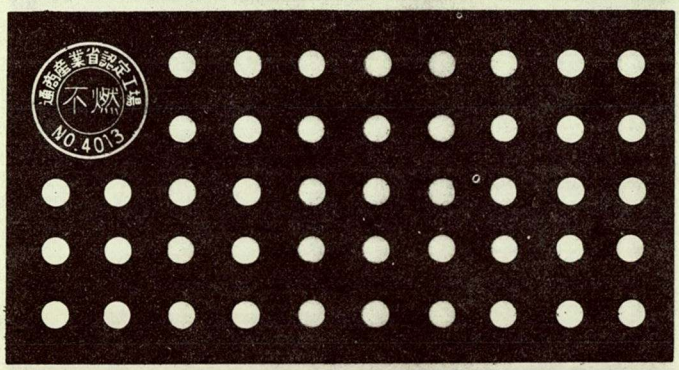
■スプリングシャッター ■重量スプリングシャッター

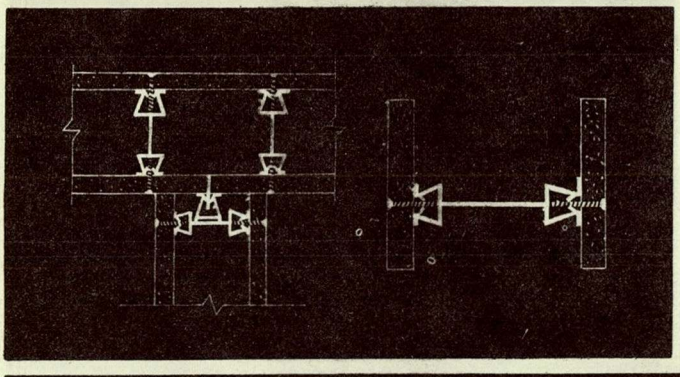
■自動シャッター ■手動電動スチールシャッター

詳細カタログ呈上

東洋シャッター株式会社

本社・工場　大阪市西淀川区佃4ノ33 TEL (471) 8331 (代表)
東京支店　東京都大田区新井宿5ノ547 TEL (771)—1171
名古屋支店　名古屋市中区下日置町2丁目7番地 TEL ㉜ 5954・6324
出張所　岐阜、京都、神戸、横浜、津、福岡
その他出張所特約店は全国主要都市にあり





ファイアボード

（法定不燃材・軽量石綿耐火板）

完全耐火性
軽量・断熱性・吸音
変形は全くない
木材と同様の加工が出来る
釘打ち・鋸引き・孔あけ等

トムレックス

（吹付石綿・責任施工）

吸音・断熱・結露防止
耐火・耐振動・腐食防止

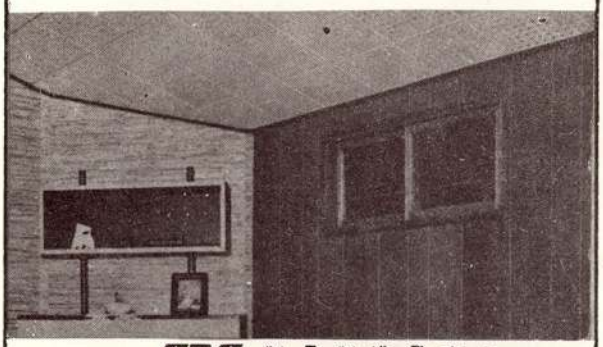
N.A.K.

日本アスベスト株式会社

本　社　東京都中央区銀座西6の3　電(572)0321・0331(代)
大阪支店　大阪市南区塩町通4の25　電船場(251)5491～8
名古屋支店　名古屋市中区下前津町117　電　南(321)6591～5
九州支店　福岡市薬院大通り2の81　電福岡(741)1747・2827
札幌出張所　札幌市北三条西2丁目西向　電　(2)6472 (3)520 (5)308

ノダ の新建材

プリント合板
ビニオン
九徳天井板
美装パネル
リズムウッド
スーパーショイナー



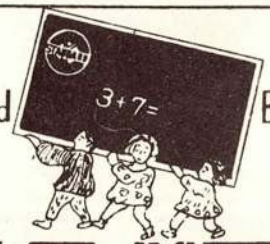
ノダ 製品製造発売元

浪速合板株式会社
大阪市浪速区幸町通の3の20
TEL (561)2201(代)

木毛セメント板



東邦商会
本社 大阪市東住吉区桑津町3丁目59
電話大阪(741)1296～7
出張所 和歌山市新堀6丁目13
電話和歌山(2)0298・9435



フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地電話大阪(741)4692番

Acoustic Tex
吸音テックス



株式会社 室谷商店
本社 神戸市生田区長狭通四ノ一英和ビル
TEL神戸 ③ 0881～3
支店 大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階
TEL大阪(312) 2031～4
出張所 岡山市内田京町158
TEL 岡山 ② 5189

タイル
衛生陶器
エスロンタイル
サンウェーブ
流し台・調理台

株式会社 平田タイル
大阪市西区阿波座中通1
電話 (531)1003～5 (541)8731～3

つねなりすたじお
建築写真
大阪市東区北浜・電㉑0141

網入光り波型ガラス（スレート小波／スレート大波）長サ 965㎜ 1818㎜

ダイニチ・アーモライト 波板・平板

（硝子繊維強化ポリエステル板）各種波，寸法（長尺物有）

製造販売 大日本硝子工業株式会社

大阪支店 大阪市北区玉江町2ノ4（三菱倉庫ビル）電㊊1389・3389
本　社 神奈川県相模原市小山字久保224 電⑦3101～4

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

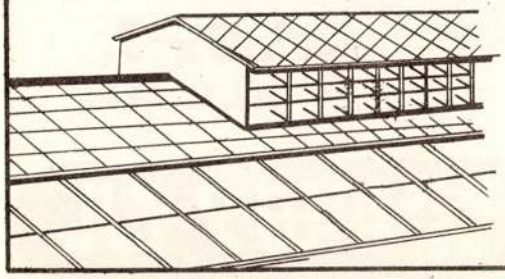
N.G.C式

N.G.インシュライト工事責任施工
メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ．コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社
脇山静夫
本社 大阪市阿倍野区旭町一ノ五一 電話(641)3434～6
工場 大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

N．G．インシュライト断熱材製造発売元

岩元式 スカイライト並固定筒型コンチニアス ベンチレーター



サッシュ、ドアー、シャッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工
カタログ進呈

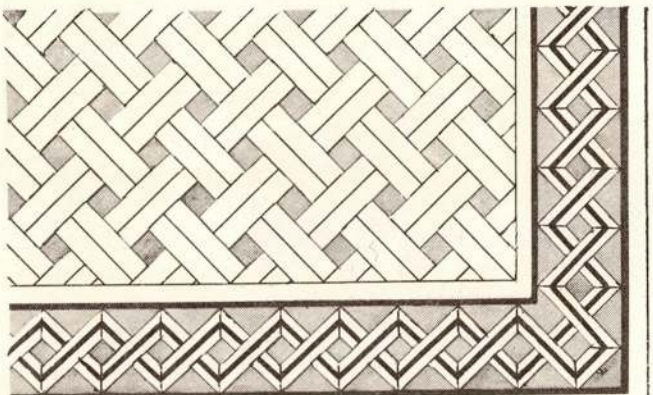


岩元工業株式会社
本社 大阪市東成区東今里町4の40
電話(981)0616～0618

寄木貼床板
フローリング施工請負
ブロック
ベニヤフラッシュドアー造作取付
グラインダー床削

株式会社 寄木商会

営業所 大阪市東区横堀6－49
電話(251)3731・3960
工　場 大阪市浪速区勘助町1



建築基準法にフリーパスのガラス屋根

内外式電動ベンチレーター

電気扇付　屋上強制換気装置

内外式スカイライト

工場・プラットホーム・
体育館・アーケードに最適

内外式

コンチニアスベンチレーター

筒型各種ベンチレーター

設計　施工

内外建材株式会社

旧名（株）内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）TEL（441)3983
工場　大阪市城東区天王田町1の141　TEL（981)1149

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　**電話大阪(371)1333番**

鋼製建具
製作・販売

栄進鋼業株式会社

大阪市城東区野江西之町2—2　電話（931)8261-3・9586
支店・福岡　営業所・広島・長崎

防水に耐酸に…

レオパノール耐酸層

ドイツと技術提携による国産化完成
製造元　タキロン化学株式会社

耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80
電話大阪㊶178（代表）4161　㊸4957～8

レオパノールORG

- ■各種の酸、アルカリに対して強い
- ■−30°C＋100°Cに耐える
- ■伸長性に富み老化せない
- ■化学工場床、排水溝、電解槽、耐酸防護を必要とする構築物に最適

レオパノールBA

- ■陸屋根、地下室の防水、伸縮継手、簡単な耐酸用として使用され冷工法で施工容易

アルミニウム

ステンレス　　カーテンウオール

ブロンズ

TKK

東京カーテンオール工業株式会社

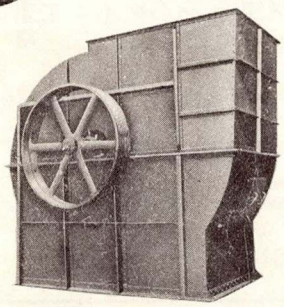
（旧社名東京鋼板工業株式会社）

本社及工場　東京都荒川区尾久町５ノ１０００
電話　(891) ８１３１～８
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル3階）
電話　㊱１　９１５４～７
名古屋支店　名古屋市東区久屋町5の9（住商ビル）④ 2578～9
福岡出張所　福岡市橋口町15番地の1（サンビル3階）　㉞8825

KANDAN

煖冷房温湿度調整

設計　施工



各種送排風機

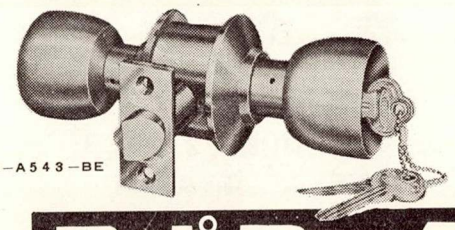
設計　製作

関西煖房工業株式会社

本社　大阪市住吉区万代東６丁目３番地
電話大阪 671－6751(代表)～4 ·1570·1590
堺工場　堺市浜寺石津町中２丁目２００番地
電話　堺　③７３０１（代表）～２
出張所　名古屋・福岡・徳島

KUROKAWA

円筒形トビラ錠の決定版!!



D－A５４３－BE

エポロック

デラックス　（カタログ贈呈）

1品種　住宅玄関・事務所用、間仕切用、廊下通路用、連接せる間仕切用、倉庫用、学校・病院用、出口専用、ビル玄関通路用、浴室・トイレット用
2材質　ステンレス、砲金、真鍮、硬質アルミニューム
3形状　広角型、円垂型、円筒型、丸型

スタンダード

1品種　住宅玄関・事務所用、間仕切用、廊下通路用
2材質　硬質アルミニューム
3形状　広角型

高級扉錠・専門製作

黒川金物株式会社

本社　大阪市南区高津町１０番丁１９番地　TEL代表㊱7483～4·8050
営業所　東京都江東区深川清澄町2丁目9番地　TEL（641）７２５０
工場　奈良県北葛城郡香芝町別所1054番地　TEL（下田）１０９

泉

石綿セメントの
最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

Asbesto. Barriev

（硬質石綿板）

建物内外壁、間仕切、天井扉、電気室発電所、配電室、製鋼、ガラス工場の壁、製糖、製油製薬工場の床スカート壁などに最適

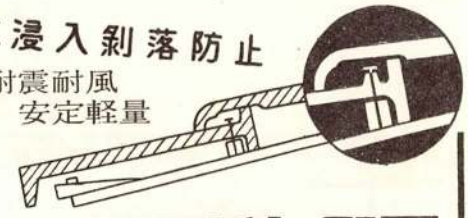
泉石綿工業株式会社

大阪市北区同心町１の１１
電話 ㉟３４４２·４０７８

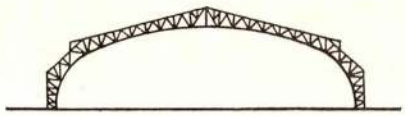
（呈カタログ）

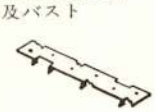
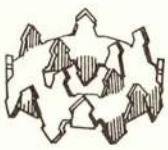
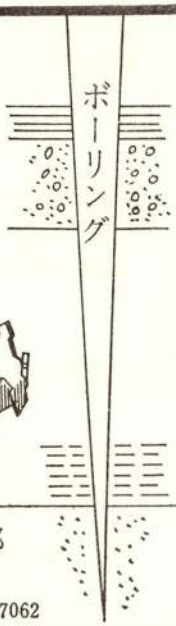
三高式 サッシュ.ドアー.シャッター
オペレーター
ドアーハンガー
TRADE MARK
M.T.K.S
株式会社 三高製作所
本社工場 尼ヶ崎市神崎五反田280
電話 大阪(401) 6158・6159

コペンハーゲンリブ
商月報無料送呈
井田商事株式会社
大阪市浪速区西円手町一〇一七番地 湊町駅貨物八号門前
電話 (562) 0800, 0808～9

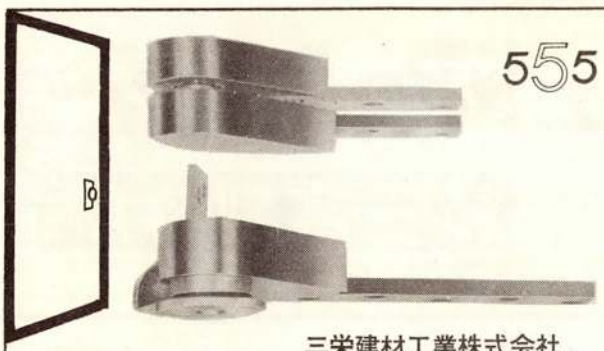
雨水浸入剝落防止
ナニワ瓦株式会社
耐震耐風
安定軽量
大阪市浪速区元町二丁目(西)電話(641)

ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量水止付(空葺)瓦

減らず・滑らず・美しい
モルタル打と同時仕上る美装床材
カラコン
フエロコン
超硬骨材に顔料、薬品等を配合した粉末剤でその儘水練り、金鏝仕上げの為特に技術を要せず、色ムラ、ノロ汚れ等の缺点がない耐磨耗性特に強大、表面滑らかで美しく清潔、耐水性に富み価格低廉であります。(坪当り材料代¥ 950) 仕上り厚さ約2㎜程度学校、工場、病院、事務所、商店、ガレーヂ、ガソリンスタンド、住宅の玄関、流し、浴室、プール等に最適であります。
(カタログ進呈)
製造発売元
アサヒカラコン株式会社
大阪市此花区四貫島旭町1-3 TEL (461) 3594
工場 大阪市此花区四貫島旭町1

綜合建築設計への道

設計部 1. 各種鉄骨・鉄筋コンクリート造建築の設計監理
2. ダイヤモンドトラス・ジグザグトラス・平行トラス等各種大張間鉄骨造の設計監理

金物部 1. 耐震耐風木材接合金具の製造販売
PAT. O式(織本式) ヂベル及クランプ
2. 鉄筋の接手及末端定着金具
PAT. バコ及バスト


地質部 ボーリング・建築物基礎工事の為の土質調査


株式会社 織本建築事務所 所長 織本道三郎
(旧織本建築設計々算事務所・織本特殊構造研究所・合体)
東京都中央区日本橋かきがら町3の2 電話(671) 6443・7007・7062



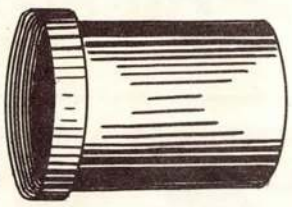
555 ナイロンベアリングで扉の開閉が軽快!!

ピボットヒンヂ
フロアーヒンヂ
ネコマ印 ダストシュート

三栄建材工業株式会社
大阪市生野区巽矢柄町一五一番地
大阪 (741) 4655 (716) 0188・0189

特徴
- ボンデライジングに依る完全防錆加工品
- 回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品

築炉並に建築用煉瓦積工事・装飾用化粧煉瓦積工事
コンクリートパイル・コンクリートブロック

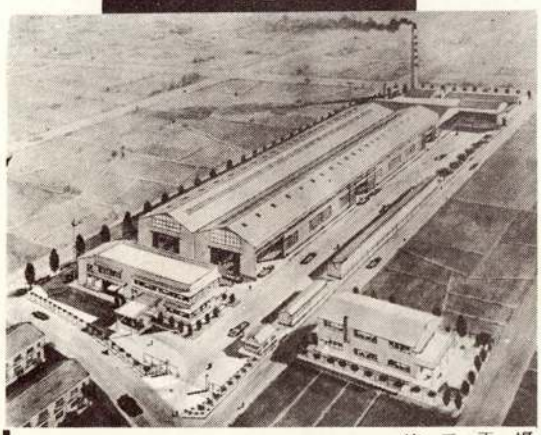


陶管・煉瓦・ヒューム管・衛生陶器
モルタル数ブロック・スペーサ・各種コンクリート製品一式

森延窯業株式会社

取締役社長 森下延幸・専務取締役 船津 稔
大阪市住吉区上住吉町三一 電話 (671) 2420・8217

NK



第二工場

浪建式
アルミサッシュ・ドアー
スチールサッシュ・ドアー
シャッター・オペレーター
パーカライジングの処理工場完成
— 製造販売 —

NANIWA
大正十四年
創業

日満ゴムタイル
全国總代理店
責任施工

浪速建材工業株式会社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地電話大阪(931)1171—3番
第二工場・大阪市城東区茨田横堤町四一番地電話大阪(931)6153・6824番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館 607号室 電話 東京(541)4611番
福岡営業所・福岡市天神町三番地(サンビル内)電話 福岡 ④ 8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地電話 大分 1366番

近代的上塗壁材
繊維塗料製品

・優美な繊維の京壁材 →	日本壁
新日本壁	←・繊維の床砂材……
・塗りつける織物壁材 →	パビロン壁
錦上壁	←・パルプの日本座敷壁材
・近代的な趣味の壁材 →	いすゞかべ
新いすゞかべ	←・吹付のできる京砂壁材
・繊維の色土…… →	大和壁

製造発売元　株式会社 新興建材工業所　■全国有名建材店にございます

本　社　大阪市西局区内四ツ橋　電話大阪(541)5756～9
営業所　明石市西王子町1丁目39　電話　明石　5852
営業所　福岡市西唐人町1番地　電話 福岡㉕7373

COPPER-BOSUITAI TRADE MARK OAM

陸屋根防水には
特許 絶縁工法を

カッパー防水帯
コーパータイト

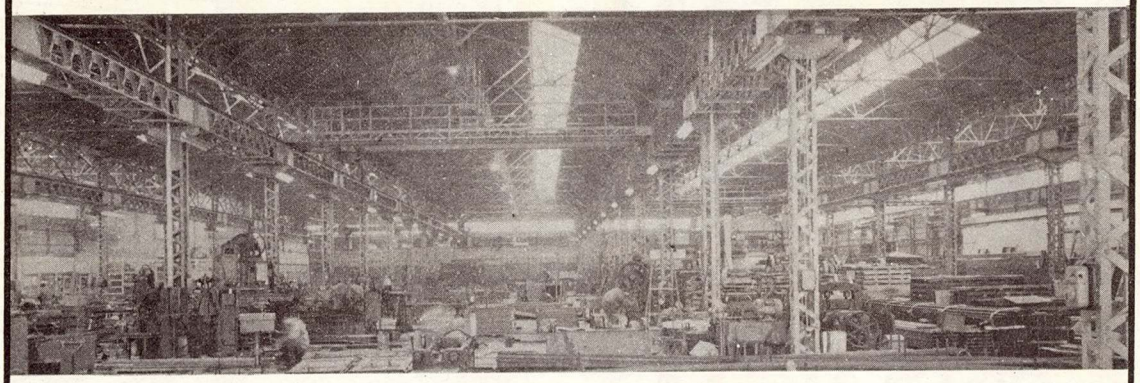
特許 奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社
東京都中央区銀座西8の3　TEL㊲2703～4・2370・4064・0264
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　TEL ㊶3660

●御申越次第カタログ進呈

錆びない 岩住のサッシ・ドアー

当社の製品はボンデライトをして焼付塗装をして居ます



株式会社 岩住鐵工所

本社・本社工場　大阪市西淀川区千舟東２－31　電話代表 (471) 5123
尼崎工場　尼崎市守部下河原１５　電話代表 (401) 6751

近代建築に 大建のアルミサッシ ▶ 住友軽金属工業ＫＫ提携

営業品目
カーテンウォール
ステンレスサッシ／ドア
スチールサッシ／ドア
スチールシャッター

写真は京都証券ビル

大阪建材工業株式会社

本　　社　堺市松屋町１－６　TEL(3)5241～9
名古屋営業所　名古屋市東区東新道町２－７　TEL(97)7264
東京事務所　東京都千代田区平河町１－２　TEL(301)1248
金沢営業所　金沢市下新町１３　TEL(3)3427～8

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

ウォータイトB号



株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28－1　電話　宝塚（6）2153
大阪事務所　大阪市東区船越町2－31（船越ビル）　電話（941）2626（直通）
出張所電話　東京（431）0874・名古屋㉜1331
ウォータイト式防水工事　仙台③0721・札幌⑤7171
代行店電話　大三工業高松②8697安藤工事　福岡③5765
豊永建材　広島④3567

仕様型書　贈呈

紫綬褒章に輝く

JIS合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

取締役社長　矢中龍次郎

本社 東京都品川区二葉町1－441　電話東京(781) 1715
大阪営業所 大阪市東成区西今里町2－48　電話(971)4765・0063

防火シャッター

甲種
乙種

パイプシャッター

電動式・手動式・バランス

株式会社 日本シャッター製作所

本社工場	大阪市東淀川区田川通6丁目38番地	電話 大阪（301）3656－9番
東京工場	川崎市新丸子東3丁目1159番地	電話中原局（047）6325～7番
九州工場	福岡県粕屋郡粕屋町仲原釜屋2727	電話 福岡（65）4779番
名古屋支店	名古屋市中区福川町1－1	電話名古屋（36）4351－2番
高松営業所	高松市丸ノ内10番地（井関ビル内）	電話 高松②4008番
岡山営業所	岡山市内山下77	電話 岡山③3524番
高知営業所	高知市西紺屋町10番地	電話 高知②7349番
神戸営業所	神戸市生田区加納町3－2	電話 神戸（39）2650番

（呈カタログ・資料）

代行販売店

中博光商店	札幌市北13条通東17丁目（通川通）	電話 代表（4）0281番
理研興業株式会社	小樽市色内町5ノ45番地	電話（20）0872・2656・7523番
三協建材株式会社	東京都中央区八重洲3ノ1（広瀬ビル2階）	電話（271）65～6番
栄進鉄工所	沼津市大岡南小林3400	電話 沼津955番
佐野鋼材株式会社	清水市江尻竹下町8	電話（2）3628・4615番
石本金属株式会社	新潟市古町五番町624	電話（2）3161～5番
福田商店	富山市奥田北町8番地	電話代表8541市外9
永見金属株式会社	松江市朝日町駅南口通	電話3224・5452番
三京交易株式会社	福岡市下浜口町23番地	電話（3）0144（2）4647番
〃 小倉出張所	小倉市博労町72ノ1	電話（5）3673番
〃 長崎出張所	長崎市千馬町1ノ9	電話（2）0890番
大石産業株式会社	八幡市通町20丁目	電話（6）1195～6番
中村金物株式会社	鹿児島市武町570番地	電話代表6650～3番
〃 熊本支店	熊本市紺屋町1ノ30	電話（2）1231・4684番
田中鉄工株式会社	丸亀市城西町143	電話329　1221番
小川建材店	千葉市汐見ヶ丘24番地	電話（2）0897番
橋本工作所	福島県郡山市北田町16	電話 郡山2830番

昭和二十四年三月十九日　第三種郵便物認可
昭和三十七年十二月二十日印刷
昭和三十七年十二月廿五日発行（毎月廿五日発行）

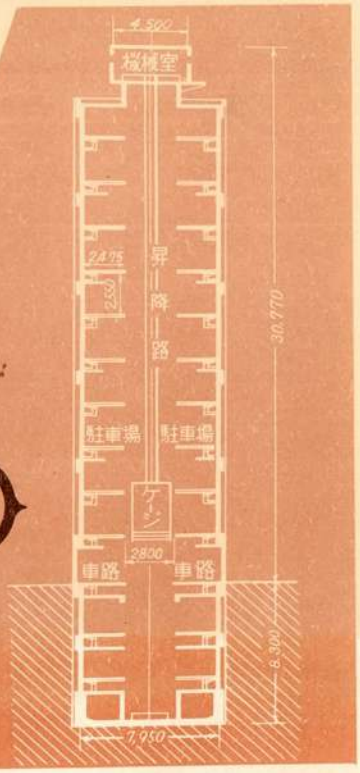
〈技術の日立〉

地下から空まで26台！

エレベータ方式ですから、荷重・電力費が車1台分ですみ安全装置も完備しています。運転はフルオートマチック。ボタンを押すだけで車の出入庫ができ、管理はたいへん容易。マヒ状態の駐車難を解決するものとして注目されています。

日立ハイガレジ



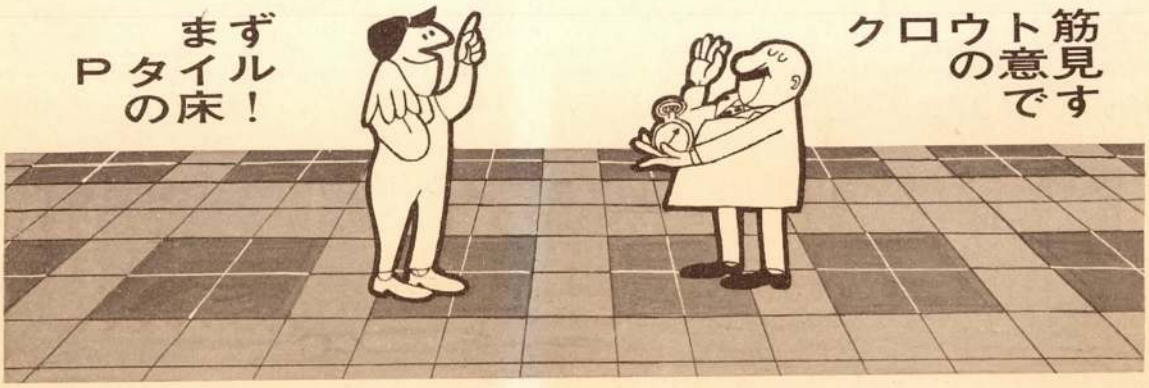


日立製作所

■304.8㎜×304.8㎜　厚さ2㎜■一面坪￥3500→4000■カタログ進呈

まずPタイルの床！

クロウト筋の意見です



美しい！はがれない！傷がつきにくい——Pタイルに関しての一致した意見です玄人筋からは『柔軟性で木やコンクリートの床にも馴み易く仮敷もいらぬスピーディな施工性』といわれます。Pタイルはどんな場所でも明るい環境をつくる床材〔製法特許品〕です！

三星プラスタイルP

田島応用化工KK★　東京／千代田区神田岩本町13　TEL（866）代6101
大阪／西区京町堀1ノ74　TEL（441）代5951

ご入会のお申込は……
建築と社会」発行所　社団法人 日本建築協会 大阪市東区北浜3—37　電話大阪(231)9648・9649・9640
振替口座 大阪 39975番

売価　一部　金百八十円（送料共）